

令和7(2025)年度
かわさき市民アンケート
報 告 書

川 崎 市

目次

I	調査概要	1
II	調査回答者の属性	7
1	第1回アンケートの回答者	9
2	第2回アンケートの回答者	13
III	調査結果	19
1	第1回アンケートの調査結果（インターネット調査）	21
1.1	川崎市の緑について	23
(1)	川崎市の緑に対する満足度	23
(2)	保全した方がいいと思う緑	25
(3)	緑に関する取組について	27
(4)	緑に関する活動について	31
(5)	緑化や自然保全に関するボランティア活動について	35
(6)	緑に関する情報発信について	39
(7)	日常行動圏の街路樹について	43
(8)	日常行動圏の街路樹に対する満足度	44
(9)	街路樹の量や維持管理頻度について	45
1.2	川崎市の観光振興について	47
(1)	川崎市の施設・イベント	47
(2)	おススメしたい川崎の魅力	51
(3)	観光客の増加についての考え	55
(4)	今後の旅行（国内・海外）に対する意向	57
(5)	川崎の観光が盛り上がることで期待すること	59
(6)	催し物（会議やイベントなど）を行うための施設について	61
(7)	「かわさき名産品」認知・購入状況	63
(8)	「かわさき名産品」認知経路	65
1.3	特別市（特別自治市）について	67
(1)	「特別市（特別自治市）」の認知状況	67
(2)	「特別市（特別自治市）」の認知経路	69
(3)	「特別市（特別自治市）」について知りたいこと	71
(4)	「政令指定都市」について	73
(5)	取組や事務の一本化について	80

2	第2回アンケートの調査結果（郵送調査）	83
2.1	定住状況について	85
(1)	居住年数	85
(2)	定住意向	88
(3)	転居意向の理由	90
(4)	転居先の希望	91
2.2	生活環境の評価について	93
(1)	生活環境の満足度	93
(2)	総合的な生活環境の満足度	103
2.3	関心ごとと行動範囲について	106
(1)	関心を持っていること	106
(2)	行動範囲	109
2.4	市政に対する評価と要望について	114
(1)	市政の仕事でよくやっていると思うこと	114
(2)	市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと	116
(3)	施策や事業の総合的な満足度	118
2.5	川崎市の広報（市政だより）について	121
(1)	川崎市の情報の入手方法	121
(2)	市政だよりの閲読状況	125
(3)	「市政だより 11月号」の入手状況	128
(4)	「市政だより 11月号」の閲読状況	130
(5)	「市政だより」の閲読媒体	132
(6)	「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由	134
(7)	読みやすい「市政だより」の形状	136
(8)	「市政だより」についての考え	138
2.6	これからのお葬式のあり方や火葬後の灰等の取り扱いについて	149
(1)	市営葬祭場の利用状況	149
(2)	友引の日に火葬を行うことについて	152
(3)	希望するお葬式の形態	158
(4)	残骨灰について	160

(5) 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否	168
(6) 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否の理由	170

IV 調査票	175
---------------------	------------

I 調查概要

1 調査目的

「かわさき市民アンケート」は、昭和 50(1975)年度から毎年 1 回 1,500 人を対象として行っていた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するため、調査回数を年 2 回、各回 3,000 人の市民を対象にした調査に拡充し、名称を変更して平成 18(2006)年度から実施することとしたものである。

昭和 50(1975)年度から継続的に行ってきた市民の定住状況、生活環境の評価、市政に対する評価と要望等に加えて、市民に関するいくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的として実施した。

2 調査方法

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査の地域 | 川崎市全域 |
| (2) 調査の対象者 | 川崎市在住の満 18 歳以上の個人 |
| (3) 調査方法 | 第 1 回 インターネット調査
第 2 回 郵送調査(郵送配布一郵送回収・はがき督促を 1 回) |
| (4) 調査期間 | 第 1 回 令和 7(2025)年 8 月 22 日(金)～9 月 5 日(金)
第 2 回 令和 7(2025)年 11 月 11 日(火)～12 月 19 日(金) |
| (5) 調査委託機関 | 株式会社総合企画 |

3 サンプルングの方法と回収状況

	第 1 回	第 2 回
(1) 標本の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット調査会社のモニター登録者に対し、事前登録情報に基づいて川崎市在住のモニターにメールにてアンケートを依頼。 ・回収数は、令和 7(2025)年 6 月末時点における、居住区別・性別・年代別の割合に基づいて設定し、不足の年代が出た場合は、同じ居住区と同じ性の他の年代(なるべく近い世代)から割り付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民基本台帳からの層化無作為抽出。(令和 7(2025)年 9 月抽出) 1. 市内を 7 行政区に分類し、さらに各区を人口規模によって層化する。 2. 各区・人口規模別の層における 18 歳以上の人口(令和 7 年 6 月末現在)により 3,000 標本を比例配分する。 3. 比例配分した標本数を、各行政区の標本数とする。 4. 住民基本台帳から、行政区毎に必要な標本数を無作為抽出する。
(2) 標本数	1,500 標本回収まで実施	3,000 標本
(3) 有効回収数	1,500	1,592
(4) 有効回収率		53.1%

4 調査項目

◎第1回（インターネット調査）

<調査テーマ>	<問番号>
(1) 川崎市の緑について	(Q1～Q9)
(2) 川崎市の観光振興について	(Q10～Q16)
(3) 特別市（特別自治市）について	(Q17～Q21)

◎第2回（郵送調査）

<調査テーマ>	<問番号>
(1) 定住状況について	(問1～問4)
(2) 生活環境の評価について	(問5～問6)
(3) 関心ごとと行動範囲について	(問7～問8)
(4) 市政に対する評価と要望について	(問9～問11)
(5) 川崎市の広報（市政だより）について	(問12～問17)
(6) これからのお葬式のあり方や火葬後の灰等の取り扱いについて	(問18～問22)

5 標本誤差 ※標本誤差は、無作為抽出を実施した第2回調査にのみ適用される。

本調査の第2回調査のように全体（母集団）の中から一部を抽出して調査を行った場合、全体を対象とした調査と比べ調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標本誤差という。

標本誤差は次式で得られ、①標本数(n)、②調査結果の比率(p)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$\left[\begin{array}{l} N = \text{母集団の数 (川崎市の18歳以上人口)} \\ n = \text{標本数} \\ p = \text{調査結果の比率 (\%)} \end{array} \right.$

■ 標本数別の標本誤差早見表（信頼度：95%）

調査結果の比率(p) 標本数(n)	10%または 90%の場合	20%または 80%の場合	30%または 70%の場合	40%または 60%の場合	50%の場合
5,000	±0.83%	±1.11%	±1.27%	±1.36%	±1.39%
3,000	±1.07%	±1.43%	±1.64%	±1.75%	±1.79%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.01%	±2.15%	±2.19%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.04%	±3.10%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注／この表の見方

例えば、標本数が3,000で、標本調査結果の比率が60%であった場合、「標本誤差は±1.75%であり、母集団（18歳以上の川崎市民）の実際の比率は58.25%～61.75%である」と見ることができ、その精度は100回調査したとして95回は当たる（信頼度95%）という確率である。

なお、上記のほか、回答者の誤回答や無回答などによる計算不能な非標本誤差もある。

6 報告書の見方

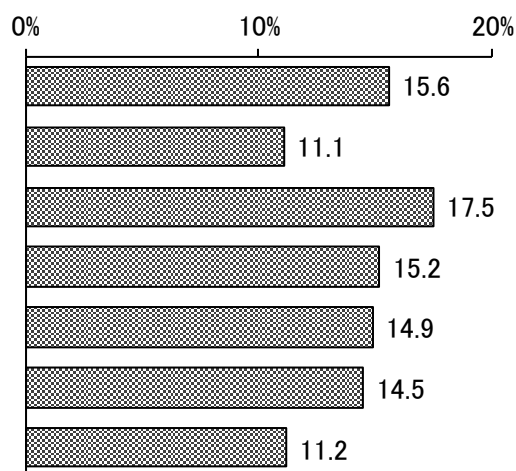
- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、図表中の数値の合計が100.0%にならない場合や、複数の項目の数値の合計が本文中の数値と一致しない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 回答者数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (6) インターネット調査は、対象者を母集団から無作為抽出しているものではないため、母集団推定ができない調査方法であり、回答傾向から課題を発見するプリテストに適した調査方法である。

II 調査回答者の属性

1 第1回アンケートの回答者

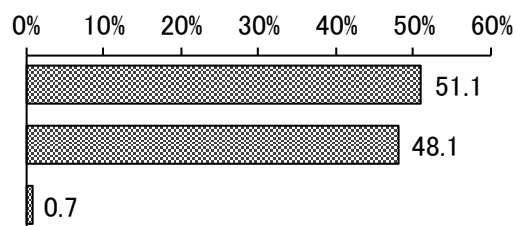
1.1 居住区

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	234	15.6
2 幸区	167	11.1
3 中原区	262	17.5
4 高津区	228	15.2
5 宮前区	223	14.9
6 多摩区	218	14.5
7 麻生区	168	11.2
全 体	1,500	100.0



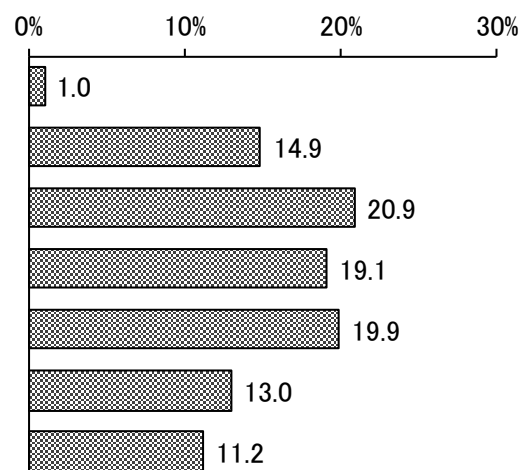
1.2 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	767	51.1
2 女性	722	48.1
3 選べない・答えたくない	11	0.7
全 体	1,500	100.0

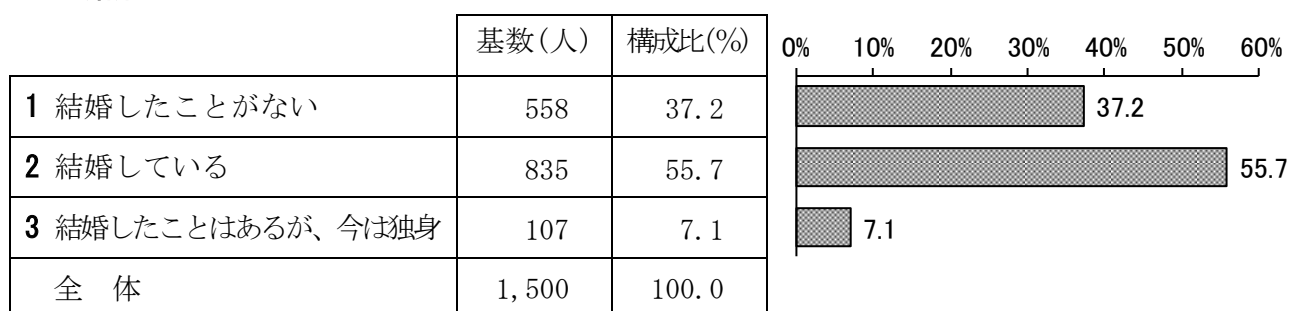


1.3 年齢

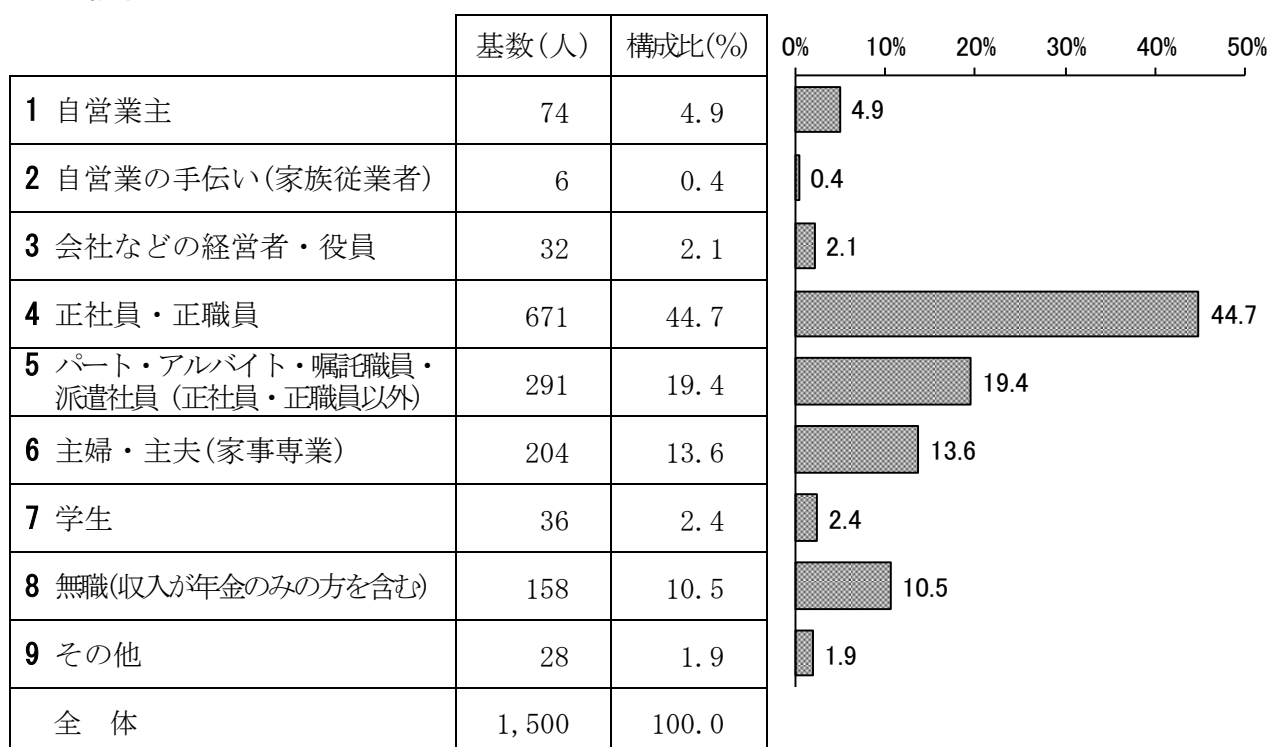
	基数(人)	構成比(%)
1 18～19 歳	15	1.0
2 20～29 歳	223	14.9
3 30～39 歳	314	20.9
4 40～49 歳	286	19.1
5 50～59 歳	299	19.9
6 60～69 歳	195	13.0
7 70～79 歳	168	11.2
全 体	1,500	100.0



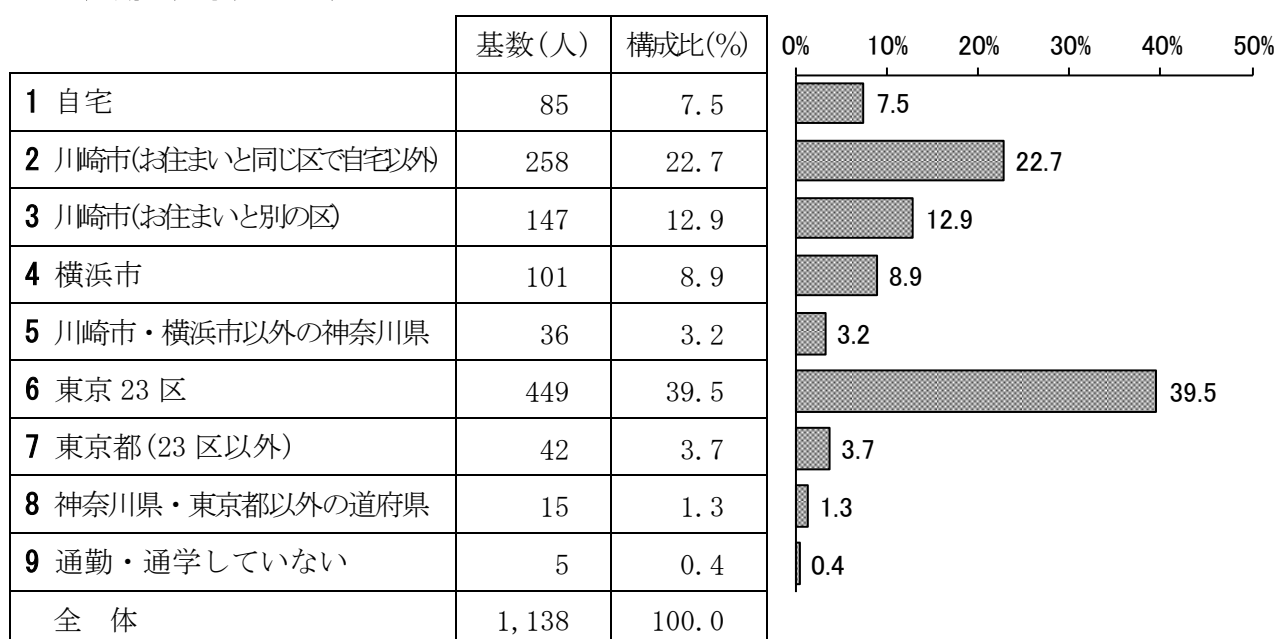
1.4 婚姻



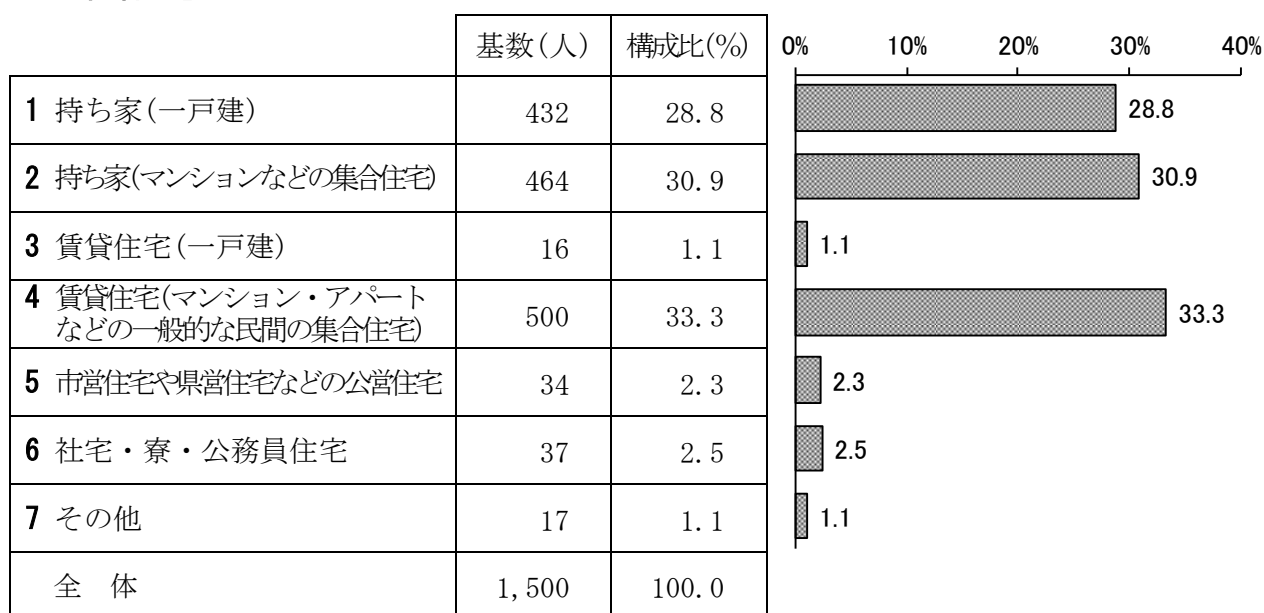
1.5 職業



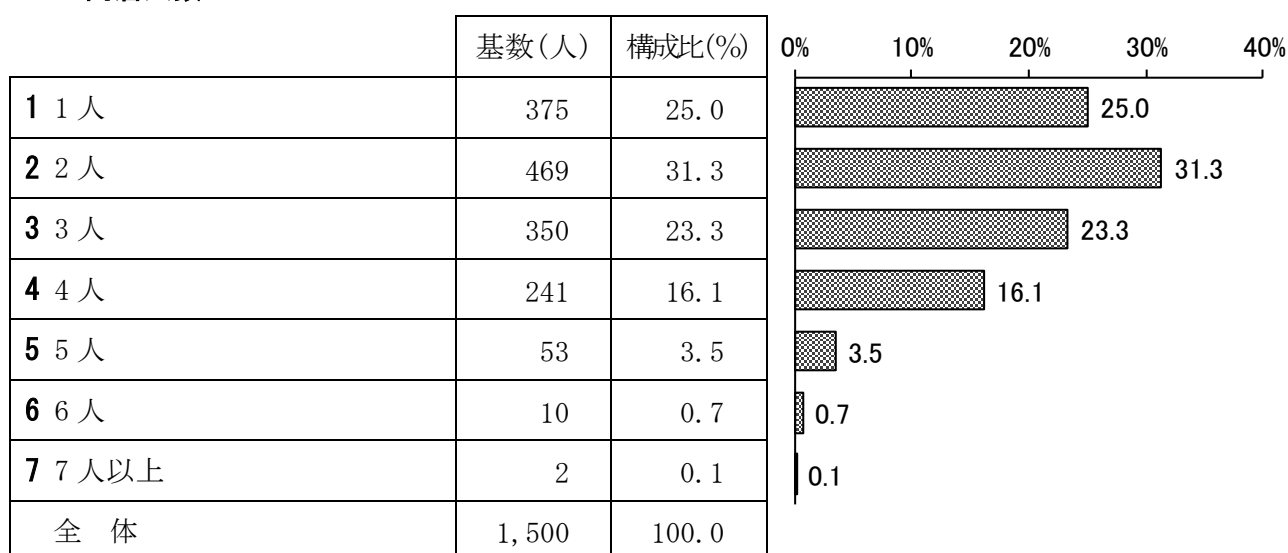
1.6 通勤・通学先の地域



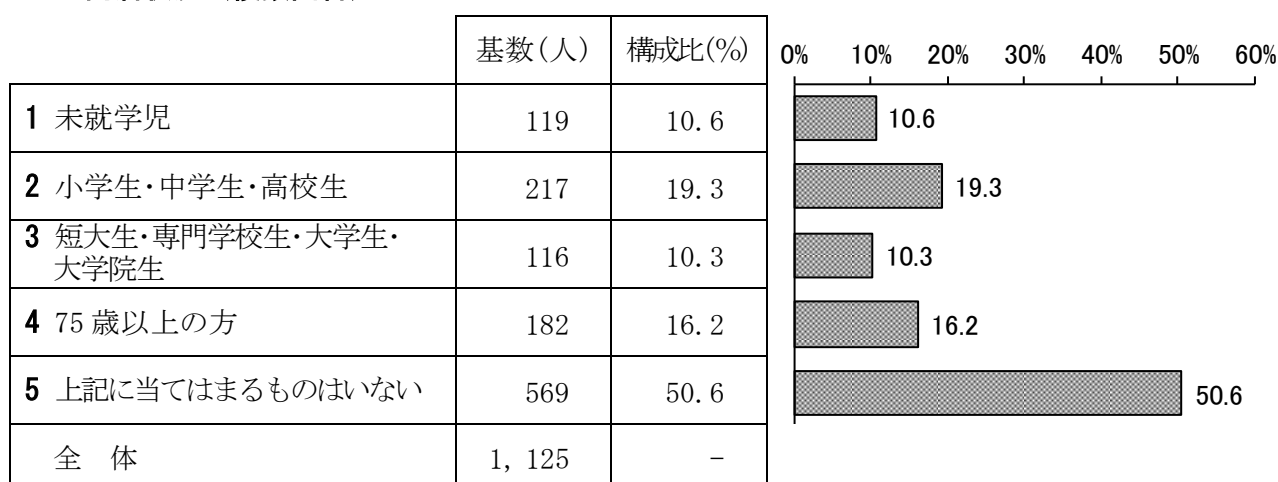
1.7 住居形態



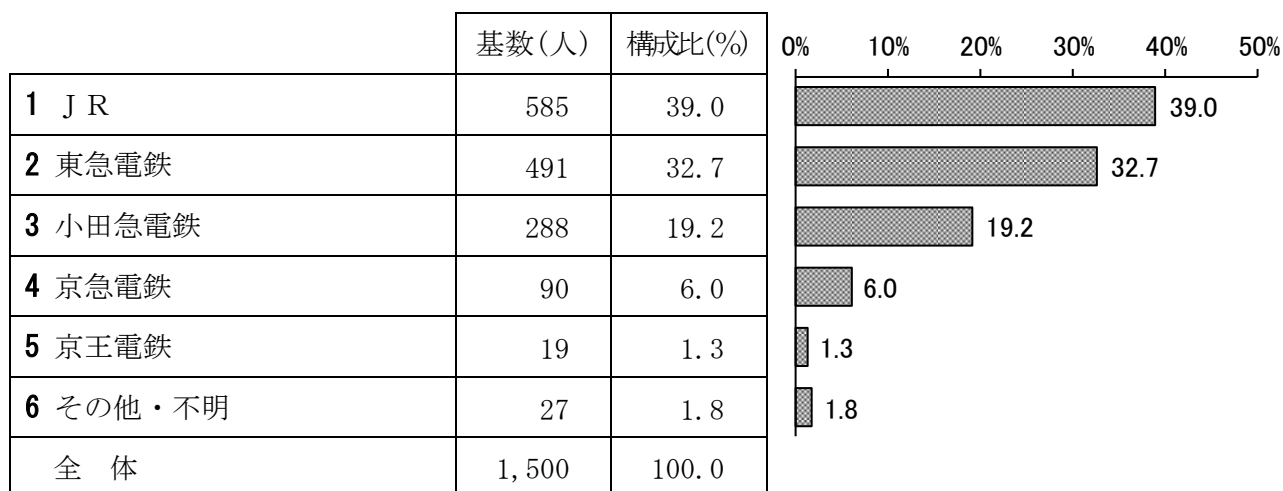
1.8 同居人数



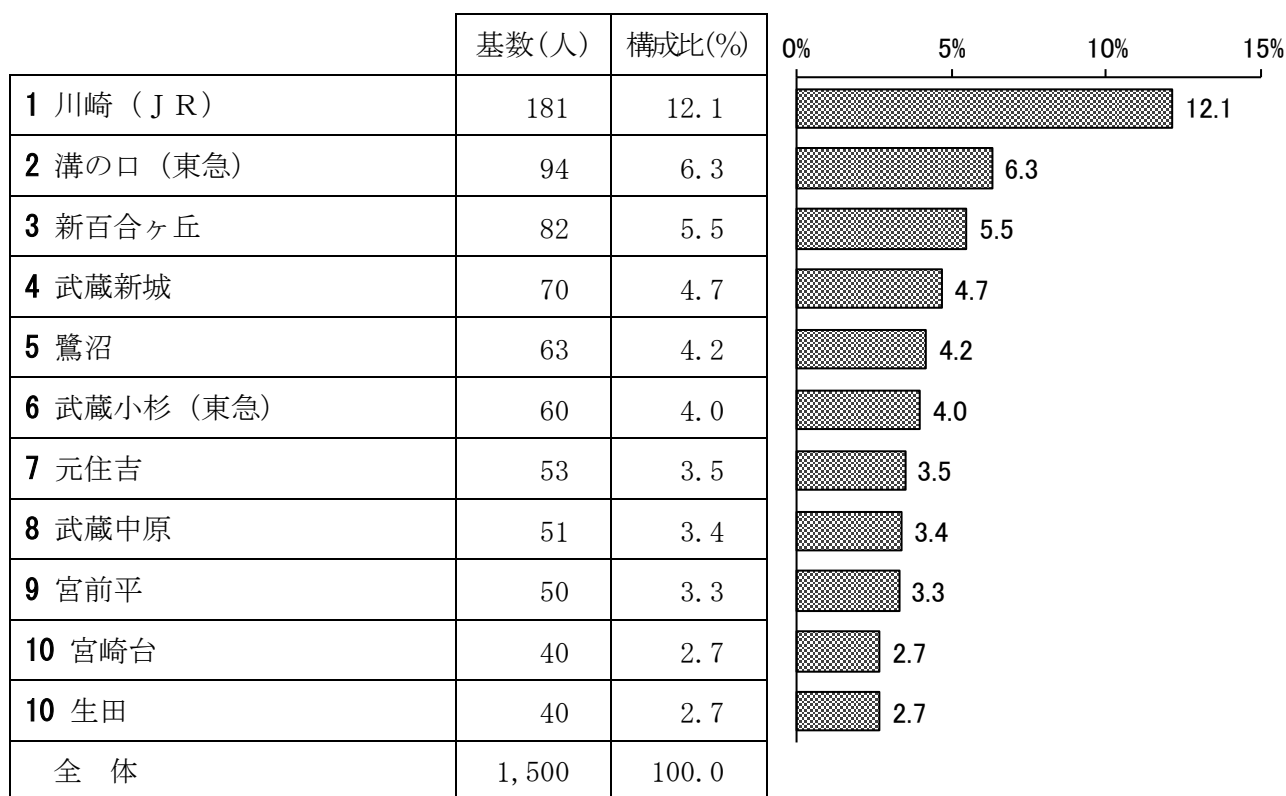
1.9 同居状況(複数回答)



1.10 最寄り駅（鉄道会社）



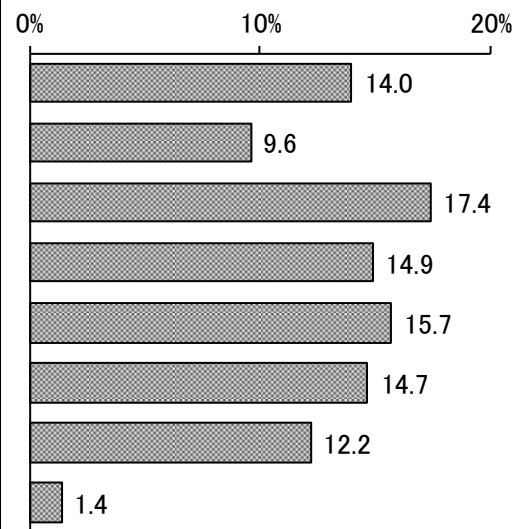
1.11 最寄り駅（上位10駅）



2 第2回アンケートの回答者

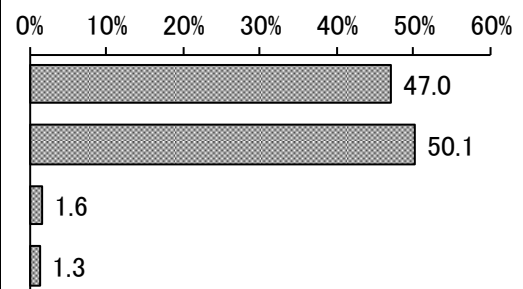
2.1 居住区

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	223	14.0
2 幸区	153	9.6
3 中原区	277	17.4
4 高津区	237	14.9
5 宮前区	250	15.7
6 多摩区	234	14.7
7 麻生区	195	12.2
8 無回答	23	1.4
全 体	1,592	100.0



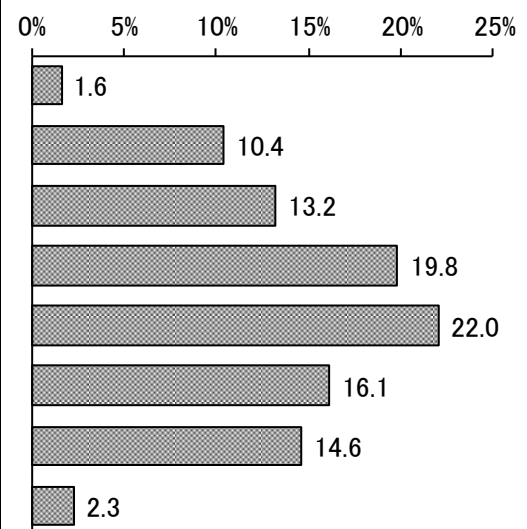
2.2 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	749	47.0
2 女性	798	50.1
3 選べない・答えたくない	25	1.6
4 無回答	20	1.3
全 体	1,592	100.0

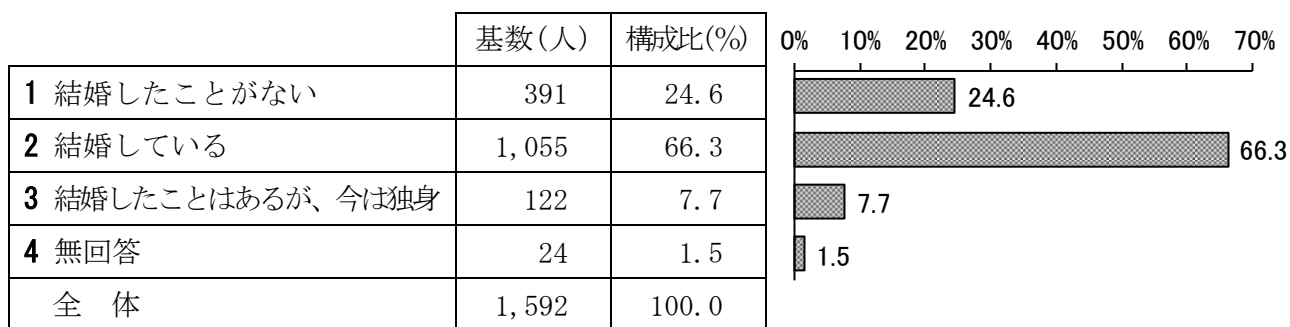


2.3 年齢

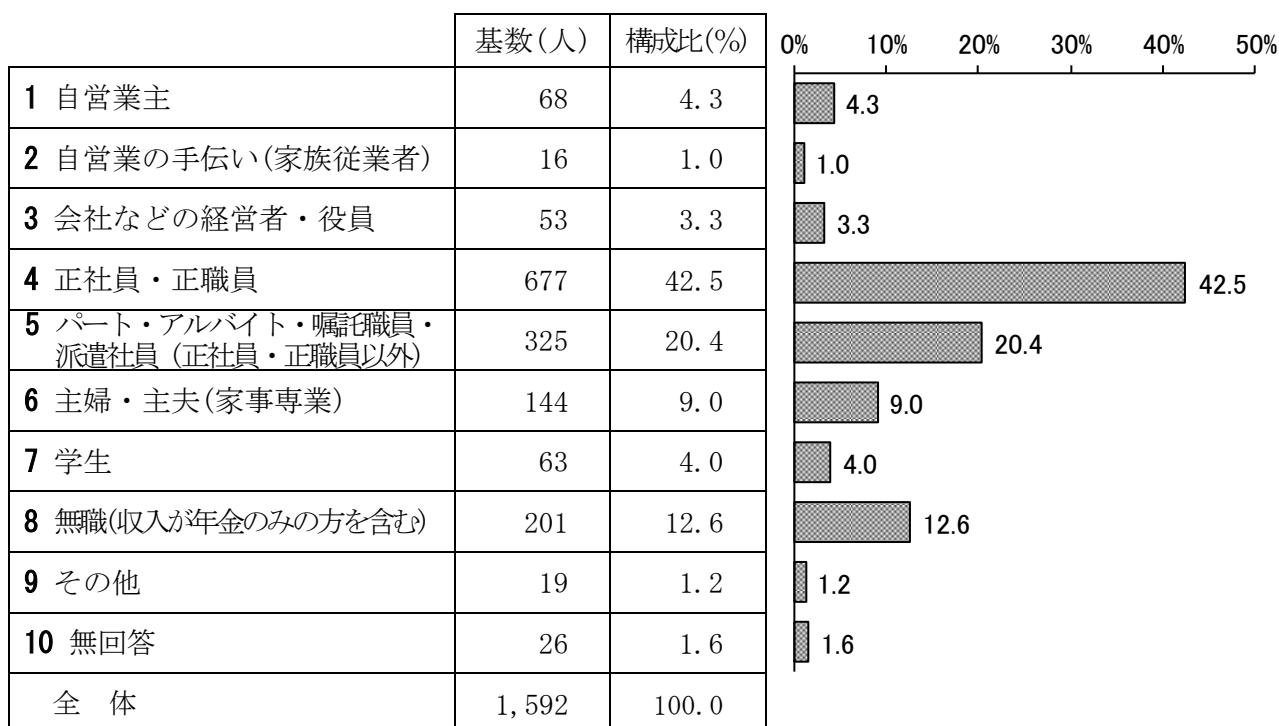
	基数(人)	構成比(%)
1 18～19 歳	25	1.6
2 20～29 歳	165	10.4
3 30～39 歳	210	13.2
4 40～49 歳	315	19.8
5 50～59 歳	351	22.0
6 60～69 歳	257	16.1
7 70 歳以上	233	14.6
8 無回答	36	2.3
全 体	1,592	100.0



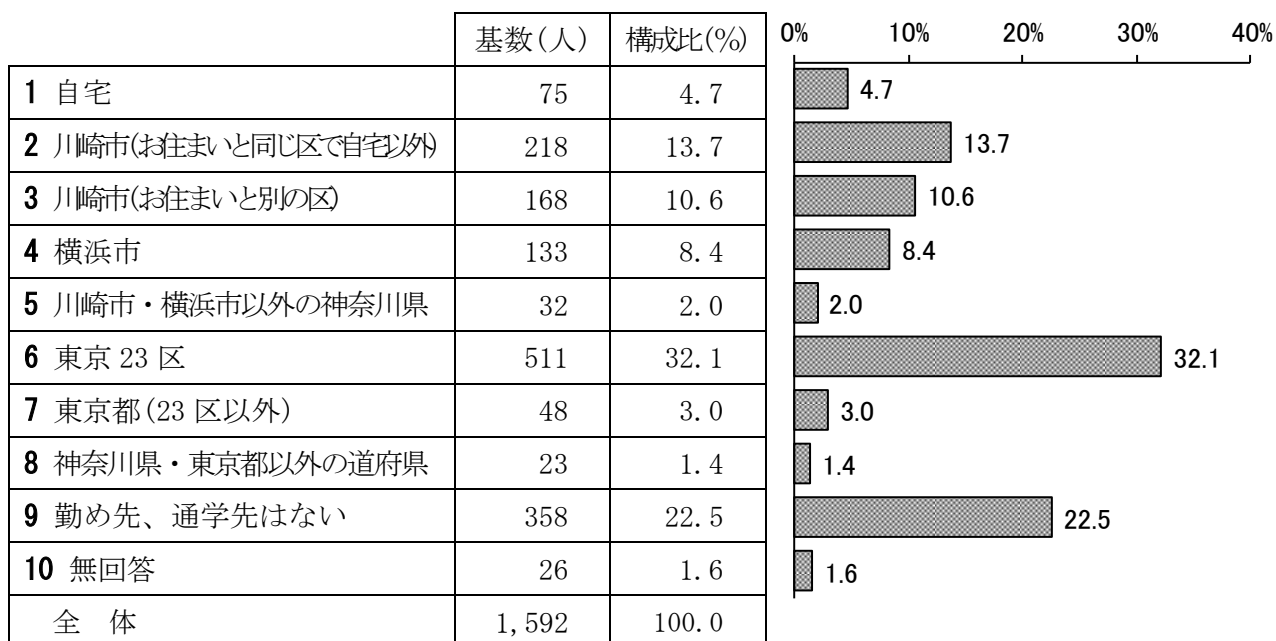
2.4 婚姻



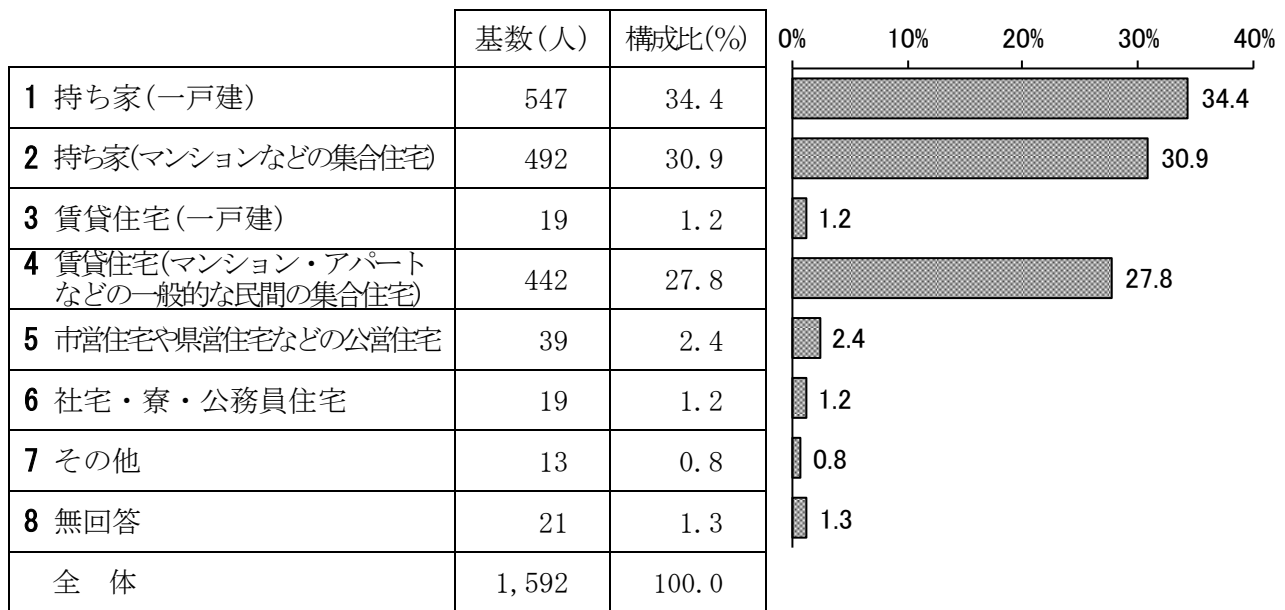
2.5 職業



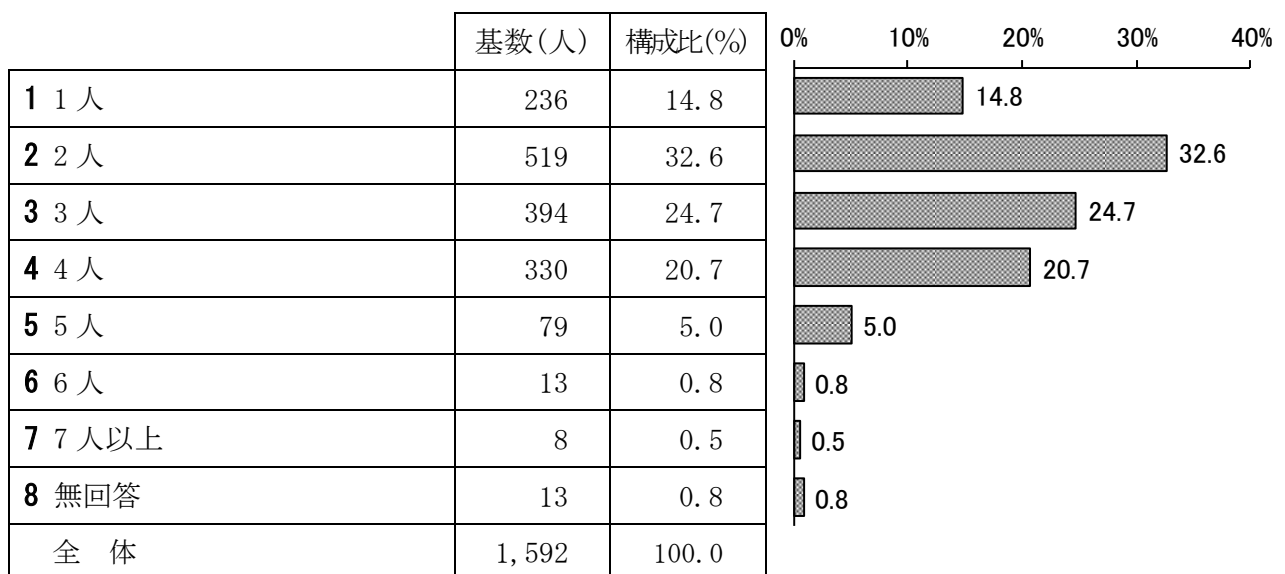
2.6 通勤・通学先の地域



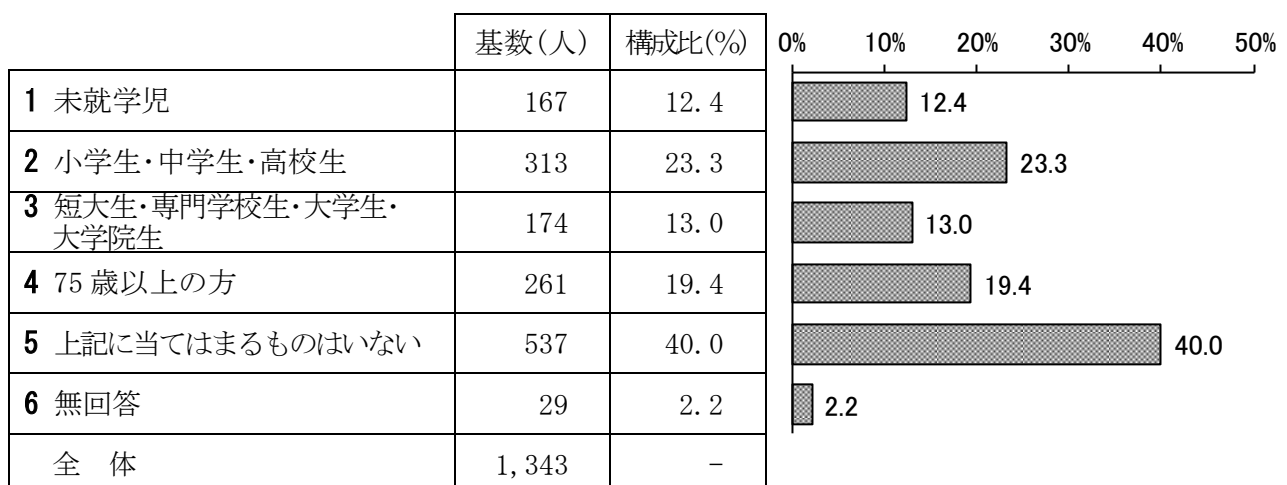
2.7 住居形態



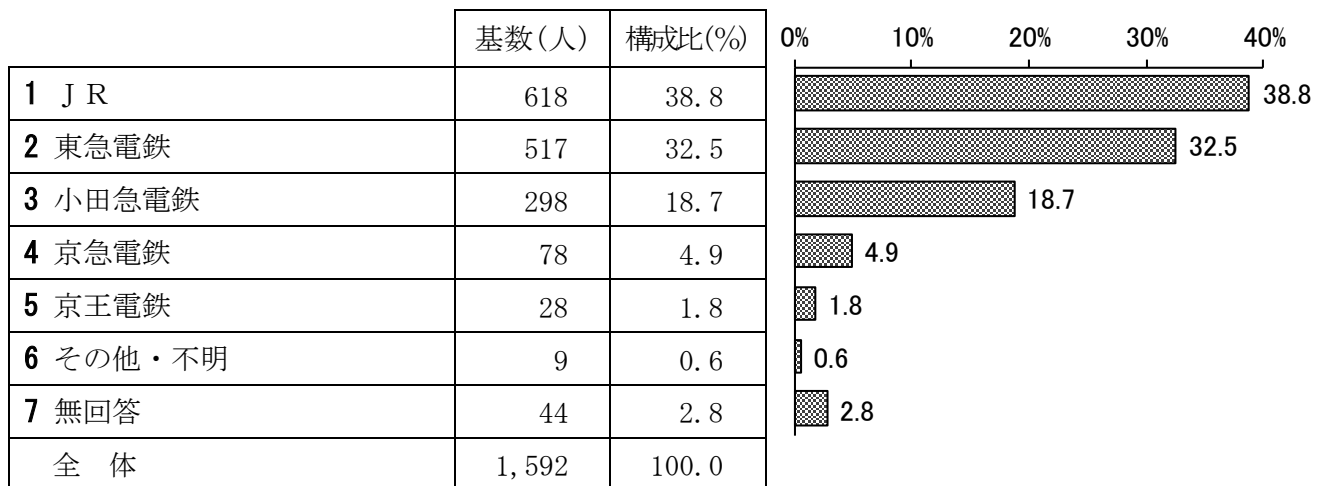
2.8 同居人数



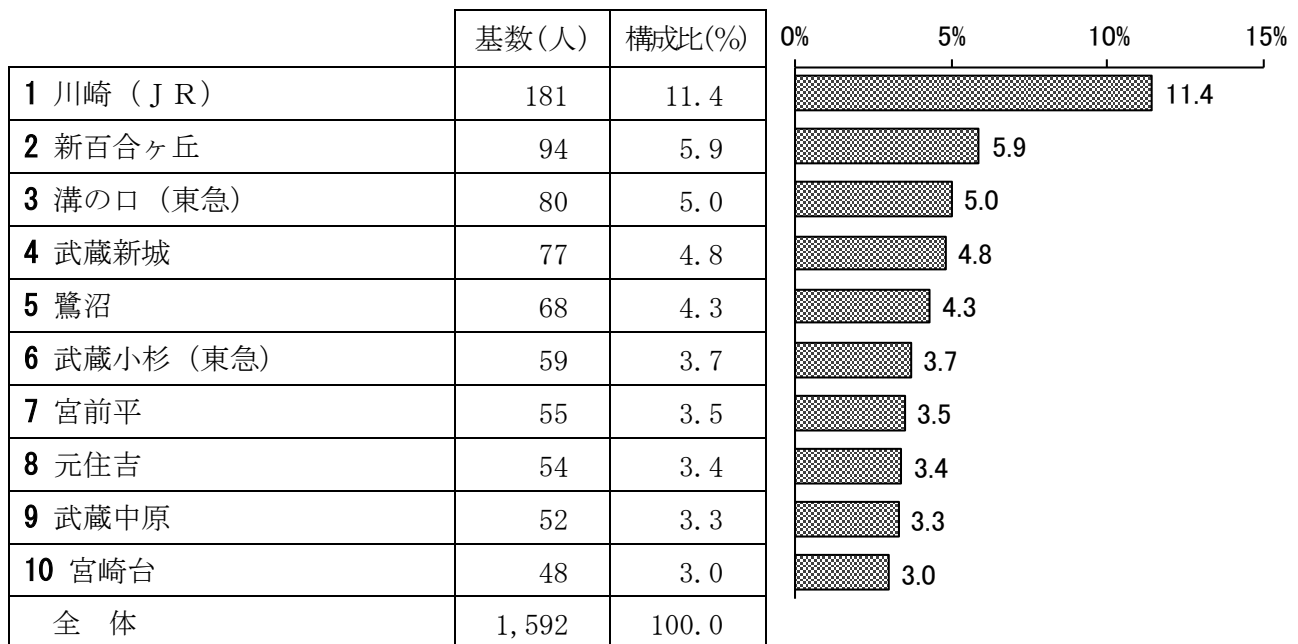
2.9 同居状況(複数回答)



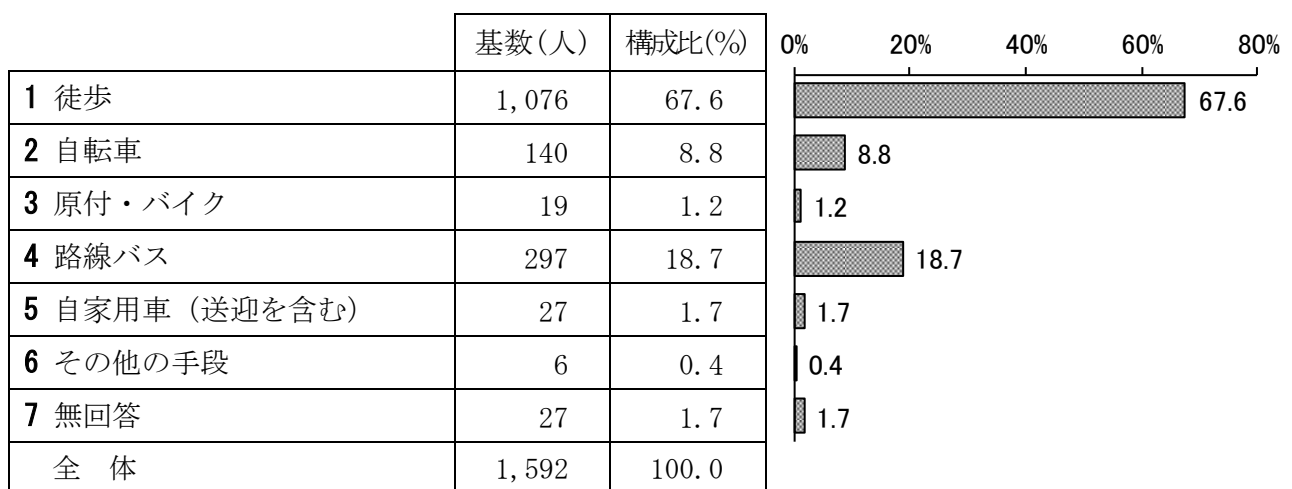
2.10 最寄り駅（鉄道会社）



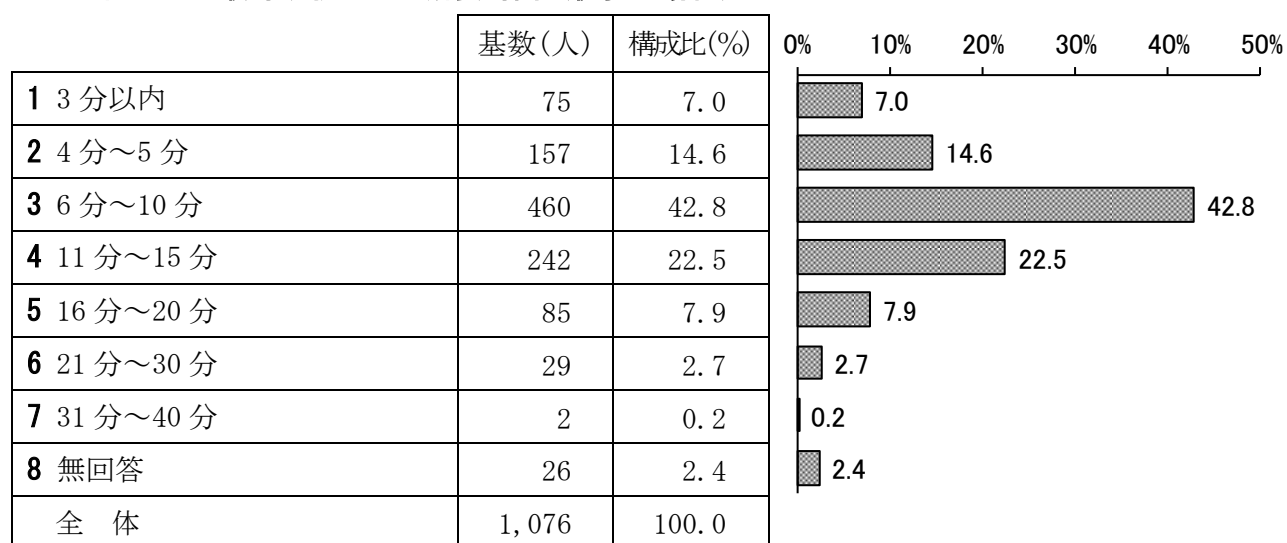
2.11 最寄り駅（上位10駅）



2.12 自宅から最寄り駅までの主な移動手段



2.13 自宅から最寄り駅までの所要時間（徒歩の場合）



Ⅲ 調査結果

1 第1回アンケートの調査結果 (インターネット調査)

1.1 川崎市の緑について

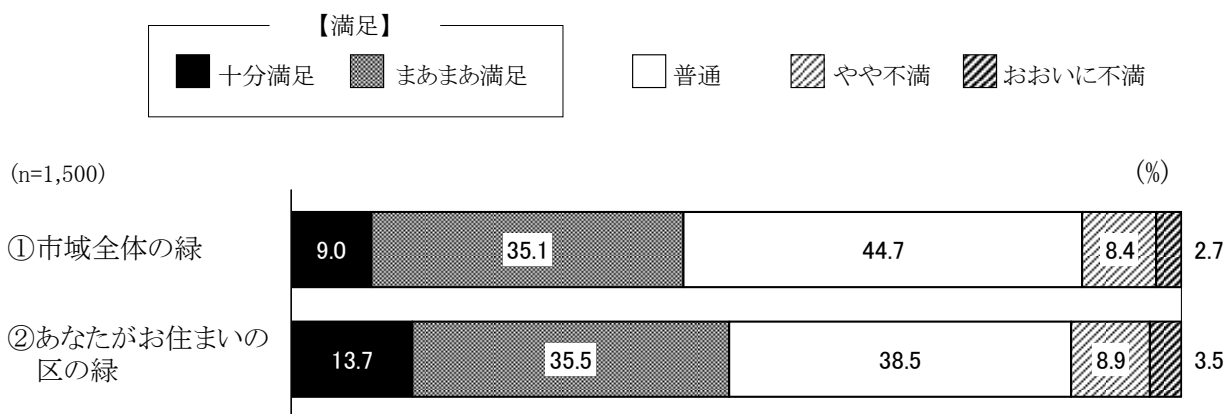
(1) 川崎市の緑に対する満足度

Q 1. あなたは、川崎市の緑に満足していますか。

- ① 市域全体の緑
- ② あなたがお住まいの区の緑

「十分満足」と「まあまあ満足」を合計した【満足】は「市域全体の緑」では44.1%、「あなたがお住まいの区の緑」では49.1%となっている。

【図表 1】川崎市の緑に対する満足度

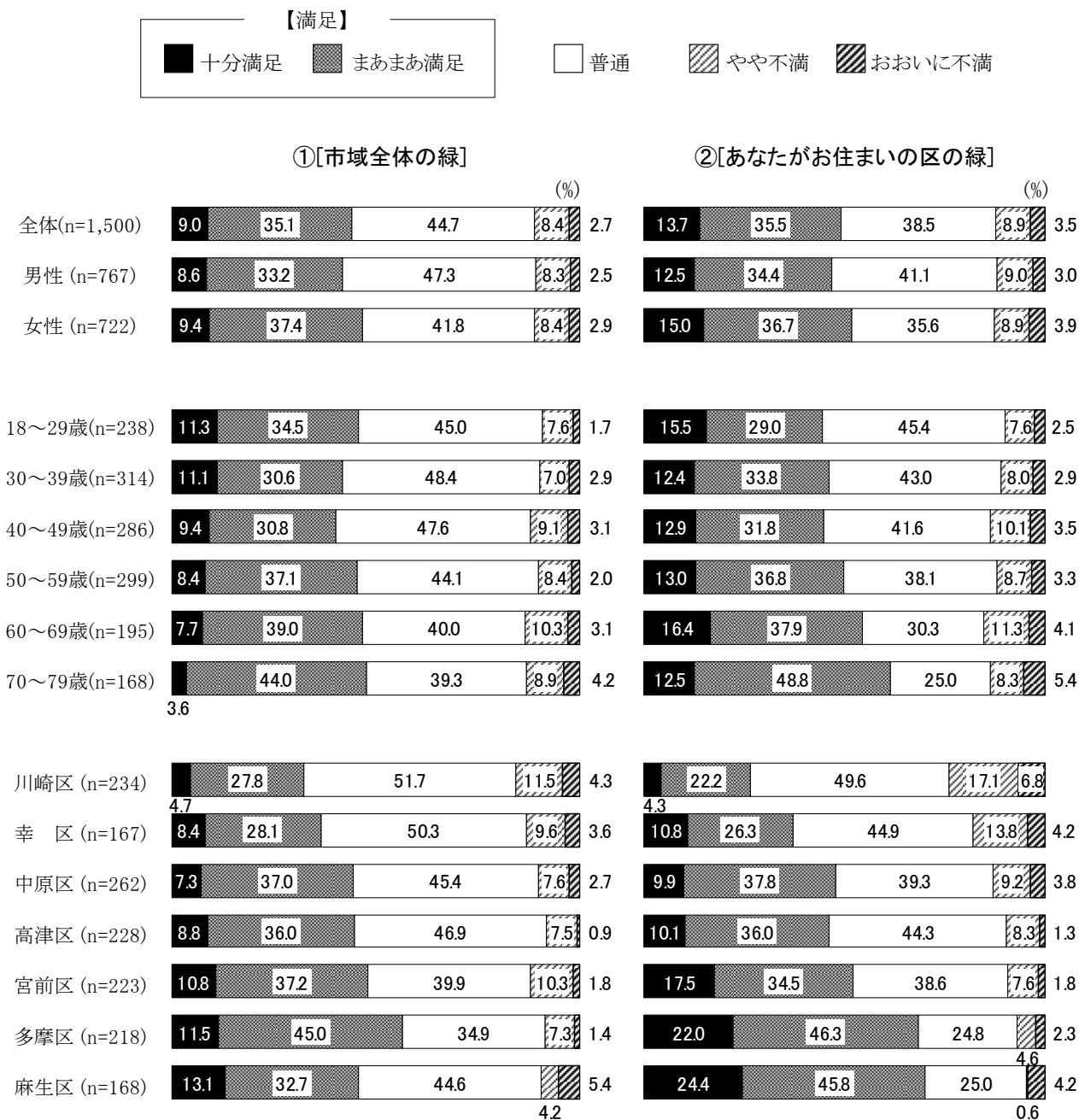


性別に見ると、【満足】の割合は、[市域全体の緑]、[あなたがお住まいの区の緑]ともに男性よりも女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、【満足】は、[あなたがお住まいの区の緑]ではおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、【満足】は、[市域全体の緑]では多摩区(56.4%)が5割を超えて最も高くなっている。[あなたがお住まいの区の緑]では麻生区(70.2%)、多摩区(68.3%)が約7割と高く、川崎区(26.5%)では3割を下回った。

【図表 2】川崎市の緑に対する満足度（性別、年齢別、居住区別）

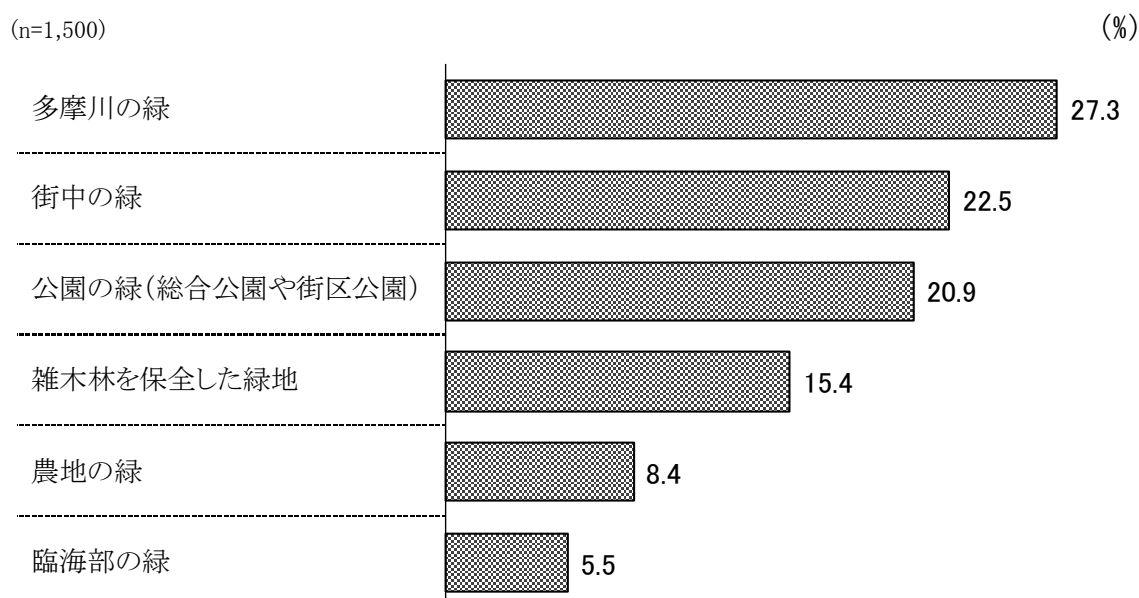


(2) 保全した方がいいと思う緑

Q2. 川崎市には多様な緑があります。あなたは以下のどのような緑を最も保全した方がいいと思いますか。

「多摩川の緑」が27.3%で最も高く、次いで「街中の緑」(22.5%)、「公園の緑(総合公園や街区公園)」(20.9%)、「雑木林を保全した緑地」(15.4%)と続いている。

【図表 3】 保全した方がいいと思う緑

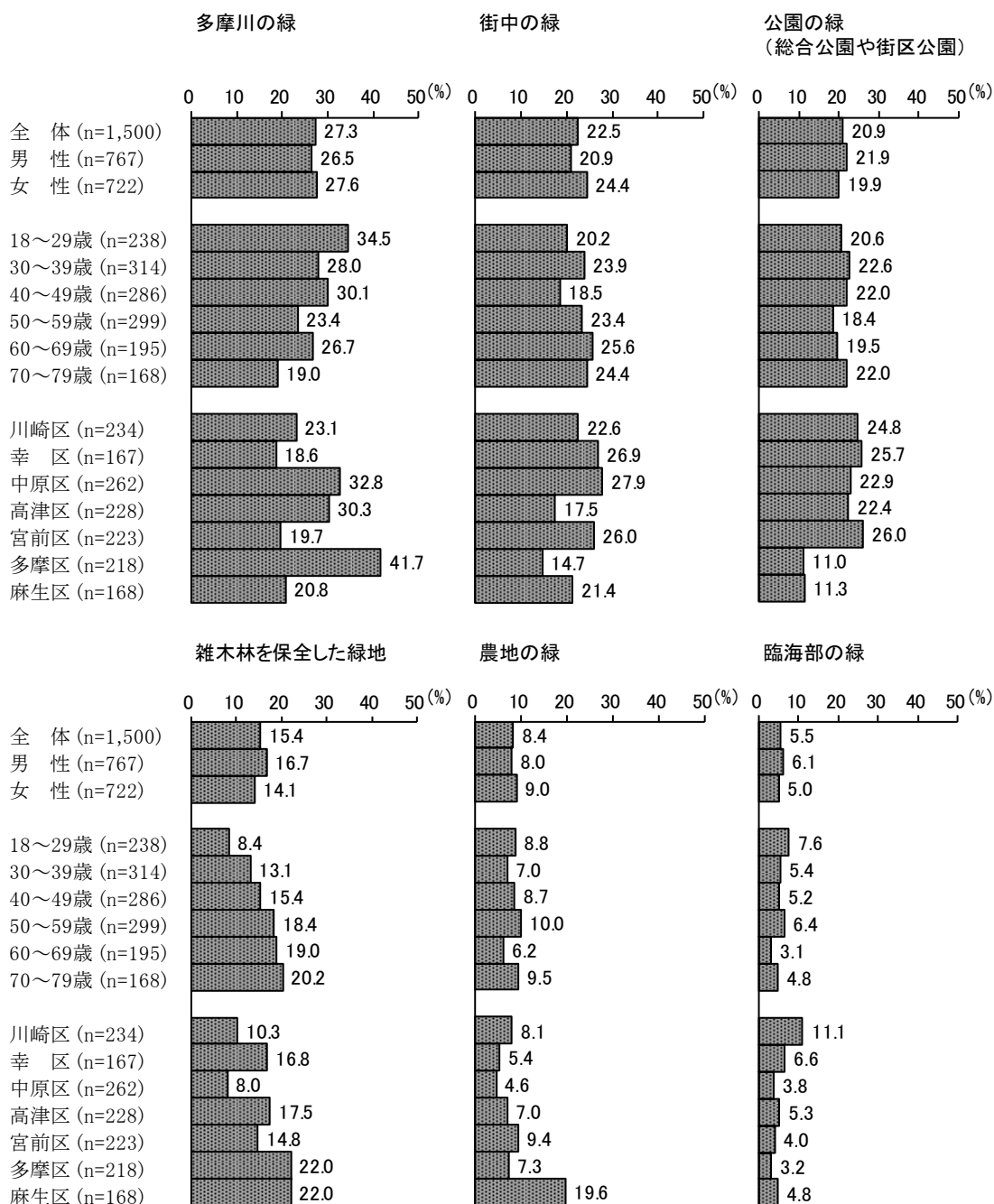


性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「多摩川の緑」と「臨海部の緑」は18～29歳が最も高く、「雑木林を保全した緑地」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「多摩川の緑」は多摩区が41.7%と最も高く、「公園の緑（総合公園や街区公園）」は多摩区（11.0%）と麻生区（11.3%）を除いた居住区で2割を超えている。「雑木林を保全した緑地」は多摩区と麻生区（ともに22.0%）が他の居住区と比較して高くなっている。また、「農地の緑」は麻生区（19.6%）が最も高く、「臨海部の緑」は川崎区（11.1%）が最も高い。

【図表 4】 保全した方がいいと思う緑（性別、年齢別、居住区別）



(3) 緑に関する取組について

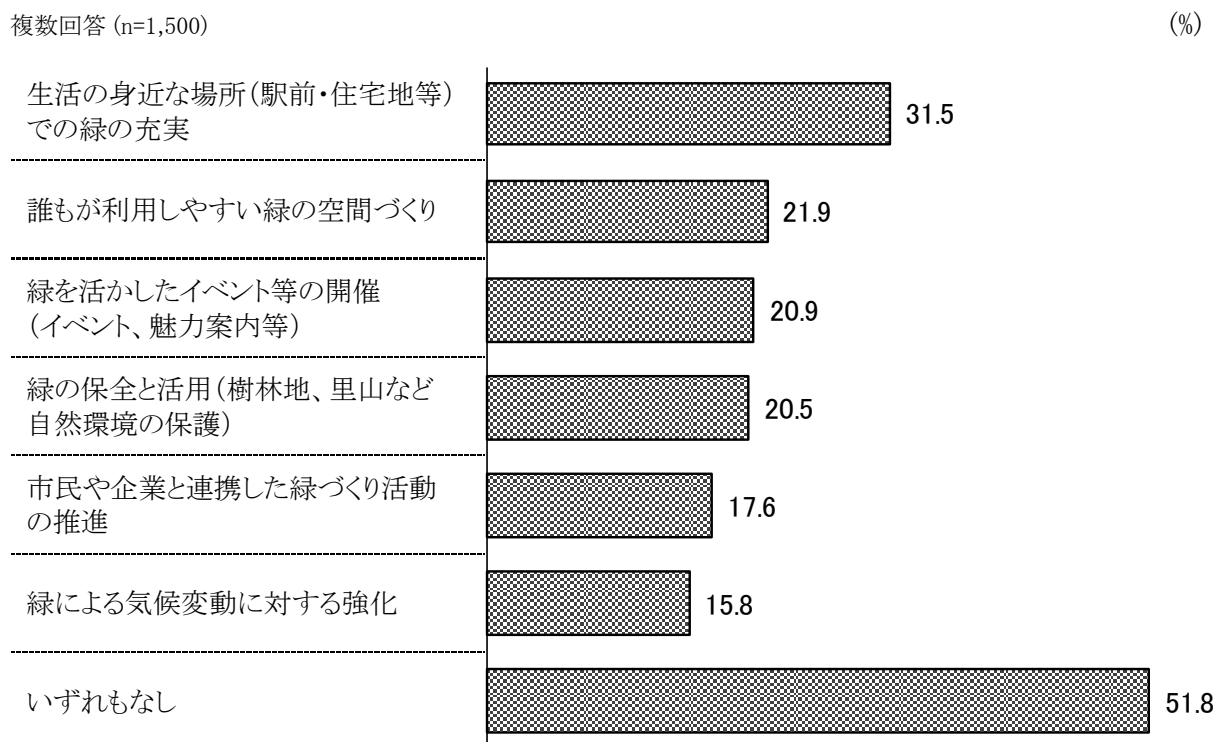
Q3. これまで川崎市では、さまざまな緑に関する取組をおこなってきました。それらの中で、あなたが知っていた取組はどれですか。また、今後さらに期待する取組はどれですか。

- ① 知っていた取組
- ② 今後さらに期待する取組

① 知っていた取組

知っていた取組では、「生活の身近な場所（駅前・住宅地等）での緑の充実」が31.5%で最も高く、次いで「誰もが利用しやすい緑の空間づくり」（21.9%）、「緑を活かしたイベント等の開催（イベント、魅力案内等）」（20.9%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（51.8%）が5割を上回った。

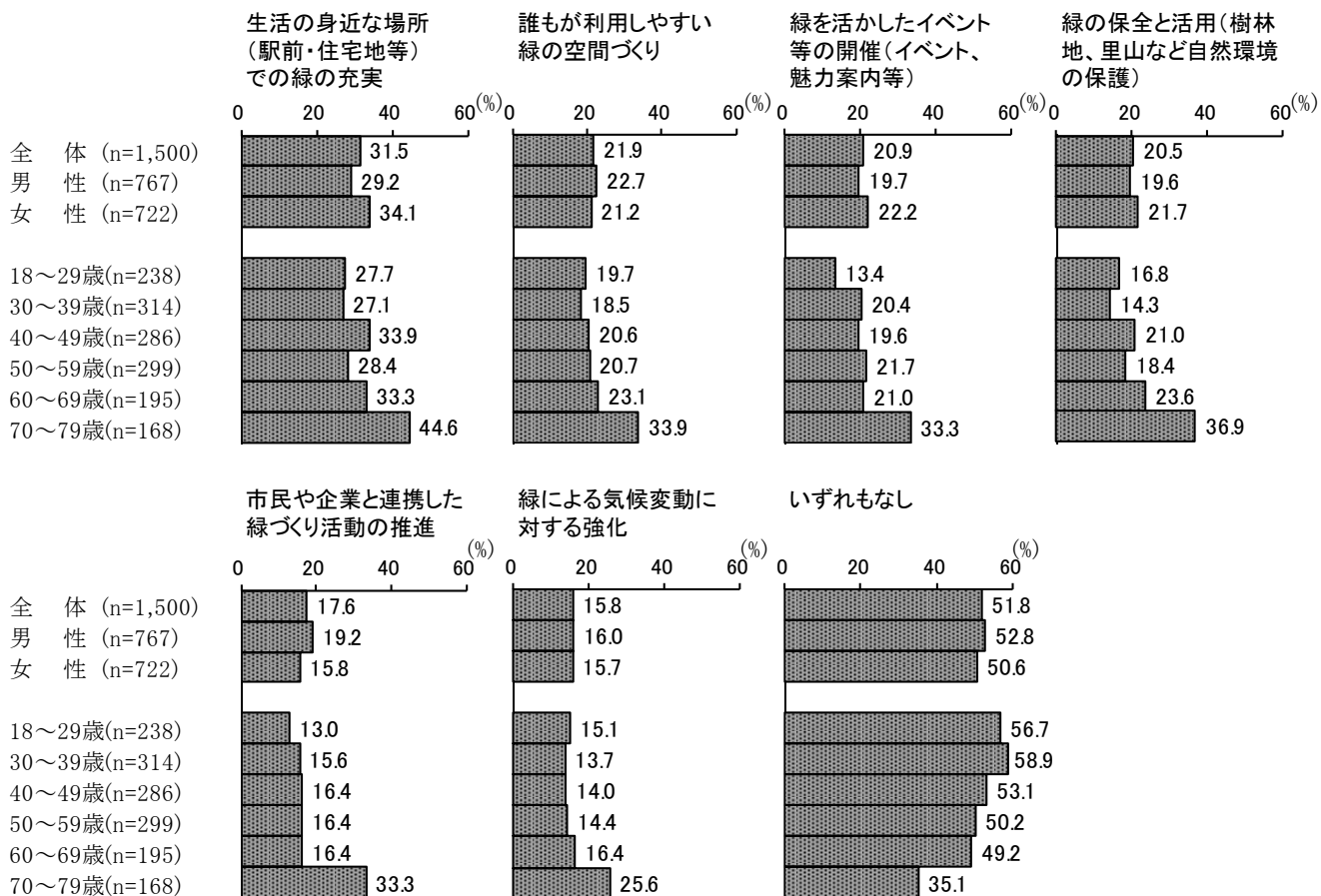
【図表 5】知っていた取組（複数回答）



知っていた取組について、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、すべての取組において70～79歳が最も高くなっている。一方で、「いずれもなし」は50歳代以下で5割を上回った。

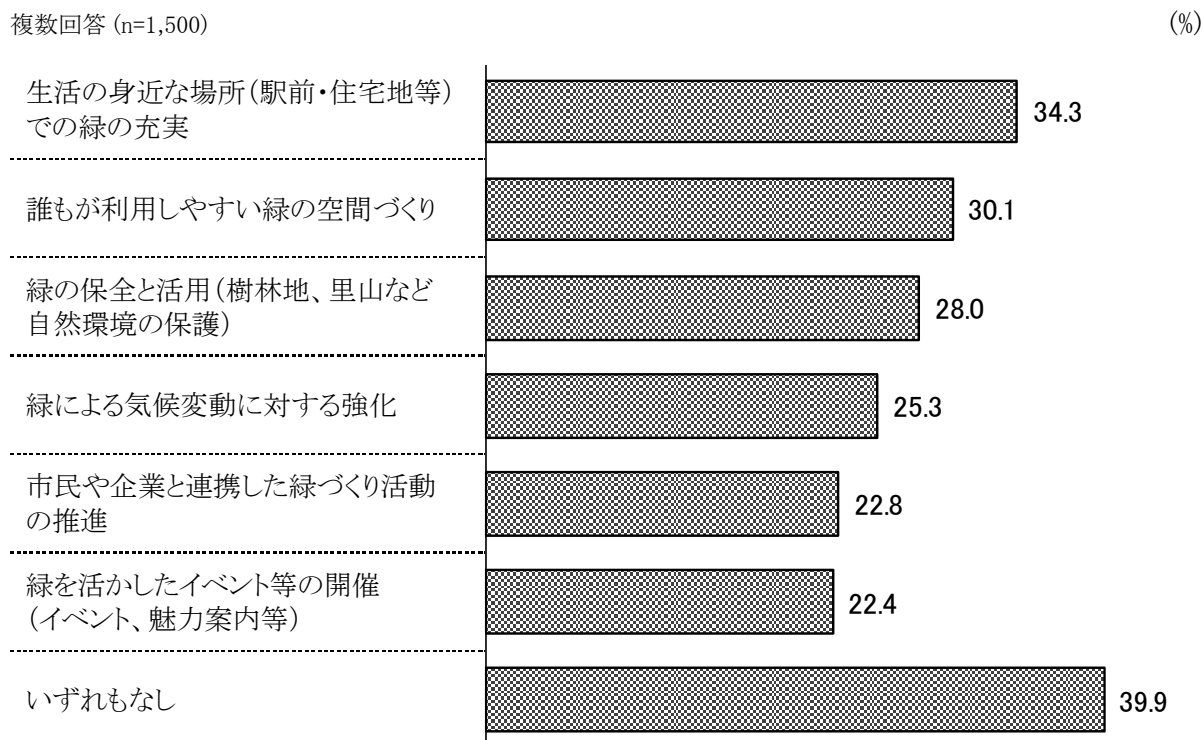
【図表6】知っていた取組（複数回答）
（性別、年齢別）



② 今後さらに期待する取組

今後さらに期待する取組では、「生活の身近な場所（駅前・住宅地等）での緑の充実」が34.3%で最も高く、次いで「誰もが利用しやすい緑の空間づくり」（30.1%）、「緑の保全と活用（樹林地、里山など自然環境の保護）」（28.0%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（39.9%）が約4割を占めた

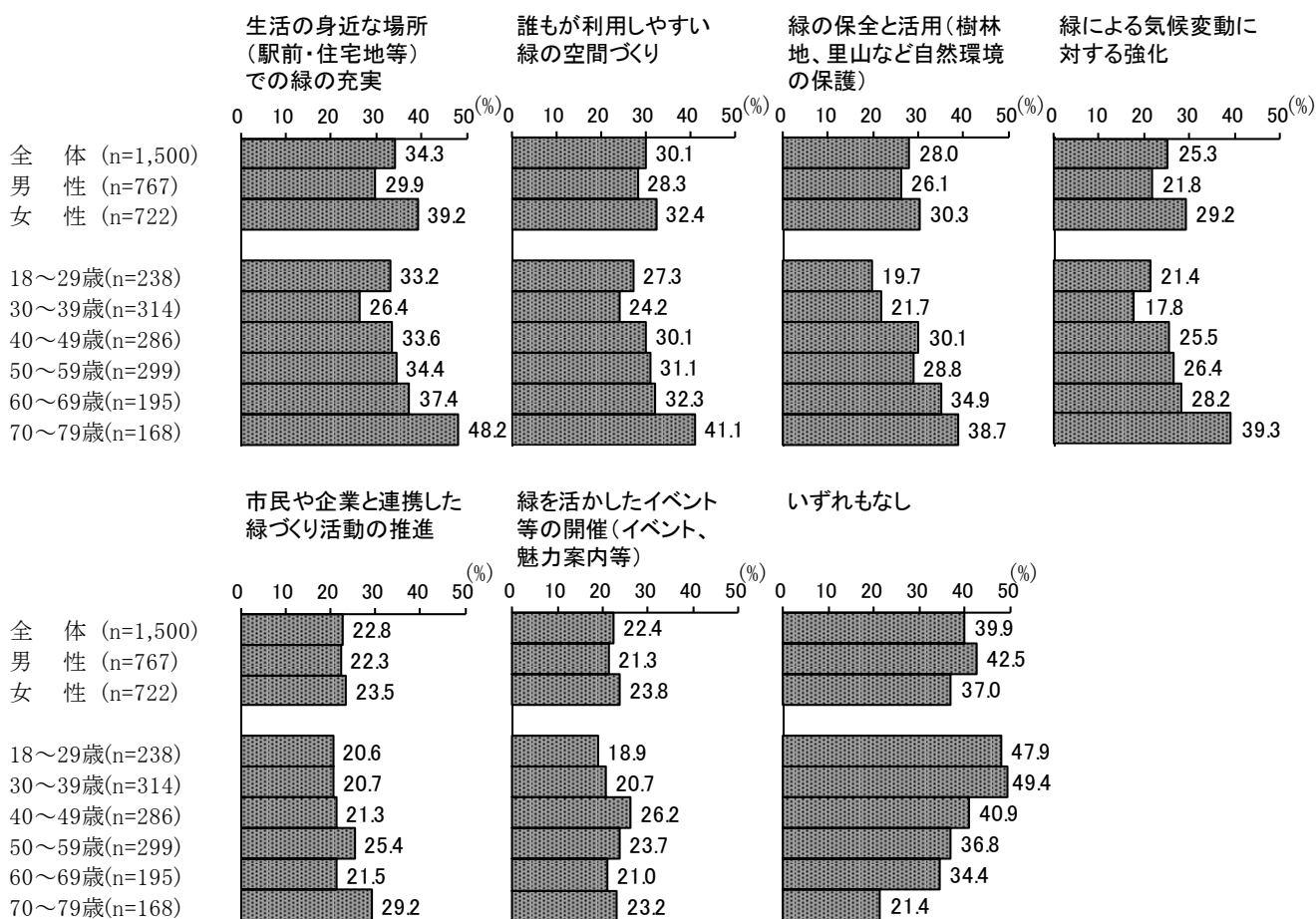
【図表 7】 今後さらに期待する取組（複数回答）



今後さらに期待する取組について性別に見ると、「生活の身近な場所（駅前・住宅地等）での緑の充実」と「緑による気候変動に対する強化」は男性よりも女性の方が7ポイント以上高く、「いずれもなし」は女性よりも男性の方が5.5ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「緑を活かしたイベント等の開催（イベント、魅力案内等）」は40～49歳（26.2%）が最も高いが、その他の取組では70～79歳が最も高くなっている。また、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 8】 今後さらに期待する取組（複数回答）
（性別、年齢別）



(4) 緑に関する活動について

Q4. あなた自身の緑に関する活動についてうかがいます。
あなたが現在おこなっている緑に関する活動はありますか。また、今後取り組みたい活動はありますか（継続して取り組む方もご回答ください）。

- ① 現在行っている活動
- ② 今後取り組みたい活動

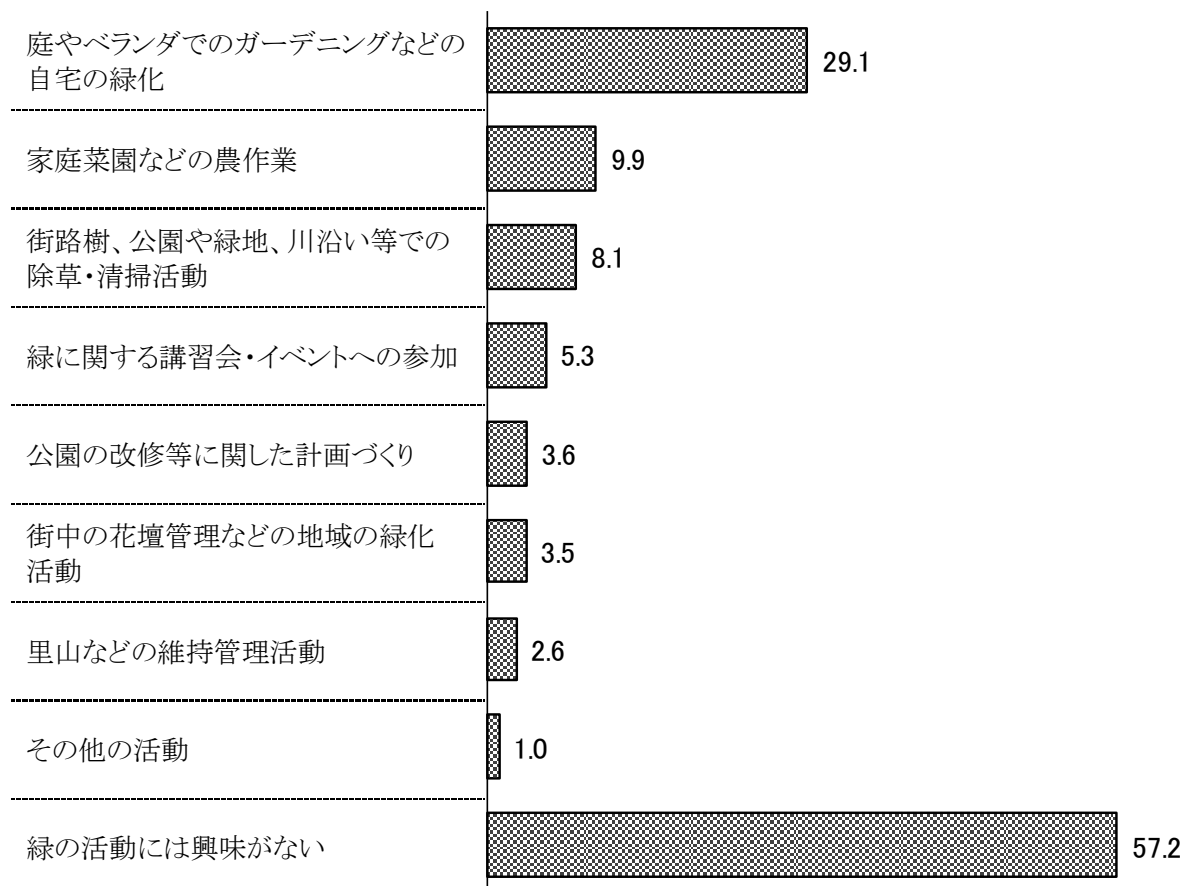
① 現在行っている活動

現在行っている活動では、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」が29.1%で最も高く、次いで「家庭菜園などの農作業」(9.9%)、「街路樹、公園や緑地、川沿い等での除草・清掃活動」(8.1%)と続いている。一方で、「緑の活動には興味がない」(57.2%)が6割近くを占めた。

【図表 9】現在行っている活動（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

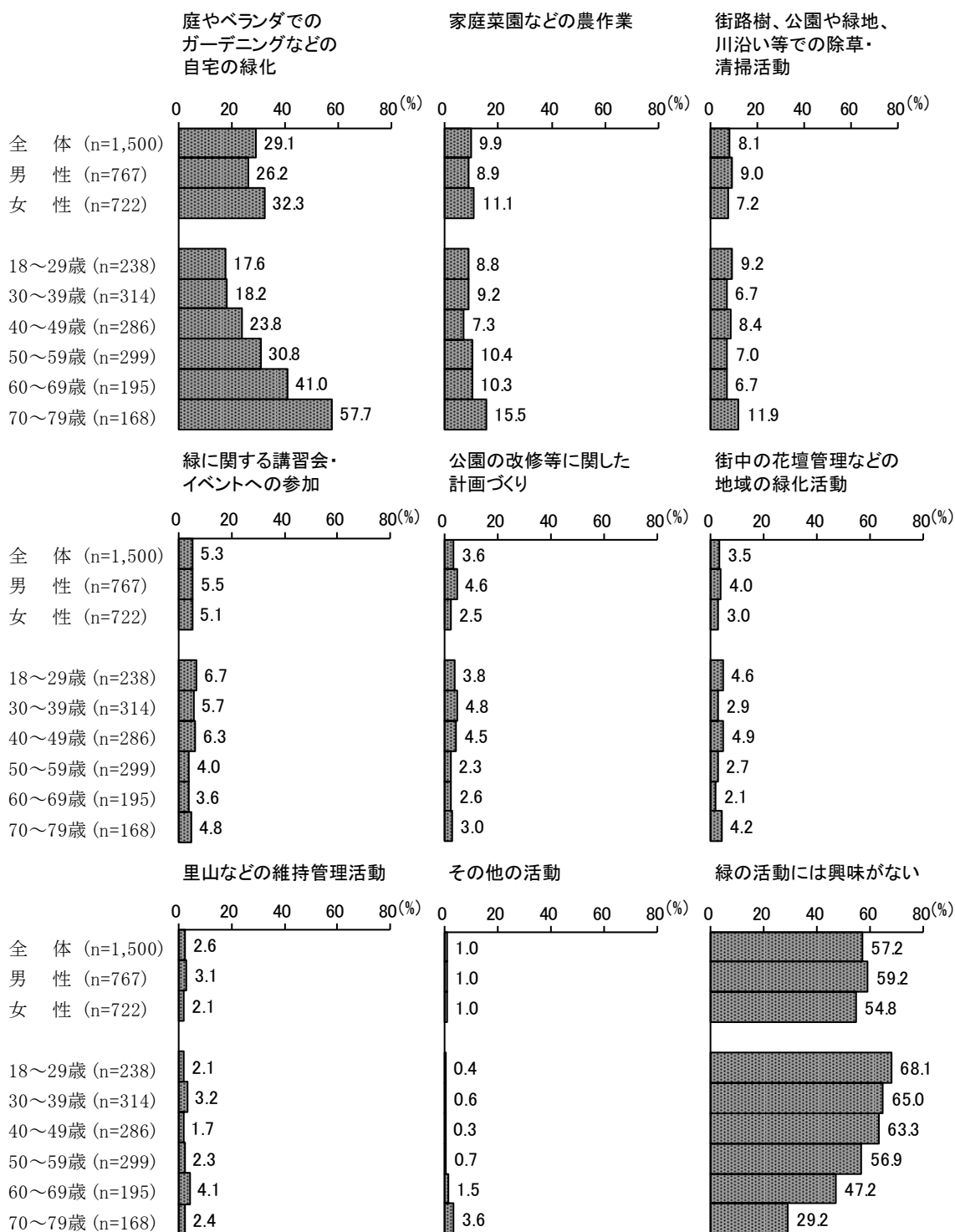
(%)



現在行っている活動について性別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」の割合は男性よりも女性の方が6.1ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」は年齢が上がるほど割合が高く、「緑の活動には興味がない」は年齢が下がるほど割合が高くなっている。

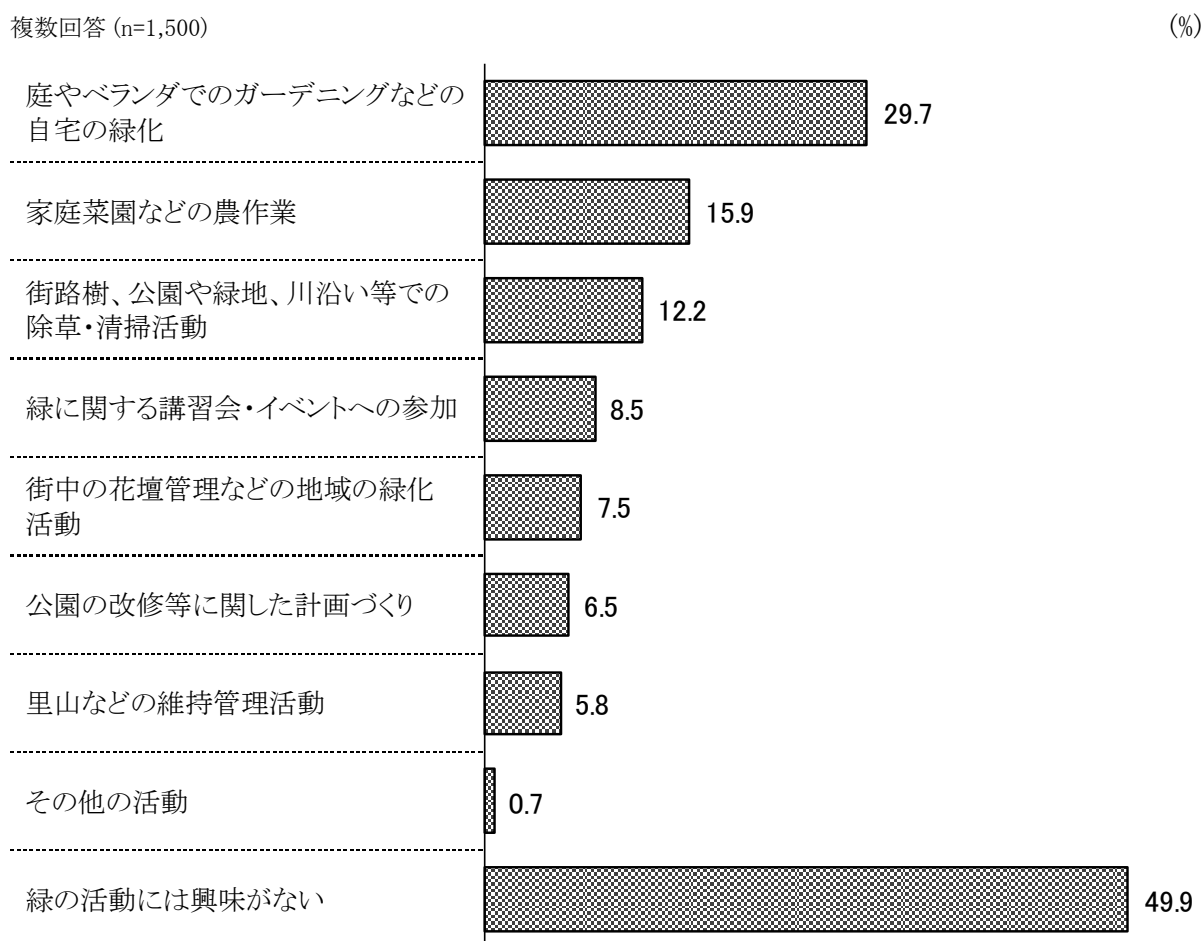
【図表 10】 現在行っている活動（複数回答）
（性別、年齢別）



② 今後取り組みたい活動

今後取り組みたい活動では、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」が29.7%で最も高く、次いで「家庭菜園などの農作業」(15.9%)、「街路樹、公園や緑地、川沿い等での除草・清掃活動」(12.2%)と続いている。一方で、「緑の活動には興味がない」(49.9%)が約5割を占めた。

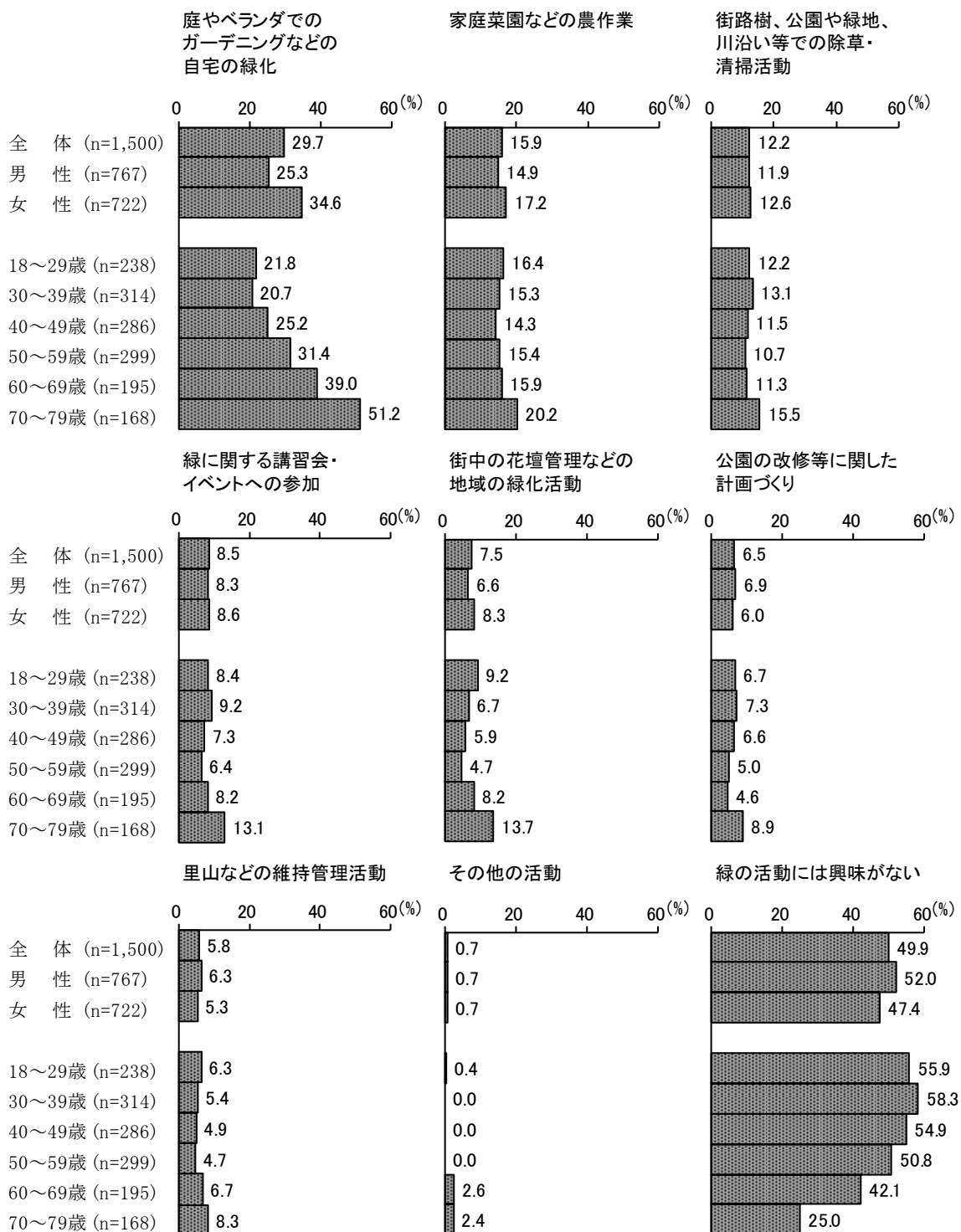
【図表 11】 今後取り組みたい活動（複数回答）



今後取り組みたい活動について性別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」の割合は男性よりも女性の方が9.3ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「緑の活動には興味がない」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 12】 今後取り組みたい活動（複数回答）
（性別、年齢別）



(5) 緑化や自然保全に関するボランティア活動について

Q5. これまで川崎市では、緑化や自然保全に参加できる多彩なボランティア活動を展開してきました。

それらの中で知っている活動はありますか。また、今後参加してみたい活動はありますか。

- ① 知っている活動
- ② 今後参加してみたい活動

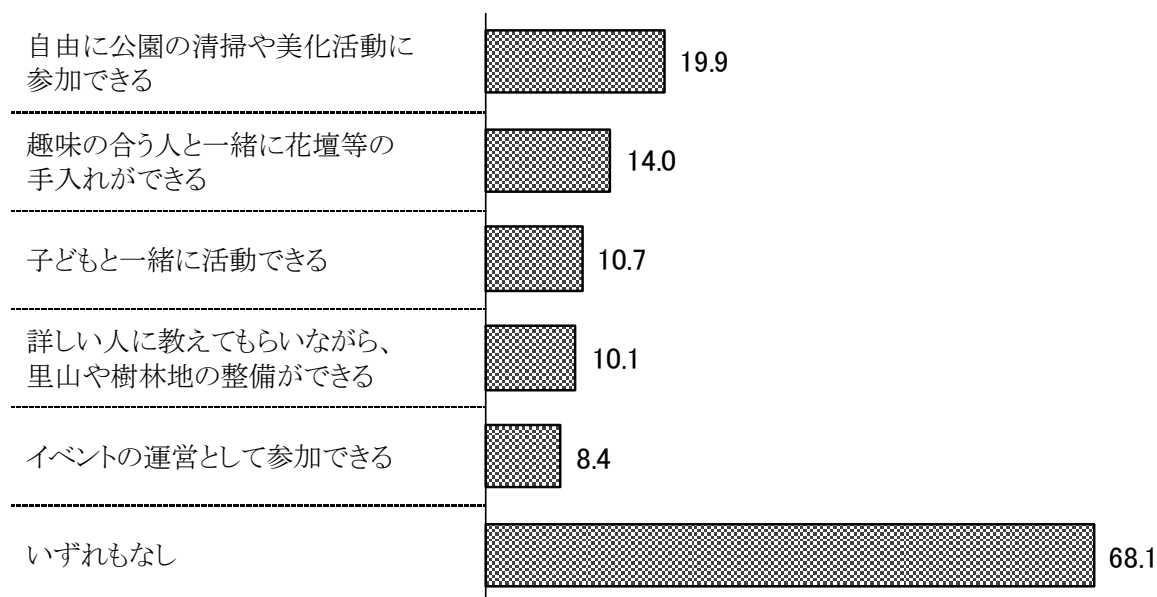
① 知っているボランティア活動

知っているボランティア活動では、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」が19.9%で最も高く、次いで「趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる」(14.0%)、「子どもと一緒に活動できる」(10.7%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(68.1%)が7割近くを占めた。

【図表 13】知っているボランティア活動（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

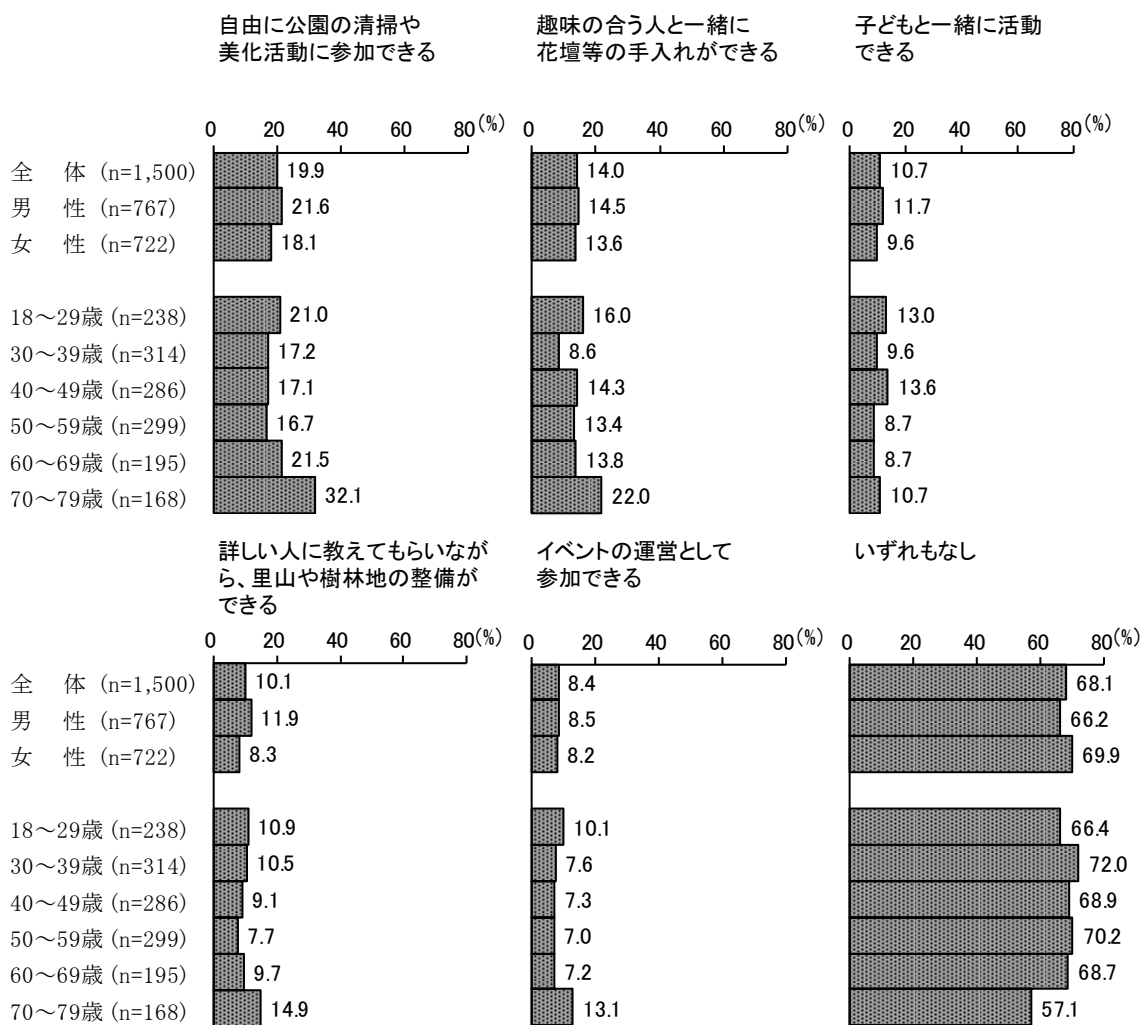
(%)



知っているボランティア活動について、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「子どもと一緒に活動できる」は40～49歳(13.6%)が最も高く、その他の活動では70～79歳が最も高くなっている。一方で、「いずれもなし」は70～79歳(57.1%)が最も低い。

【図表 14】知っているボランティア活動（複数回答）
（性別、年齢別）



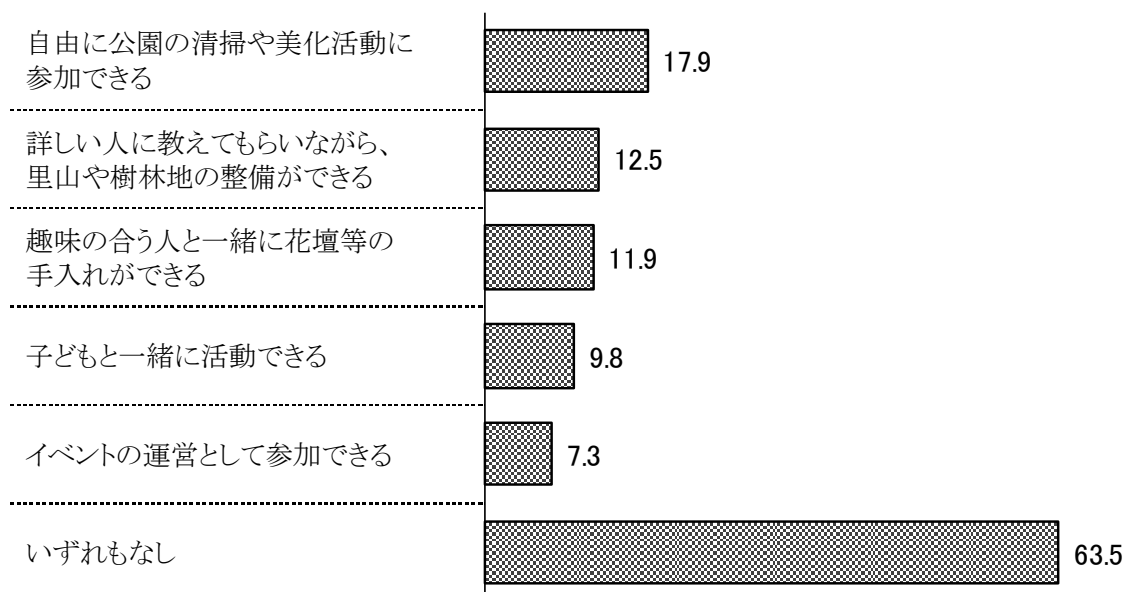
② 今後参加してみたいボランティア活動

今後参加してみたいボランティア活動では、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」が17.9%で最も高く、次いで「詳しい人に教えてもらいながら、里山や樹林地の整備ができる」(12.5%)、「趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる」(11.9%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(63.5%)が6割を上回った。

【図表 15】 今後参加してみたいボランティア活動（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

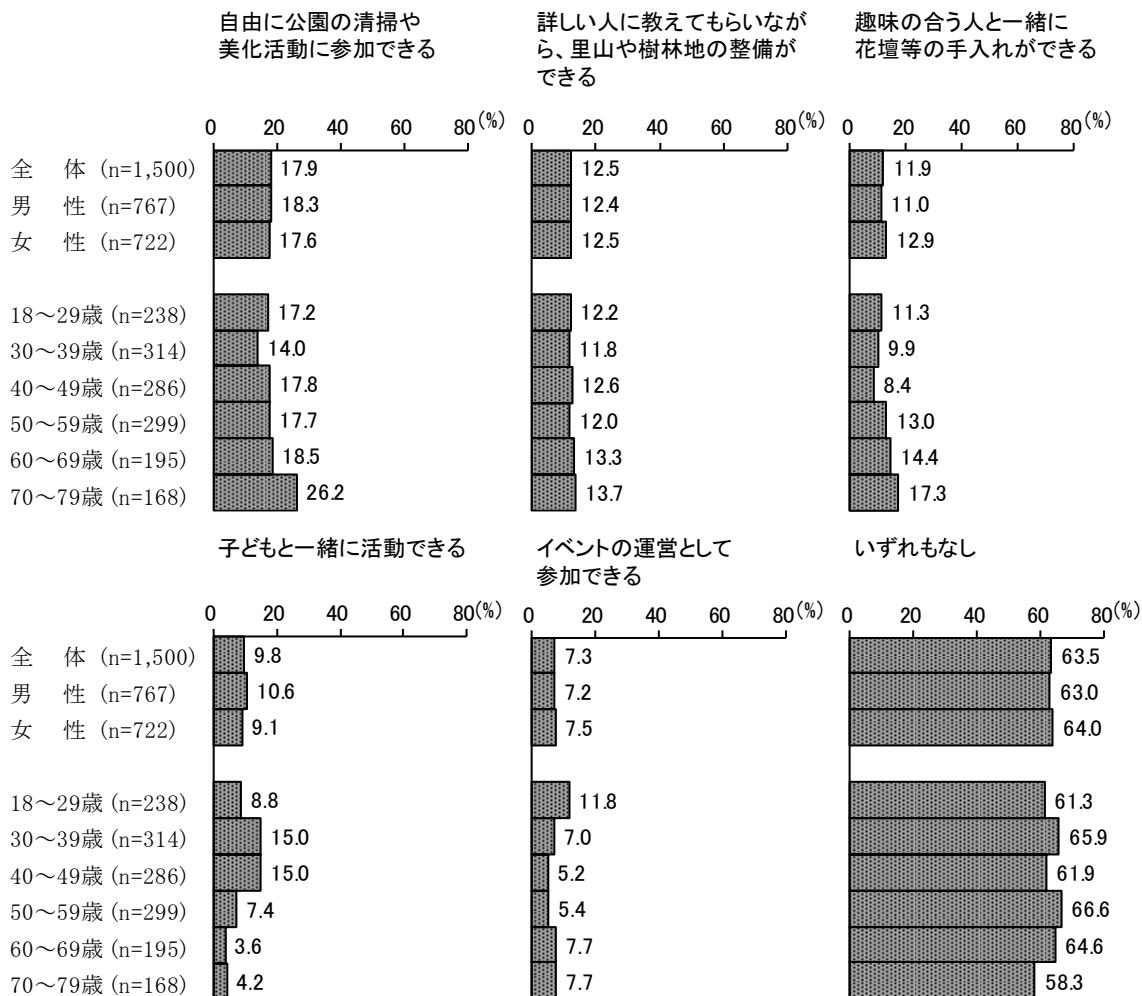
(%)



今後参加してみたいボランティア活動について、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」は70～79歳(26.2%)が最も高く、「子どもと一緒に活動できる」は30～39歳と40～49歳(ともに15.0%)が最も高い。また、「イベントの運営として参加できる」は18～29歳(11.8%)が最も高くなっている。

【図表 16】 今後参加してみたいボランティア活動（複数回答）
（性別、年齢別）



(6) 緑に関する情報発信について

Q6. これまで、川崎市では多様なメディアを使用し、上記のような情報発信に取り組んできました。それらの中で、見たことがある情報発信はどれですか。また、今後さらに進めてほしい情報発信はどれですか。

- ①見たことのあるもの
- ②今後さらに進めてほしいもの

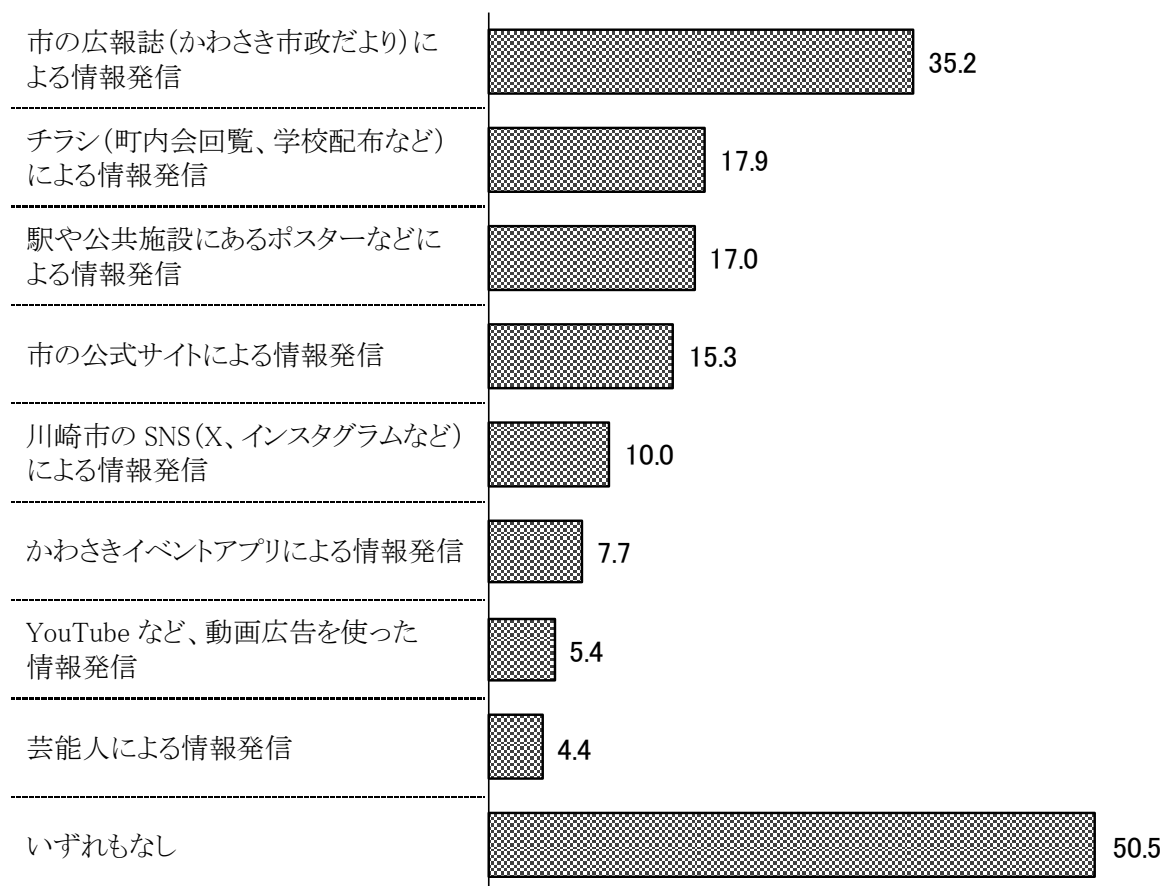
① 見たことのある情報発信

見たことのある情報発信では、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」が35.2%で最も高く、次いで「チラシ（町内会回覧、学校配布など）による情報発信」（17.9%）、「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」（17.0%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（50.5%）が約5割を占めた。

【図表 17】 見たことのある情報発信（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

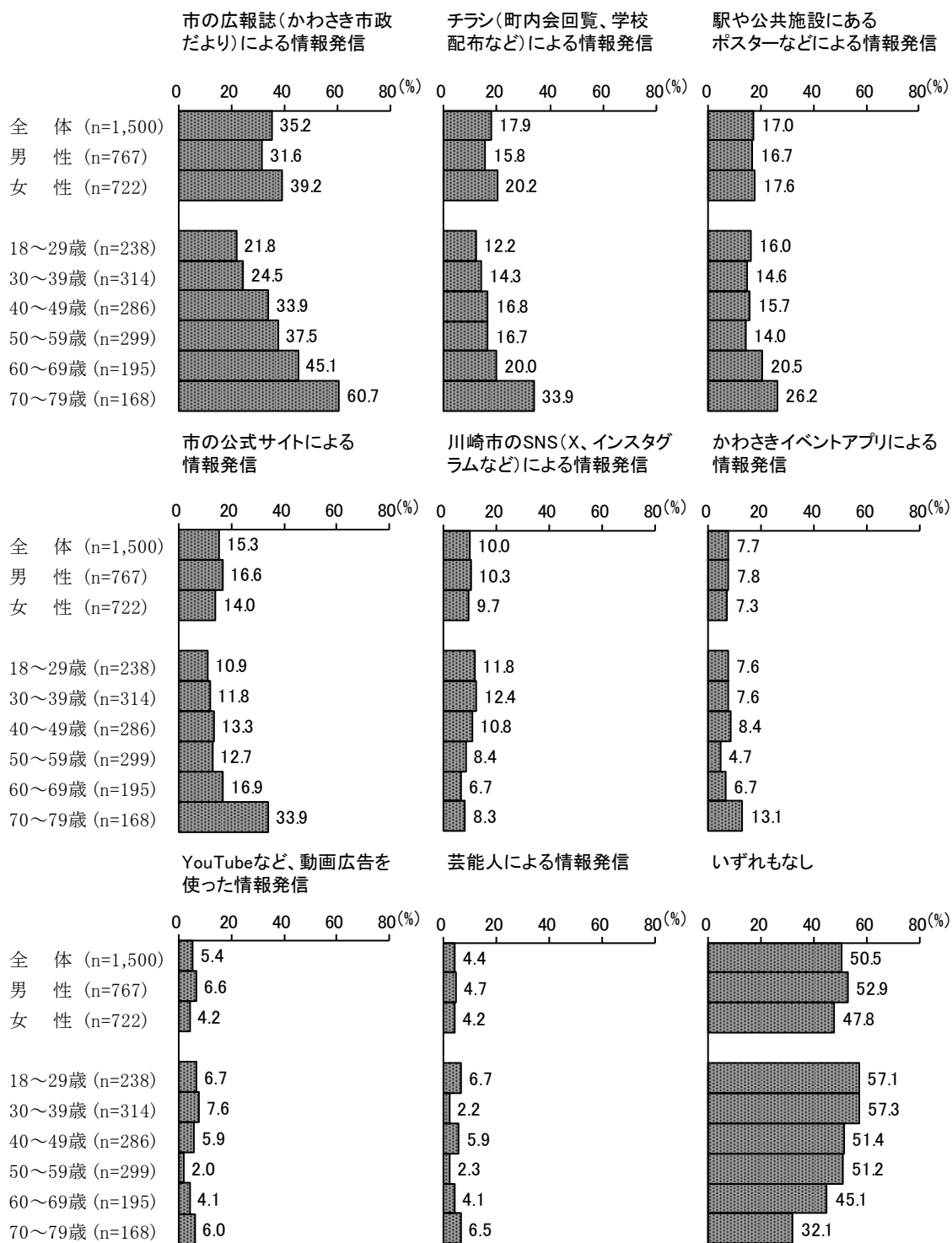
(%)



見たことのある情報発信について性別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」では男性よりも女性の方が7.6ポイント高く、「いずれもなし」は女性よりも男性の方が5.1ポイント高い。

年齢別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」、「チラシ（町内会回覧、学校配布など）による情報発信」、「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」、「市の公式サイトによる情報発信」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

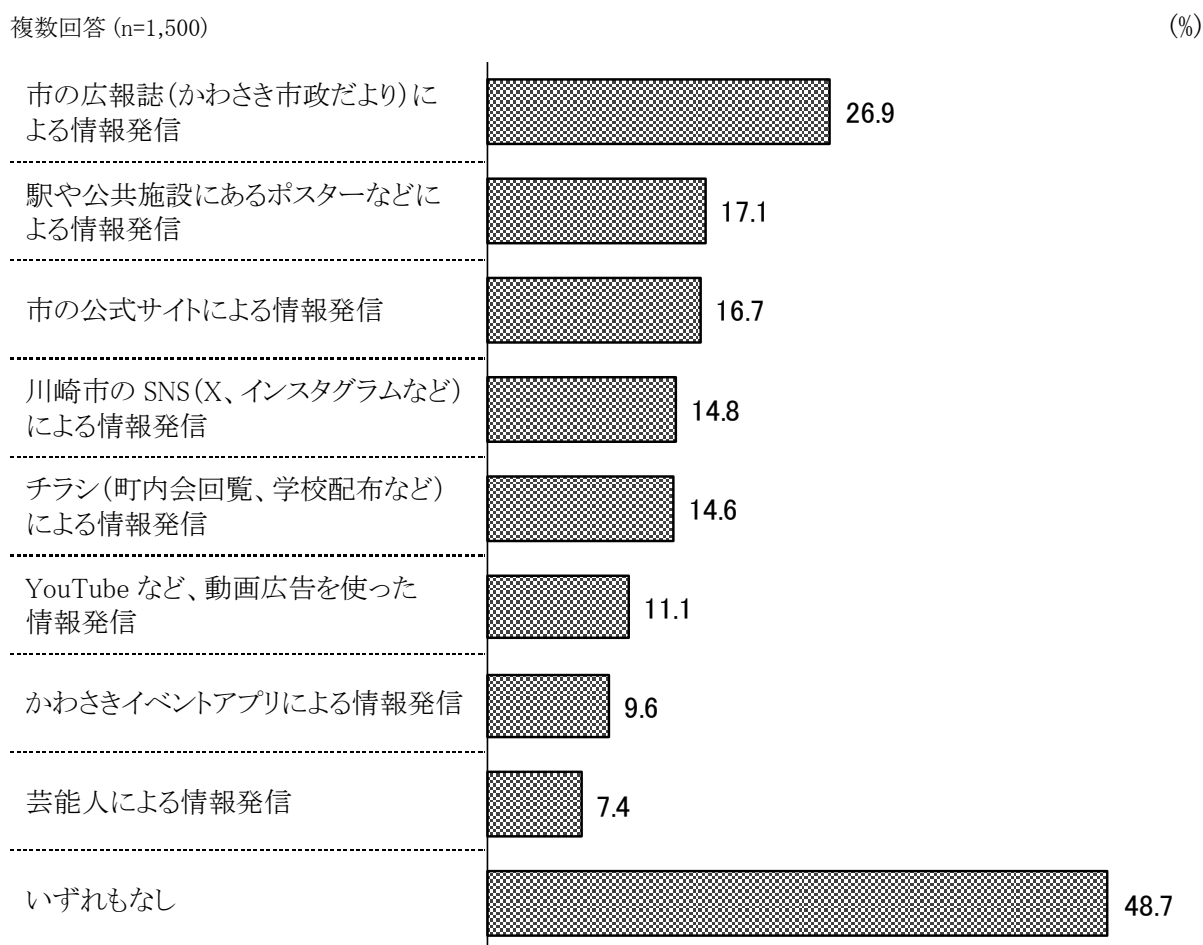
【図表 18】 見たことのある情報発信（複数回答）
（性別、年齢別）



② 今後さらに進めてほしい情報発信

今後さらに進めてほしい情報発信では、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」が26.9%で最も高く、次いで「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」（17.1%）、「市の公式サイトによる情報発信」（16.7%）と続いている。一方で、「いずれもなし」（48.7%）が5割近くを占めた。

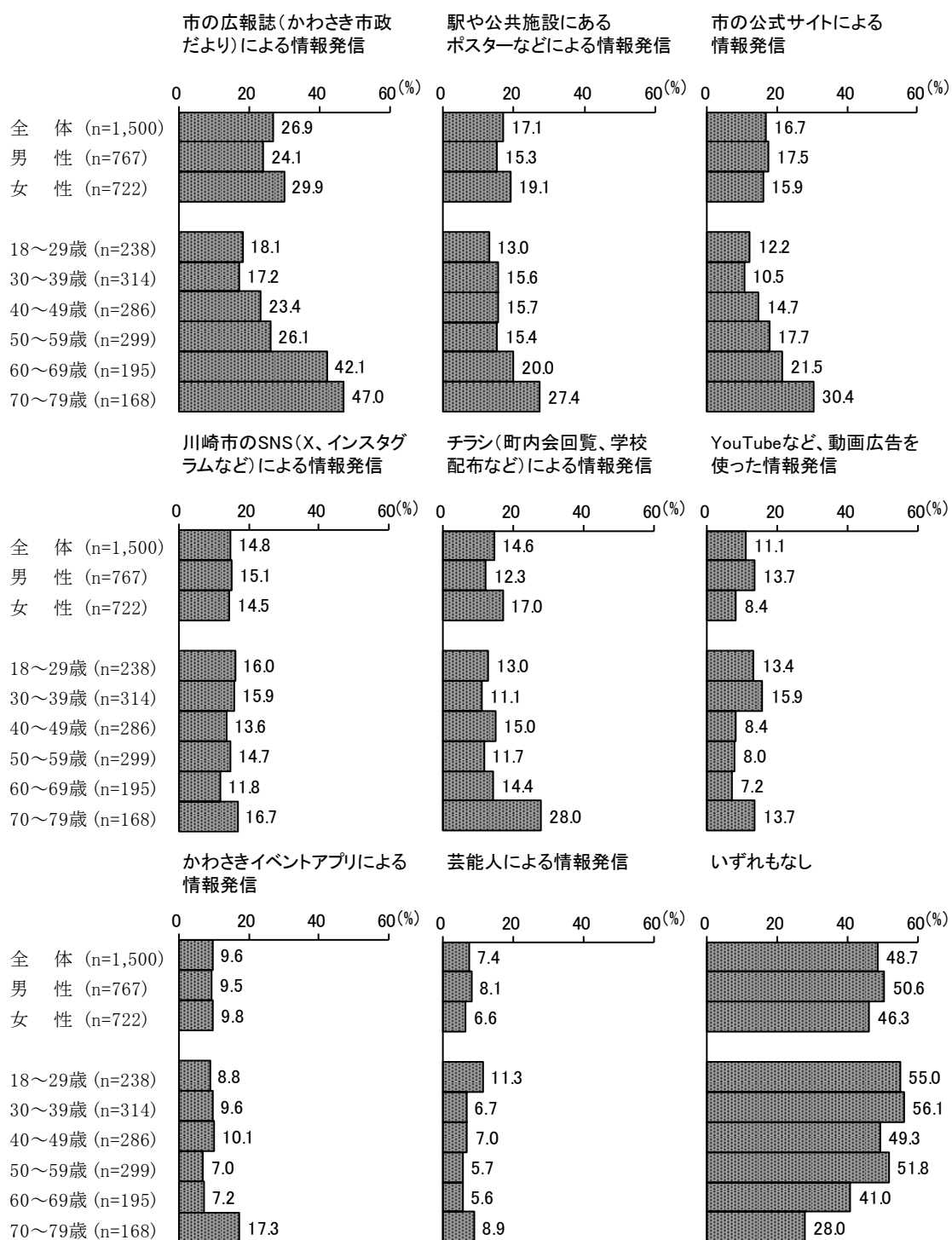
【図表 19】 今後さらに進めてほしい情報発信（複数回答）



今後さらに進めてほしい情報発信について性別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」は男性よりも女性の方が5.8ポイント高く、「YouTube など、動画広告を使った情報発信」は女性よりも男性の方が5.3ポイント高い。

年齢別に見ると、「市の広報誌（かわさき市政だより）による情報発信」、「駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信」、「市の公式サイトによる情報発信」、「チラシ（町内会回覧、学校配布など）による情報発信」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 20】 今後さらに進めてほしい情報発信（複数回答）
（性別、年齢別）

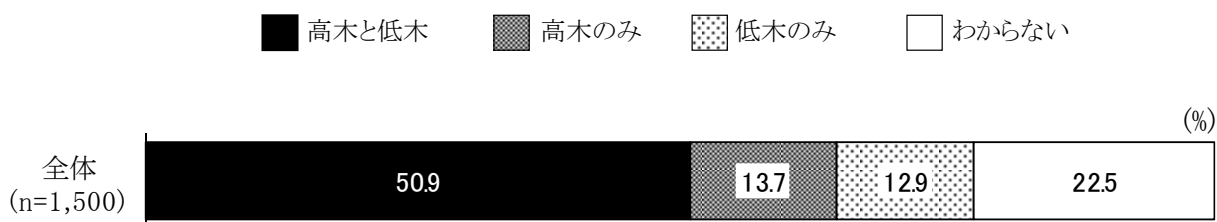


(7) 日常行動圏の街路樹について

Q7. 日常行動圏（通勤・通学・散歩等で習慣的に行動する範囲）で、川崎市が管理している「街路樹」を思い浮かべてください。
あなたの思い浮かべるその「街路樹」はどのような状況ですか。あてはまるものをお選びください。

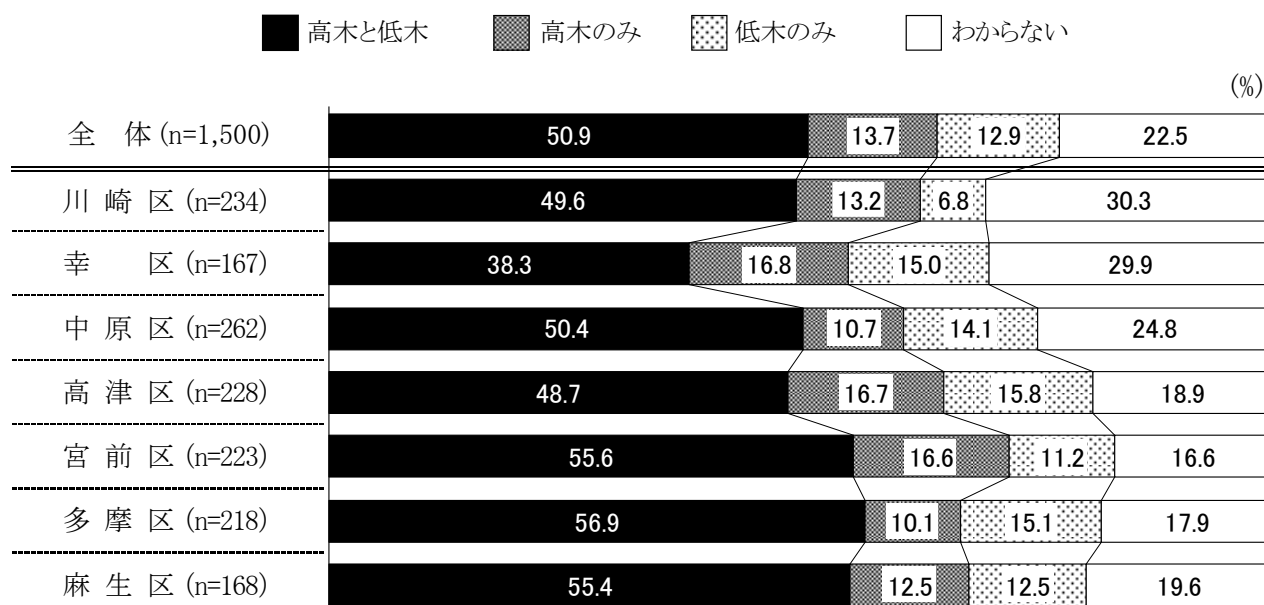
「高木と低木」が 50.9%と最も高く、次いで「高木のみ」(13.7%)、「低木のみ」(12.9%)と続いている。

【図表 21】 日常行動圏の街路樹について



居住区別に見ると、幸区は「高木と低木」を思い浮かべた人が 38.3%と、他の居住区と比べて低くなっている。

【図表 22】 日常行動圏の街路樹について（居住区別）



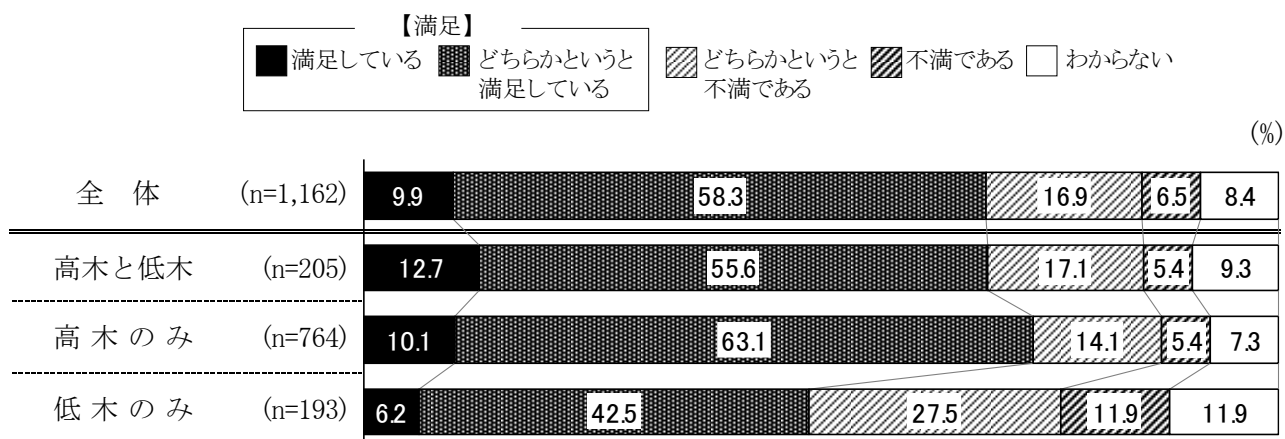
(8) 日常行動圏の街路樹に対する満足度

Q 8. あなたは、前問で思い浮かべた「街路樹」に対してどの程度満足していますか。

日常行動圏の街路樹について「わからない」と回答した人以外に街路樹の満足度について尋ねたところ、「どちらかという満足している」が 58.3%で最も高く、「満足している」(9.9%) と合計した【満足】は 68.2%であった。

Q 7の思い浮かべた街路樹の状況別で見ると、「満足している」は[高木と低木]を思い浮かべた人で 12.7%と最も高いが、「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した【満足】は[高木のみ]を思い浮かべた人が 73.2%と最も高い。一方で、[低木のみ]を思い浮かべた人は【満足】が 48.7%と5割を下回った。

【図表 23】 日常行動圏の街路樹に対する満足度 (Q 7「思い浮かべた街路樹の状況」別)

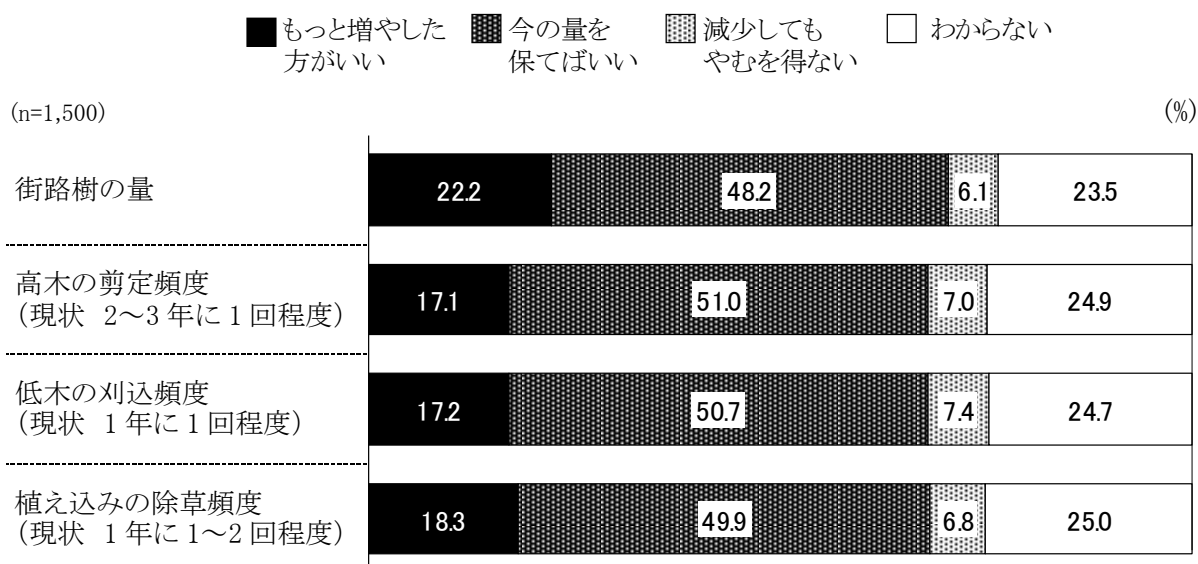


(9) 街路樹の量や維持管理頻度について

Q9. あなたは、川崎市の街路樹の量や維持管理頻度について、これからどのようなべきとお考えですか。
項目ごとにあてはまるものをお選びください。

いずれの項目においても「今の量を保てばいい」が5割前後で最も高くなっている。高木の剪定頻度、低木の刈込頻度及び植え込みの除草頻度に対する市民の意識に大きな偏りはないものの、「街路樹の量」では「もっと増やした方がいい」が22.2%と、維持管理頻度の項目と比べて高くなっている。

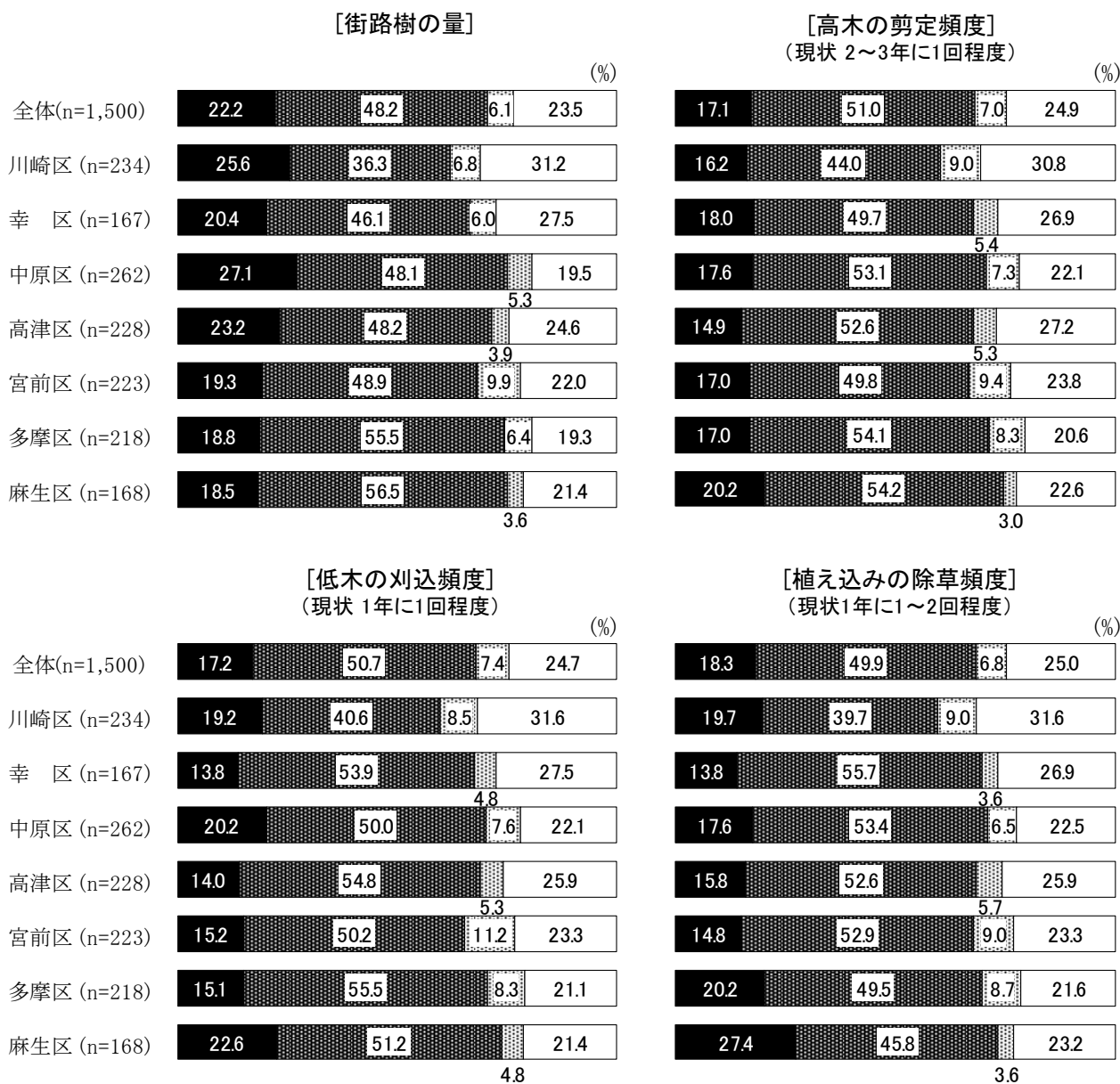
【図表 24】 街路樹の量や維持管理頻度について



居住区別で見ると、[街路樹の量]では、「もっと増やした方がいい」は中原区(27.1%)が他の居住区と比べて最も高くなっている。[高木の剪定頻度]、[低木の刈込頻度]、[植え込みの除草頻度]では、「もっと増やした方がいい」は麻生区が他の居住区と比べて最も高くなっている。また、いずれの項目においても、川崎区は「わからない」が3割を超え、他の居住区と比べて最も高くなっている。

【図表 25】街路樹の量や維持管理頻度について（居住区別）

もっと増やした方がいい
 今の量を保てばいい
 減少してもやむを得ない
 わからない



1.2 川崎市の観光振興について

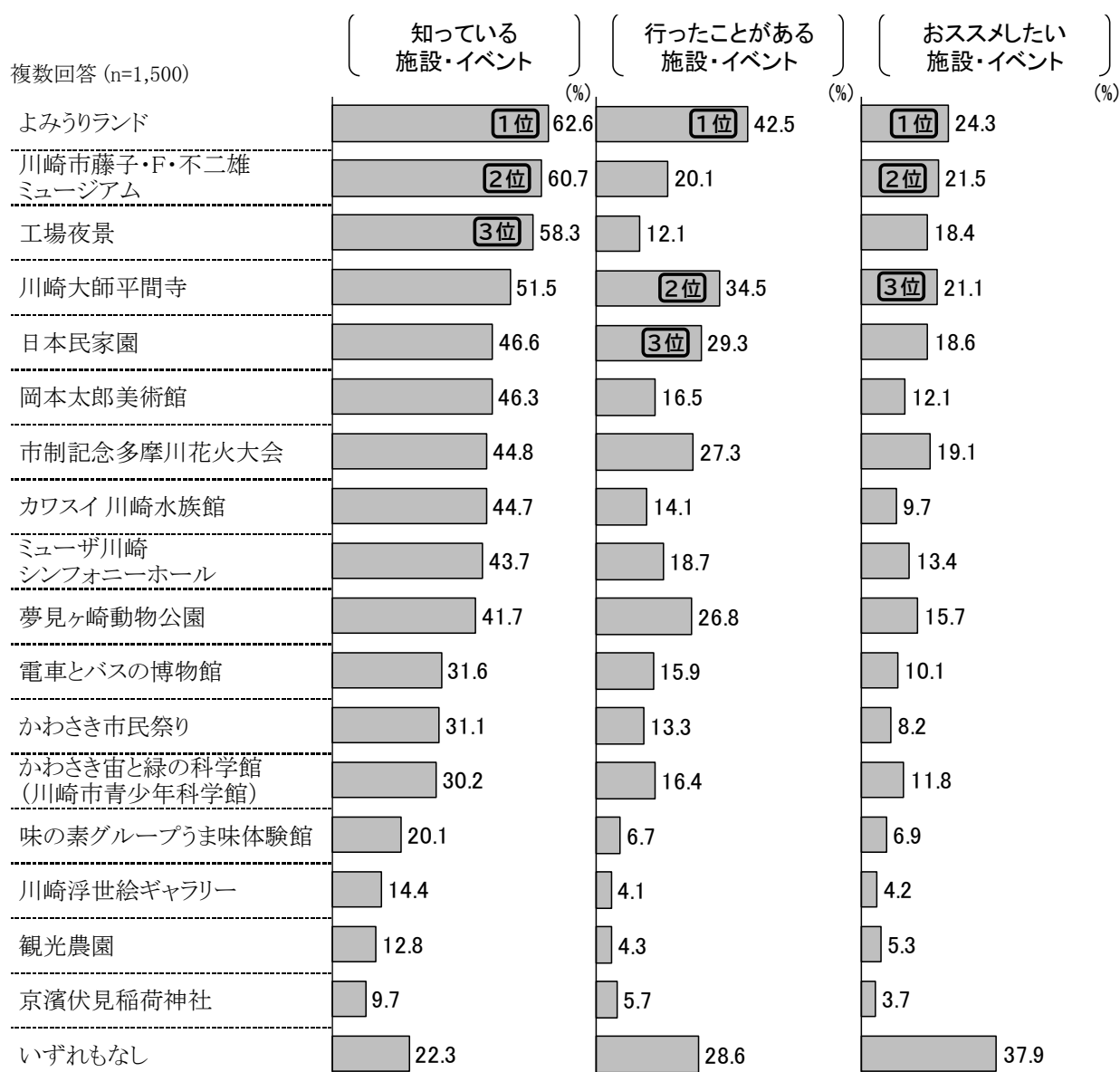
(1) 川崎市の施設・イベント

Q10. 川崎市内にある多様な観光資源について、質問にお答えください。

- ① 知っている施設・イベントを選んでください
- ② 行ったことがある施設・イベントを選んでください
- ③ ほかの人におススメしたい施設・イベントを選んでください

[知っている施設・イベント]、[行ったことがある施設・イベント]、[おススメしたい施設・イベント] いずれも「よみうりランド」が最も高く、2位以下は、[知っている施設・イベント] については2位が「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、3位が「工場夜景」、[行ったことがある施設・イベント] については2位が「川崎大師平間寺」、3位が「日本民家園」、[おススメしたい施設・イベント] については2位が「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、3位が「川崎大師平間寺」となっている。

【図表 26】川崎市内の施設・イベントの認知・来訪経験・推奨意向（複数回答）



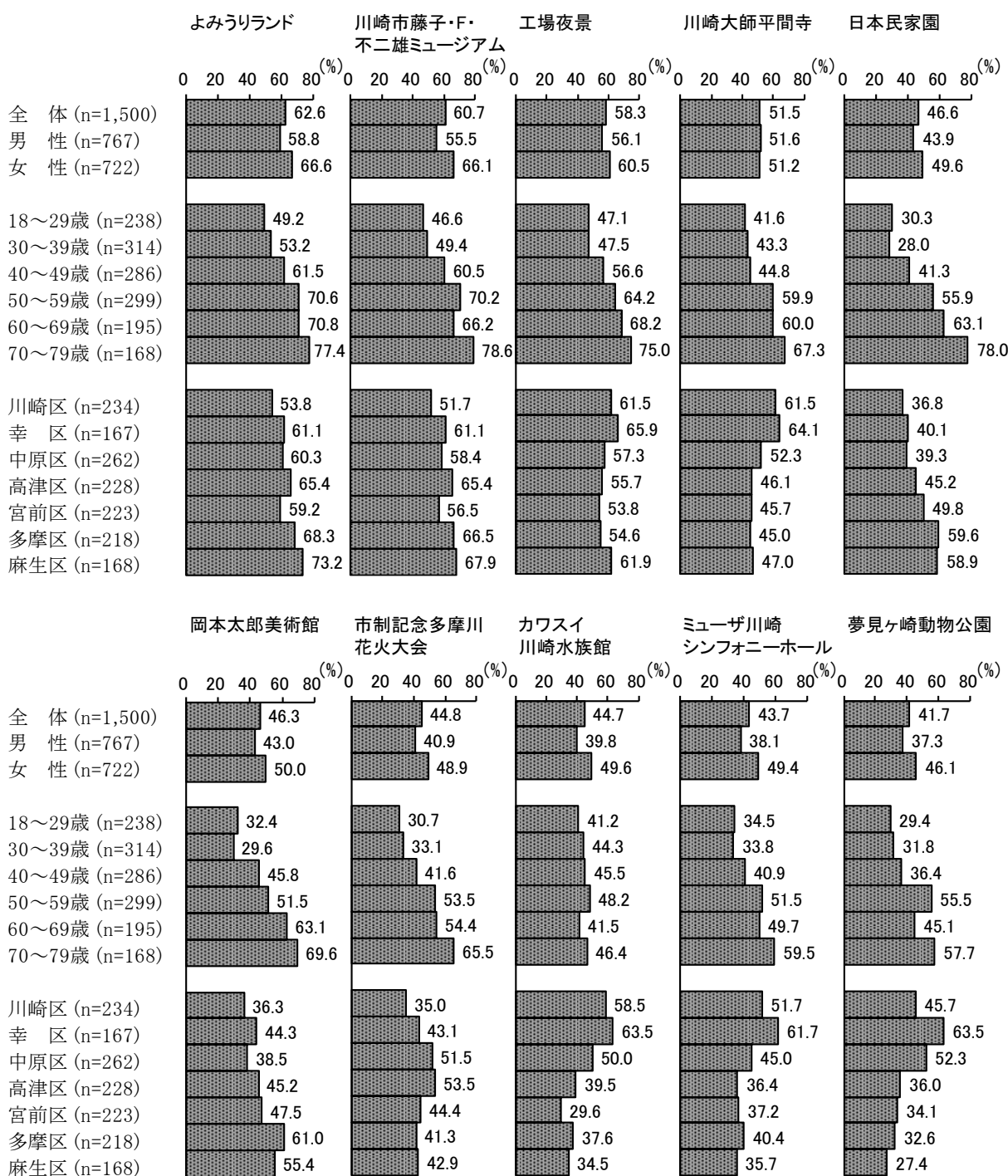
① 知っている施設・イベント

知っている施設・イベントについて性別に見ると、「工場夜景」と「川崎大師平間寺」を除いた施設・イベントで男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「カワスイ 川崎水族館」を除いた項目でおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「工場夜景」、「川崎大師平間寺」、「カワスイ川崎水族館」、「ミュージア川崎シンフォニーホール」、「夢見ヶ崎動物公園」は幸区が最も高くなっている。

【図表 27】 知っている施設・イベント（複数回答） <<上位 10 項目>>
(性別、年齢別、居住区別)



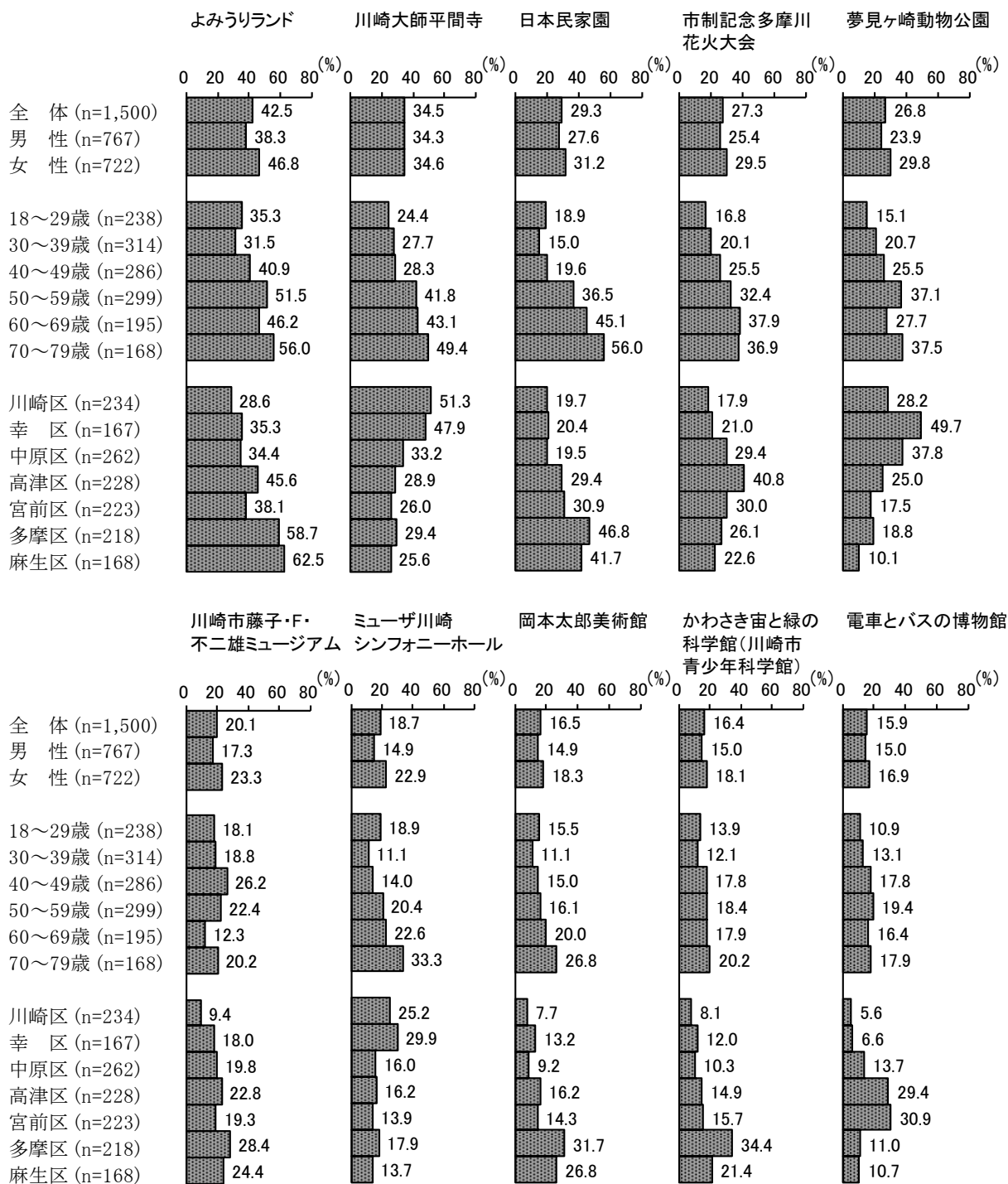
② 行ったことがある施設・イベント

行ったことがある施設・イベントについて性別に見ると、「よみうりランド」、「夢見ヶ崎動物公園」、「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、「ミュージア川崎シンフォニーホール」で男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「よみうりランド」、「川崎大師平間寺」、「日本民家園」、「市制記念多摩川花火大会」、「夢見ヶ崎動物公園」でおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「よみうりランド」を除き、施設の所在地やイベントの開催地が最も高くなっている。

【図表 28】 行ったことがある施設・イベント（複数回答） 《上位 10 項目》
（性別、年齢別、居住区別）



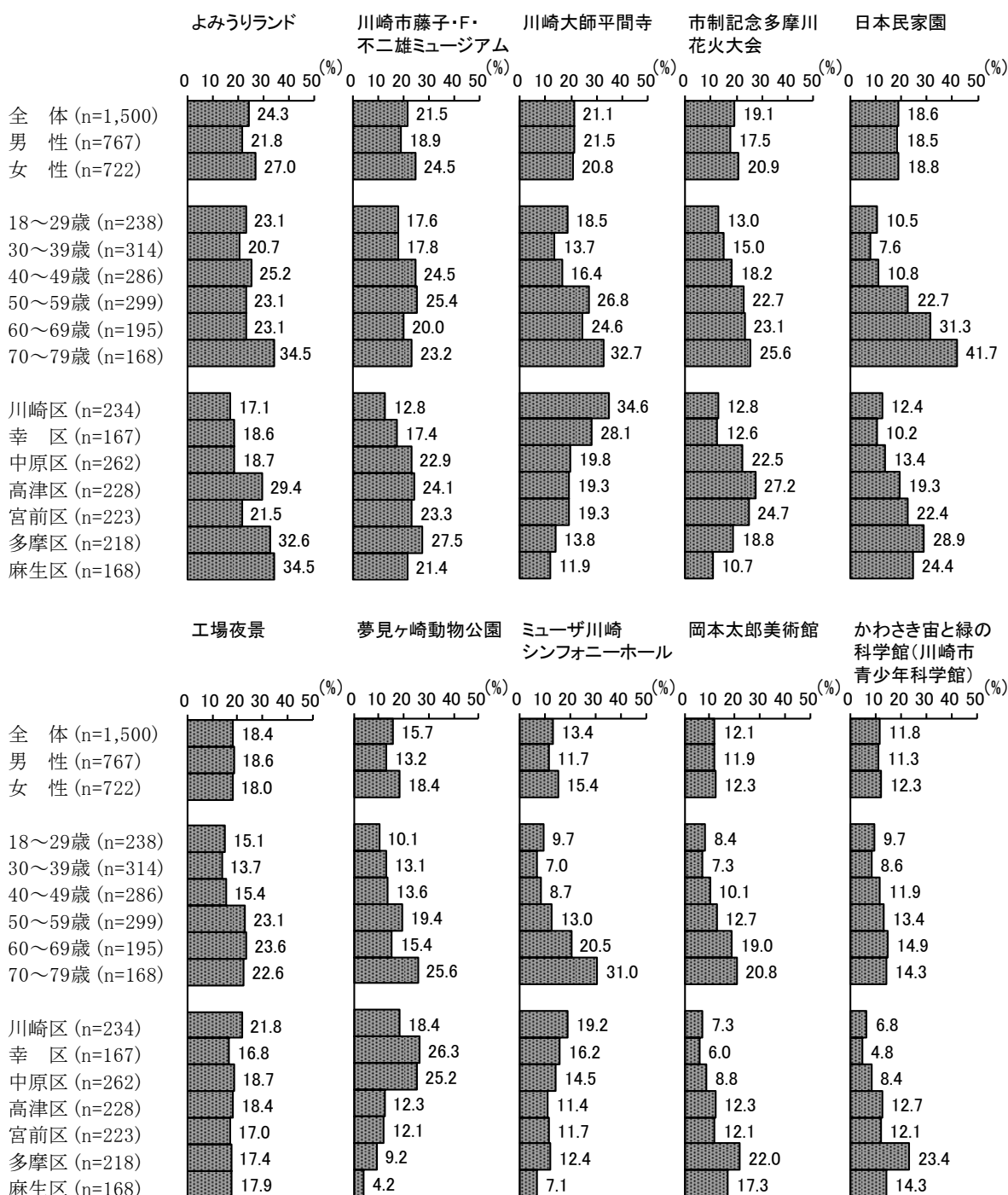
③ おススメしたい施設・イベント

ほかの人におススメしたい施設・イベントについて、性別に見ると、「よみうりランド」、「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、「夢見ヶ崎動物公園」で男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「よみうりランド」、「川崎大師平間寺」、「市制記念多摩川花火大会」、「日本民家園」、「夢見ヶ崎動物公園」、「ミュージア川崎シンフォニーホール」、「岡本太郎美術館」で、70～79歳が最も高くなっている。

居住区別に見ると、「よみうりランド」と「ミュージア川崎シンフォニーホール」を除き、施設の所在地やイベントの開催地が最も高くなっている。

【図表 29】 おススメしたい施設・イベント（複数回答） 《上位10項目》
（性別、年齢別、居住区別）



(2) おすすめしたい川崎の魅力

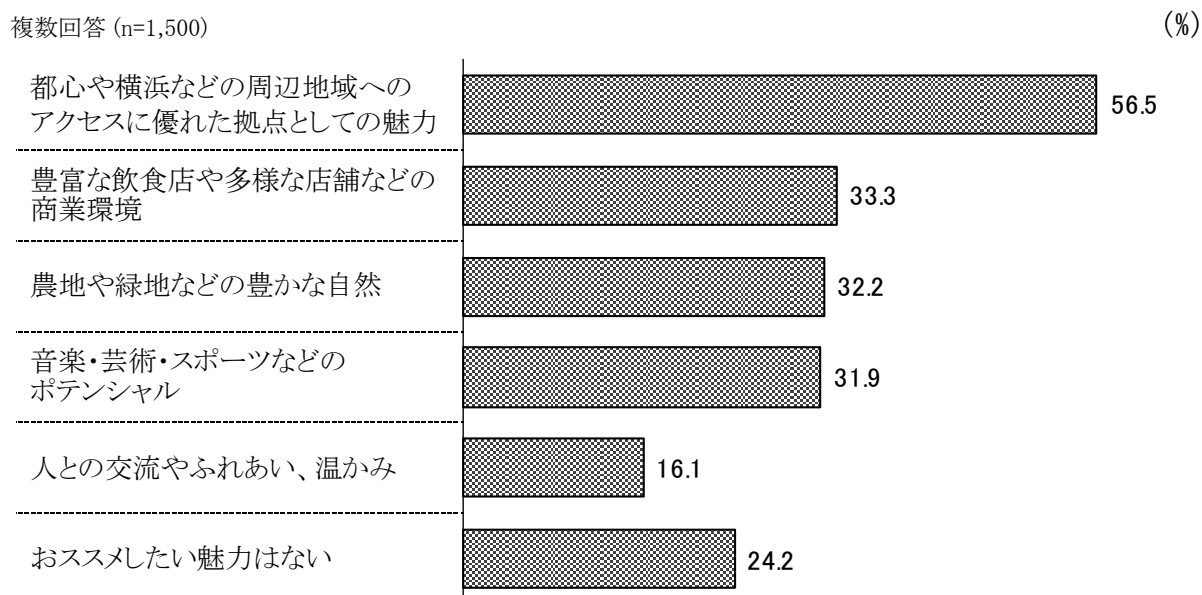
Q11. 以下の中で、あなたが友人・知人などにおすすめしたい川崎の魅力はなんですか。

- ① 魅力だと思うこと
- ② (①で選んだものの中で) 一番のおススメ

① 魅力だと思うこと

魅力だと思うことは、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」が56.5%で最も高く、次いで「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」(33.3%)、「農地や緑地などの豊かな自然」(32.2%)、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」(31.9%)と続いている。

【図表 30】魅力だと思うこと (複数回答)

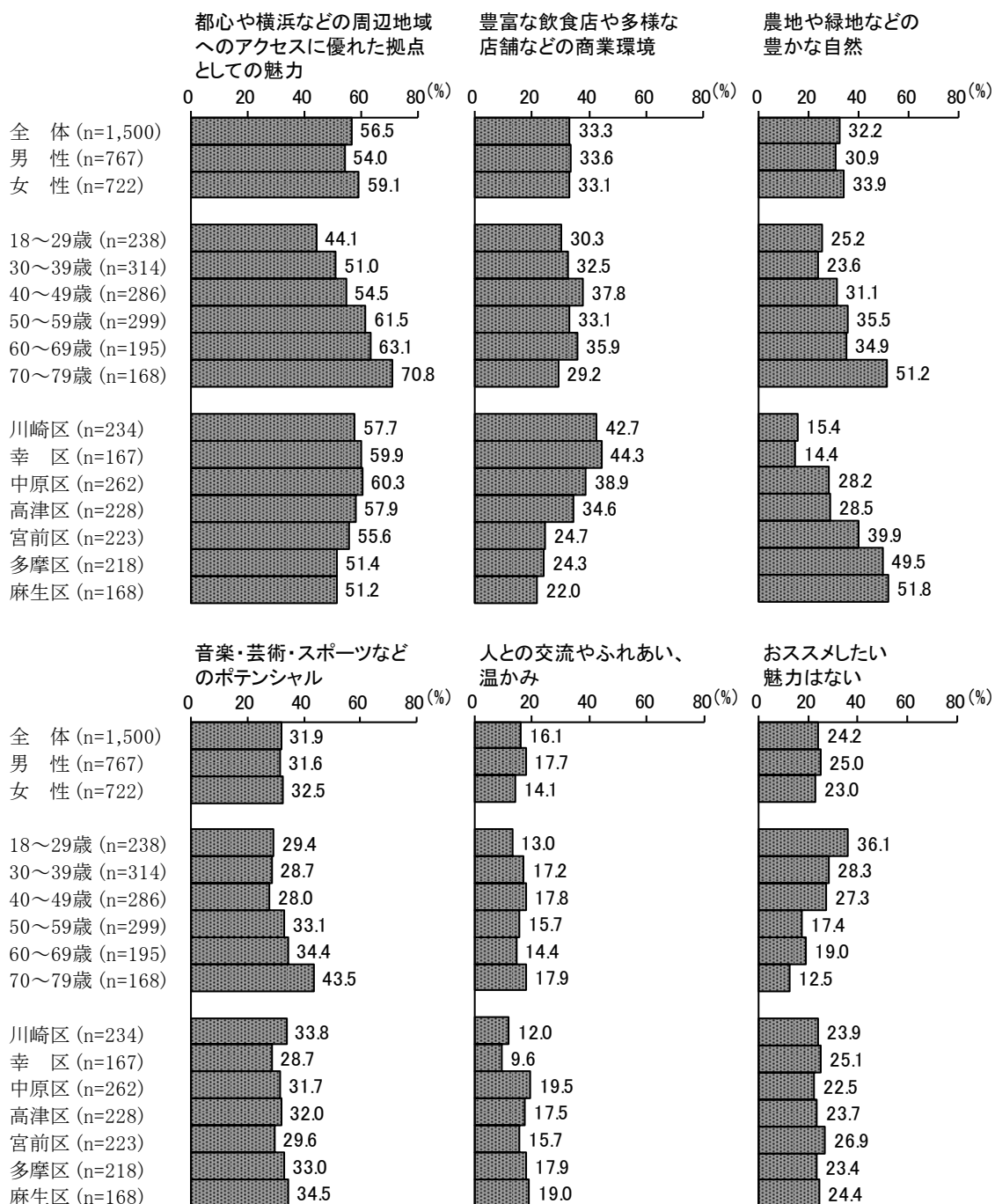


魅力だと思うことについて性別に見ると、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」は男性よりも女性の方が5.1ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」、「農地や緑地などの豊かな自然」、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「おススメしたい魅力はない」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」は幸区（44.3%）と川崎区（42.7%）が4割を超え、「農地や緑地などの豊かな自然」は麻生区（51.8%）と多摩区（49.5%）が4割を超え、他の居住区と比べて高くなっている。

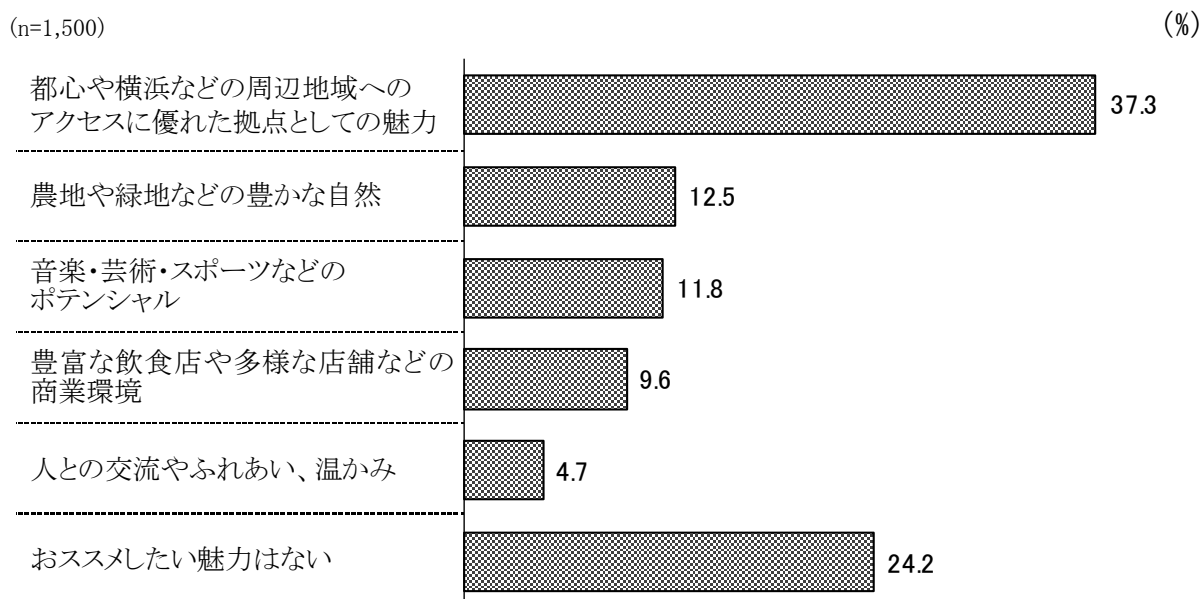
【図表 31】魅力だと思うこと（複数回答）
（性別、年齢別、居住区別）



② 一番のおススメ

一番のおススメは、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」が37.3%で最も高く、次いで「農地や緑地などの豊かな自然」(12.5%)、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」(11.8%)、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」(9.6%)と続いている。

【図表 32】 一番のおススメ

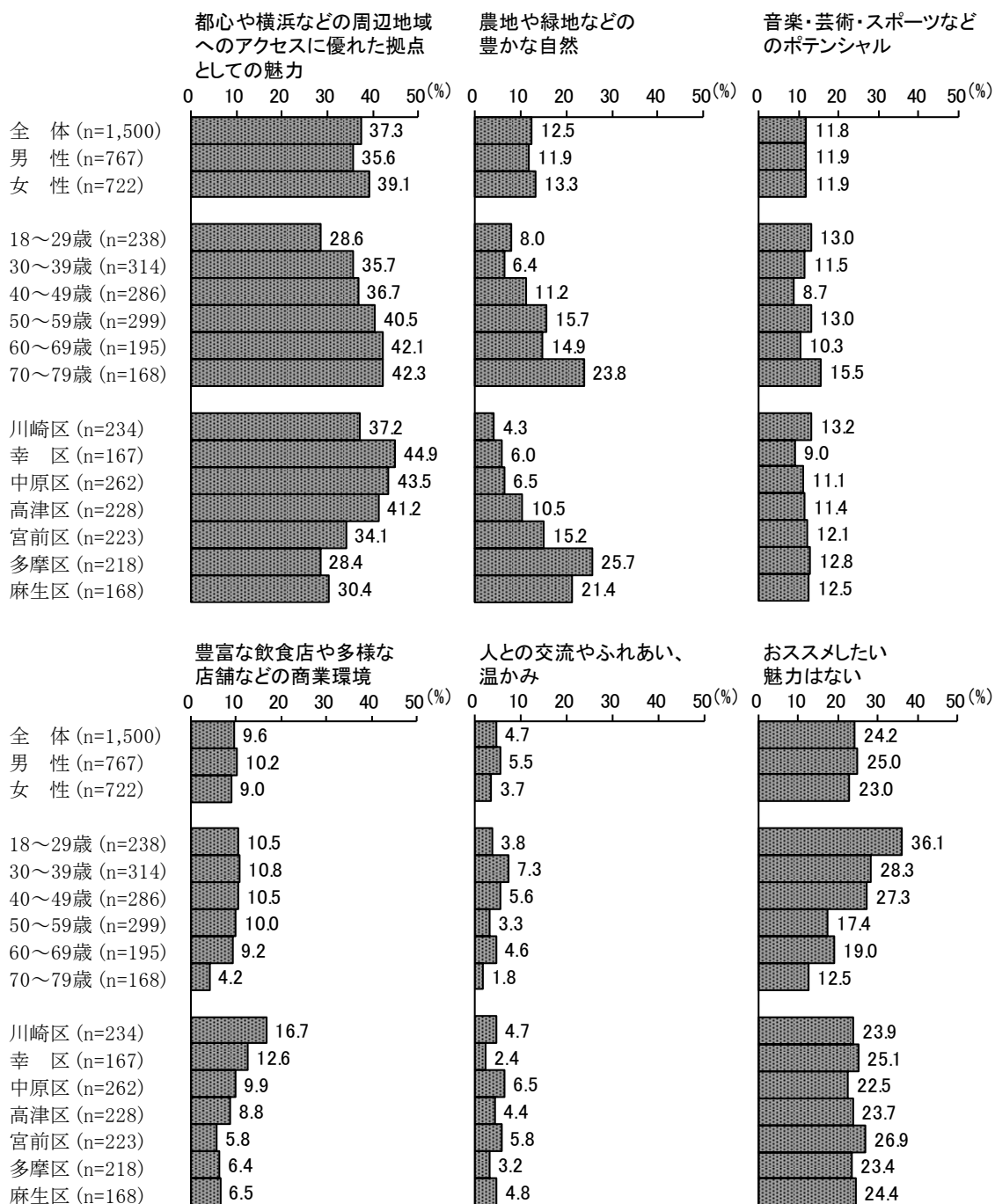


一番のおススメについて、性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」、「人との交流やふれあい、温かみ」を除いた項目で70～79歳が最も高く、「おススメしたい魅力はない」はおおむね年齢が下がるほど高くなっている。

居住区別に見ると、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」は川崎区（16.7%）と幸区（12.6%）で1割を超え、「農地や緑地などの豊かな自然」は多摩区（25.7%）と麻生区（21.4%）で2割を超え、他の居住区と比べて高くなっている。

【図表 33】 一番のおススメ（性別、年齢別、居住区別）



(3) 観光客の増加についての考え

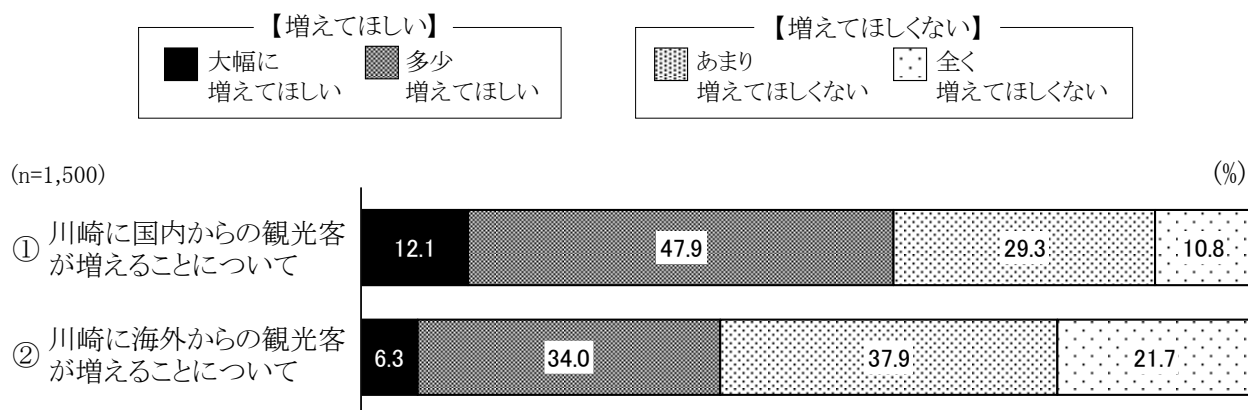
Q12. あなたの観光に関するお考えをお聞かせください。

- ① 川崎に国内からの観光客が増えることについて
- ② 川崎に海外からの観光客が増えることについて

[川崎に国内からの観光客が増えることについて]は、「大幅に増えてほしい」と「多少増えてほしい」を合計した【増えてほしい】は59.9%となっている。

[川崎に海外からの観光客が増えることについて]は、【増えてほしい】は40.3%であり、「あまり増えてほしくない」と「全く増えてほしくない」を合計した【増えてほしくない】(59.7%)の方が高くなっている。

【図表 34】 観光客の増加についての考え

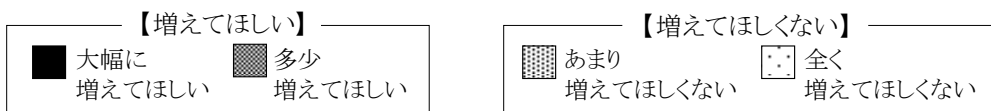


性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【増えてほしい】の割合は、[川崎に国内からの観光客が増えることについて]、[川崎に海外からの観光客が増えることについて]ともに、40歳代以下の年齢層よりも50歳代以上の年齢層の方が高くなっている。

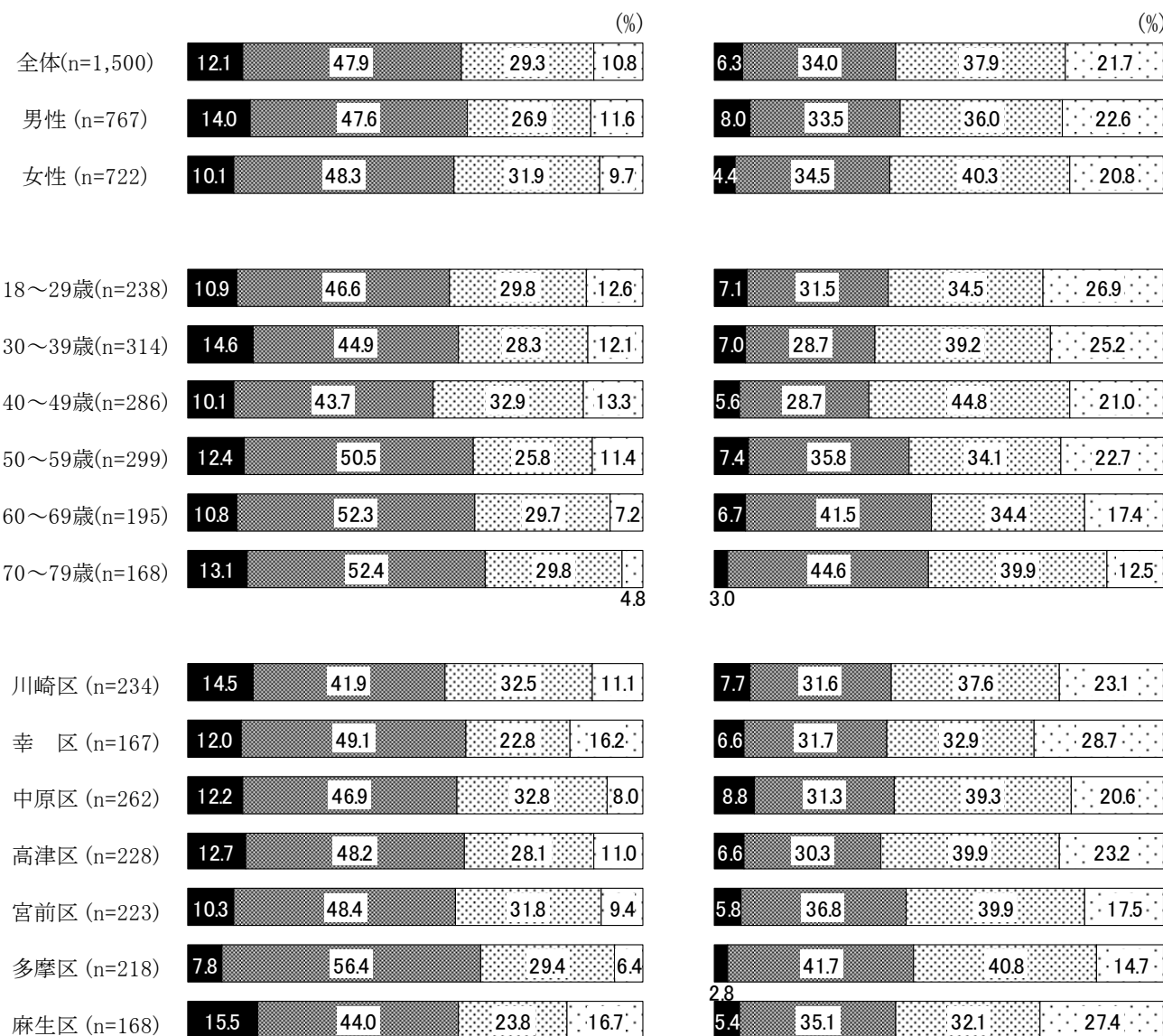
居住区別に見ると、【増えてほしい】の割合は、[川崎に国内からの観光客が増えることについて]、[川崎に海外からの観光客が増えることについて]ともに、多摩区が最も高くなっている。

【図表 35】観光客の増加についての考え（性別、年齢別、居住区別）



①[川崎に国内からの観光客が増えることについて]

②[川崎に海外からの観光客が増えることについて]

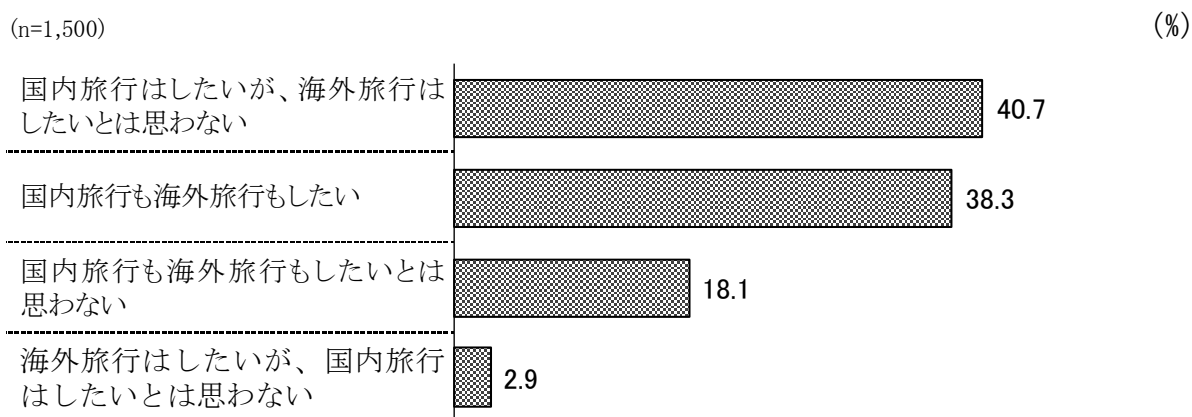


(4) 今後の旅行（国内・海外）に対する意向

Q13. あなたは、今後（1年くらいの間）、観光、レクリエーション、スポーツなどのために旅行（国内旅行・海外旅行）をしたいと思いますか。

「国内旅行はしたいが、海外旅行はしたいとは思わない」が40.7%で最も高く、次いで「国内旅行も海外旅行もしたい」(38.3%)、「国内旅行も海外旅行もしたいとは思わない」(18.1%)、「海外旅行はしたいが、国内旅行はしたいとは思わない」(2.9%)と続いている。

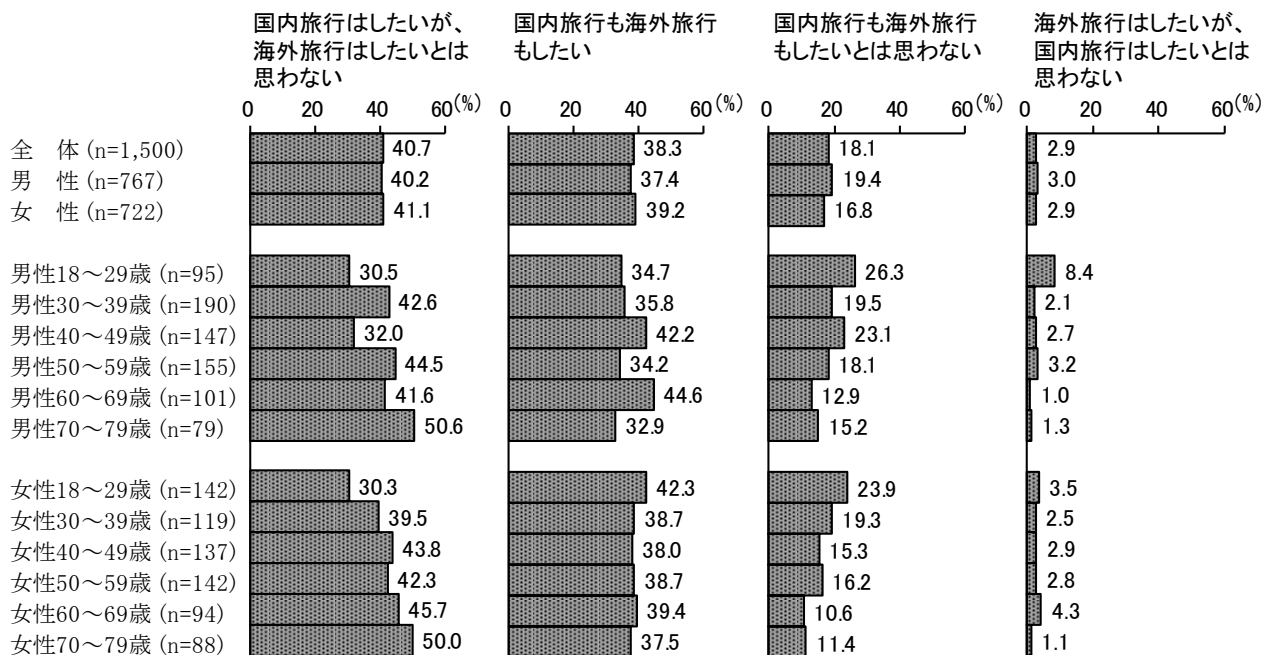
【図表 36】今後の旅行（国内・海外）に対する意向



性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、「国内旅行はしたいが、海外旅行はしたいとは思わない」は男女ともに18～29歳が最も低く、70歳以上が最も高くなっている。また、「国内旅行も海外旅行もしたいとは思わない」は男女ともにおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 37】 今後の旅行（国内・海外）に対する意向
（性別、性／年齢別）

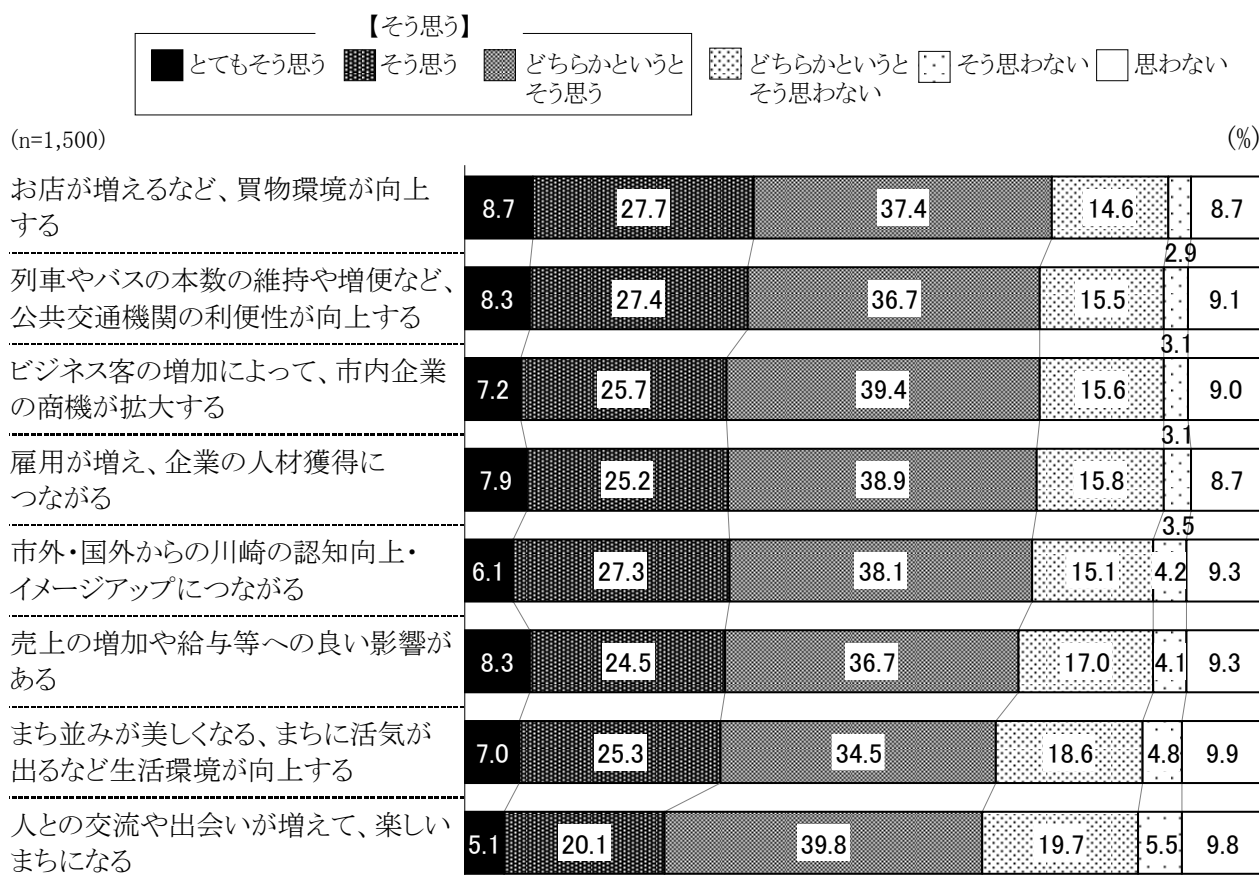


(5) 川崎の観光が盛り上がることで期待すること

Q14. 川崎の観光が盛り上がることで、どのようなことに期待をしますか。
項目ごとに1つずつお選びください。

「とてもそう思う」、「そう思う」、「どちらかというそう思う」を合計した【そう思う】は、「お店が増えるなど、買物環境が向上する」(73.8%)が最も高く、次いで「列車やバスの本数の維持や増便など、公共交通機関の利便性が向上する」と「ビジネス客の増加によって、市内企業の商機が拡大する」(ともに72.3%)、「雇用が増え、企業の人材獲得につながる」(71.9%)と続いている。

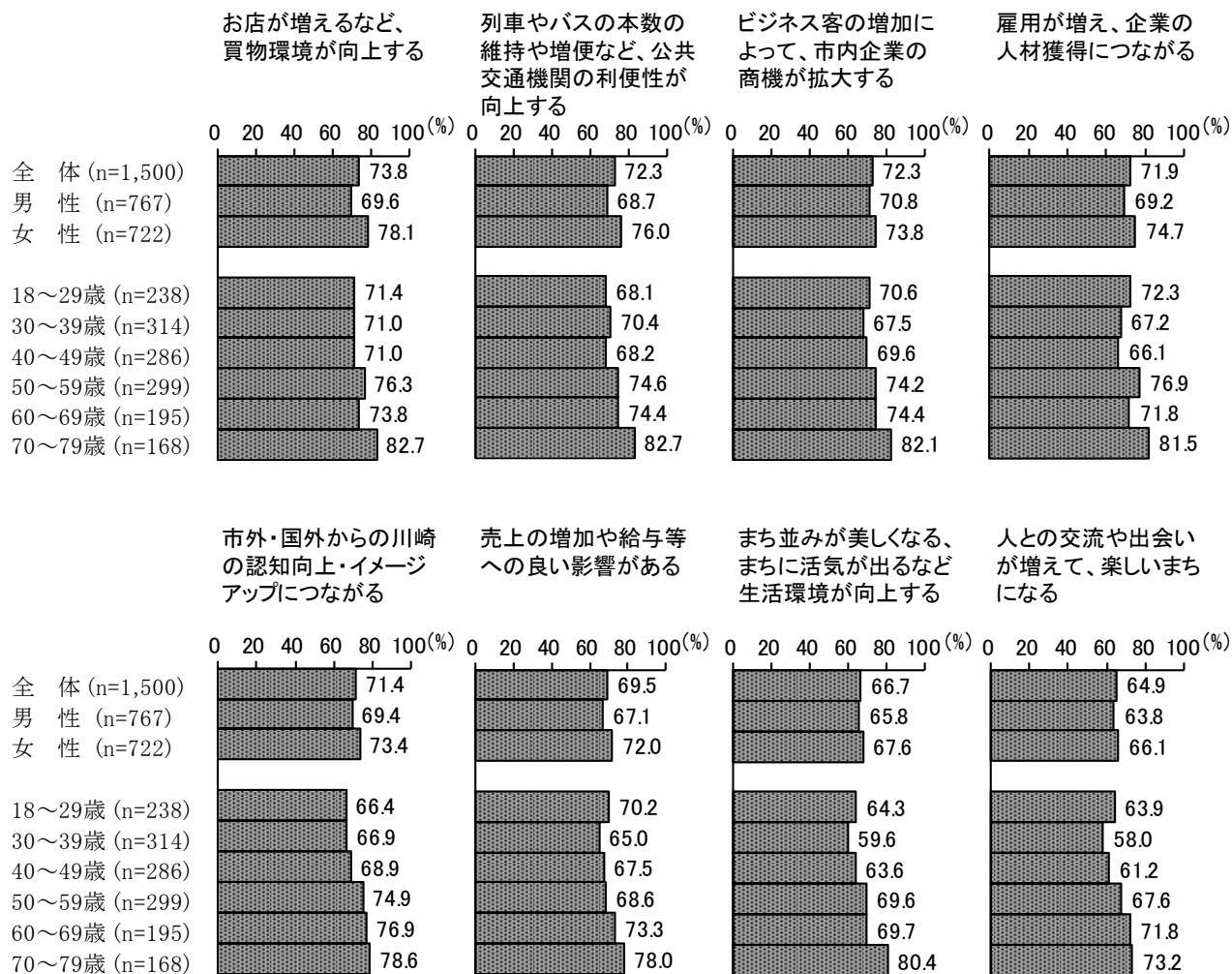
【図表 38】川崎の観光が盛り上がることで期待すること



性別に見ると、【そう思う】の割合は、「お店が増えるなど、買物環境が向上する」、「列車やバスの本数の維持や増便など、公共交通機関の利便性が向上する」、「雇用が増え、企業の人材獲得につながる」で、男性よりも女性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、【そう思う】の割合は、すべての項目で70～79歳が最も高くなっている。

【図表 39】川崎の観光が盛り上がることで期待すること（【そう思う】回答者）
（性別、年齢別）



(6) 催し物（会議やイベントなど）を行うための施設について

Q15. 川崎市には催し物（会議やイベントなど）を行うための施設がいくつかあります。
以下の質問にあてはまる施設をえらんでください。

- ①知っている施設
- ②催し物の参加者として行ったことがある施設
- ③催し物の主催者やスタッフとして利用したことがある施設

〔知っている施設〕では、「ミュージア川崎シンフォニーホール（幸区）」が49.5%と最も高く、次いで「川崎市民プラザ（高津区）」（45.3%）、「カルッツかわさき（川崎区）」（27.2%）と続いている。

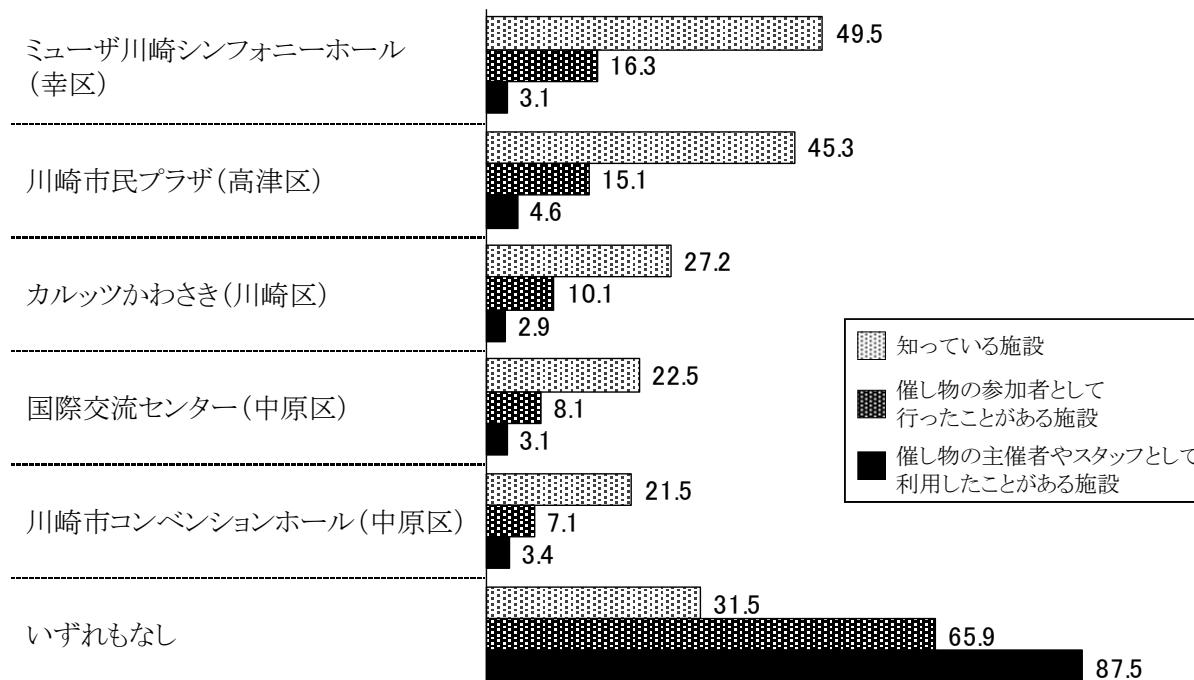
〔催し物の参加者として行ったことがある施設〕では、「ミュージア川崎シンフォニーホール（幸区）」が16.3%と最も高く、次いで「川崎市民プラザ（高津区）」（15.1%）、「カルッツかわさき（川崎区）」（10.1%）と続いている。

〔催し物の主催者やスタッフとして利用したことがある施設〕では、最も割合の高い「川崎市民プラザ（高津区）」でも4.6%とすべての施設で5.0%を下回り、「いずれもなし」（87.5%）が9割近くを占めている。

【図表 40】 催し物（会議やイベントなど）を行うための施設について（複数回答）

複数回答 (n=1,500)

(%)

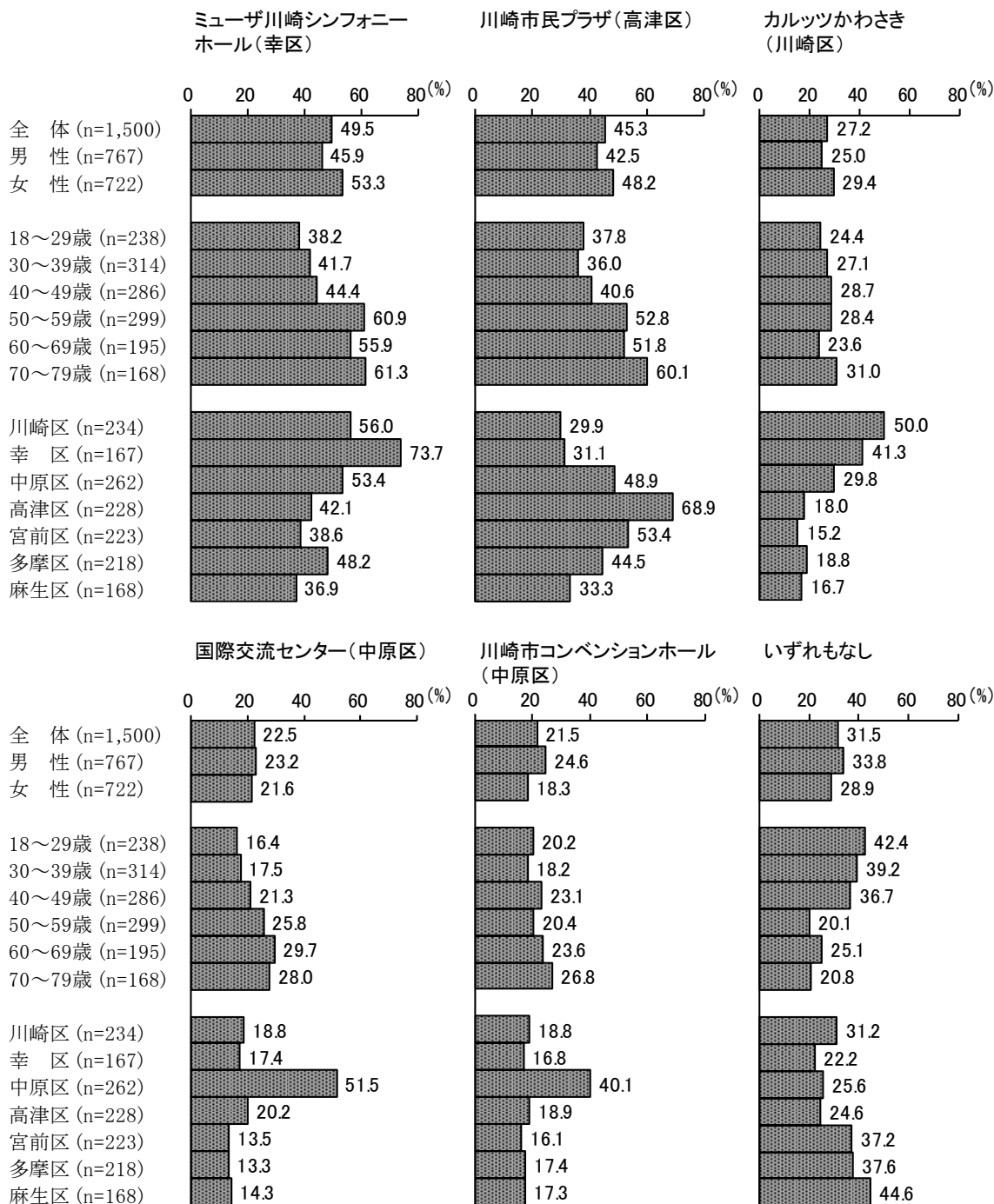


知っている施設について性別に見ると、「ミュージア川崎シンフォニーホール（幸区）」、「川崎市民プラザ（高津区）」は男性よりも女性の方が5ポイント以上高く、「川崎市コンベンションホール（中原区）」は女性よりも男性の方が6.3ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「カルッツかわさき（川崎区）」を除いた施設でおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっており、「いずれもなし」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、すべての施設で所在地の区の割合が最も高く、「いずれもなし」は麻生区が最も高い。

【図表 41】知っている施設（複数回答）
（性別、年齢別、居住区別）

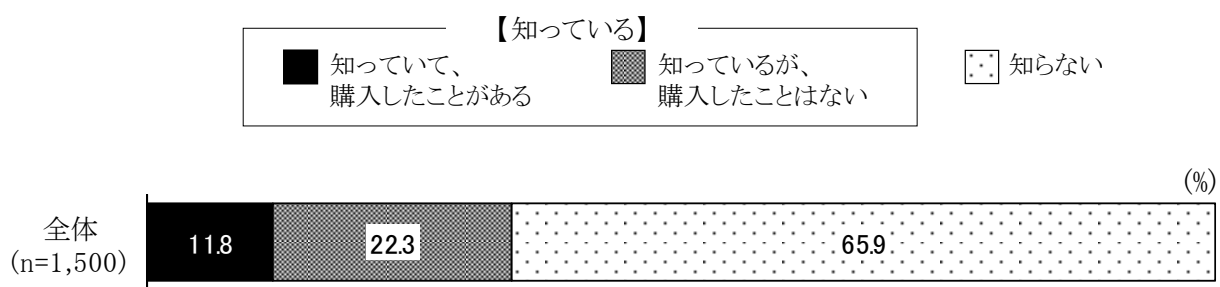


(7) 「かわさき名産品」認知・購入状況

Q16. 川崎市では市内の生産品をPRするため「かわさき名産品」という認定制度を実施しています。
あなたは「かわさき名産品」を知っていますか？

「知らない」が65.9%で最も高く、次いで「知っているが、購入したことはない」(22.3%)、「知っていて、購入したことがある」(11.8%)となっており、「知っているが、購入したことはない」と「知っていて、購入したことがある」を合計した【知っている】は34.1%であった。

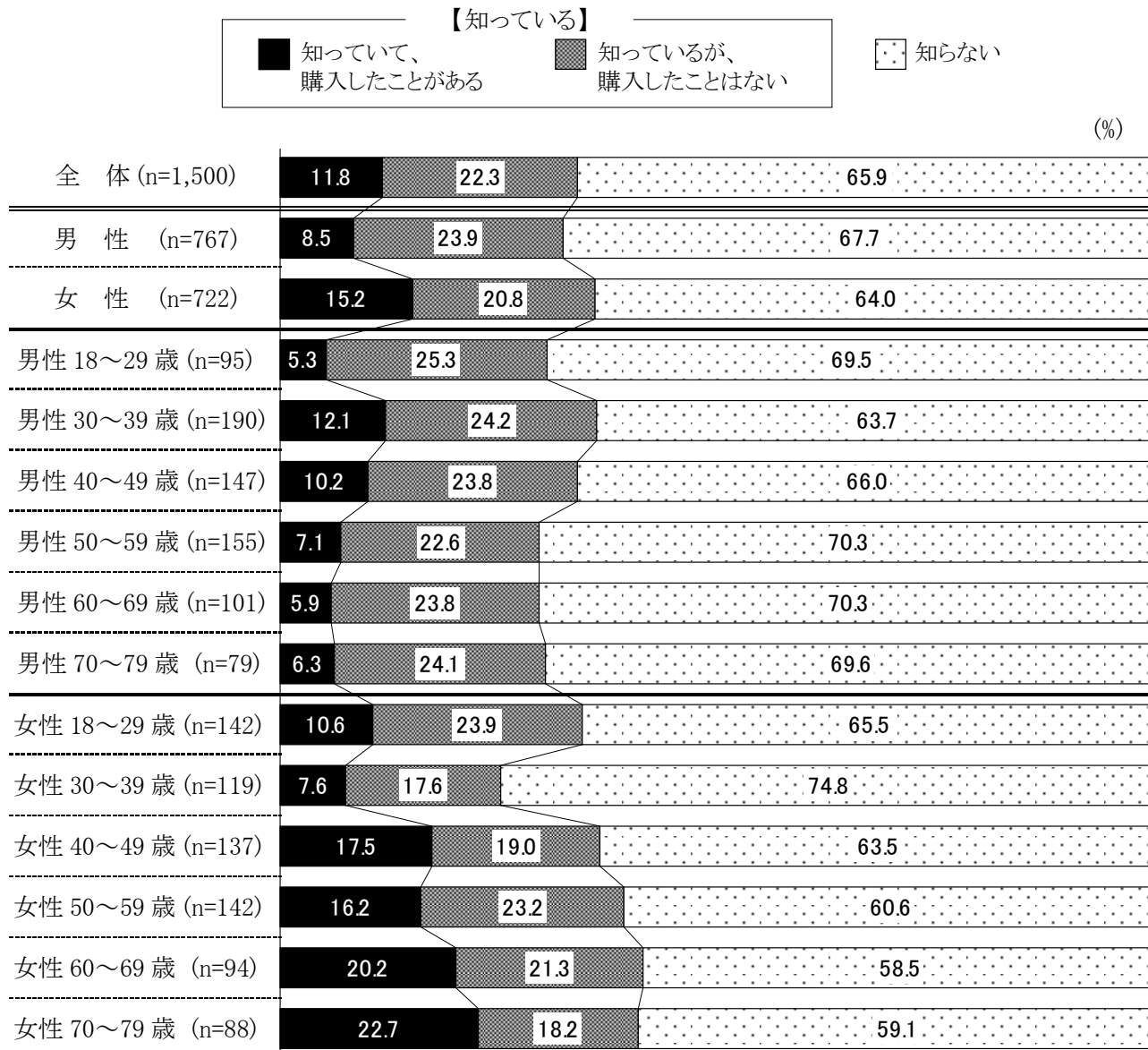
【図表 42】「かわさき名産品」認知・購入状況



性別に見ると、「知っていて、購入したことがある」の割合は男性よりも女性の方が6.7ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、「知っていて、購入したことがある」の割合は女性の60歳代以上で2割を超えて高くなっている。

【図表 43】「かわさき名産品」認知・購入状況（性別、性／年齢別）

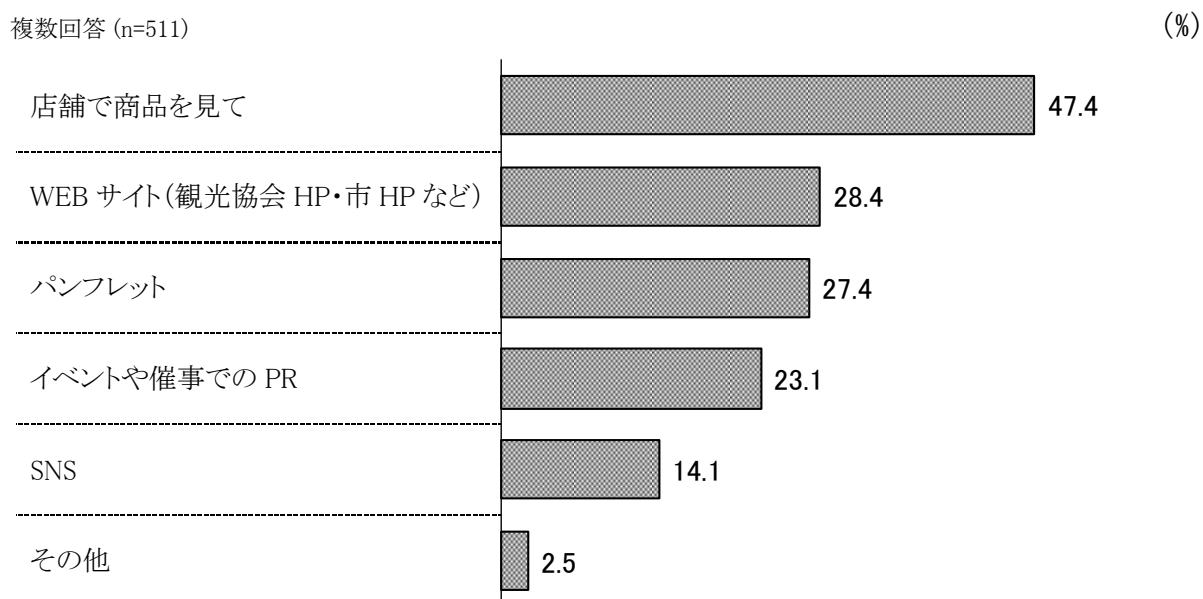


(8) 「かわさき名産品」認知経路

Q16-1. 「かわさき名産品」を知ったきっかけは何ですか？

「かわさき名産品」について、「知っているが、購入したことはない」と「知っていて、購入したことがある」と回答した人にその認知経路について尋ねたところ、「店舗で商品を見て」が47.4%で最も高く、次いで「WEBサイト（観光協会HP・市HPなど）」(28.4%)、「パンフレット」(27.4%)、「イベントや催事でのPR」(23.1%)と続いている。

【図表 44】「かわさき名産品」認知経路（複数回答）

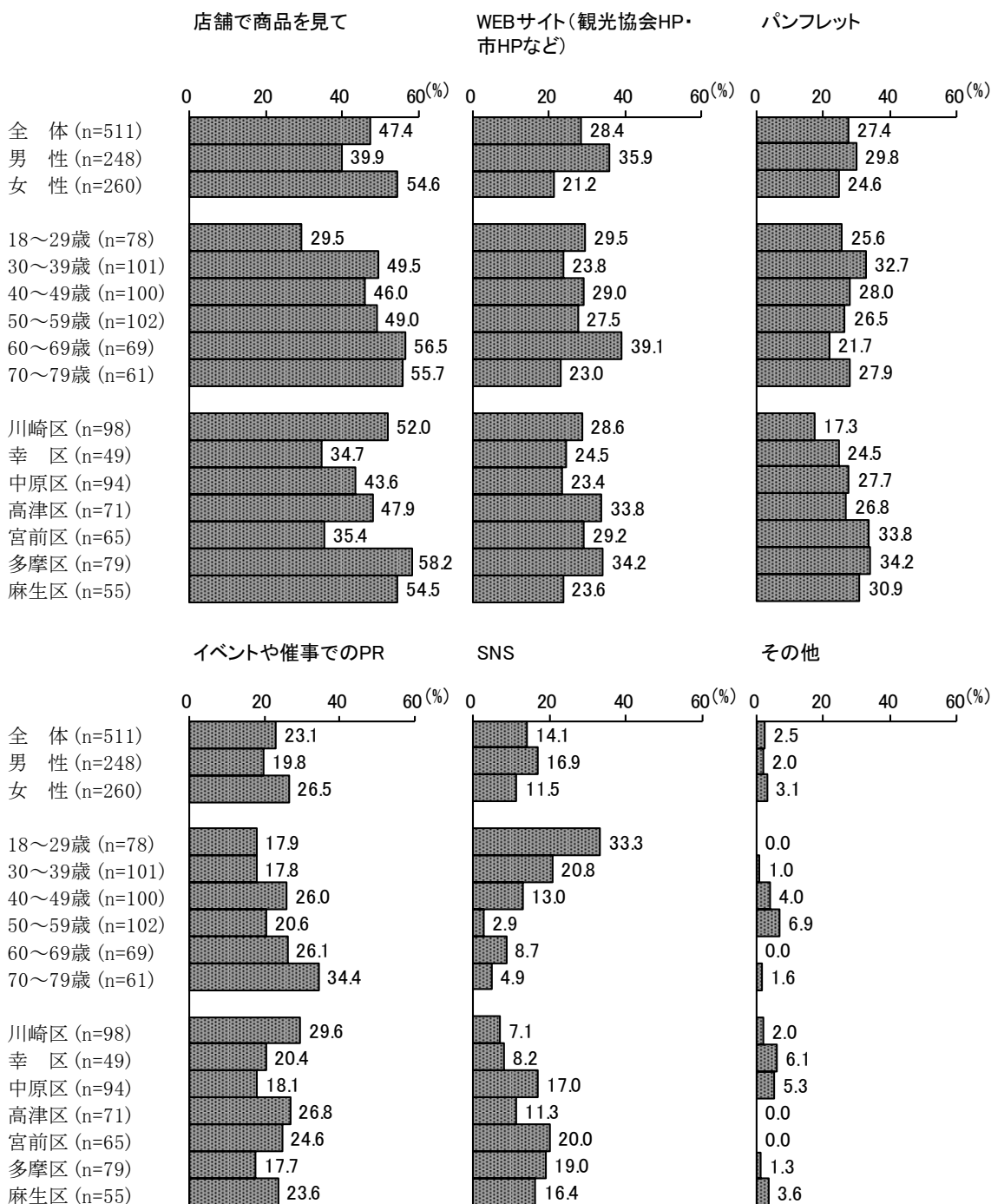


性別に見ると、「店舗で商品を見て」と「イベントや催事でのPR」は男性よりも女性の方が5ポイント以上高く、「WEBサイト（観光協会HP・市HPなど）」、「パンフレット」、「SNS」は女性よりも男性の方が5ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「店舗で商品を見て」は60～69歳（56.5%）と70～79歳（55.7%）で5割を超えて高く、「イベントや催事でのPR」はおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。また、「SNS」はおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

居住区別に見ると、「店舗で商品を見て」は川崎区（52.0%）、多摩区（58.2%）、麻生区（54.5%）が5割を超えて高く、「イベントや催事でのPR」は川崎区（29.6%）が最も高い。

【図表 45】「かわさき名産品」認知経路（複数回答）
（性別、年齢別、居住区別）



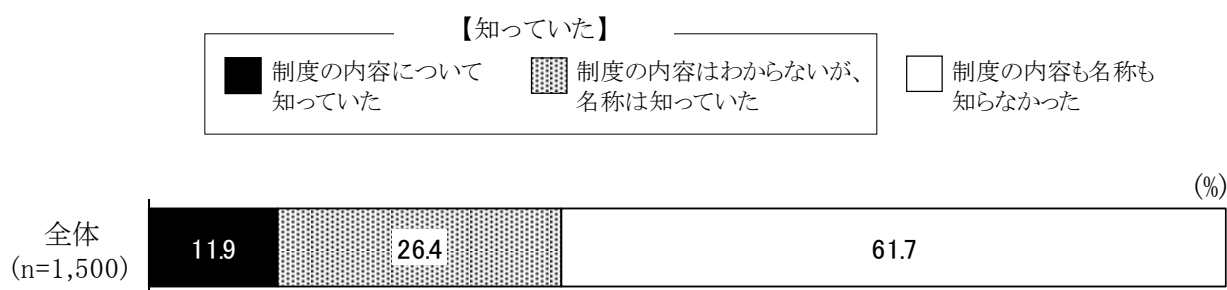
1.3 特別市（特別自治市）について

(1) 「特別市（特別自治市）」の認知状況

Q17. 川崎市は、県の区域外となり、権限と財源を市に一本化する「特別市（特別自治市）」制度の実現を目指しています。
あなたは、「特別市（特別自治市）」制度を知っていましたか。

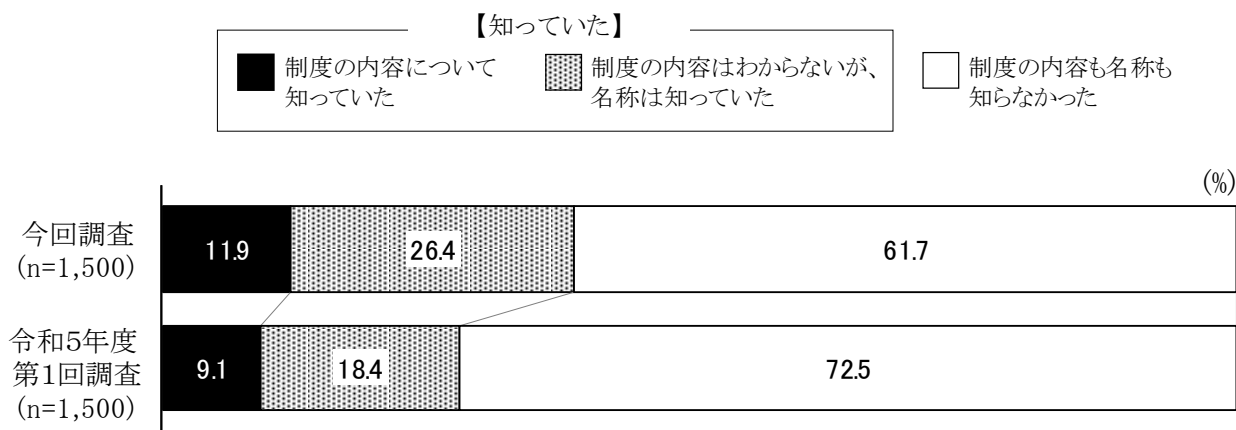
「制度の内容について知っていた」（11.9%）と「制度の内容はわからないが、名称は知っていた」（26.4%）を合計した【知っていた】は38.3%であった。

【図表 46】「特別市（特別自治市）」の認知状況



令和5（2023）年度第1回調査（インターネット調査）と比較すると、【知っていた】は27.5%から今回は38.3%と、10.8ポイント上昇した。

【図表 47】「特別市（特別自治市）」の認知状況（過去調査との比較）



性別に見ると、【知っていた】の割合は女性（34.9%）よりも男性（41.5%）の方が6.6ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男女ともに50歳代以上で4割を超え、男性は70～79歳（46.8%）、女性は60～69歳（43.6%）が最も高い。

居住区別に見ると、【知っていた】の割合は「川崎区」（42.3%）、「麻生区」（42.3%）、「中原区」（42.0%）、「多摩区」（41.3%）で4割を超えている。

【図表 48】「特別市（特別自治市）」の認知状況（性別、性／年齢別、居住区別）

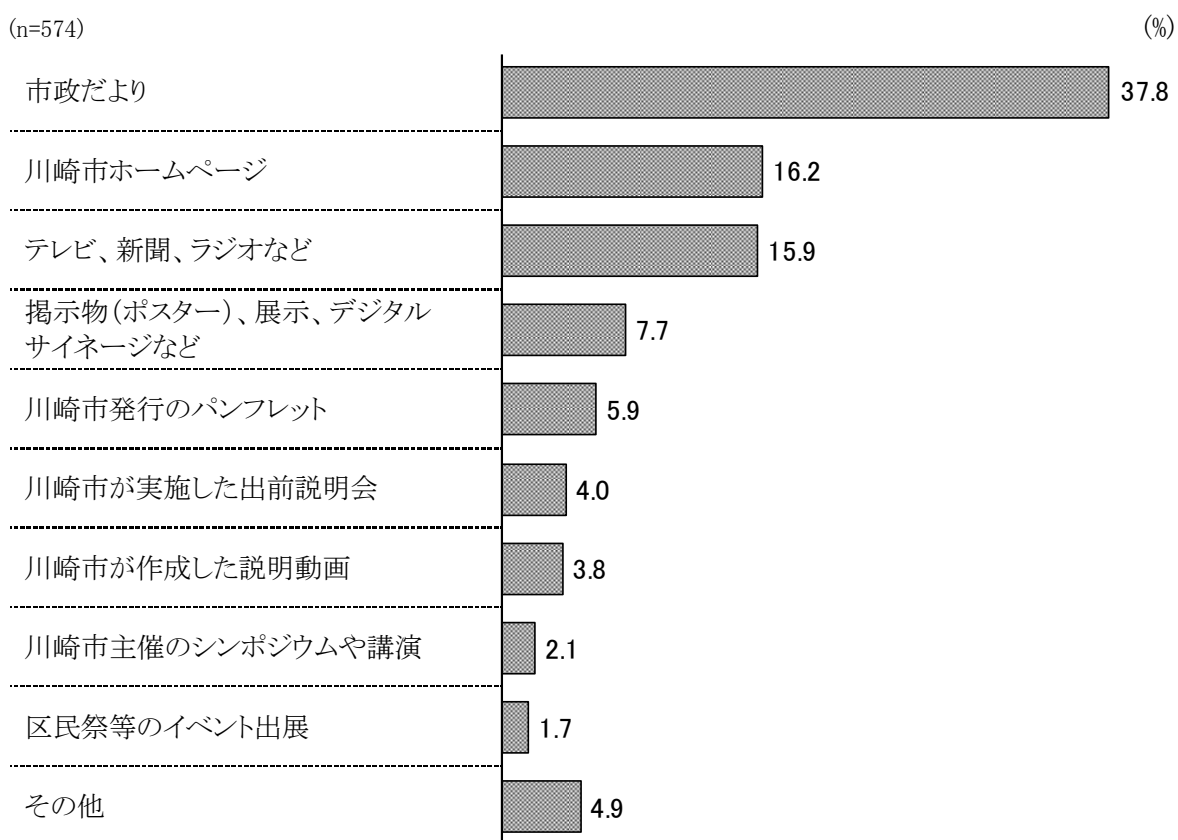


(2) 「特別市（特別自治市）」の認知経路

Q18. あなたは、どこで最初に「特別市（特別自治市）」を知りましたか。

「特別市（特別自治市）」について【知っていた】と回答した人に、認知経路について尋ねたところ、「市政だより」が37.8%と最も高く、次いで「川崎市ホームページ」(16.2%)、「テレビ、新聞、ラジオなど」(15.9%)と続いている。

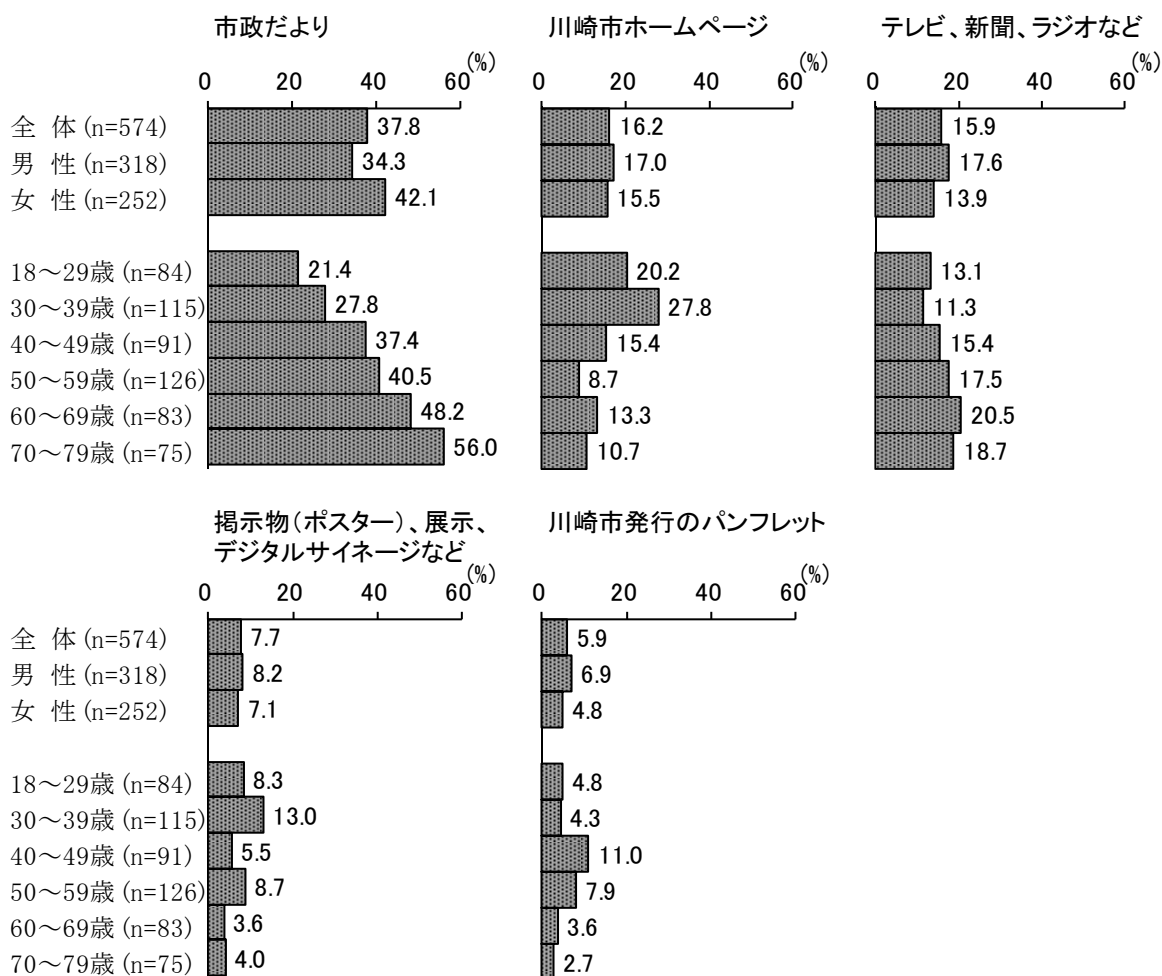
【図表 49】「特別市（特別自治市）」の認知経路



性別に見ると、「市政だより」は男性（34.3%）よりも女性（42.1%）の方が7.8ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「市政だより」は年齢が上がるほど割合が高くなっており、「川崎市ホームページ」は30～39歳（27.8%）が最も高くなっている。また、「掲示物（ポスター）、展示、デジタルサイネージなど」は30～39歳（13.0%）が最も高く、「川崎市発行のパンフレット」は40～49歳（11.0%）が最も高い。

【図表 50】「特別市（特別自治市）」の認知経路 <<上位5項目>>
(性別、年齢別)

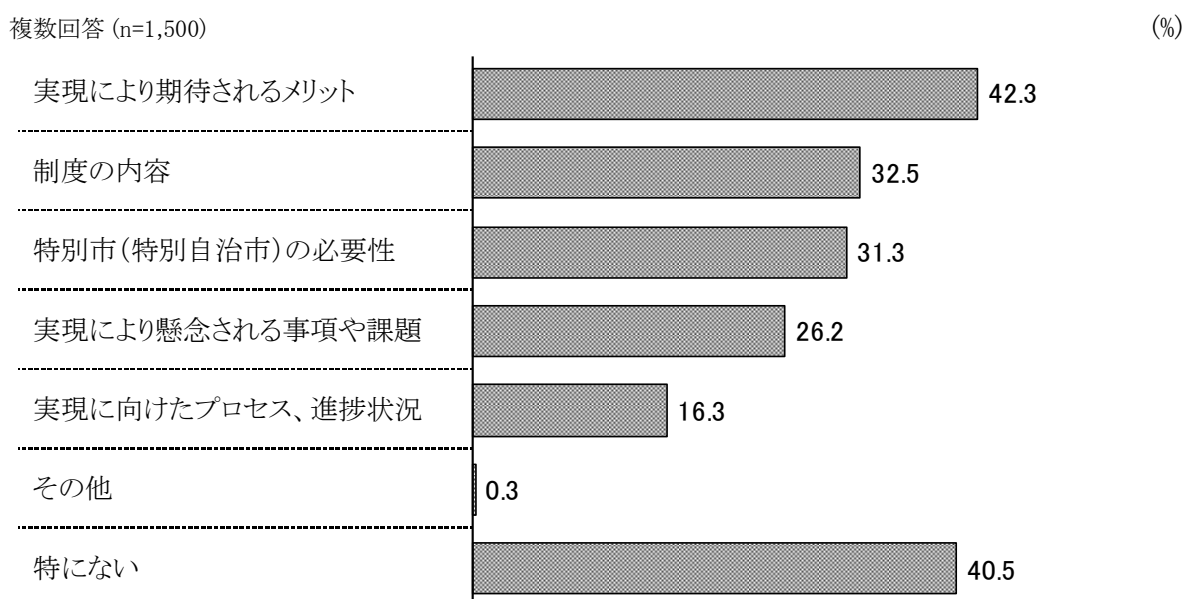


(3) 「特別市（特別自治市）」について知りたいこと

Q19. 「特別市（特別自治市）」について、知りたいことを教えてください。

「実現により期待されるメリット」が42.3%で最も高く、次いで「制度の内容」(32.5%)、「特別市（特別自治市）の必要性」(31.3%)と続いている。一方で、「特にない」(40.5%)が4割を占めている。

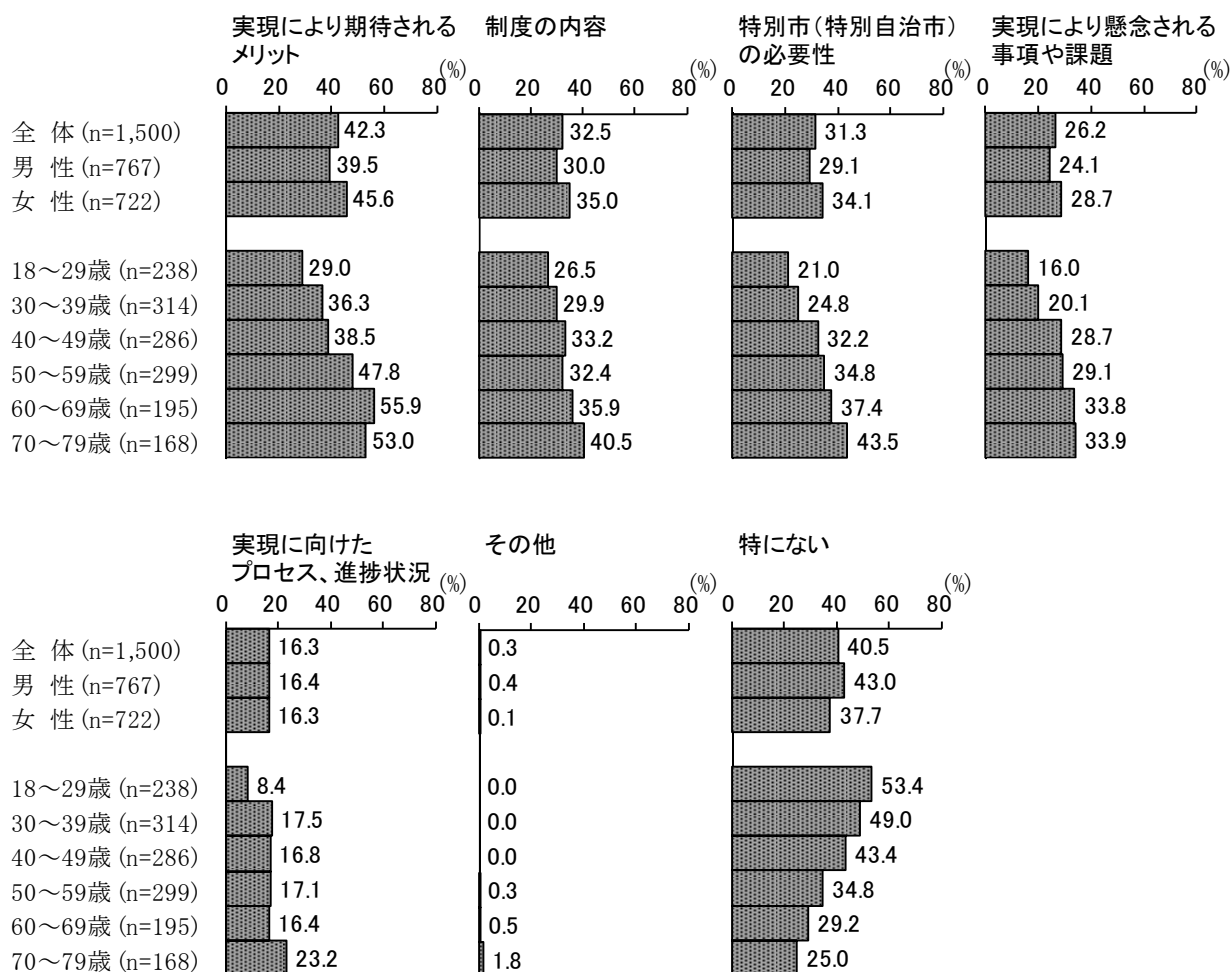
【図表 51】「特別市（特別自治市）」について知りたいこと（複数回答）



性別では、「実現により期待されるメリット」、「制度の内容」、「特別市（特別自治市）の必要性」は男性よりも女性の方が5ポイント以上高く、「特にない」は女性（37.7%）よりも男性（43.0%）の方が5.3ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「実現により期待されるメリット」、「制度の内容」、「特別市（特別自治市）の必要性」、「実現により懸念される事項や課題」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く、「特にない」は年齢が下がるほど割合が高くなっている。

【図表 52】「特別市（特別自治市）」について知りたいこと（複数回答）
（性別、年齢別）

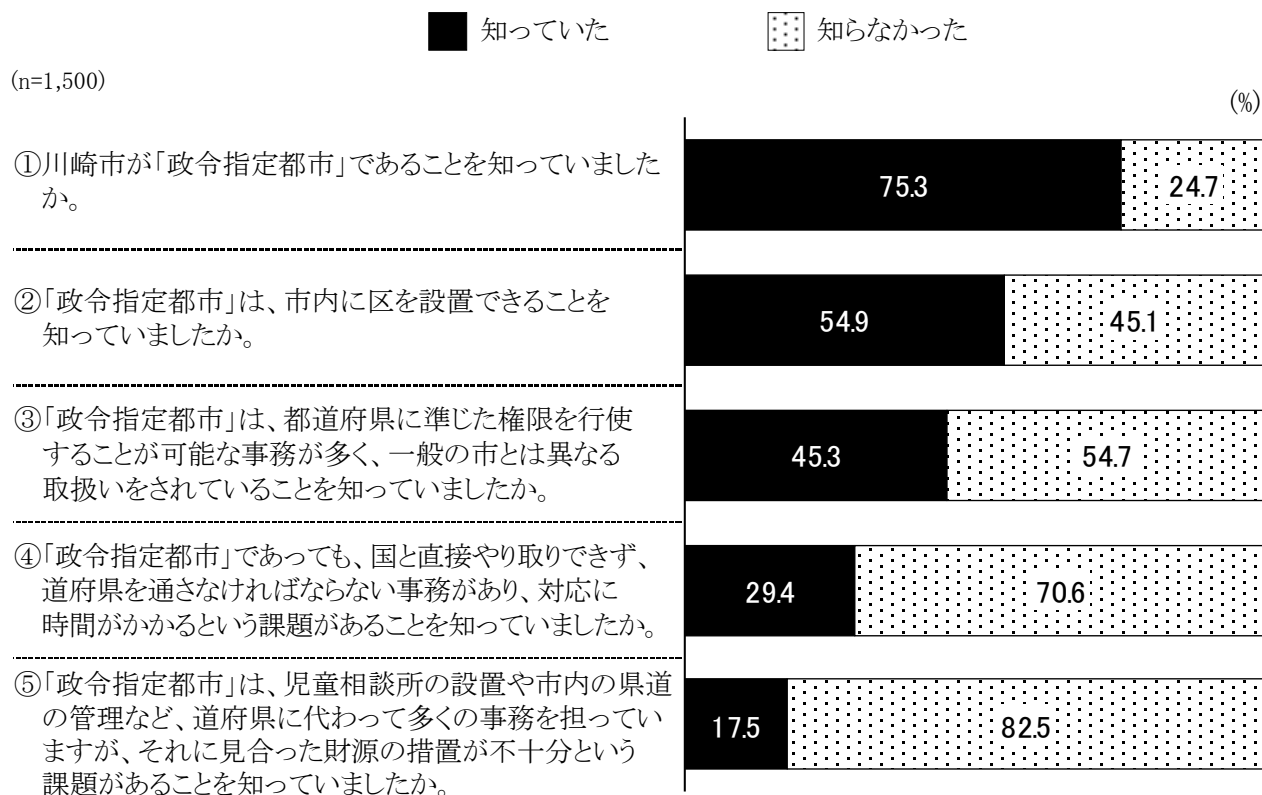


(4)「政令指定都市」について

Q20. 「政令指定都市」に関する質問にお答えください。

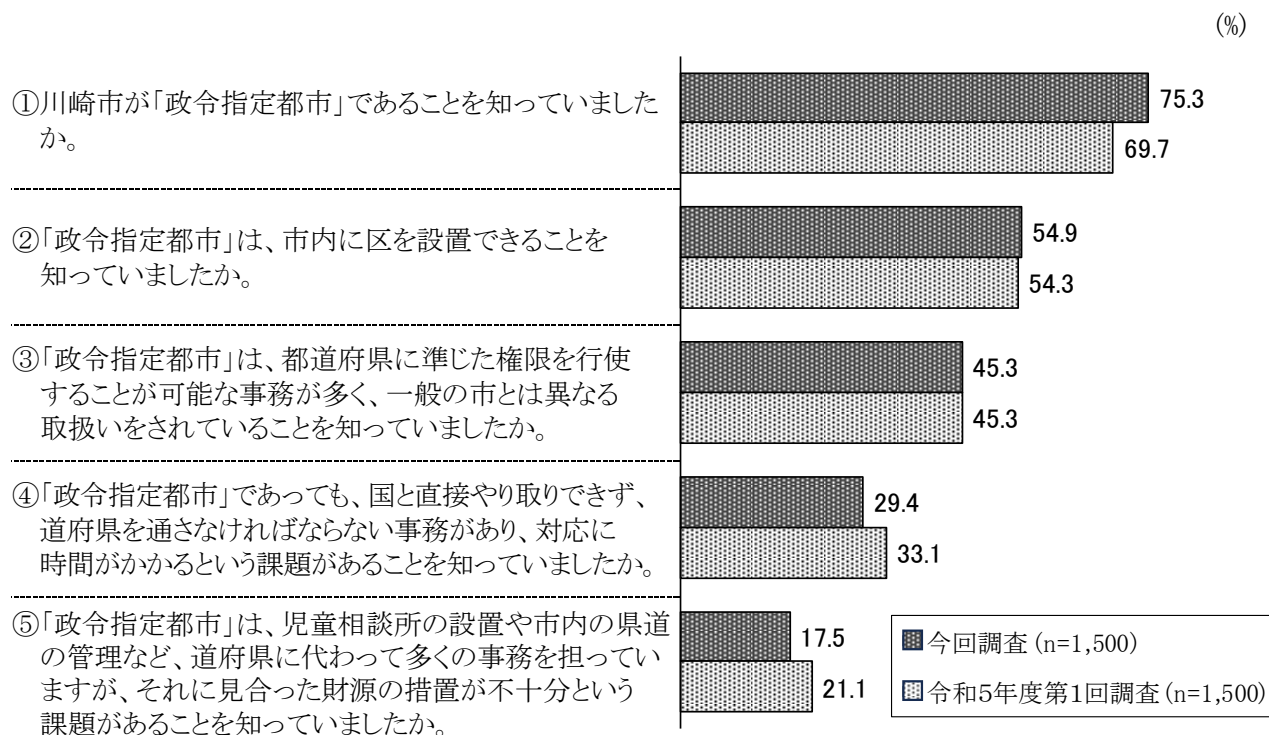
「知っていた」の割合は「川崎市が『政令指定都市』であることを知っていましたか。」が75.3%で最も高く、次いで、「『政令指定都市』は、市内に区を設置できることを知っていましたか。」(54.9%)、「『政令指定都市』は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)」(45.3%)と続いている。

【図表 53】「政令指定都市」について



「知っていた」の割合を令和5（2023）年度第1回調査（インターネット調査）と比較すると、「川崎市が『政令指定都市』であることを知っていましたか。」は5.6ポイント上昇した。一方、「『政令指定都市』であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。」は3.7ポイント減少、「『政令指定都市』は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。」は3.6ポイント減少している。

【図表 54】「政令指定都市」について（「知っていた」回答者）
（過去調査との比較）



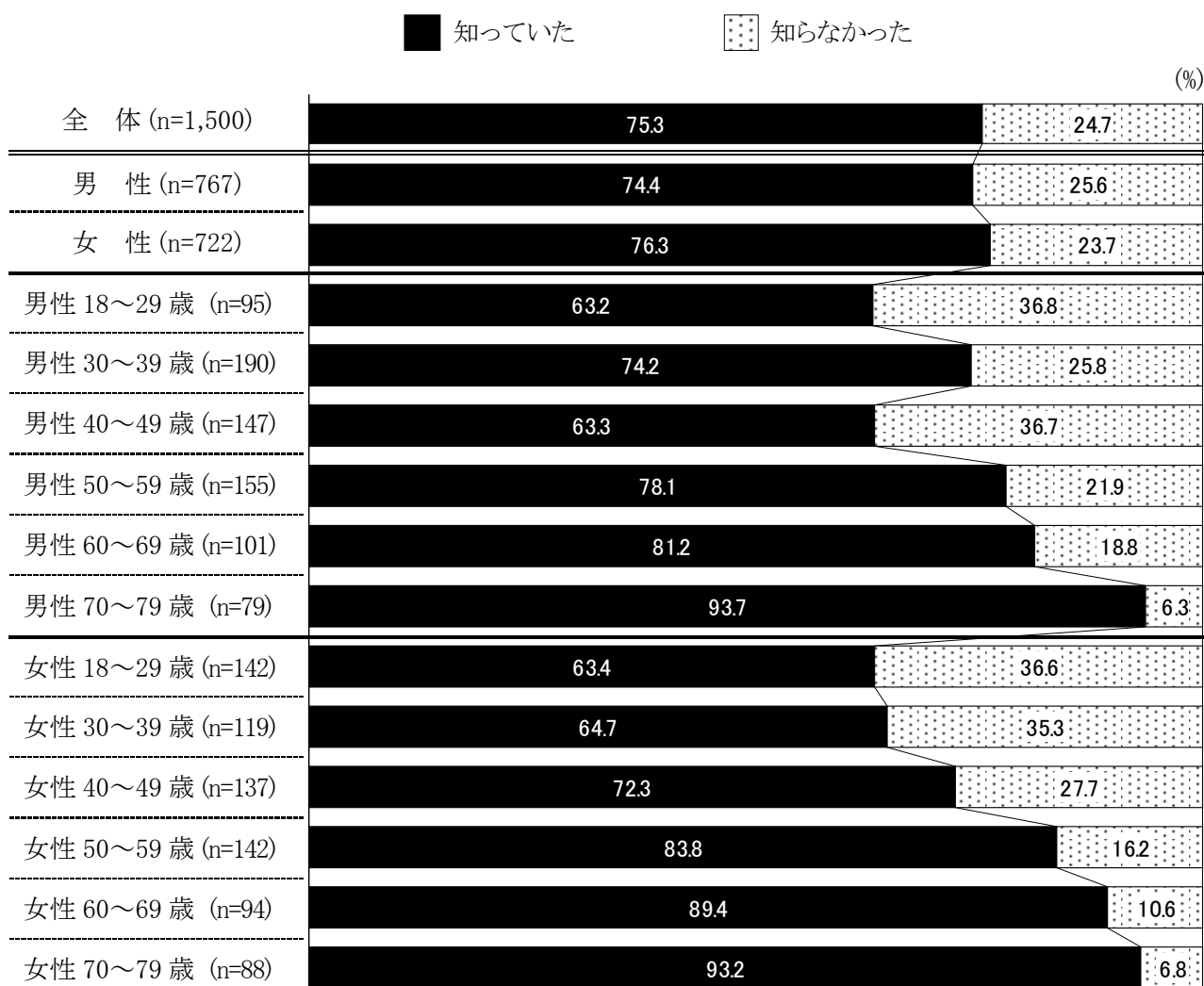
① 現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。

性別では傾向に大きな差は見られない。

年齢別に見ると、男女ともにおおむね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 55】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

〔 現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。 〕



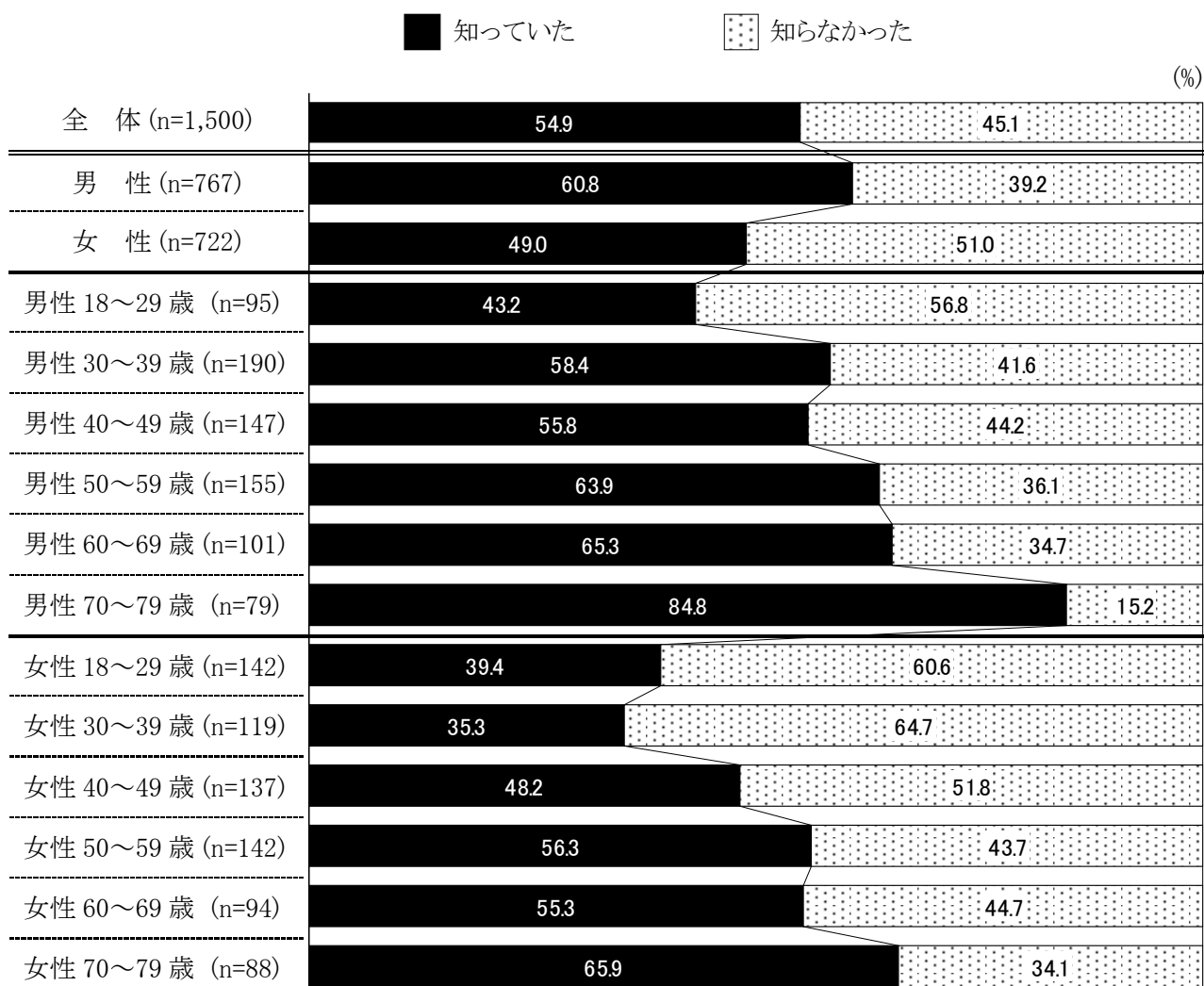
②「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性（49.0%）よりも男性（60.8%）の方が11.8ポイント高い。

年齢別に見ると、一部を除き、男女ともにおおむね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 56】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

〔「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。〕



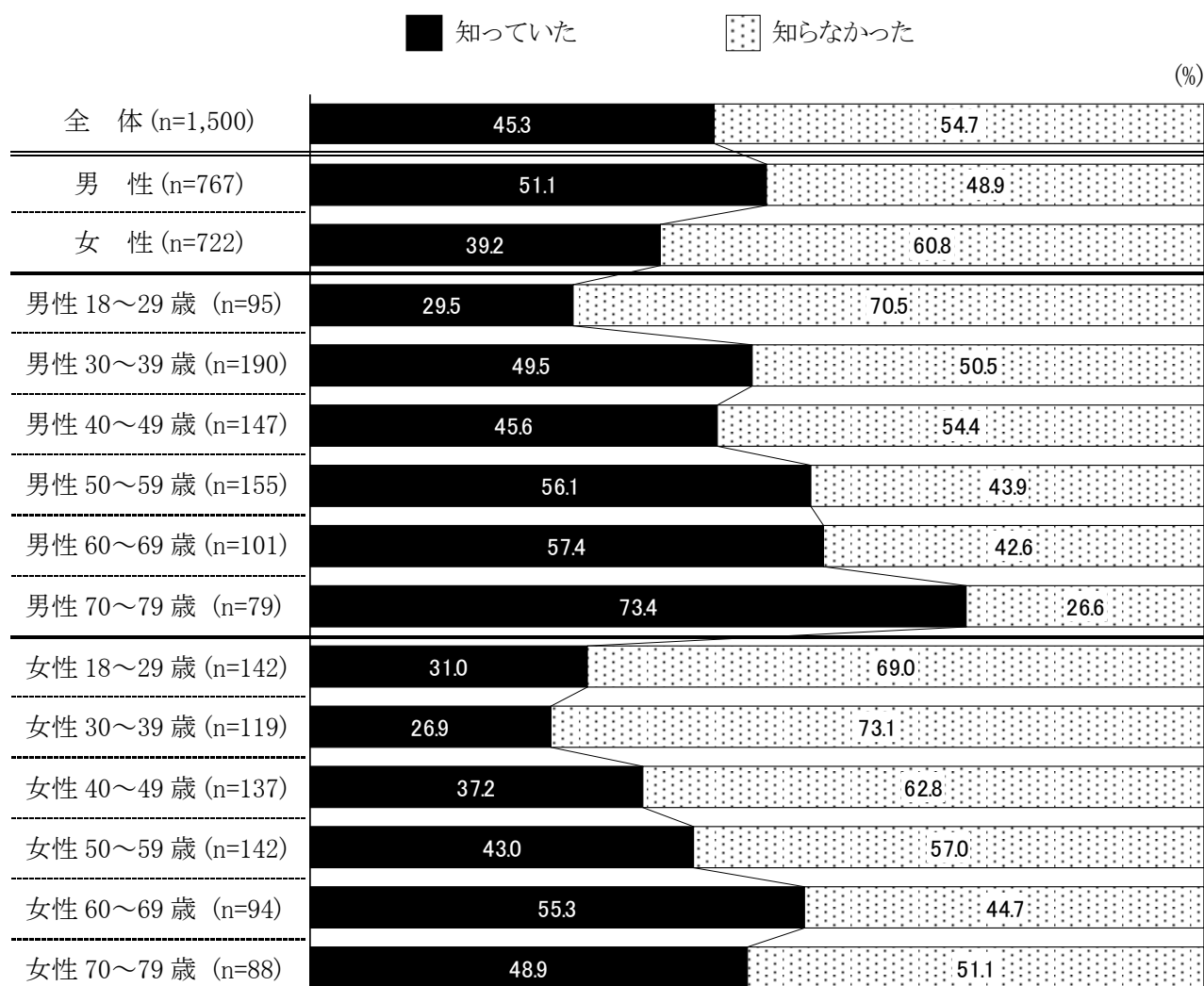
③「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性（39.2%）よりも男性（51.1%）の方が 11.9 ポイント高い。

年齢別に見ると、一部を除き、男女ともにおおむね年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっている。

【図表 57】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。(例：児童相談所の設置など)



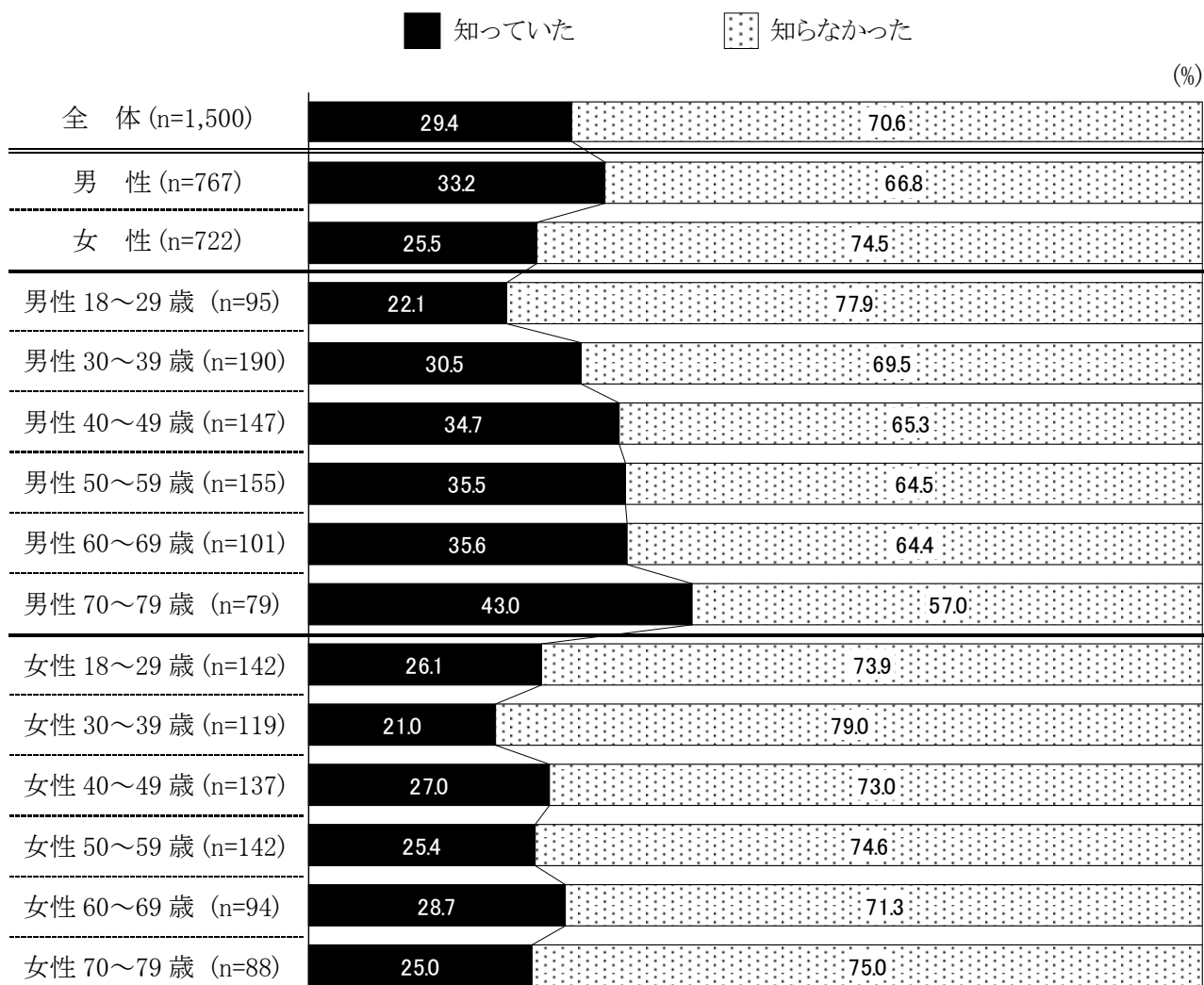
④「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。(例:新型コロナウイルスワクチンの供給など)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性（25.5%）よりも男性（33.2%）の方が7.7ポイント高い。

年齢別に見ると、「知っていた」の割合は、男性では30歳以上の年齢層で3割を超え、70～79歳（43.0%）が最も高くなっている。女性は全ての年齢層で3割を下回った。

【図表 58】「政令指定都市」について（性別、性／年齢別）

「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。(例:新型コロナウイルスワクチンの供給など)



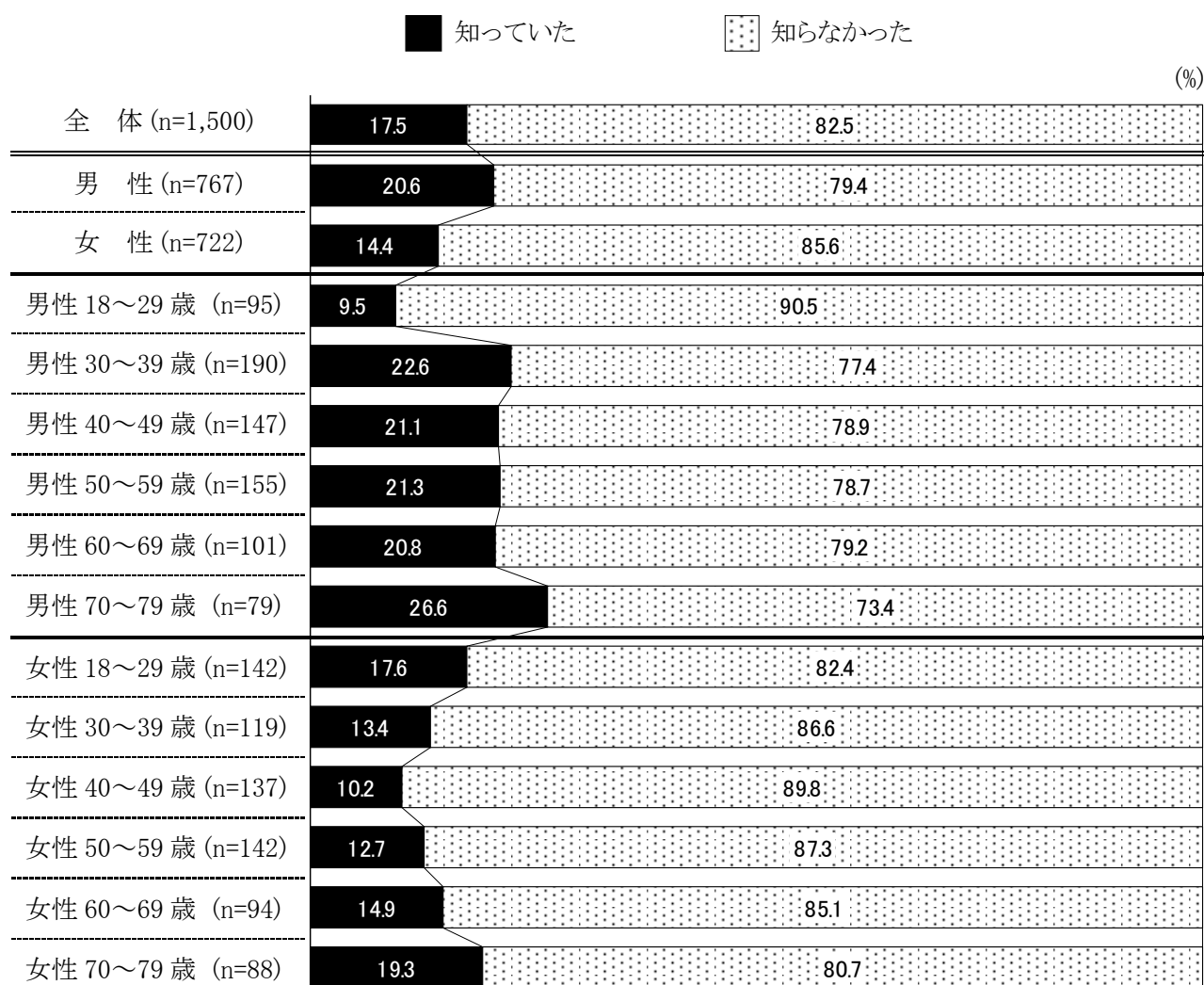
- ⑤「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。(川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約 288 億円である一方、財源として確保される額は約 45 億円しかなく、約 243 億円が川崎市の負担となっています。※令和 7 年度予算に基づく概算)

性別に見ると、「知っていた」の割合は女性 (14.4%) よりも男性 (20.6%) の方が 6.2 ポイント高い。

年齢別に見ると、「知っていた」の割合は、男性は 30 歳代以上の年齢層で 2 割を超え、女性は全ての年齢層で 2 割を下回り、男女ともに 70～79 歳が最も高くなっている。

【図表 59】「政令指定都市」について (性別、性/年齢別)

「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。(川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約 288 億円である一方、財源として確保される額は約 45 億円しかなく、約 243 億円が川崎市の負担となっています。※令和 7 年度予算に基づく概算)

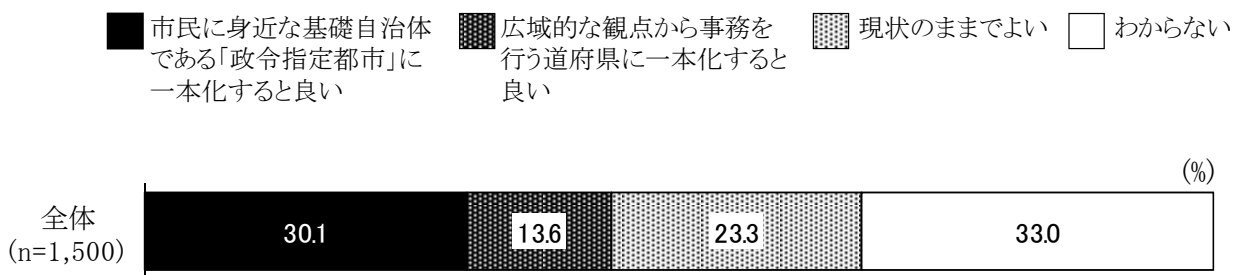


(5) 取組や事務の一本化について

Q21. 「政令指定都市」と道府県で同じような内容の取組や事務を実施していることがあります。今後、このような事務をどちらか一方にまとめるとしたら、あなたはどちらに一本化するとよいと思いますか。

「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」(30.1%)、「現状のままでよい」(23.3%)、「広域的な観点から事務を行う道府県に一本化すると良い」(13.6%)と続いている。一方、「わからない」(33.0%)が最も高くなっている。

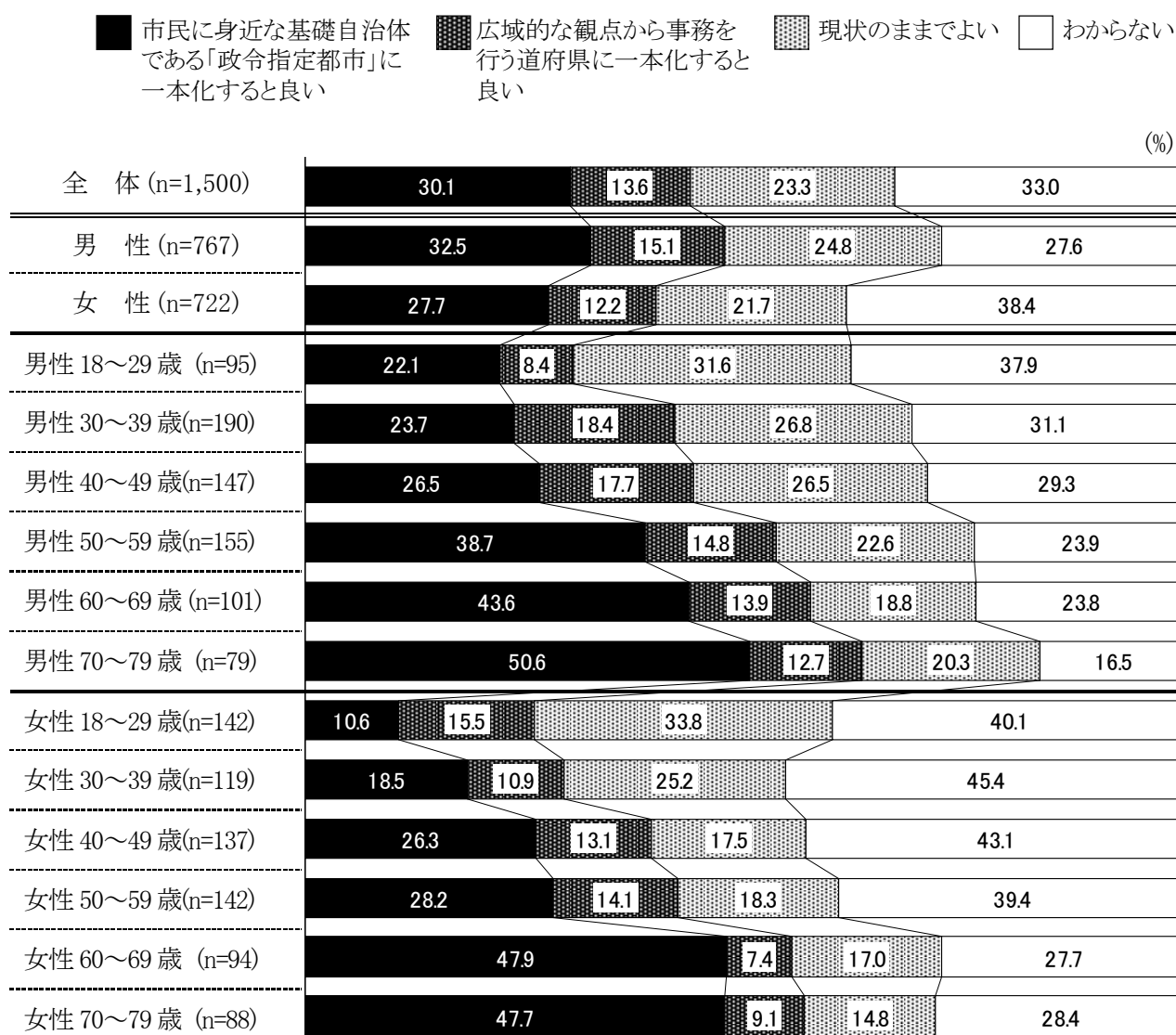
【図表 60】取組や事務の一本化について



性別に見ると、「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」は女性(27.7%)よりも男性(32.5%)の方が4.8ポイント高く、「わからない」は男性(27.6%)よりも女性(38.4%)の方が10.8ポイント高くなっている。

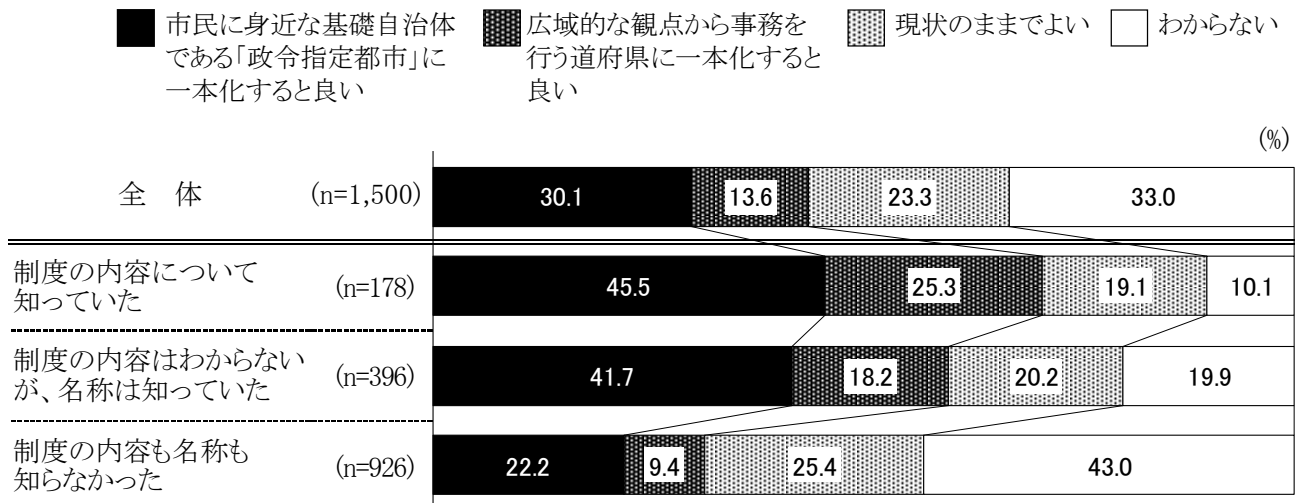
性/年齢別に見ると、「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど高く、60歳代以上の年齢層で4割を超えている。また、「わからない」は男性では18～29歳(37.9%)が最も高く、女性では30～39歳(45.4%)が最も高くなっている。

【図表 61】 取組や事務の一本化について (性別、性/年齢別)



Q17の「特別市（特別自治市）」の認知状況別に見ると、制度について知っている人ほど「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」の割合が高くなっており、「制度の内容について知っていた」と回答した人（45.5%）が最も高い。

【図表 62】 取組や事務の一本化について（「特別市（特別自治市）」の認知状況別）



2 第2回アンケートの調査結果 (郵送調査)

2.1 定住状況について

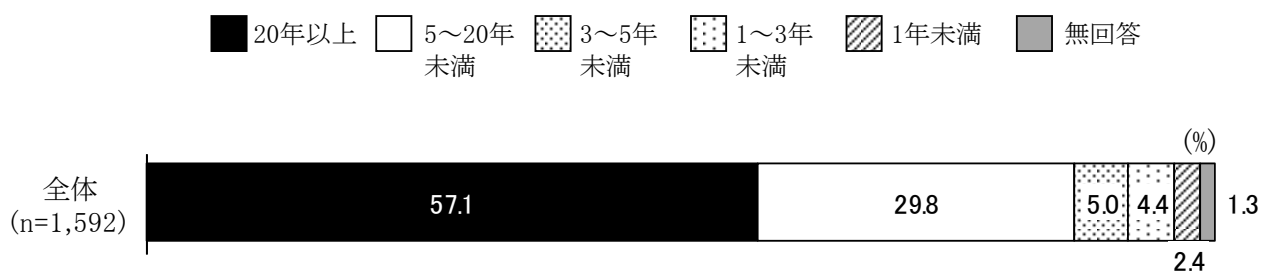
(1) 居住年数

問1. あなたは川崎市及び現在のお住まいの区に、通算、何年間居住していますか。また、現在のお住まいには、何年間、居住していますか。

① 川崎市

居住年数「20年以上」は57.1%、5年以上の居住者は86.9%となっている。

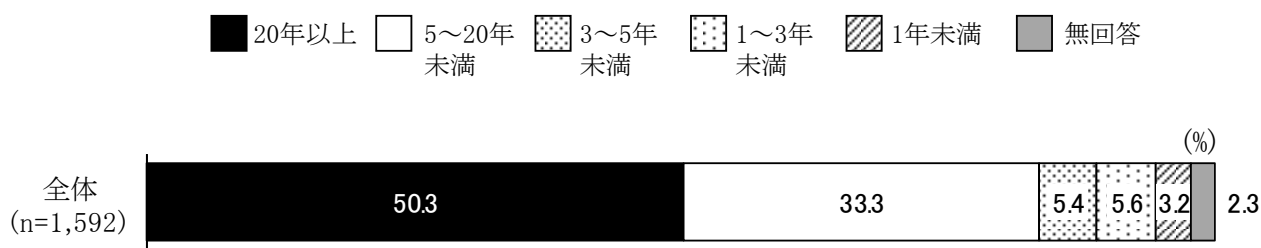
【図表 63】 居住年数（川崎市）



② 現在お住まいの区

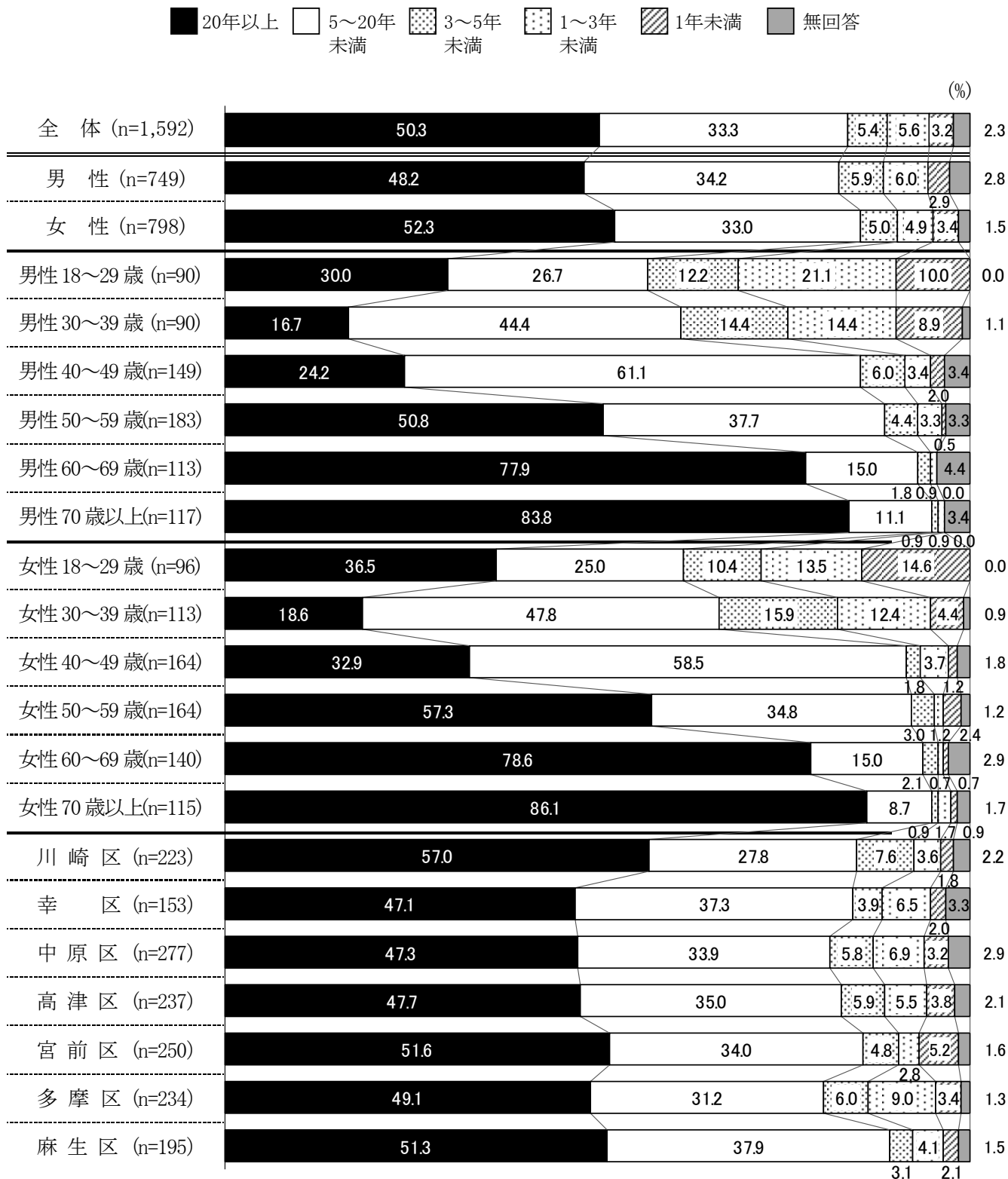
居住年数「20年以上」は50.3%、5年以上の居住者は83.5%となっている。

【図表 64】 居住年数（現在お住まいの区）



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で「20年以上」が5割を上回っている。
 居住区別では、「20年以上」は「川崎区」(57.0%)が最も高く、次いで「宮前区」(51.6%)、
 「麻生区」(51.3%)と続き、「幸区」が47.1%で最も低い。

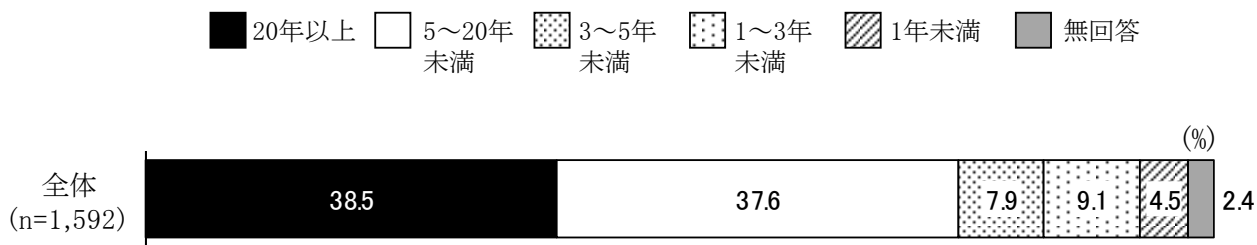
【図表 65】居住年数（現在お住まいの区）
 （性別、性／年齢別、居住区別）



③ 現在のお住まい

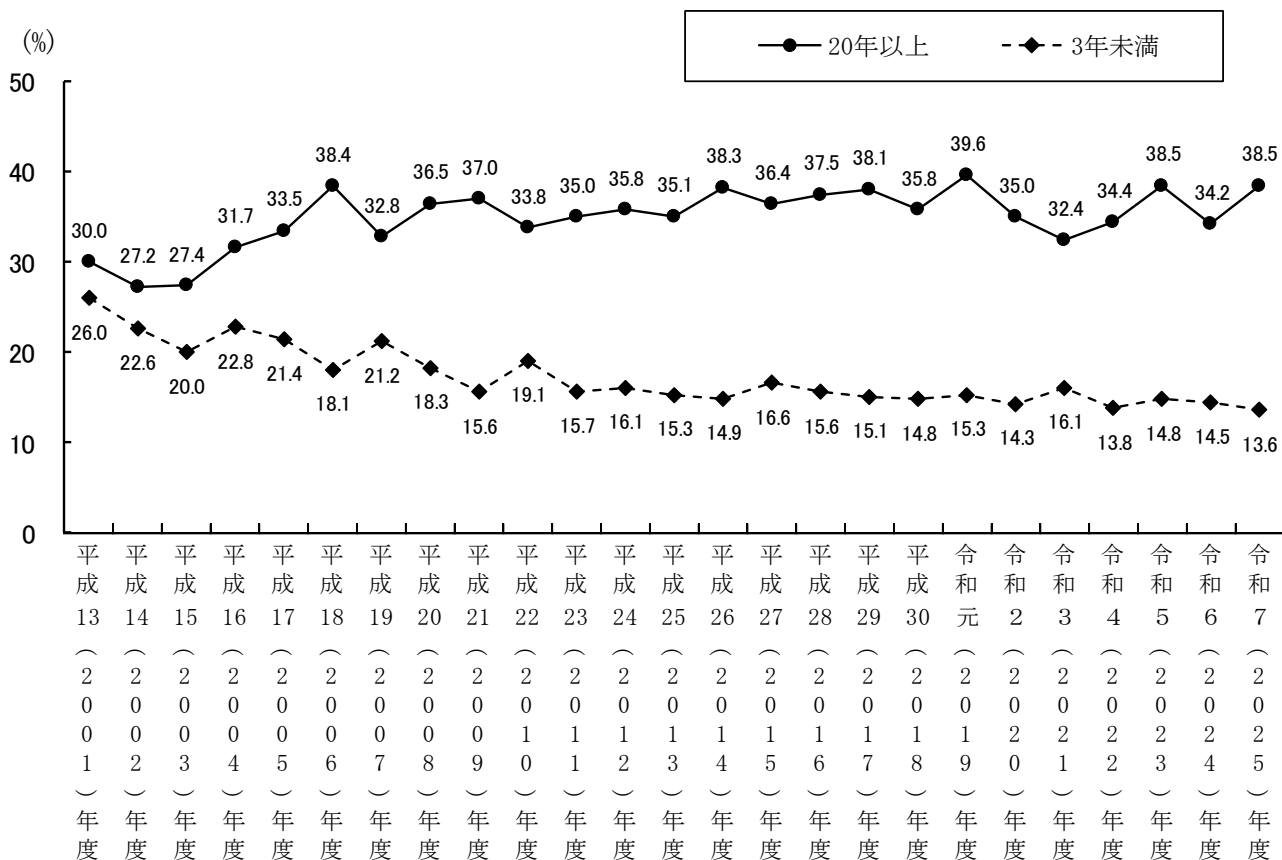
居住年数「20年以上」は38.5%、5年以上の居住者は76.1%となっている。

【図表 66】 居住年数（現在のお住まい）



過去の推移では、「20年以上」は昨年度（令和6年度）から4.3ポイント上昇して38.5%となり、「3年未満」は大きな変化が見られなかった。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は24.9ポイントとなっている。

【図表 67】 居住年数（経年比較）



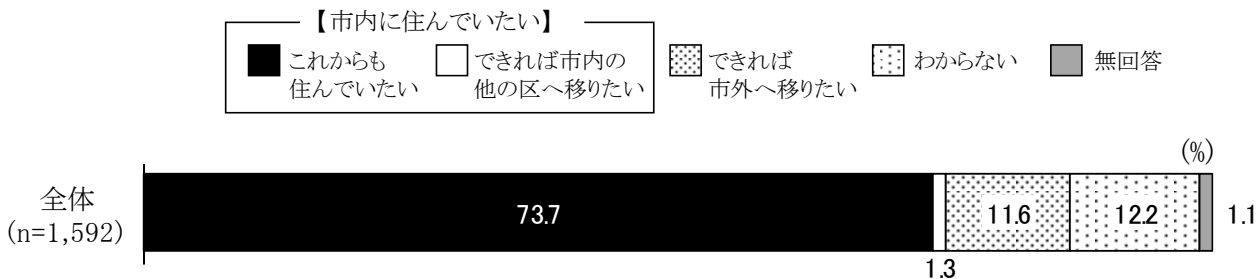
※令和2年度までの設問文は「今のところにお住まいになって何年になりますか」で実施

(2) 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

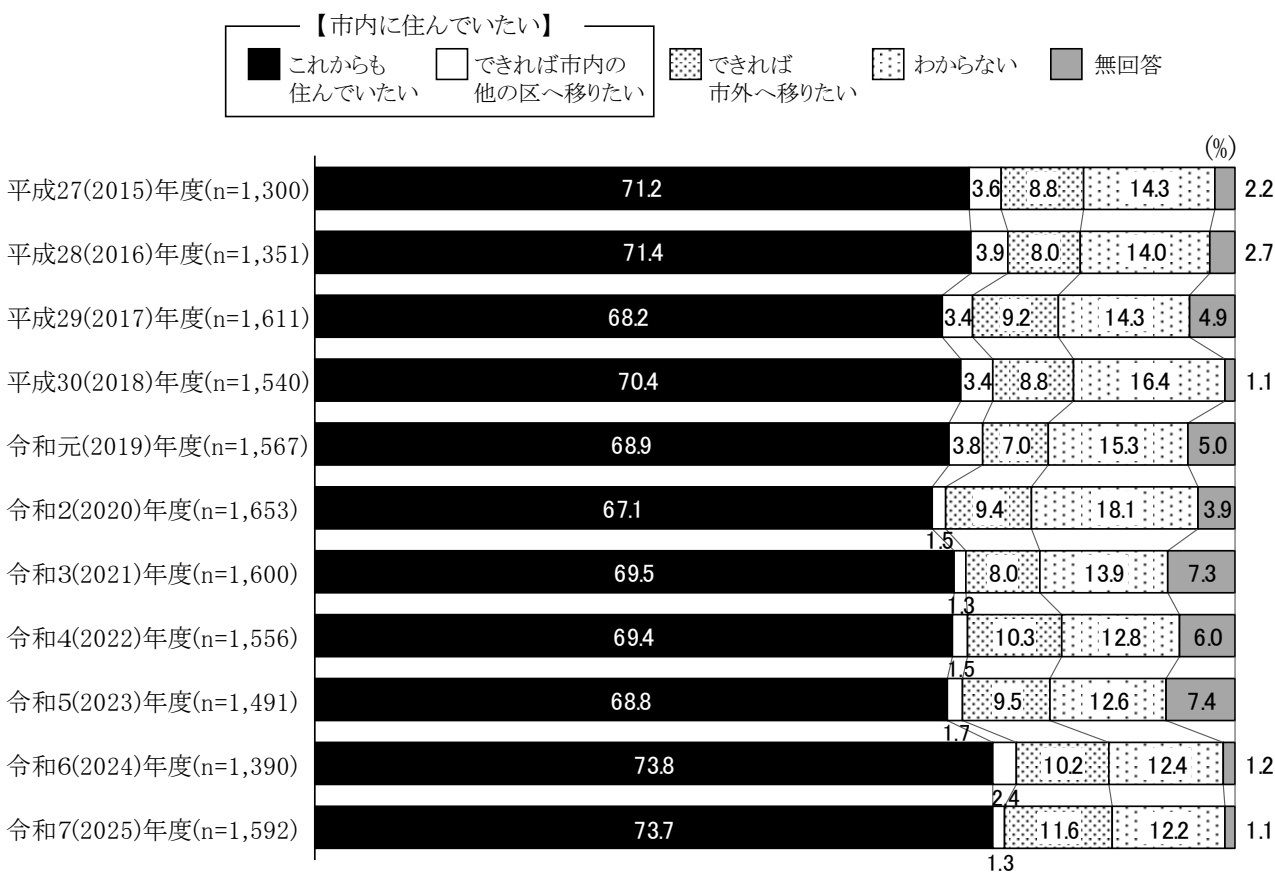
「これからも住んでいたい」(73.7%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.3%)を合計した【市内に住んでいたい】は75.1%、「できれば市外へ移りたい」は11.6%であった。

【図表 68】 定住意向



定住意向については、昨年度（令和6年度）から大きな変化は見られない。

【図表 79】 定住意向（経年比較）

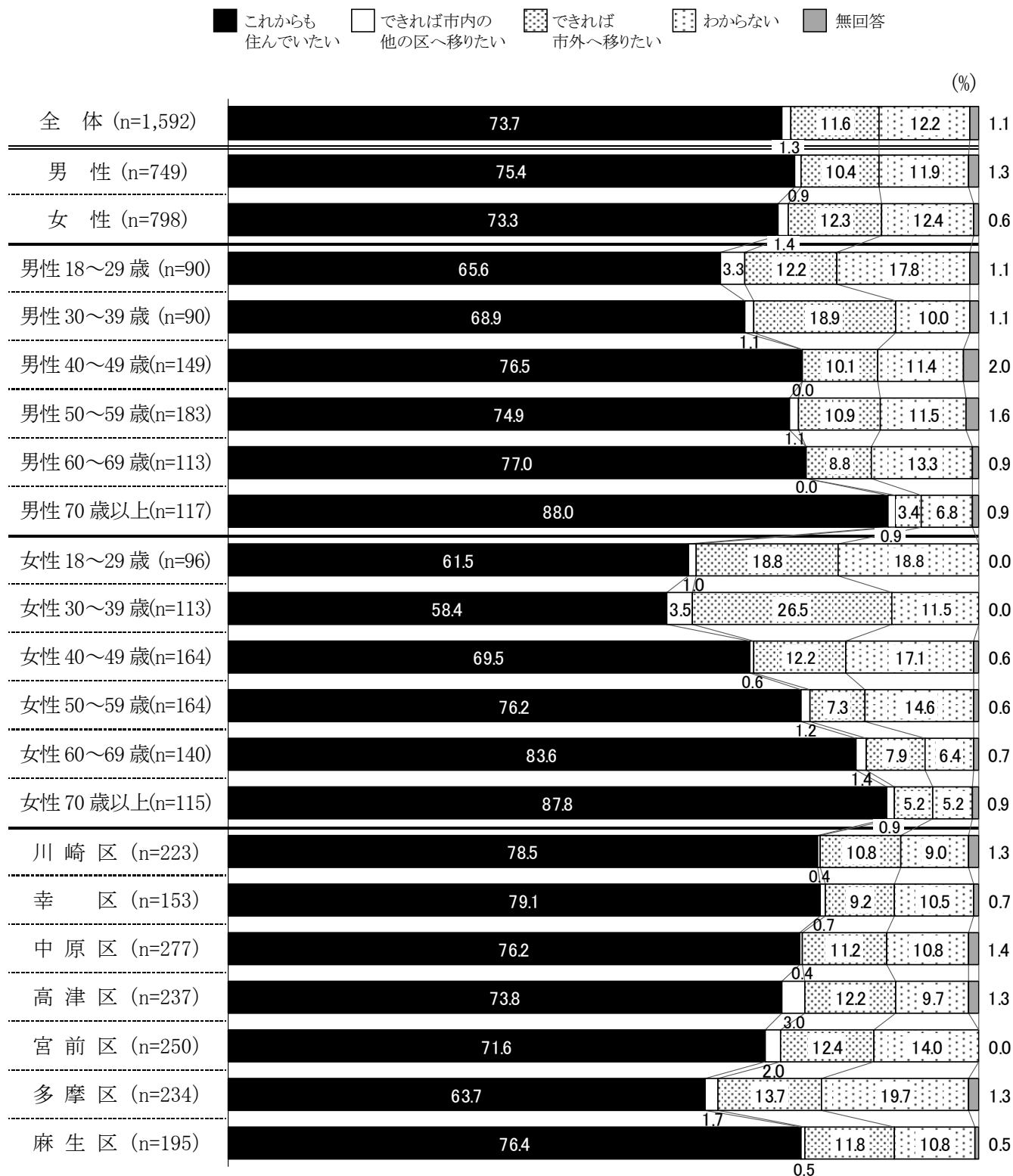


※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施。

性／年齢別に見ると、「これからも住んでいたい」は女性30～39歳を除いた性／年齢層で6割を上回り、男性は70歳以上、女性は60歳代以上が8割を超えている。

居住区別では、「これからも住んでいたい」は「幸区」(79.1%)が最も高く、「多摩区」(63.7%)が最も低い。

【図表 70】定住意向（性別、性／年齢別、居住区別）

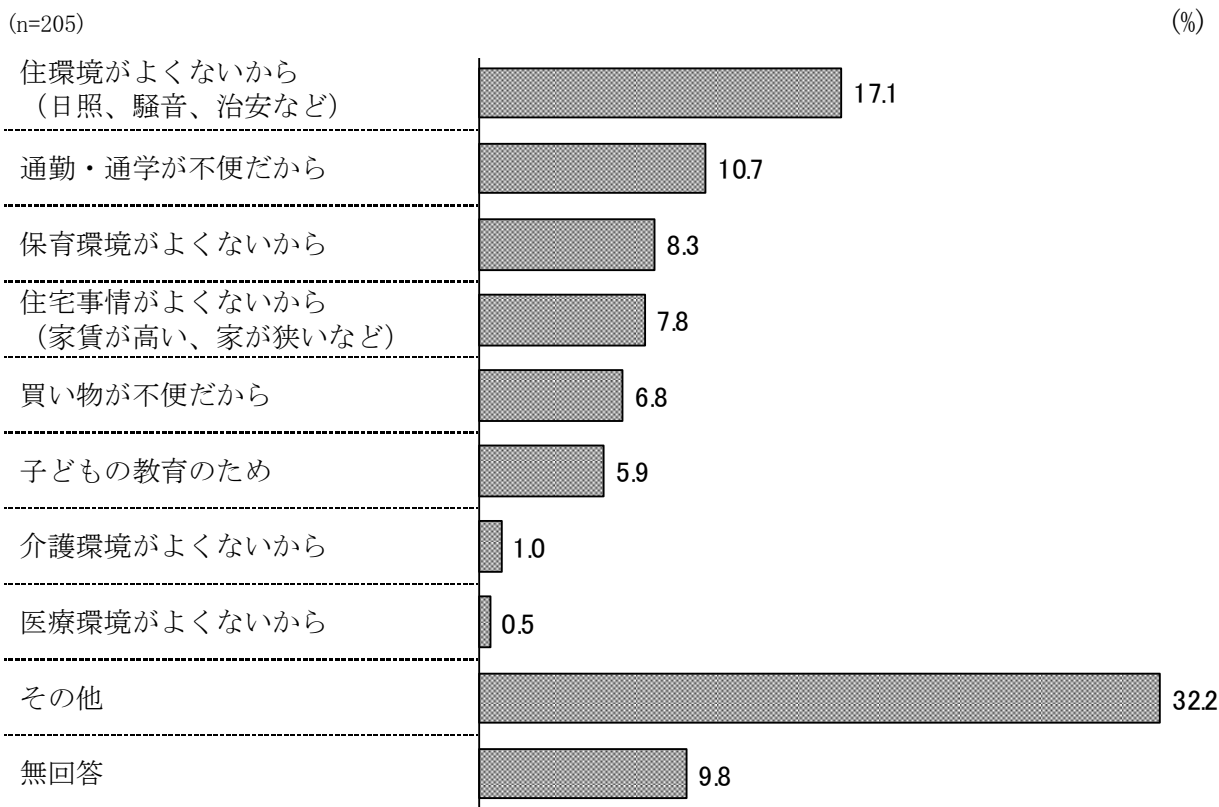


(3) 転居意向の理由

問3. あなたが、今のところから移りたい、または移る主な理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つだけ選んでください。

「できれば市内の他の区へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した転居意向がある人に転居意向の理由を聞いたところ、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が17.1%で最も高く、次いで「通勤・通学が不便だから」（10.7%）、「保育環境がよくないから」（8.3%）と続いている。

【図表 71】 転居意向の理由

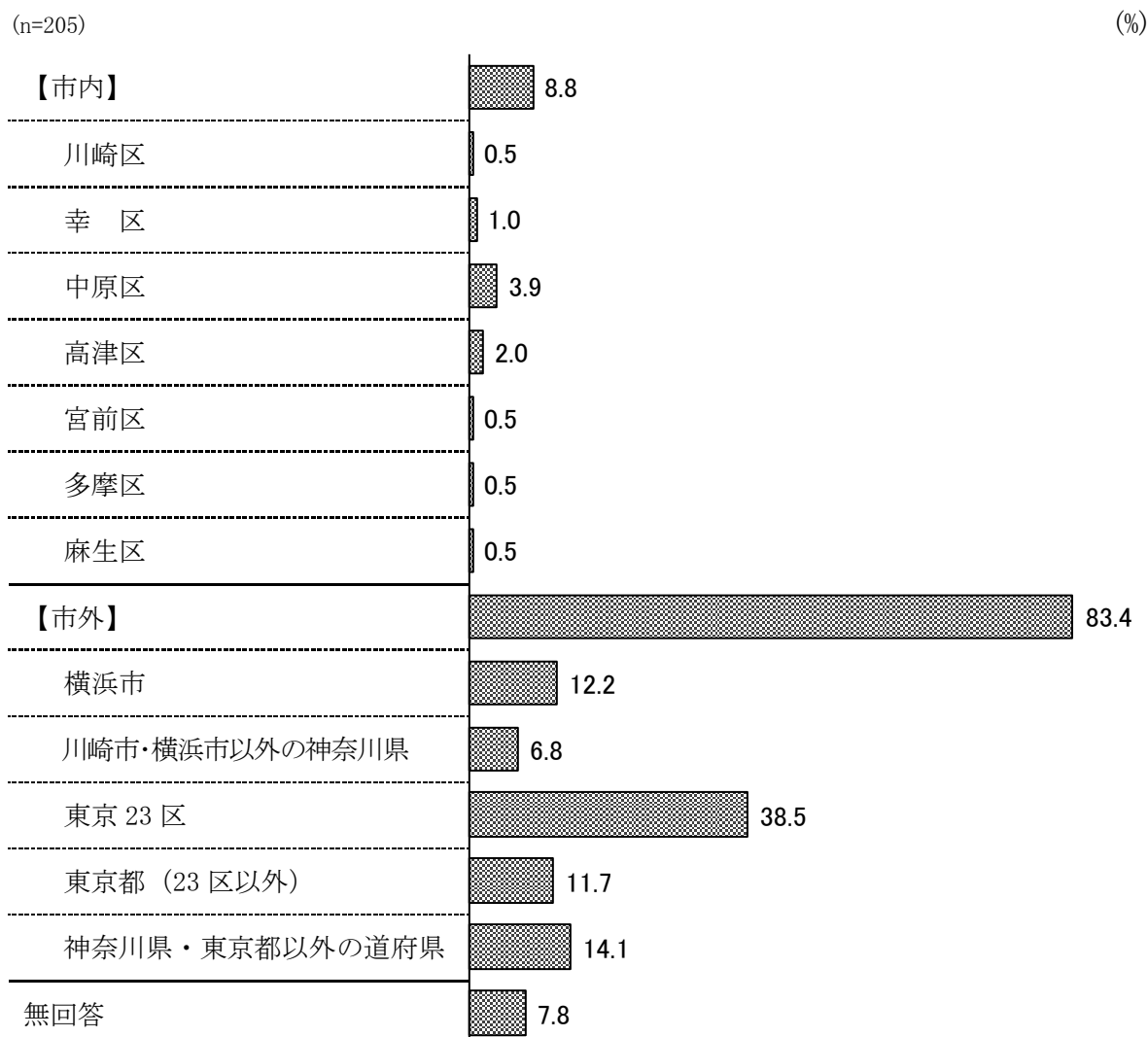


(4) 転居先の希望

問4. あなたは、どこに住みたいと思いますか。最も住みたいと思う地域を1つだけ選んでください。

転居意向がある人の転居先の希望は、【市内】が8.8%、【市外】が83.4%であった。【市内】では「中原区」が3.9%で最も高く、次いで「高津区」(2.0%)、「幸区」(1.0%)と続いている。【市外】では「東京23区」が38.5%で最も高く、次いで「神奈川県・東京都以外の道府県」(14.1%)、「横浜市」(12.2%)と続いている。

【図表 72】 転居先の希望



居住区別の転居先の希望は、回答者数が少ないため参考にとどめる。

【図表 73】 転居先の希望（居住区別）

(%)

	全体	居住区						
		川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ベース: 転居意向がある人	(205)	(25)	(15)	(32)	(36)	(36)	(36)	(24)
【市内】	8.8	4.0	6.7	3.1	16.7	11.1	11.1	4.2
川崎区	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0
幸区	1.0	4.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
中原区	3.9	0.0	6.7	0.0	11.1	2.8	5.6	0.0
高津区	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	2.8	0.0
宮前区	0.5	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
多摩区	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
麻生区	0.5	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
【市外】	83.4	96.0	86.7	93.8	80.6	75.0	75.0	87.5
横浜市	12.2	8.0	20.0	15.6	13.9	13.9	13.9	0.0
川崎市・横浜市以外の神奈川県	6.8	12.0	6.7	3.1	8.3	5.6	2.8	12.5
東京23区	38.5	40.0	26.7	53.1	36.1	41.7	27.8	41.7
東京都(23区以外)	11.7	0.0	6.7	6.3	8.3	8.3	27.8	20.8
神奈川県・東京都以外の道府県	14.1	36.0	26.7	15.6	13.9	5.6	2.8	12.5
無回答	7.8	0.0	6.7	3.1	2.8	13.9	13.9	8.3

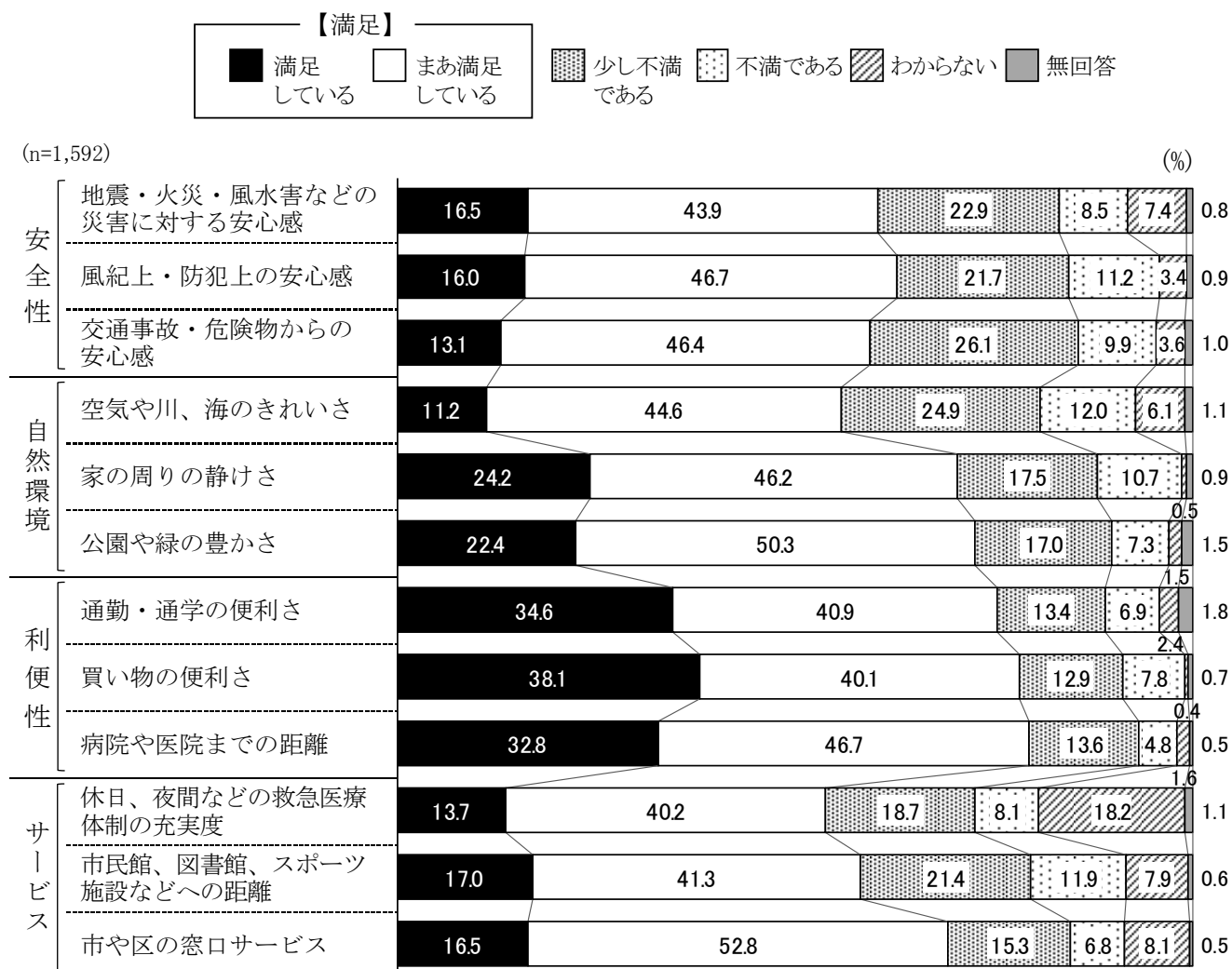
2.2 生活環境の評価について

(1) 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目が高く、「病院や医院までの距離」(79.5%)、「買い物の便利さ」(78.1%)、「通勤・通学の便利さ」(75.5%)、いずれも7割台後半となっている。一方で、『サービス』の項目は3項目中「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」(58.2%)と「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(53.9%)の2項目で【満足】が5割台となっている。

【図表 74】生活環境の満足度

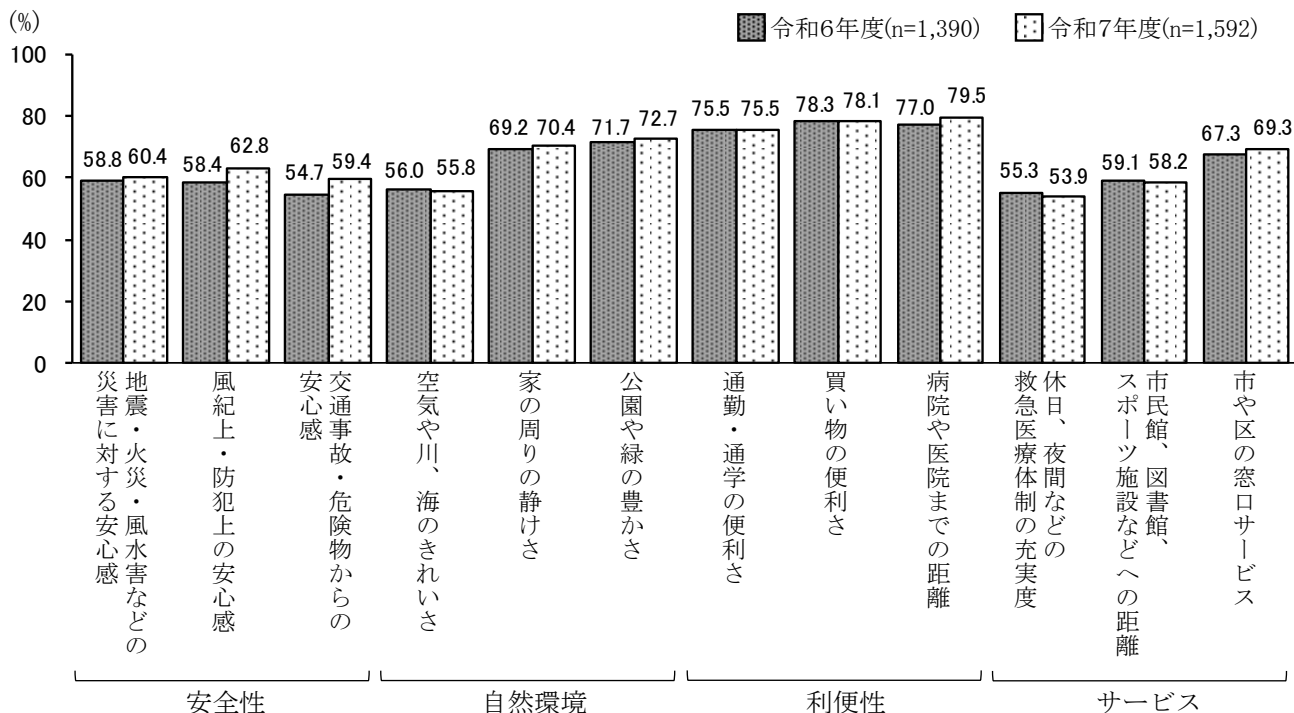


昨年度(令和6年度)と比較すると、【満足】は「交通事故・危険物からの安心感」が4.7ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」が4.4ポイント高くなっている。

【図表 75】生活環境の満足度(経年比較)

※【満足】(「満足している」と「まあ満足している」の合計)で表示 (%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
令和2年度(n=1,653)	54.9	60.7	58.2	54.2	68.6	69.4	75.3	78.0	78.2	54.1	55.2	65.3
令和3年度(n=1,600)	56.1	60.0	56.3	54.6	71.1	69.4	75.1	78.1	79.2	52.3	56.0	64.3
令和4年度(n=1,556)	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4
令和5年度(n=1,491)	56.5	62.4	59.0	55.7	71.6	70.7	74.7	74.7	77.2	52.3	52.2	64.5
令和6年度(n=1,390)	58.8	58.4	54.7	56.0	69.2	71.7	75.5	78.3	77.0	55.3	59.1	67.3
令和7年度(n=1,592)	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3



性／年齢別に見ると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」、「風紀上・防犯上の安心感」、「交通事故・危険物からの安心感」、「空気や川、海のきれいさ」は男女ともに70歳以上の満足度が最も高く、「通勤・通学の便利さ」、「市や区の窓口サービス」は男女ともに30～39歳の満足度が最も高かった。また、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は男女ともに18～29歳の満足度が最も高くなっている。

【図表 76】生活環境の満足度（【満足】回答者、性／年齢別）

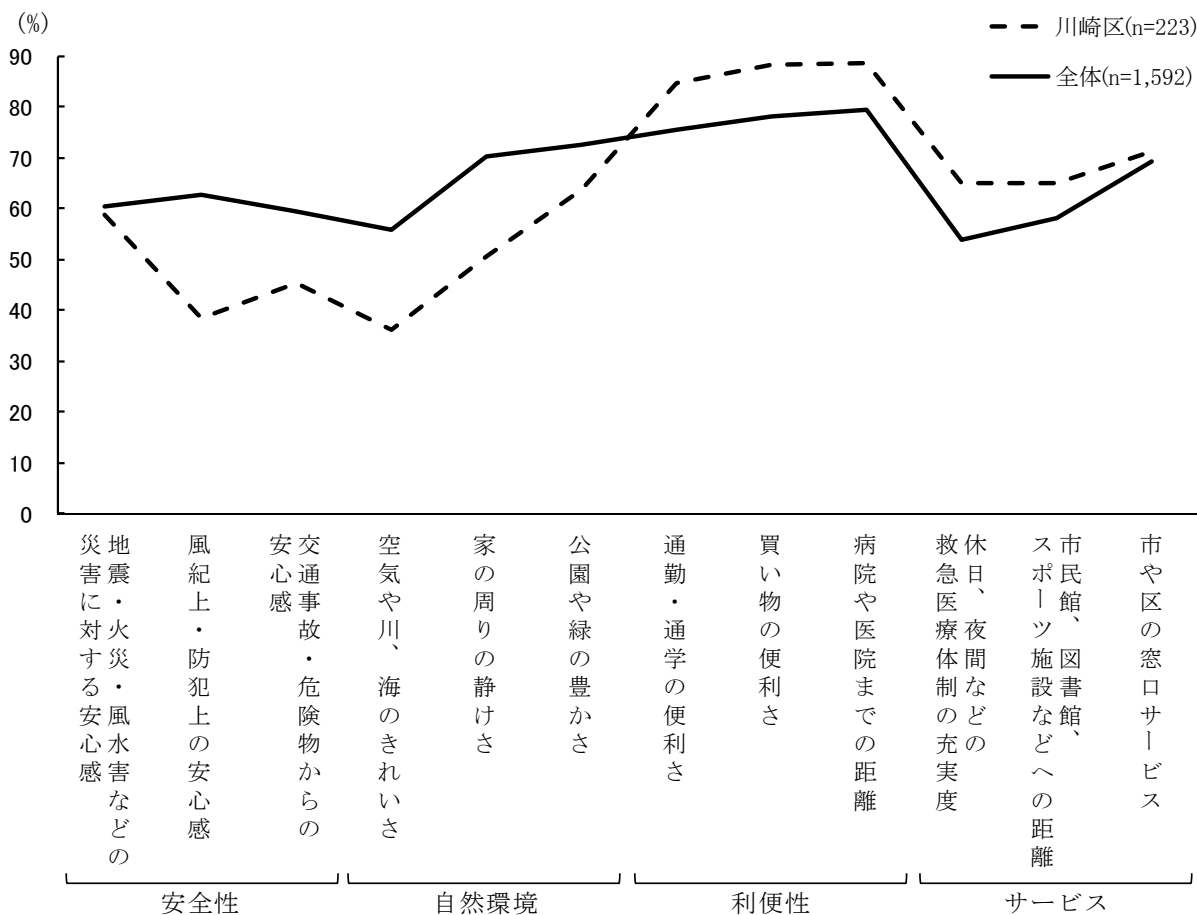
	(%)							
	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(749)	(90)	(90)	(149)	(183)	(113)	(117)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	60.4	63.3	65.6	60.0	54.4	63.4	66.4	74.4
風紀上・防犯上の安心感	62.8	64.0	66.7	52.2	58.4	62.3	70.8	76.9
交通事故・危険物からの安心感	59.4	60.2	65.6	50.0	53.0	57.9	63.7	75.2
空気や川、海のきれいさ	55.8	59.5	63.3	48.9	51.7	59.0	68.1	70.1
家の周りの静けさ	70.4	71.2	70.0	68.9	72.5	73.2	72.6	69.2
公園や緑の豊かさ	72.7	72.5	76.7	77.8	74.5	71.0	71.7	68.4
通勤・通学の便利さ	75.5	75.0	78.9	86.7	80.5	69.4	72.6	68.4
買い物の便利さ	78.1	78.4	84.4	87.8	82.6	75.4	70.8	75.2
病院や医院までの距離	79.5	78.8	85.6	87.8	79.9	74.9	75.2	76.9
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	53.9	55.9	50.0	53.3	54.4	53.0	60.2	66.7
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	58.2	58.5	68.9	65.6	63.8	50.3	54.0	59.0
市や区の窓口サービス	69.3	70.6	73.3	80.0	66.4	67.8	67.3	75.2

	(%)							
	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(798)	(96)	(113)	(164)	(164)	(140)	(115)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	60.4	58.6	63.5	56.6	59.8	52.4	57.9	66.1
風紀上・防犯上の安心感	62.8	61.9	61.5	57.5	59.8	57.9	66.4	70.4
交通事故・危険物からの安心感	59.4	59.4	59.4	53.1	54.3	57.3	62.1	72.2
空気や川、海のきれいさ	55.8	53.1	53.1	50.4	42.7	48.8	63.6	65.2
家の周りの静けさ	70.4	70.1	66.7	74.3	72.0	66.5	68.6	71.3
公園や緑の豊かさ	72.7	73.6	75.0	71.7	73.2	75.0	70.7	76.5
通勤・通学の便利さ	75.5	75.8	78.1	87.6	79.9	75.0	70.0	66.1
買い物の便利さ	78.1	77.9	80.2	80.5	86.0	76.2	69.3	75.7
病院や医院までの距離	79.5	80.2	85.4	85.0	82.3	80.5	74.3	75.7
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	53.9	52.3	52.1	56.6	50.6	49.4	55.0	52.2
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	58.2	58.1	65.6	60.2	62.8	55.5	53.6	52.2
市や区の窓口サービス	69.3	68.7	76.0	77.9	68.3	63.4	66.4	66.1

川崎区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は11.1ポイント、「買い物の便利さ」は10.2ポイント、「通勤・通学の便利さ」と「病院や医院までの距離」は9.3ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は6.8ポイント上回った。

一方、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「風紀上・防犯上の安心感」は24.2ポイント、「家の周りの静けさ」は19.7ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は19.5ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は14.1ポイント、「公園や緑の豊かさ」は9.0ポイント下回った。

【図表 77】生活環境の満足度（【満足】回答者、川崎区）

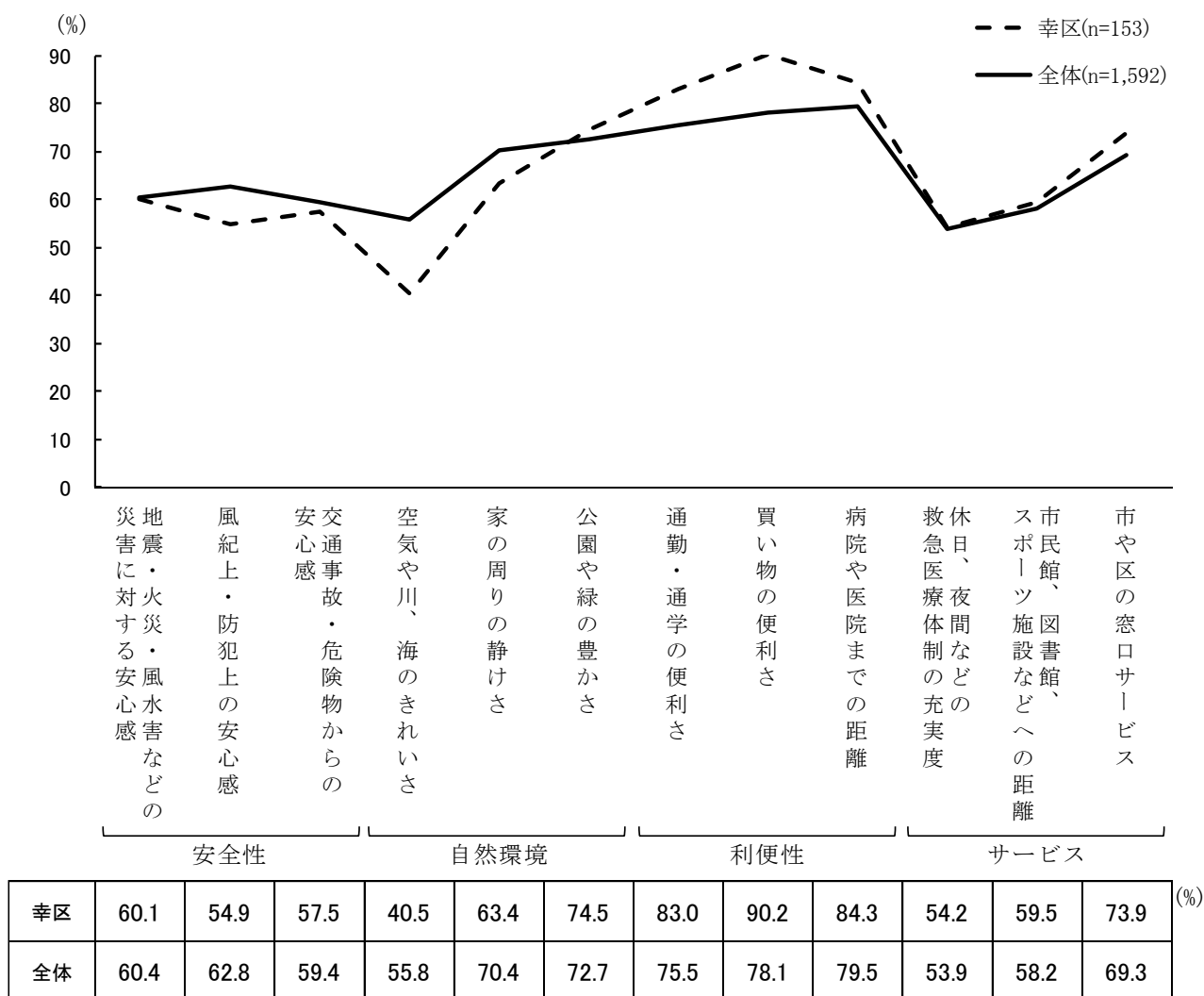


	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
川崎区	58.7	38.6	45.3	36.3	50.7	63.7	84.8	88.3	88.8	65.0	65.0	71.3	
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3	

幸区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「買い物の便利さ」は12.1ポイント、「通勤・通学の便利さ」は7.5ポイント上回った。

一方、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「空気や川、海のきれいさ」は15.3ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は7.9ポイント、「家の周りの静けさ」は7.0ポイント下回った。『サービス』では特に目立った点は見られなかった。

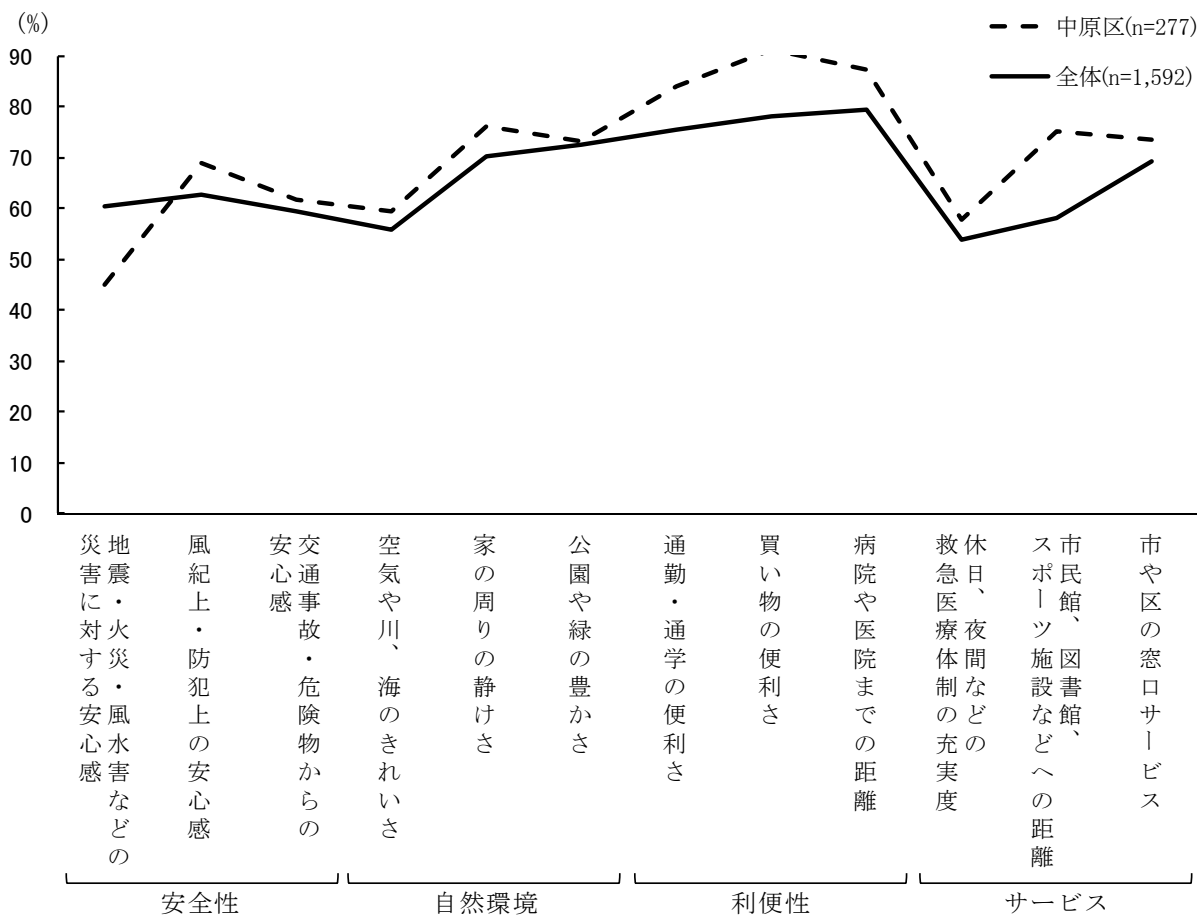
【図表 78】生活環境の満足度（【満足】回答者、幸区）



中原区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は16.9ポイント、「買い物の便利さ」は13.2ポイント、「通勤・通学の便利さ」は8.6ポイント、「病院や医院までの距離」は7.9ポイント、「家の周りの静けさ」が5.8ポイント上回った。

『安全性』の項目は、市全体の満足度と比較して「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が15.3ポイント下回り、「風紀上・防犯上の安心感」が6.2ポイント上回った。

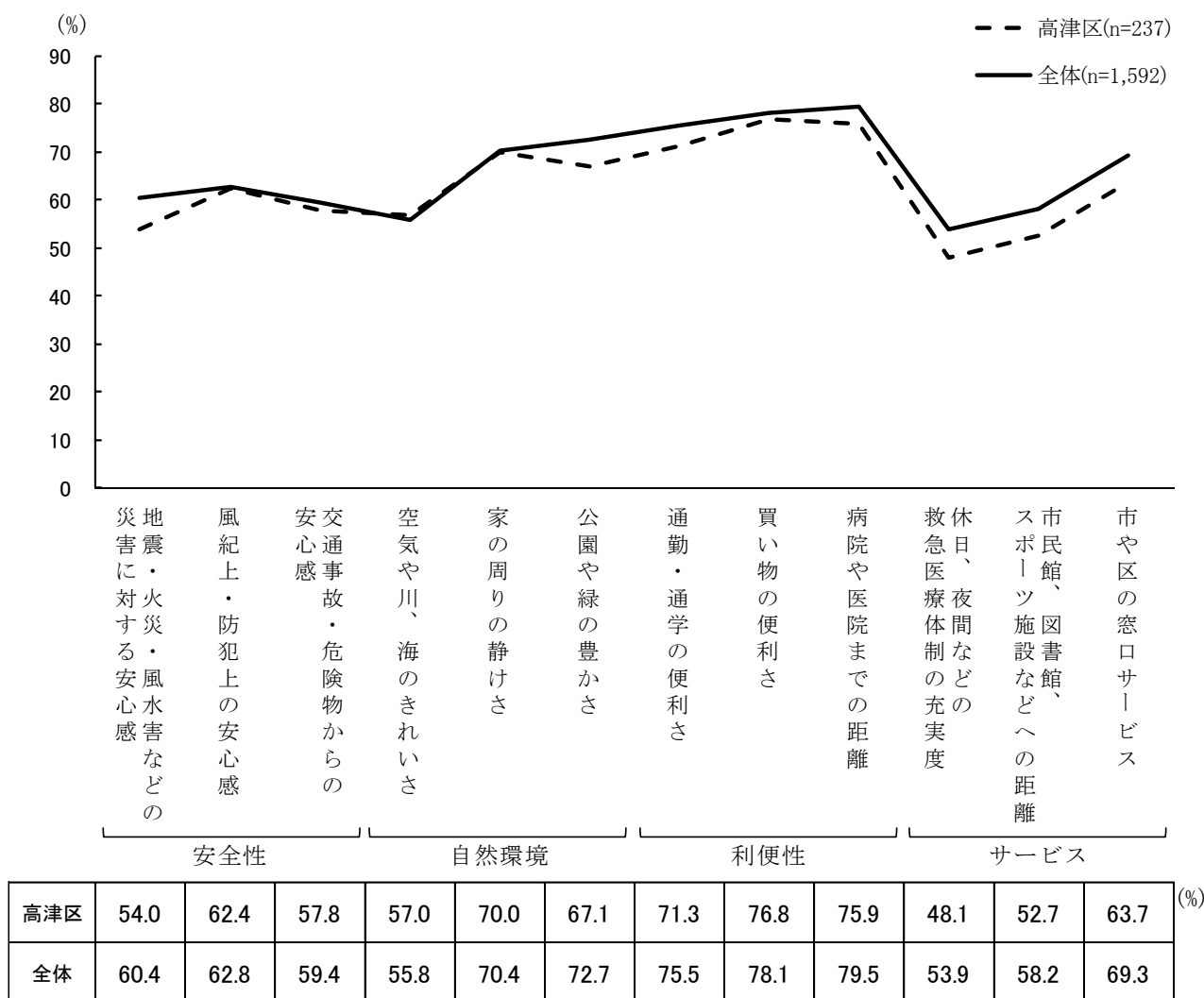
【図表 79】生活環境の満足度（【満足】回答者、中原区）



	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
中原区	45.1	69.0	61.7	59.6	76.2	73.3	84.1	91.3	87.4	57.8	75.1	73.6	
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3	

高津区と市全体の満足度を比較すると、すべての項目において市全体の満足度と同水準か下回っており、『安全性』の項目は「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が6.4ポイント下回り、『自然環境』の項目は「公園や緑の豊かさ」が5.6ポイント下回った。また、『サービス』の項目は3項目とも市の満足度を5ポイント程度下回り、『利便性』では特に目立った点は見られなかった。

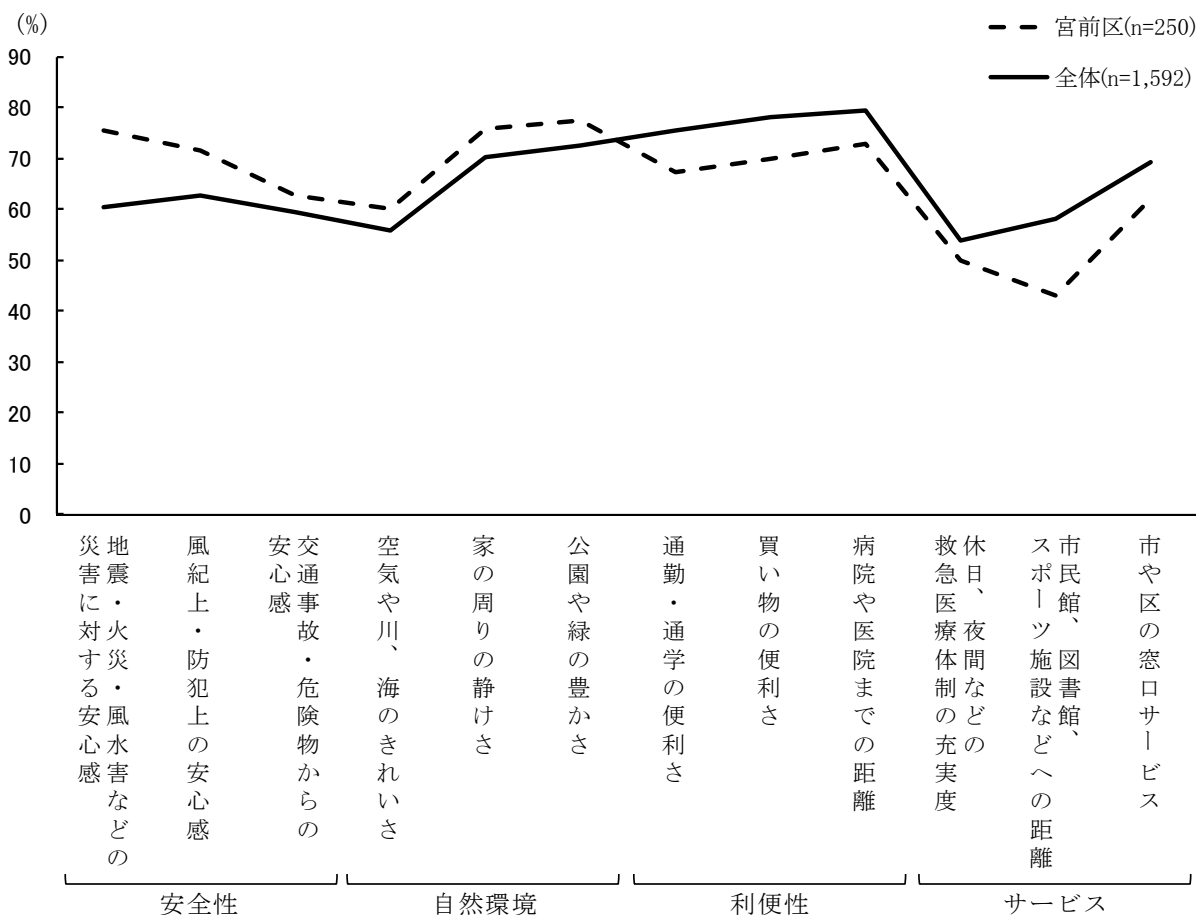
【図表 80】生活環境の満足度（【満足】回答者、高津区）



宮前区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っており、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は15.2ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は8.8ポイント、「家の周りの静けさ」は5.6ポイント上回った。

一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は15.0ポイント、「通勤・通学の便利さ」は8.3ポイント、「買い物の便利さ」は8.1ポイント、「市や区の窓口サービス」は7.3ポイント、「病院や医院までの距離」は6.7ポイント下回った。

【図表 81】 生活環境の満足度（【満足】回答者、宮前区）

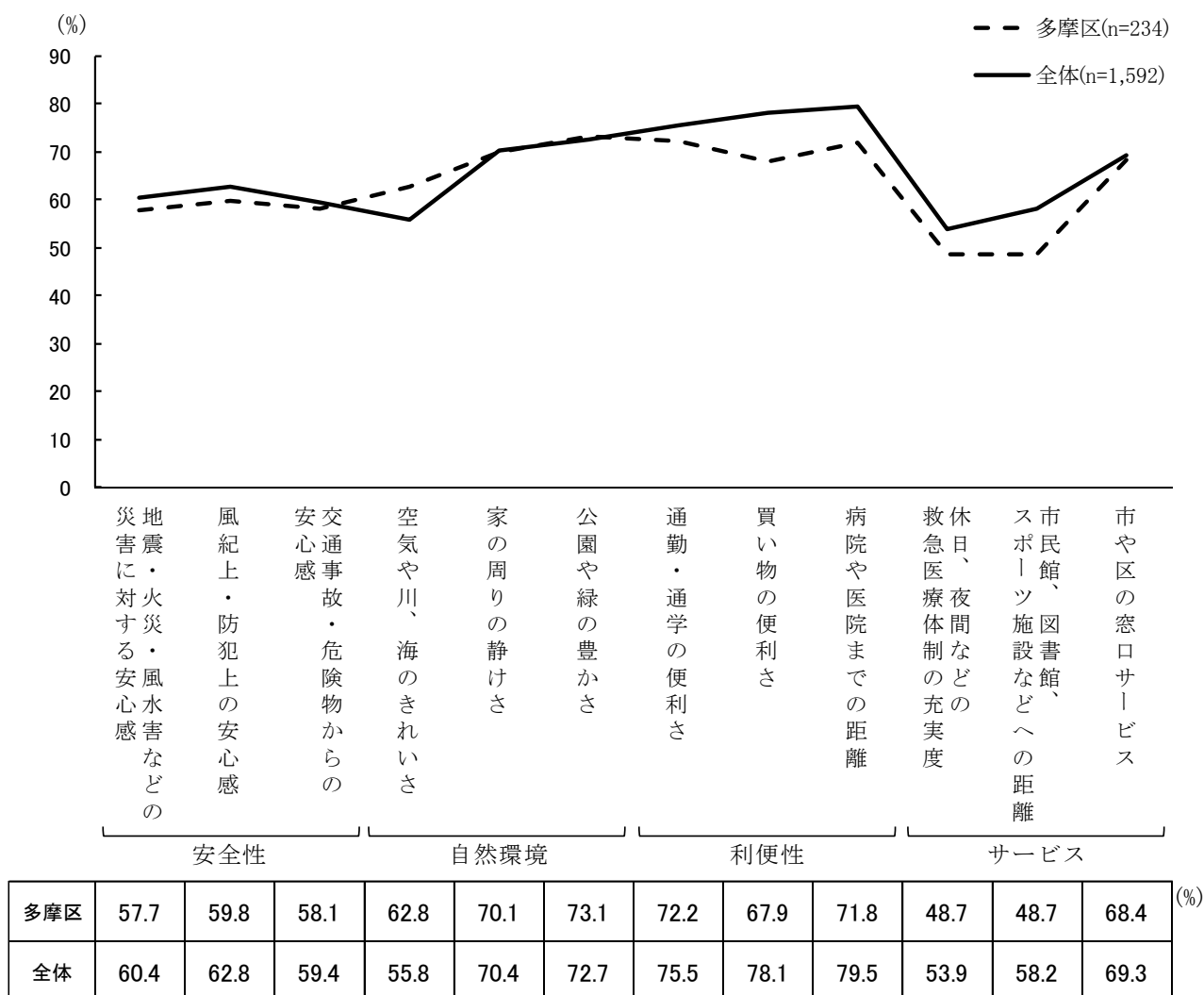


	安全性			自然環境			利便性			サービス		
宮前区	75.6	71.6	62.8	60.0	76.0	77.6	67.2	70.0	72.8	50.0	43.2	62.0
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3

多摩区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』では「空気や川、海のきれいさ」が7.0ポイント上回り、その他の項目は市全体の満足度と同水準であった。

一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「買い物の便利さ」は10.2ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は9.5ポイント、「病院や医院までの距離」は7.7ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は5.2ポイント下回った。『安全性』では特に目立った点は見られなかった。

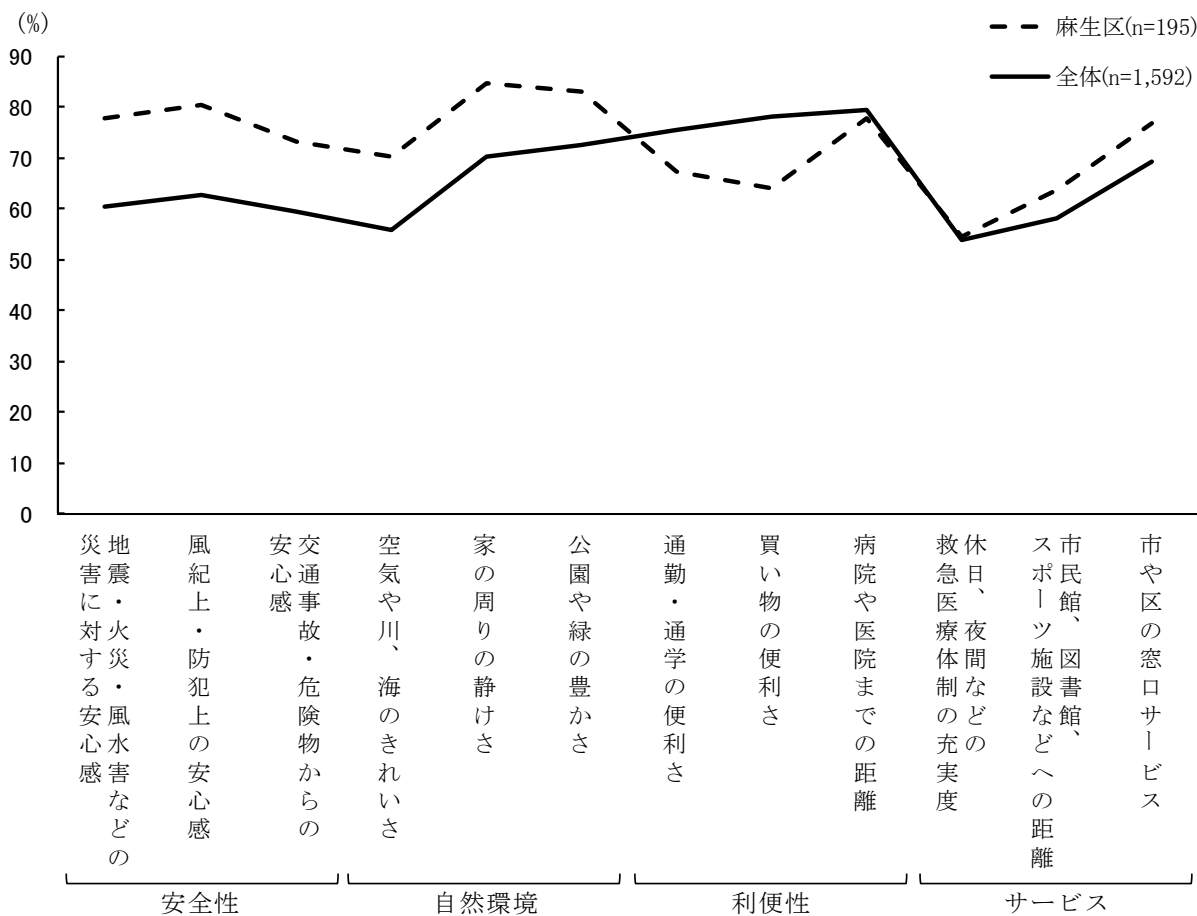
【図表 82】生活環境の満足度（【満足】回答者、多摩区）



麻生区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を10ポイント以上上回っている。また、『サービス』の項目も市全体の満足度と同水準か上回っており、「市や区の窓口サービス」は7.6ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は5.4ポイント上回った。

一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度と同水準か下回っており、「買い物の便利さ」は14.0ポイント、「通勤・通学の便利さ」は8.3ポイント下回った。

【図表 83】生活環境の満足度（【満足】回答者、麻生区）



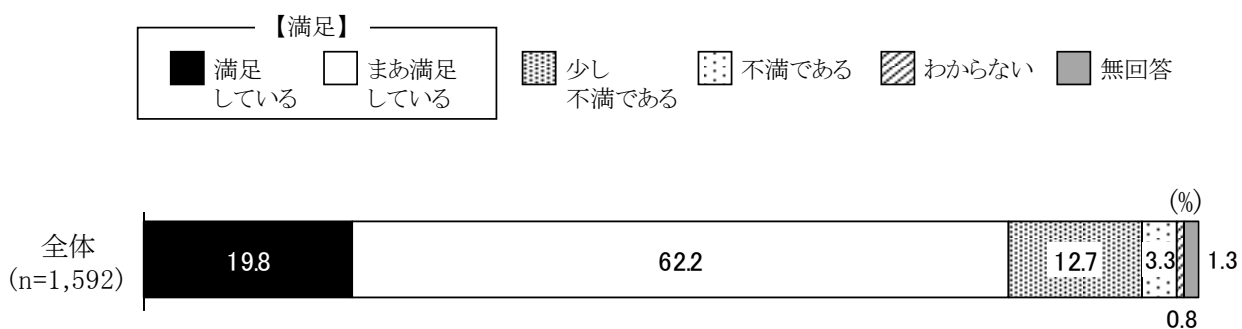
	安全性			自然環境			利便性			サービス		
麻生区	77.9	80.5	73.3	70.3	84.6	83.1	67.2	64.1	77.9	54.4	63.6	76.9
全体	60.4	62.8	59.4	55.8	70.4	72.7	75.5	78.1	79.5	53.9	58.2	69.3

(2) 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

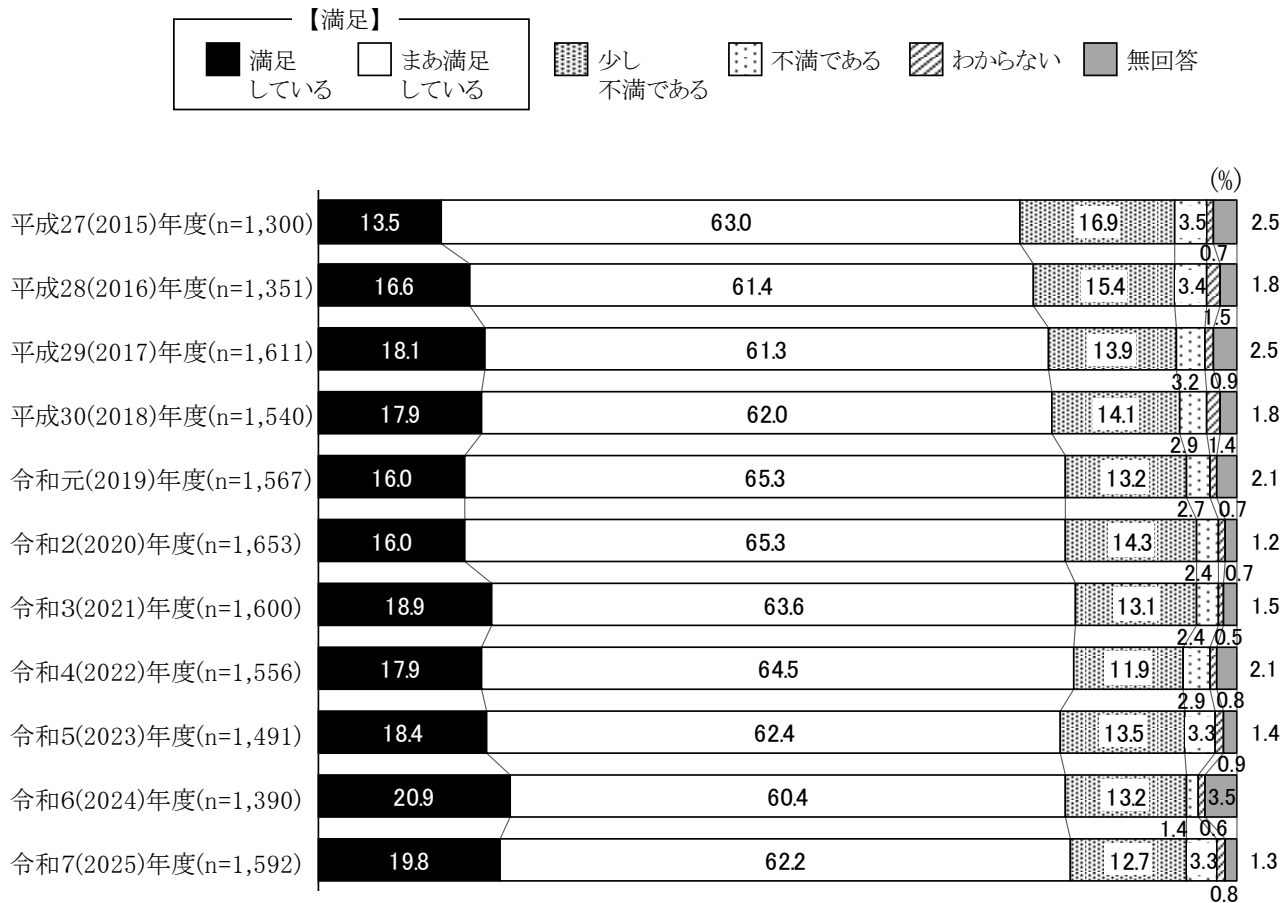
「満足している」(19.8%)と「まあ満足している」(62.2%)を合計した【満足】は82.0%であった。

【図表 84】総合的な生活環境の満足度



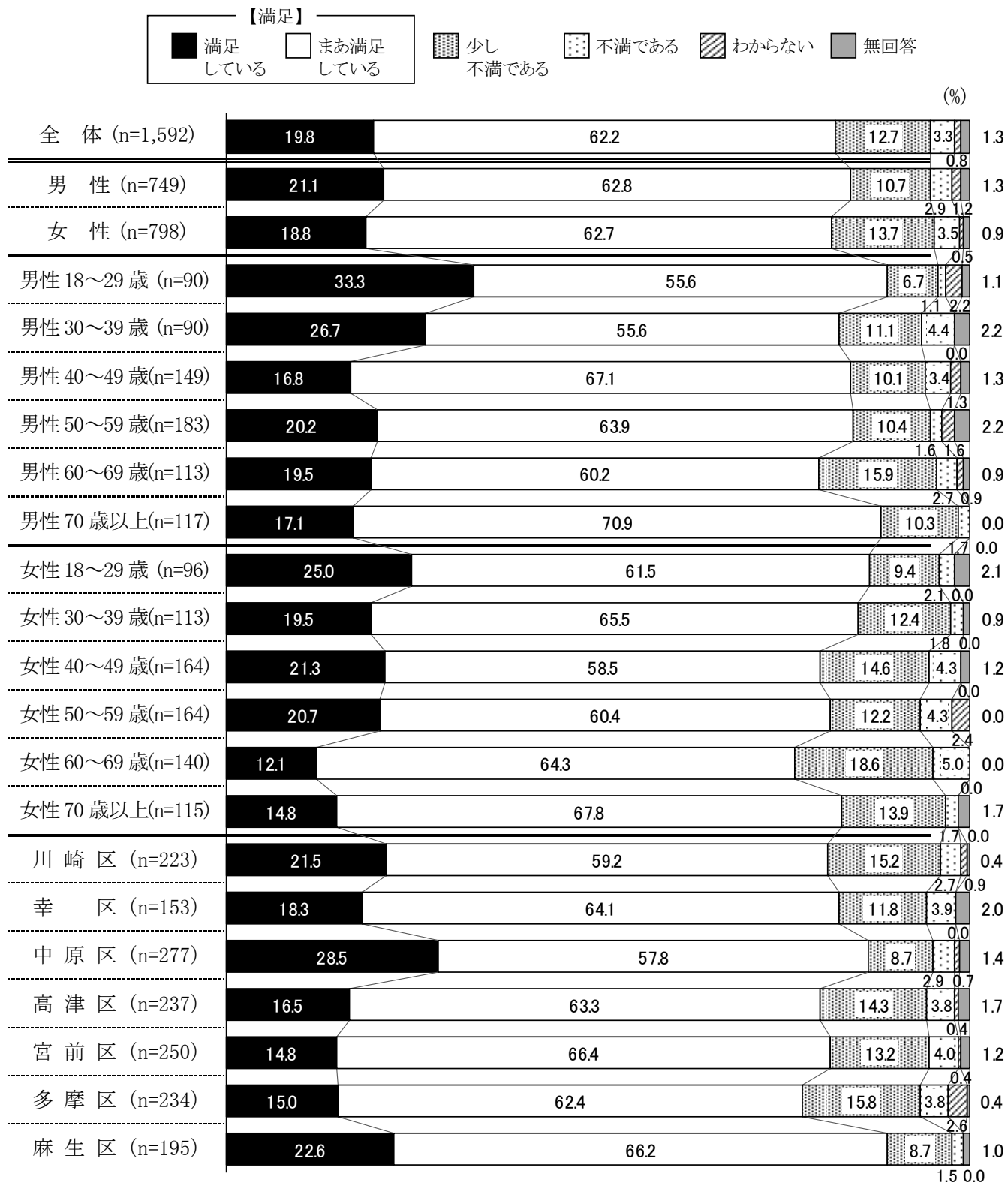
過去の推移では、【満足】は令和元(2019)年度以降8割前半で推移しているが、10年前(平成27年度)と比較すると5.5ポイントの増加となっている。

【図表 85】総合的な生活環境の満足度(経年比較)



性／年齢別に見ると、【満足】の割合は、男女ともに18～29歳が最も高く、60～69歳が最も低い。居住区別では、【満足】の割合は「麻生区」(88.7%)が最も高く、「多摩区」(77.4%)が最も低い。

【図表 86】総合的な生活環境の満足度（性別、性／年齢別、居住区別）



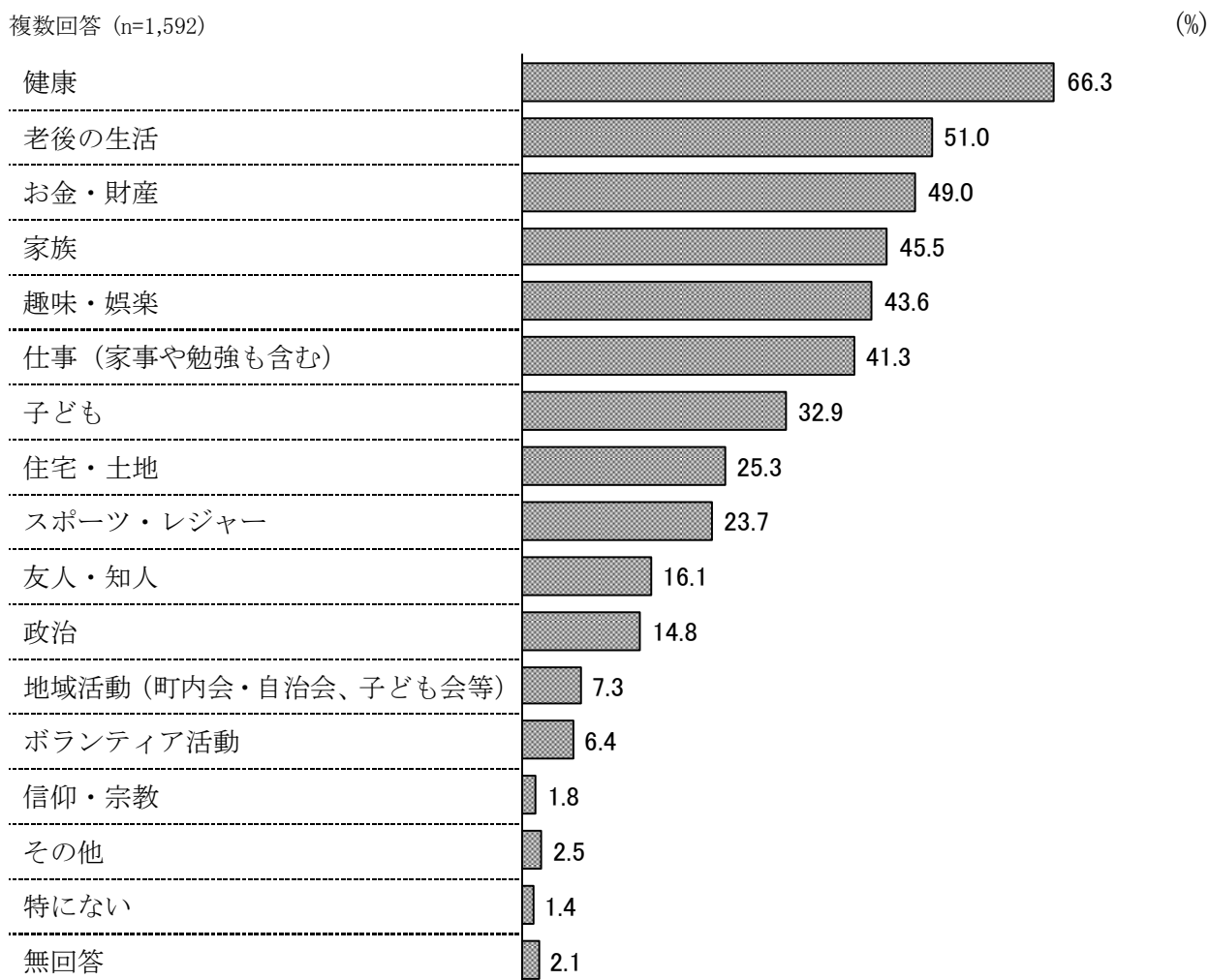
2.3 関心ごとと行動範囲について

(1) 関心を持っていること

問7. あなたが、現在特に関心をお持ちのことは何ですか。

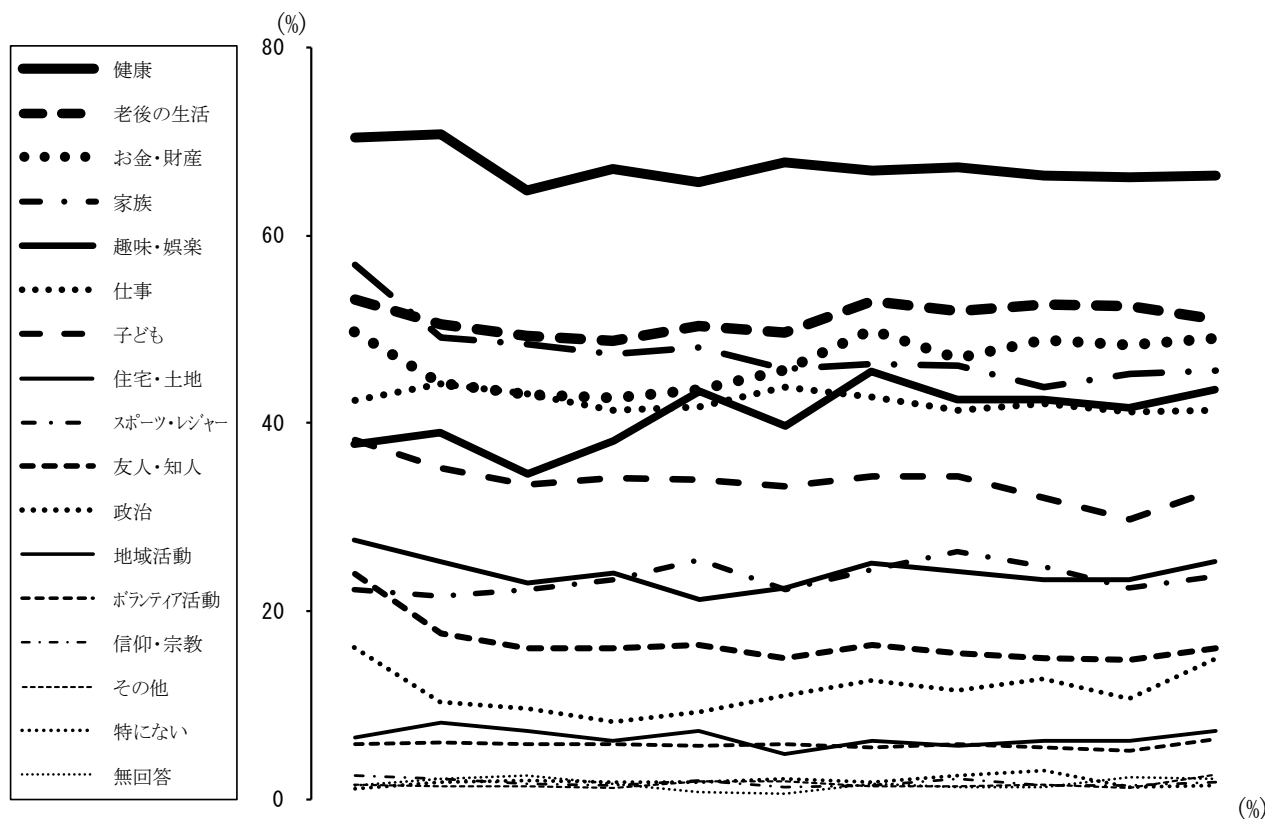
現在特に関心を持っていることを選んでもらったところ、「健康」が66.3%で最も高く、次いで「老後の生活」(51.0%)、「お金・財産」(49.0%)と続いている。

【図表 87】関心を持っていること（複数回答）



平成 27 (2015) 年度からの推移を見ると、「健康」は常に 2 位以下を 10 ポイント以上上回って最も高く、令和 3 (2021) 年度以降、「健康」、「老後の生活」、「お金・財産」が上位 3 位を占めている。

【図表 88】 関心を持っていること (複数回答)
(経年比較)



	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年
健康	70.4	70.8	64.8	67.1	65.7	67.8	66.9	67.2	66.3	66.1	66.3
老後の生活	53.1	50.5	49.2	48.8	50.3	49.7	52.9	51.9	52.6	52.4	51.0
お金・財産	49.8	44.3	43.1	42.6	43.5	45.7	49.9	46.9	48.8	48.3	49.0
家族	56.9	49.1	48.4	47.3	48.0	45.8	46.3	46.1	43.8	45.2	45.5
趣味・娯楽	37.7	39.0	34.6	38.1	43.4	39.7	45.5	42.5	42.5	41.7	43.6
仕事	42.5	44.1	43.2	41.3	41.7	43.9	42.7	41.4	42.1	41.2	41.3
子ども	38.2	35.2	33.5	34.2	34.0	33.2	34.3	34.4	32.0	29.7	32.9
住宅・土地	27.5	25.2	22.9	24.0	21.3	22.5	25.1	24.2	23.3	23.3	25.3
スポーツ・レジャー	22.2	21.5	22.2	23.4	25.5	22.2	24.4	26.4	24.7	22.4	23.7
友人・知人	24.0	17.6	16.0	16.0	16.3	14.9	16.3	15.5	15.0	14.8	16.1
政治	16.2	10.3	9.6	8.2	9.3	11.1	12.6	11.6	12.8	10.7	14.8
地域活動	6.6	8.1	7.3	6.2	7.2	4.8	6.2	5.7	6.2	6.2	7.3
ボランティア活動	5.9	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9	5.5	5.8	5.4	5.1	6.4
信仰・宗教	2.5	2.1	1.6	1.4	1.9	1.3	1.4	2.1	1.5	1.4	1.8
その他	1.5	1.3	1.4	1.2	1.9	1.8	1.4	1.3	1.5	1.2	2.5
特にない	1.0	1.7	1.9	1.8	1.8	2.1	1.8	2.4	3.0	1.3	1.4
無回答	1.4	2.1	2.4	1.6	0.8	0.6	1.6	1.3	1.2	2.3	2.1

性／年齢別に見ると、「健康」は男性の60歳代以上、女性の50歳代以上が7割を超え、「老後の生活」は男女ともに50歳代以上が6割を超えている。また、「お金・財産」は男性30～39歳、女性18～29歳が6割を超えて高くなっている。

【図表 89】 関心を持っていること（複数回答）（性／年齢別）

（%）

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(749)	(90)	(90)	(149)	(183)	(113)	(117)
健康	66.3	62.9	36.7	55.6	56.4	65.0	76.1	82.1
老後の生活	51.0	48.9	12.2	22.2	35.6	62.3	77.0	66.7
お金・財産	49.0	49.1	48.9	60.0	55.7	49.2	45.1	37.6
家族	45.5	45.0	28.9	57.8	55.0	45.9	36.3	42.7
趣味・娯楽	43.6	43.4	62.2	50.0	48.3	38.8	36.3	33.3
仕事(家事や勉強も含む)	41.3	39.4	48.9	51.1	51.7	48.1	29.2	5.1
子ども	32.9	31.4	15.6	50.0	55.0	29.5	16.8	15.4
住宅・土地	25.3	26.7	26.7	36.7	35.6	23.5	20.4	17.9
スポーツ・レジャー	23.7	27.9	40.0	26.7	36.9	25.7	20.4	19.7
友人・知人	16.1	15.6	31.1	26.7	12.8	8.2	14.2	12.8
政治	14.8	17.2	14.4	12.2	22.8	15.8	17.7	17.1
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	7.3	8.9	6.7	8.9	9.4	6.0	7.1	17.1
ボランティア活動	6.4	6.4	8.9	4.4	3.4	7.1	6.2	9.4
信仰・宗教	1.8	1.6	2.2	4.4	1.3	0.0	1.8	0.9
その他	2.5	2.3	2.2	1.1	0.7	3.3	3.5	2.6
特にない	1.4	1.1	2.2	0.0	1.3	0.5	0.9	0.9
無回答	2.1	2.3	0.0	1.1	3.4	2.7	0.9	4.3

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,592)	(798)	(96)	(113)	(164)	(164)	(140)	(115)
健康	66.3	69.8	38.5	54.0	67.7	76.2	85.0	85.2
老後の生活	51.0	53.3	10.4	24.8	43.9	76.2	72.9	73.9
お金・財産	49.0	49.0	63.5	52.2	53.0	49.4	45.0	31.3
家族	45.5	46.6	37.5	51.3	49.4	50.6	41.4	45.2
趣味・娯楽	43.6	44.0	61.5	40.7	48.2	43.9	38.6	33.9
仕事(家事や勉強も含む)	41.3	42.7	58.3	47.8	56.1	47.0	29.3	14.8
子ども	32.9	34.6	21.9	62.8	60.4	26.8	14.3	15.7
住宅・土地	25.3	23.9	17.7	35.4	25.6	26.8	19.3	13.9
スポーツ・レジャー	23.7	19.4	20.8	17.7	25.6	21.3	18.6	9.6
友人・知人	16.1	16.0	17.7	16.8	15.9	15.9	13.6	17.4
政治	14.8	12.0	10.4	6.2	10.4	11.6	10.7	20.9
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	7.3	5.9	3.1	4.4	10.4	3.0	5.0	8.7
ボランティア活動	6.4	6.3	3.1	2.7	6.1	9.1	6.4	8.7
信仰・宗教	1.8	2.0	2.1	0.9	0.6	3.0	2.1	3.5
その他	2.5	2.8	2.1	3.5	3.0	2.4	2.9	1.7
特にない	1.4	1.8	1.0	0.0	2.4	1.8	2.9	1.7
無回答	2.1	1.8	2.1	1.8	0.6	1.8	0.7	4.3

(2) 行動範囲

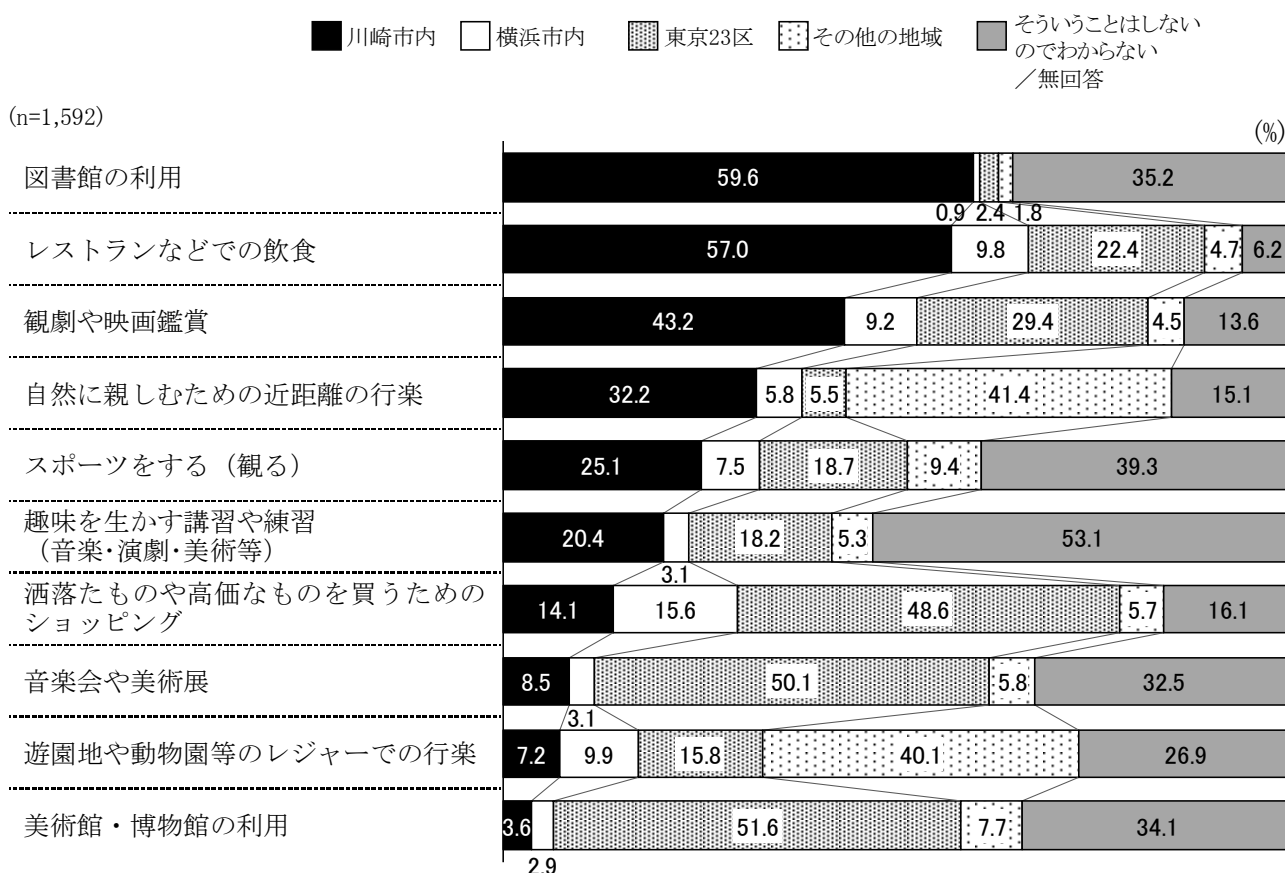
問8. あなたは、行楽や文化施設の利用・買い物などをされる場合、主にどこに行かれますか。それぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。

川崎市民の行動範囲で『川崎市内』の割合が最も高いのは「図書館の利用」(59.6%)であり、次いで「レストランなどでの飲食」(57.0%)、「観劇や映画鑑賞」(43.2%)と続いている。

『川崎市内』以外で利用率が最も高いのは、『東京23区』の「美術館・博物館の利用」(51.6%)であり、次いで「音楽会や美術展」(50.1%)、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(48.6%)が続いている。

上記以外については、「自然に親しむための近距離の行楽」と「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は『その他の地域』がそれぞれ41.4%、40.1%と最も高く、「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」と「スポーツをする(観る)」は『そういうことはしないのでわからない/無回答』がそれぞれ53.1%、39.3%と最も高かった。

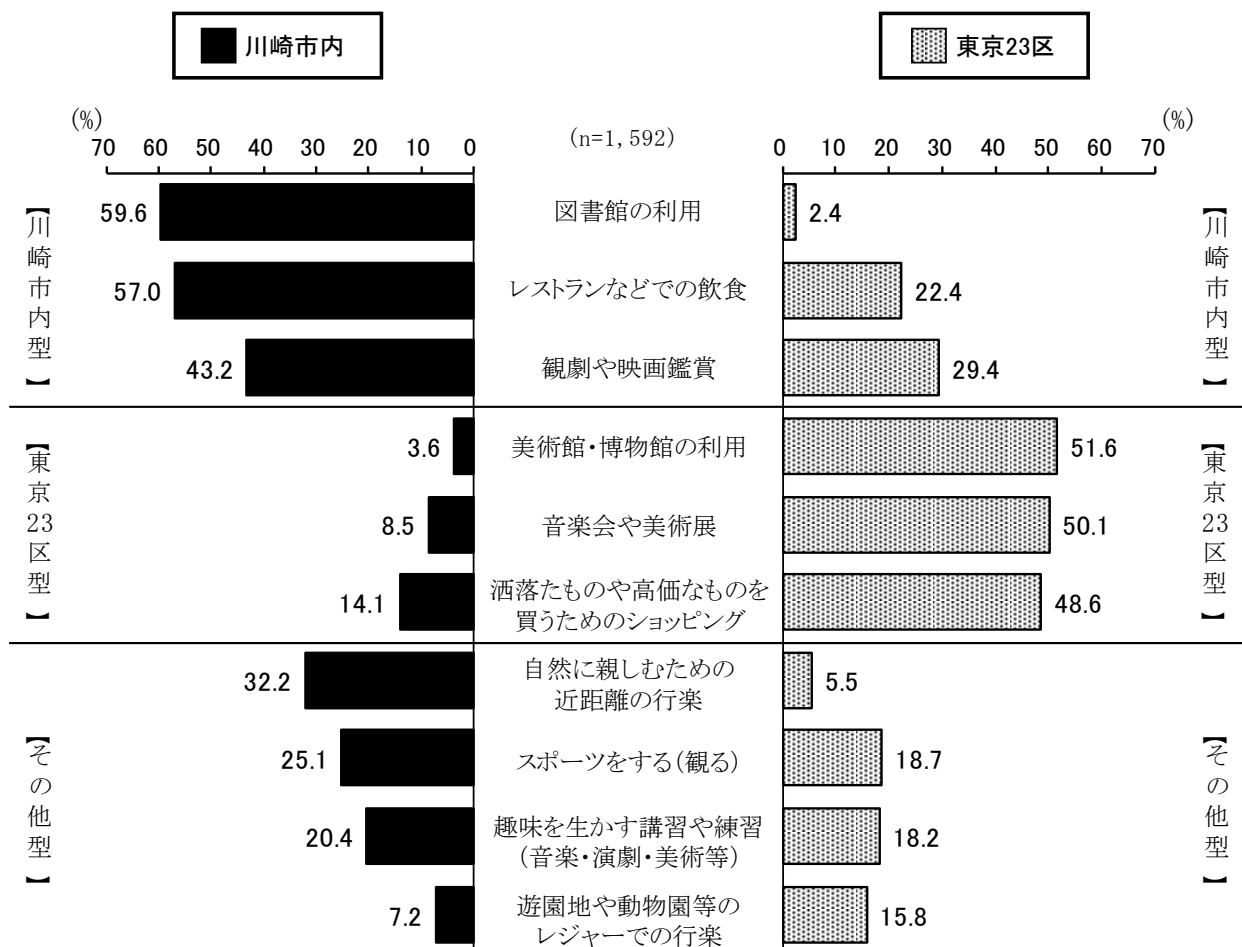
【図表 90】 行動範囲



109ページの【図表 90】をもとに、川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が高いもの、『東京23区』が高いもの、この2つ以外のエリアが高いものの3種類で整理すると次のようになる。

- 【川崎市内型】 図書館の利用
レストランなどでの飲食
観劇や映画鑑賞
- 【東京23区型】 美術館・博物館の利用
音楽会や美術展
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング
- 【その他型】 自然に親しむための近距離の行楽
スポーツをする（観る）
趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）
遊園地や動物園等のレジャーでの行楽

【図表 91】行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』との比較）

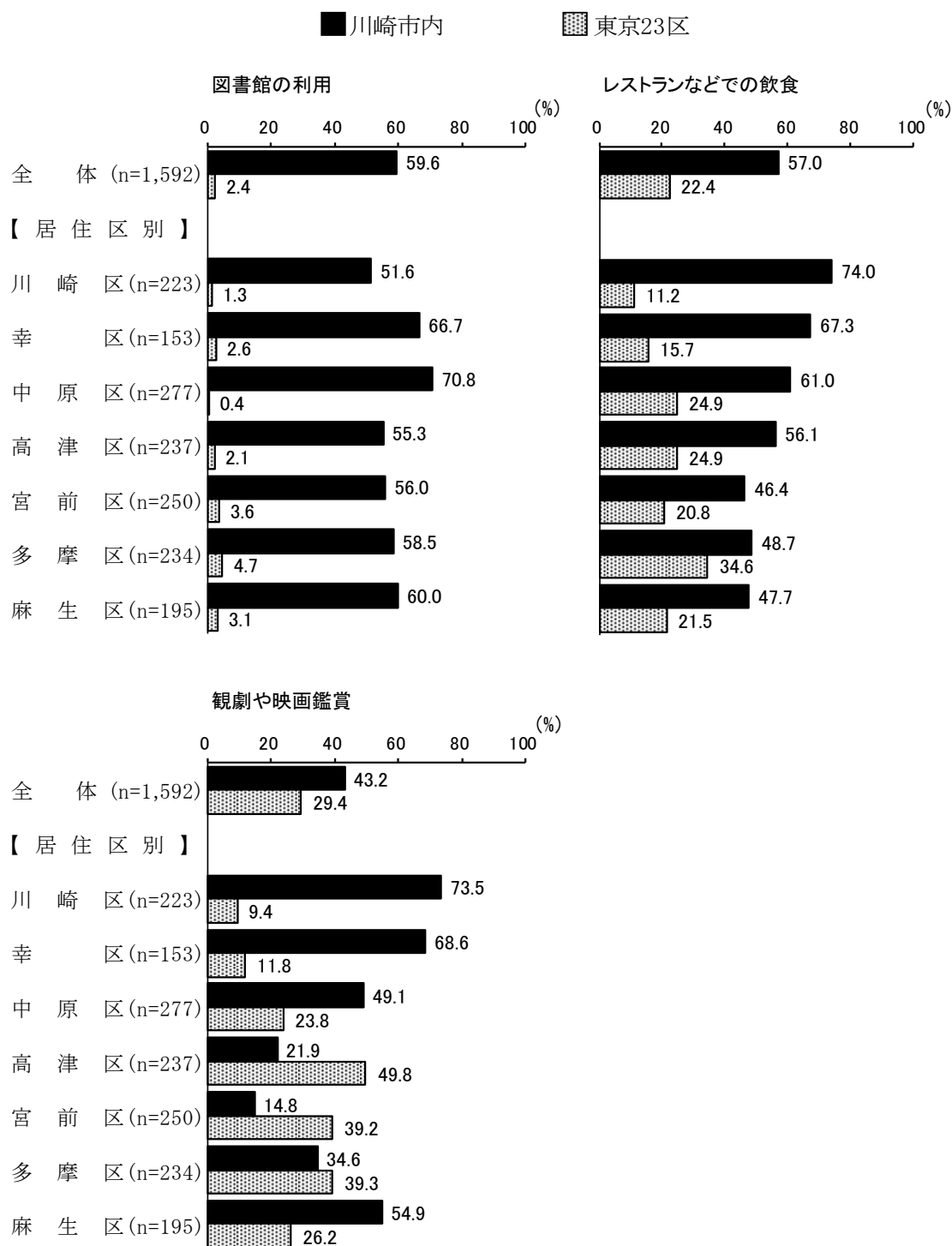


【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「図書館の利用」は『川崎市内』での利用率は「中原区」(70.8%)が最も高く、『東京23区』での利用率は最も高い「多摩区」でも4.7%に留まった。

「レストランなどでの飲食」は『川崎市内』での利用率は「川崎区」(74.0%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「多摩区」(34.6%)が最も高い。

「観劇や映画鑑賞」は『川崎市内』での利用率は「川崎区」(73.5%)が最も高く、「高津区」、「宮前区」、「多摩区」では、『川崎市内』よりも『東京23区』の利用率の方が高かった。

【図表 92】 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別）【川崎市内型】

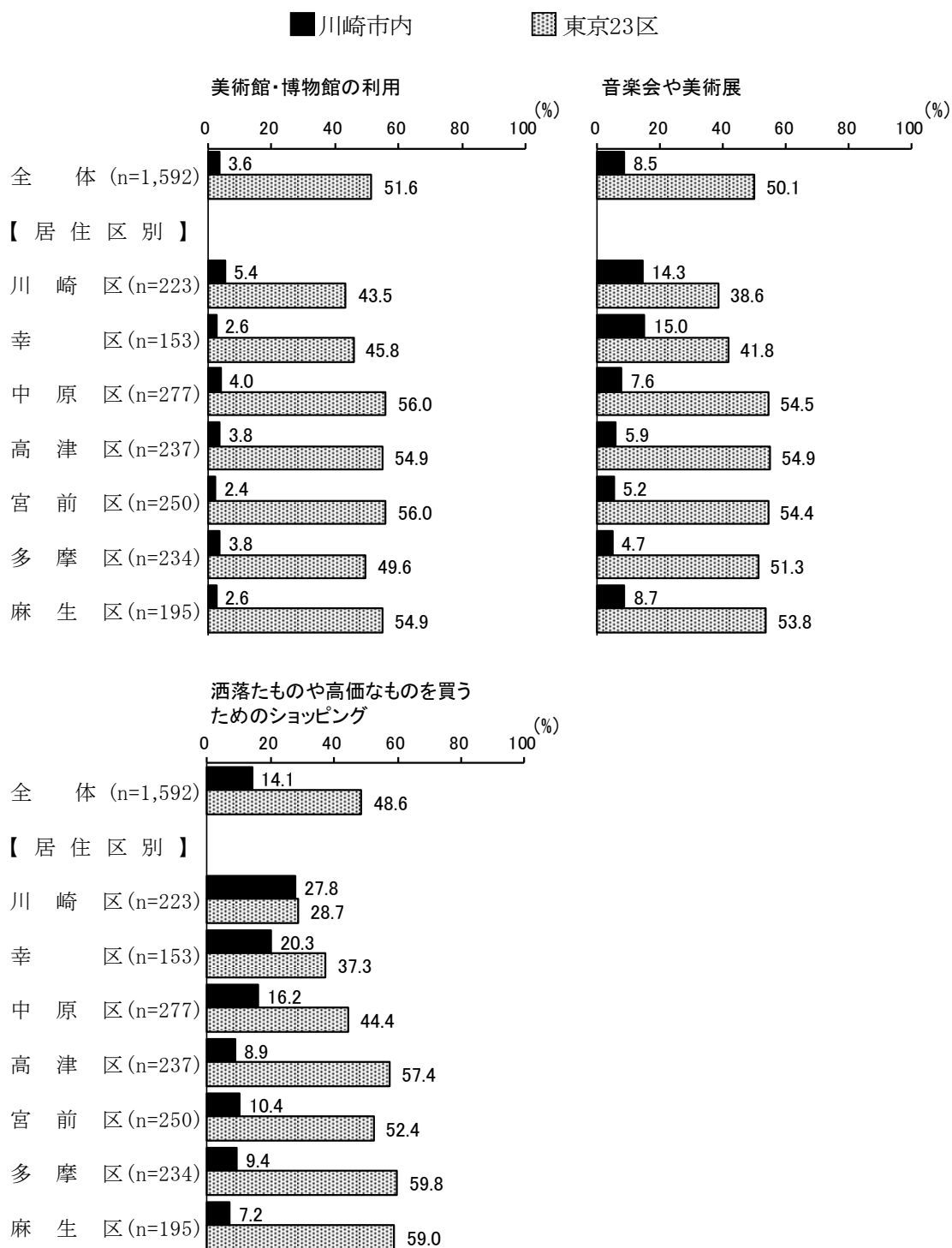


【東京23区型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は『東京23区』での利用率は「中原区」(56.0%)、「宮前区」(56.0%)、「高津区」(54.9%)、「麻生区」(54.9%)で5割を超え、『川崎市内』での利用率はいずれの居住区においても1割未満であった。

「音楽会や美術展」は、『東京23区』での利用率は「川崎区」(38.6%)と「幸区」(41.8%)を除いた居住区で5割を超え、『川崎市内』での利用率は「幸区」(15.0%)が最も高い。

「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は『東京23区』での利用率は「多摩区」(59.8%)が最も高く、『川崎市内』での利用率は「川崎区」(27.8%)が最も高い。

【図表 93】 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別【東京23区型】



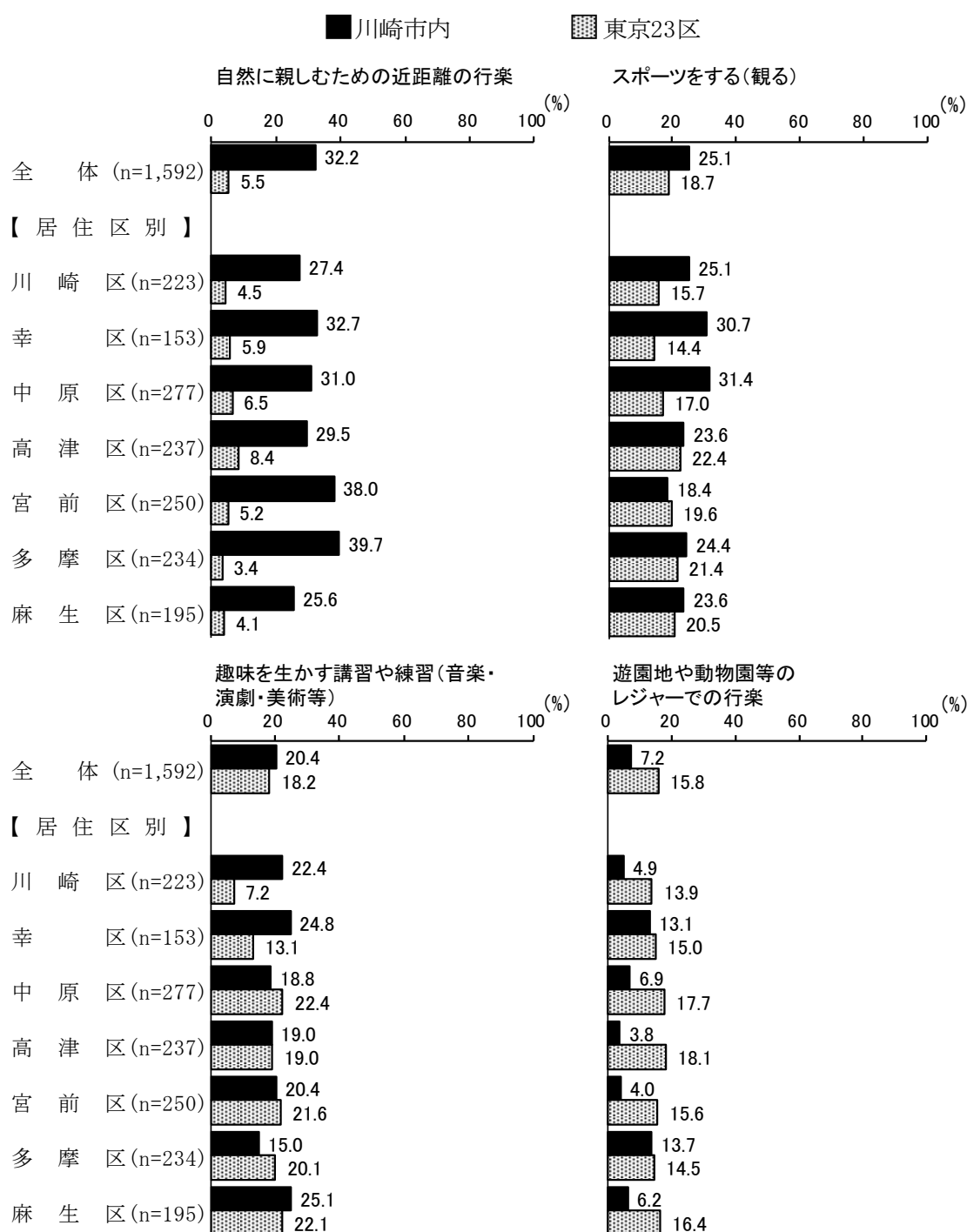
【川崎市内型】と【東京23区型】に分類されない『その他の地域』もしくは『そういうことはしないのでわからない／無回答』の回答率が高い【その他型】の4項目を居住区別で比較すると、「自然に親しむための近距離の行楽」は『川崎市内』での利用率は「多摩区」(39.7%)が最も高く、『東京23区』での利用率はいずれの居住区においても1割未満であった。

「スポーツをする(観る)」は『川崎市内』での利用率は「中原区」(31.4%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「高津区」(22.4%)が最も高い。

「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は『川崎市内』での利用率は「麻生区」(25.1%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「中原区」(22.4%)が最も高い。

「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は『川崎市内』での利用率は「多摩区」(13.7%)が最も高く、『東京23区』での利用率は「高津区」(18.1%)が最も高い。

【図表 94】 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別)【その他型】



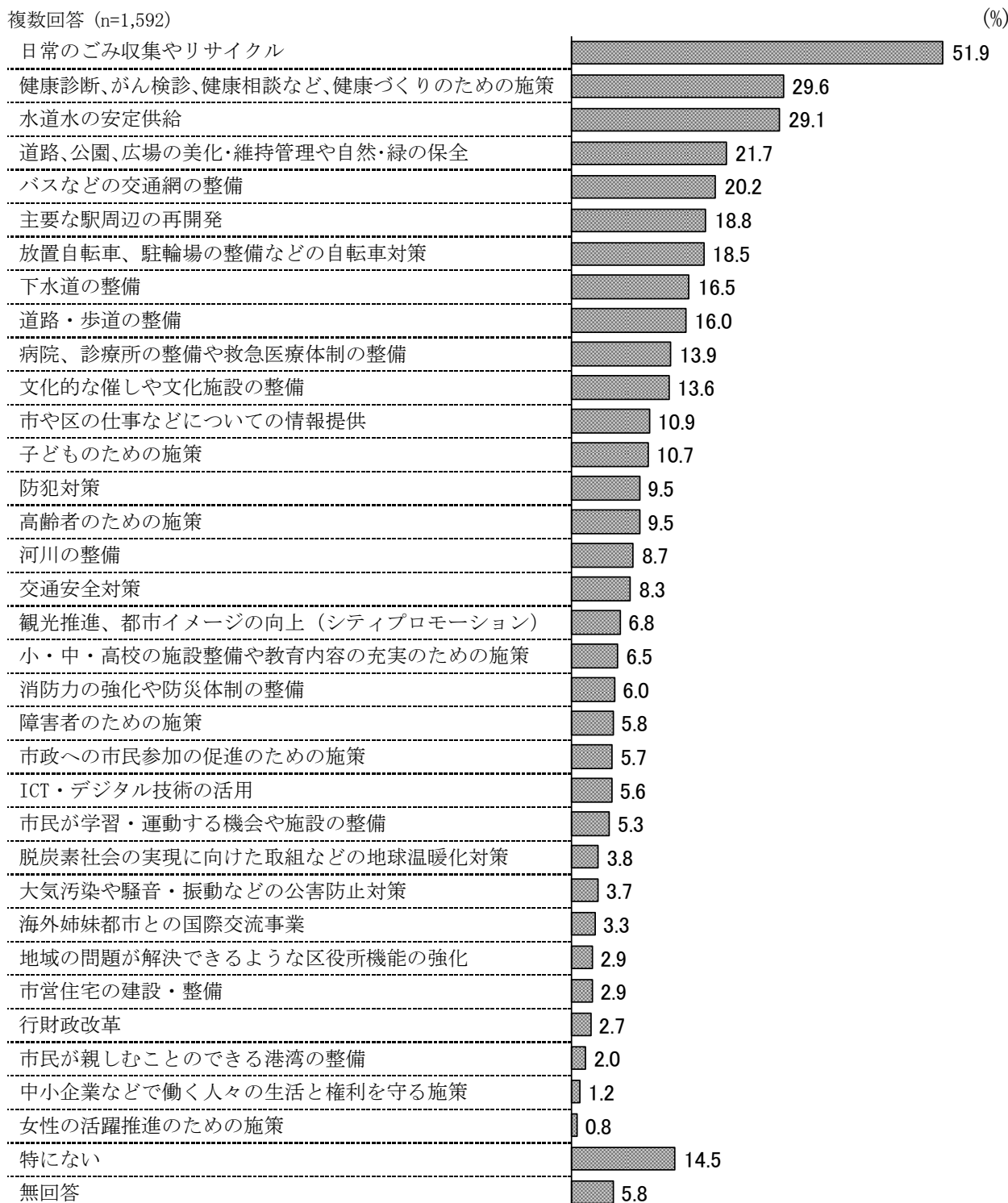
2.4 市政に対する評価と要望について

(1) 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

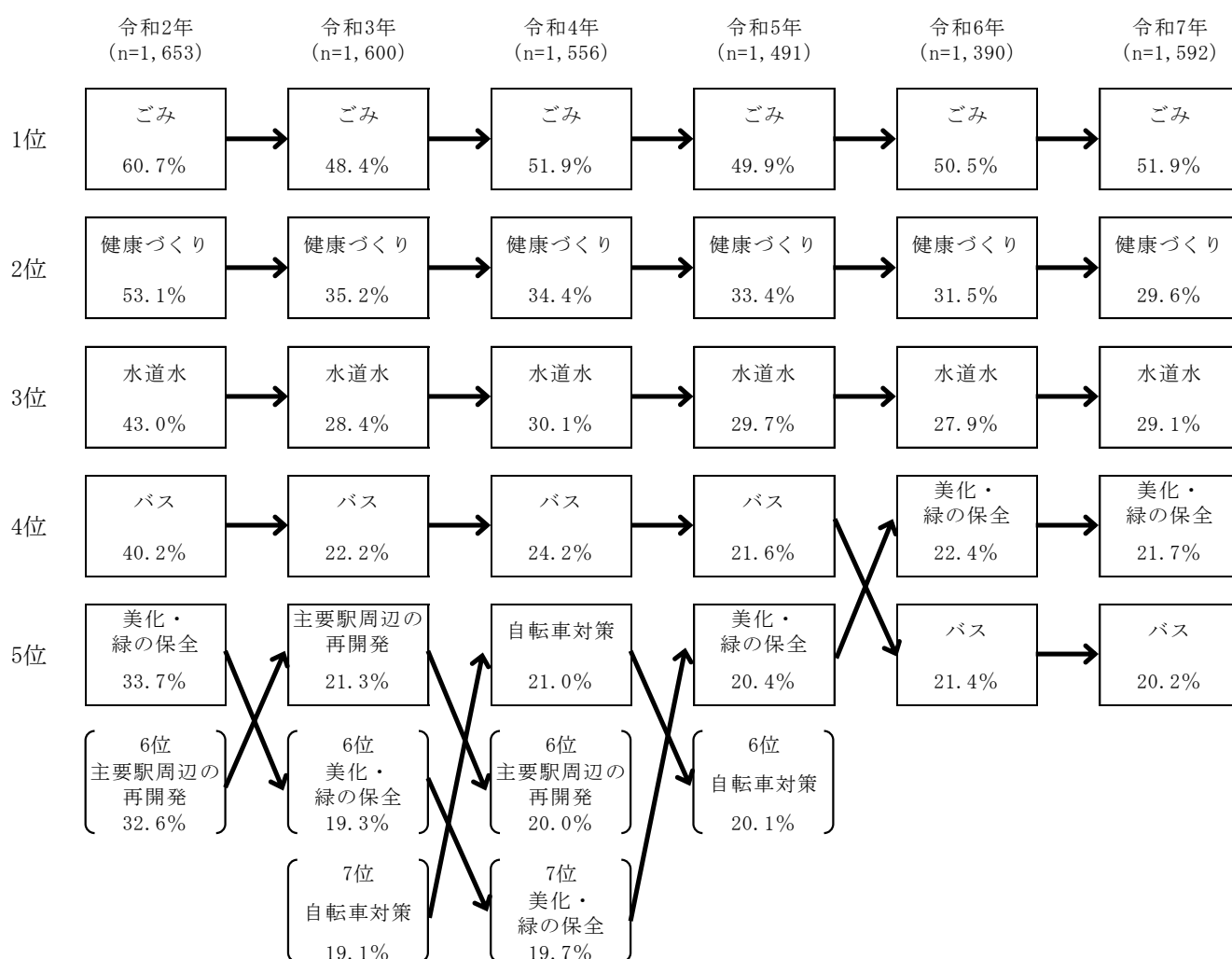
「日常のごみ収集やリサイクル」が51.9%で最も高く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(29.6%)、「水道水の安定供給」(29.1%)と続いている。

【図表 95】 市政の仕事でよくやっていると思うこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、上位3項目は令和2年度以降変わらず、1位が「日常のごみ収集やリサイクル」、2位が「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」、3位が「水道水の安定供給」となっている。令和5年度まで第4位であった「バスなどの交通網の整備」は令和6年度以降第5位となり、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」が第4位となっている。

【図表 96】 市政の仕事でよくやっていると思うこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）

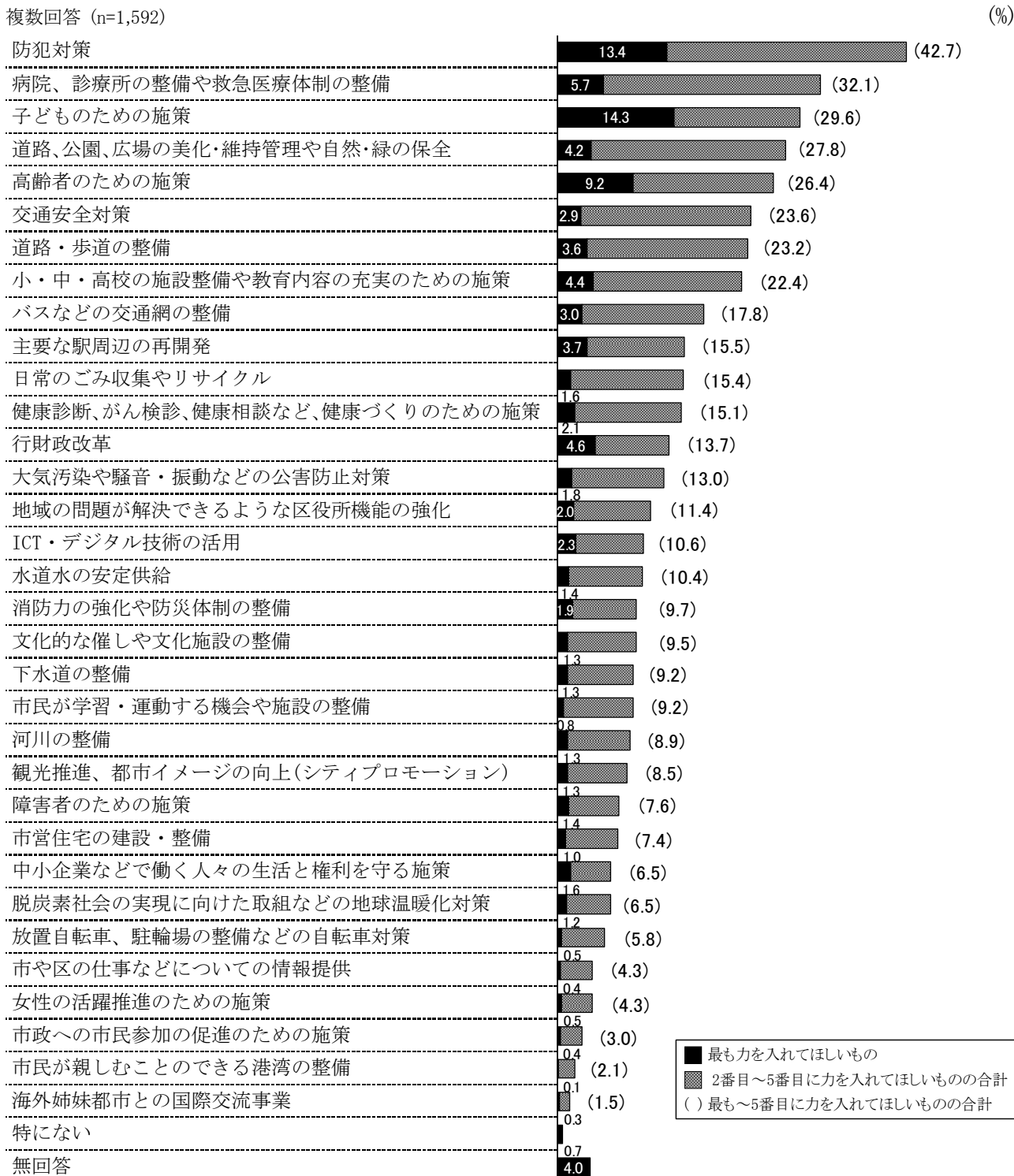


(2) 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問10. 問9の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に5つ選んでください。

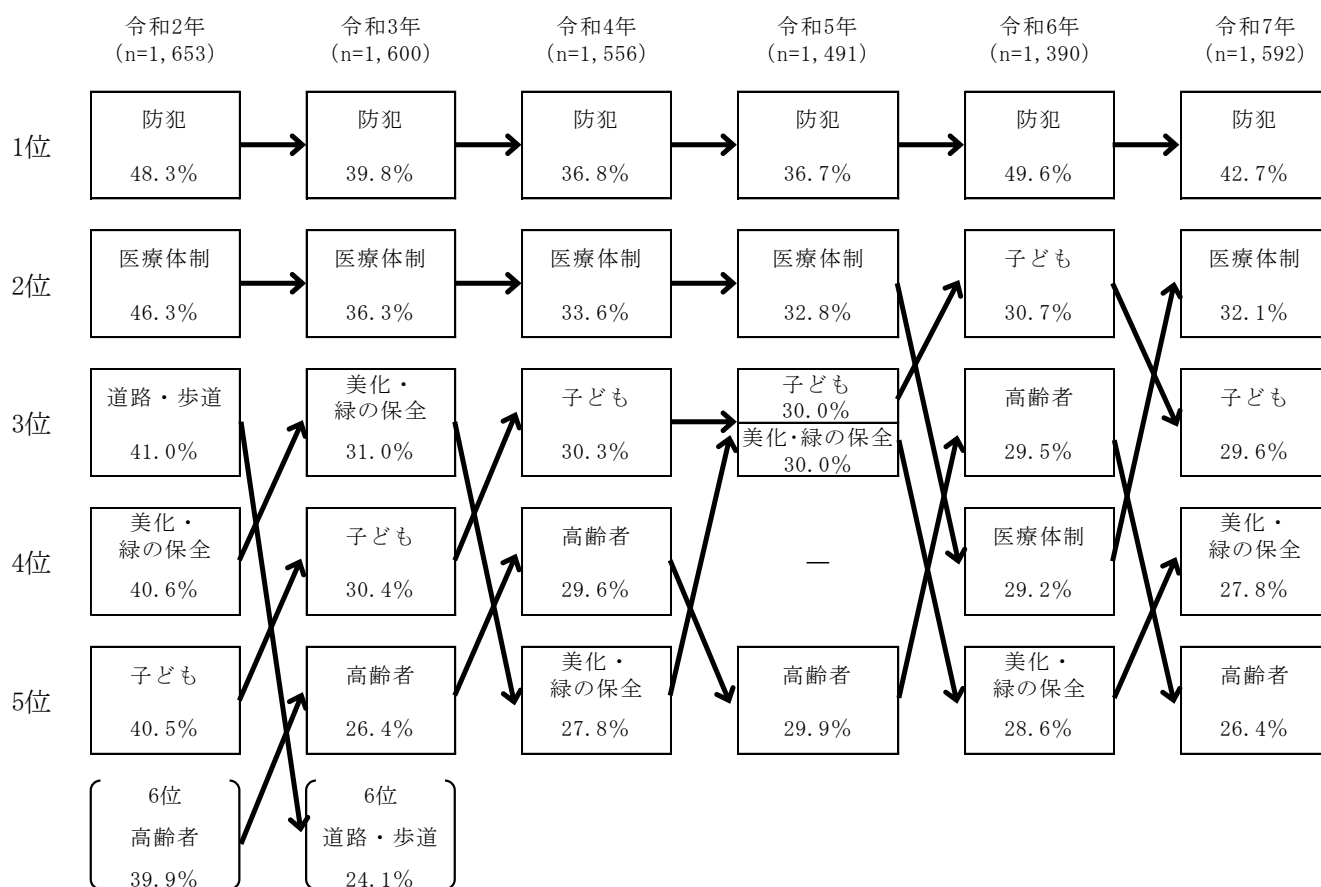
「最も力を入れてほしいもの」～「5番目に力を入れてほしいもの」の合計は、「防犯対策」が42.7%で最も高く、次いで「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(32.1%)、「子どものための施策」(29.6%)と続いている。なお、「最も力を入れてほしいもの」だけで見た場合は、第1位が「子どものための施策」(14.3%)、第2位が「防犯対策」(13.4%)、第3位が「高齢者のための施策」(9.2%)となっている。

【図表 97】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「防犯対策」は全て1位で、上位5項目は令和3年度以降同じ項目となっているが、今回は「医療体制」が4位から2位へ、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」が5位から4位へと順位を上げている。

【図表 98】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）
（過去の調査の上位5項目推移）



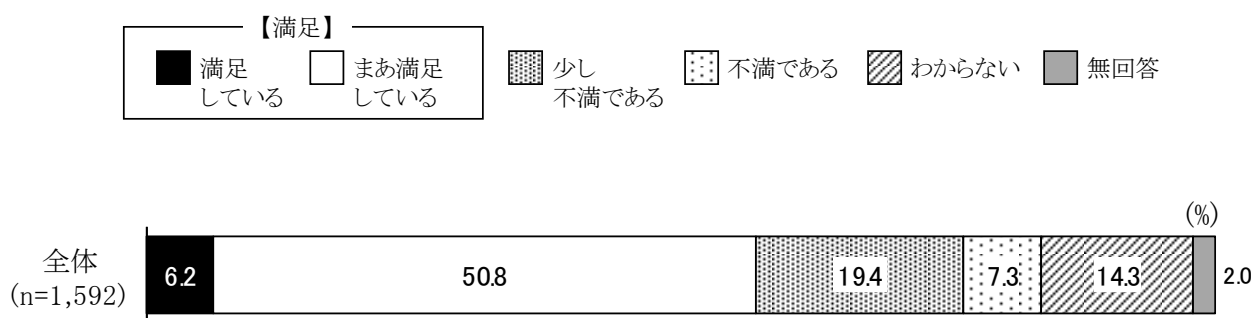
※令和2年度までは選択肢に制限を設けない複数回答にて実施

(3) 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

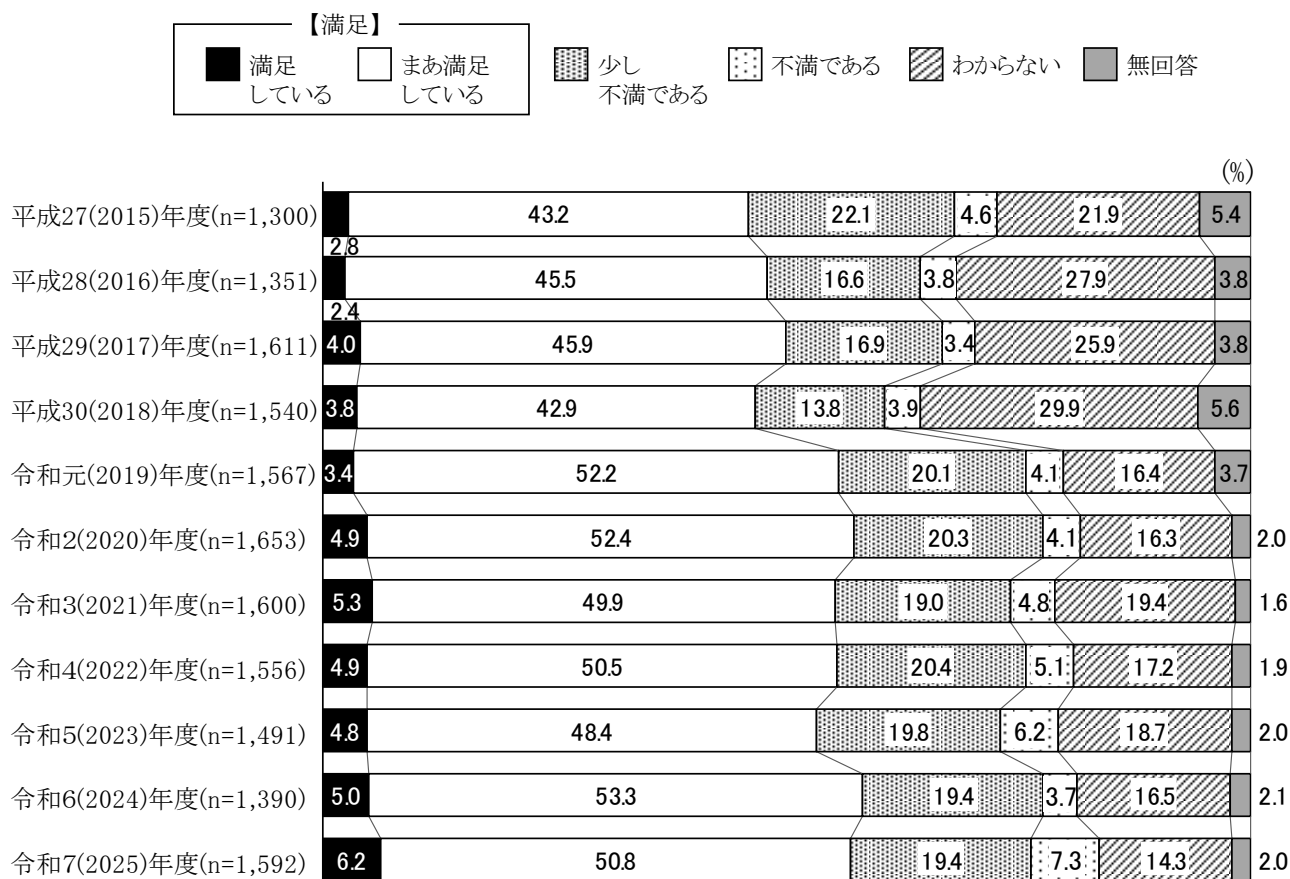
「満足している」(6.2%)と「まあ満足している」(50.8%)を合計した【満足】は56.9%であった。

【図表 99】 施策や事業の総合的な満足度



過去の推移を見ると、【満足】は令和元（2019）年度以降、令和5（2023）年度に若干下がったものの、ほぼ横ばいで推移している。

【図表 100】 施策や事業の総合的な満足度（経年比較）

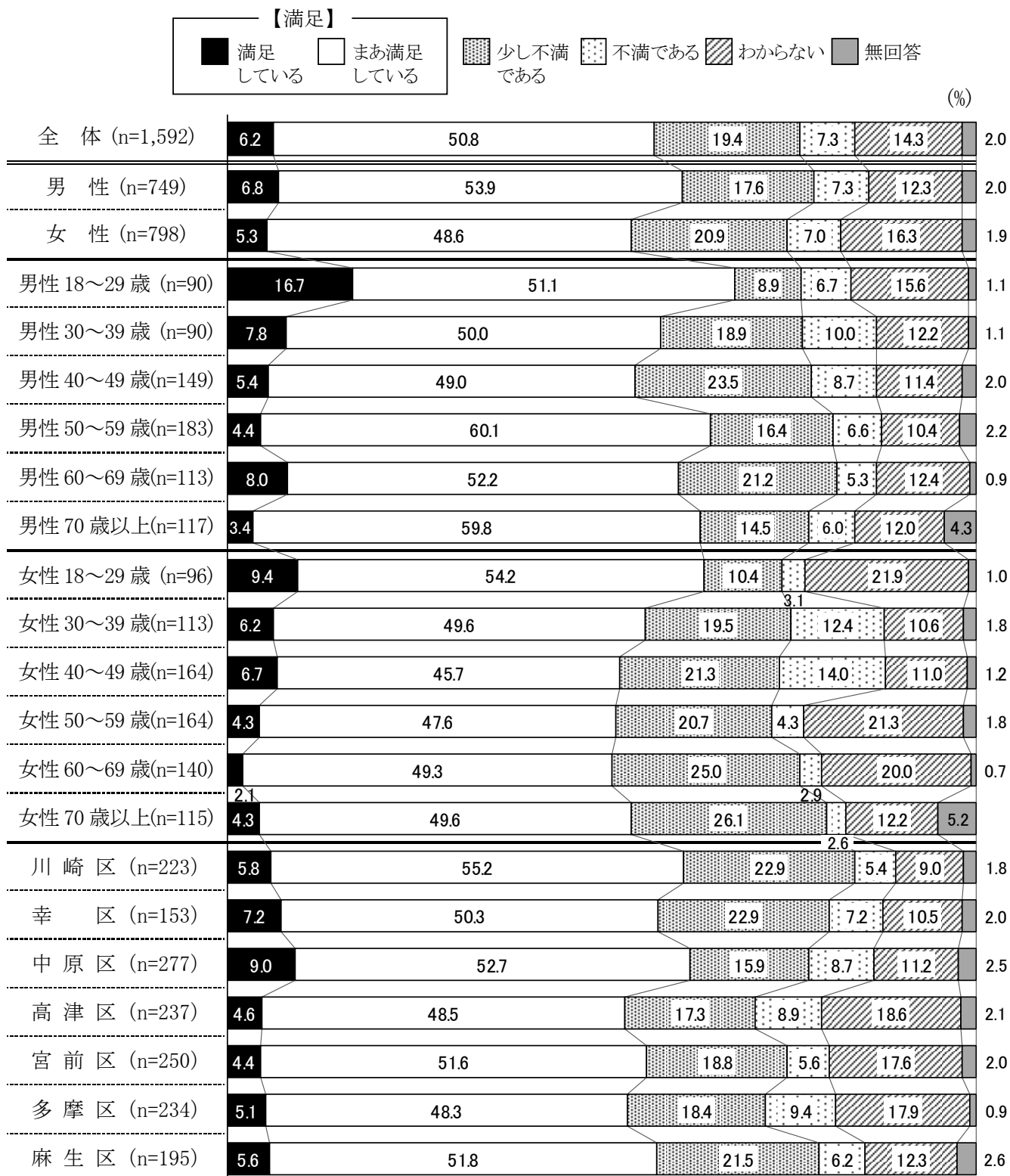


性別に見ると、【満足】の割合は女性(53.9%)よりも男性(60.7%)の方が6.8ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【満足】の割合は男女ともに18~29歳が最も高くなっている。

居住区別では、【満足】の割合は、「中原区」(61.7%)と「川崎区」(61.0%)で6割を超え、その他の居住区は5割台となっている。

【図表 101】 施策や事業の総合的な満足度（性別、性/年齢別、居住区別）



2.5 川崎市の広報（市政だより）について

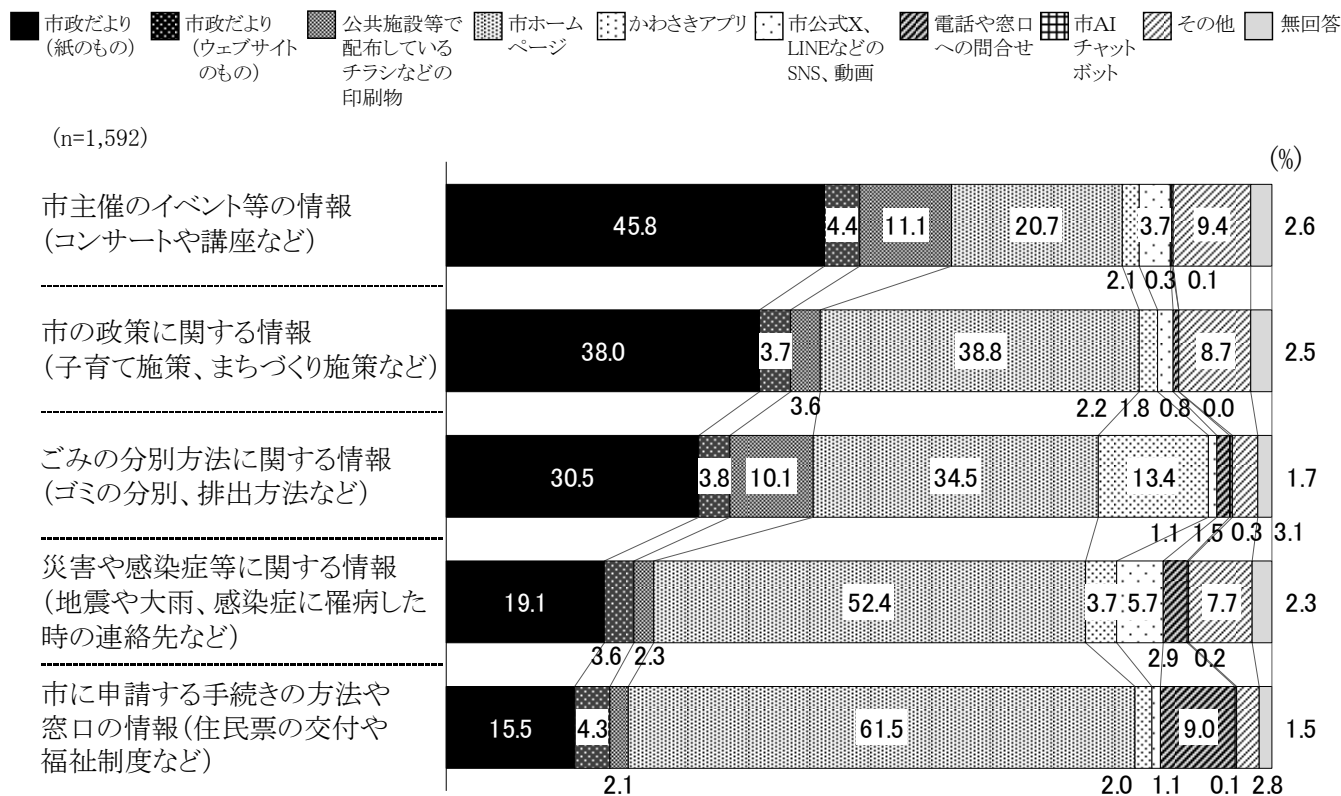
(1) 川崎市の情報入手方法

問 12. 川崎市の情報を得たいときに、どのような方法で入手していますか。
それぞれの項目ごとに、最もあてはまる媒体を1つずつ選んでください。

「市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）」の入手方法は、「市政だより（紙のもの）」（45.8%）が最も高く、その他の項目では「市ホームページ」が最も高くなっている。

また、「公共施設等で配布しているチラシなどの印刷物」は「市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）」と「ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）」で1割を超えて高く、「かわさきアプリ」は「ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）」で13.4%と高くなっている。「電話や窓口への問合せ」は「市に申請する手続きの方法や窓口の情報（住民票の交付や福祉制度など）」で9.0%と高くなっている。

【図表 102】川崎市の情報入手方法

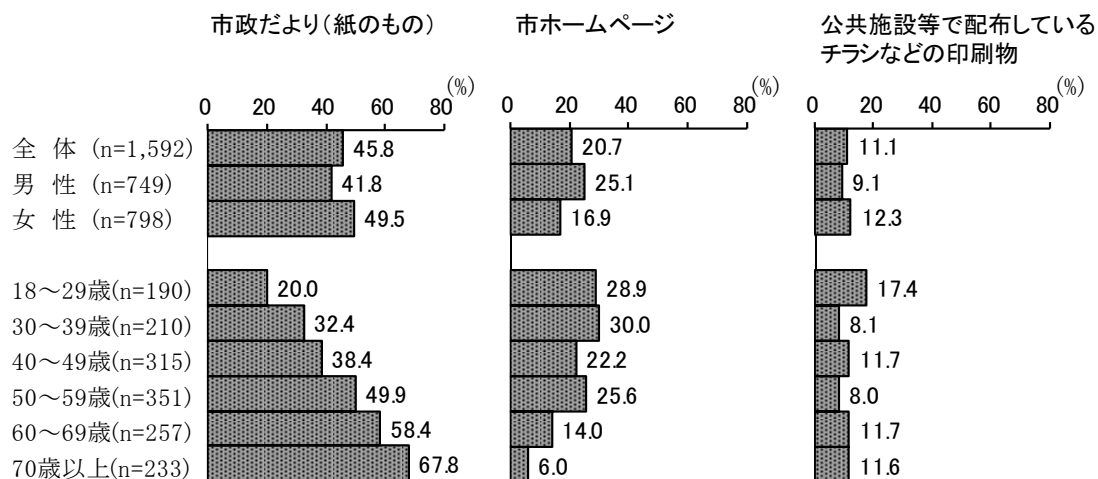


① 市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)

上位3項目について、性別に見ると、「市政だより(紙のもの)」は女性の方が高く、「市ホームページ」は男性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど割合が高く、「市ホームページ」は60歳代以上で2割を下回り、低くなっている。

【図表 103】「市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)」入手方法 <<上位3項目>> (性別、年齢別)

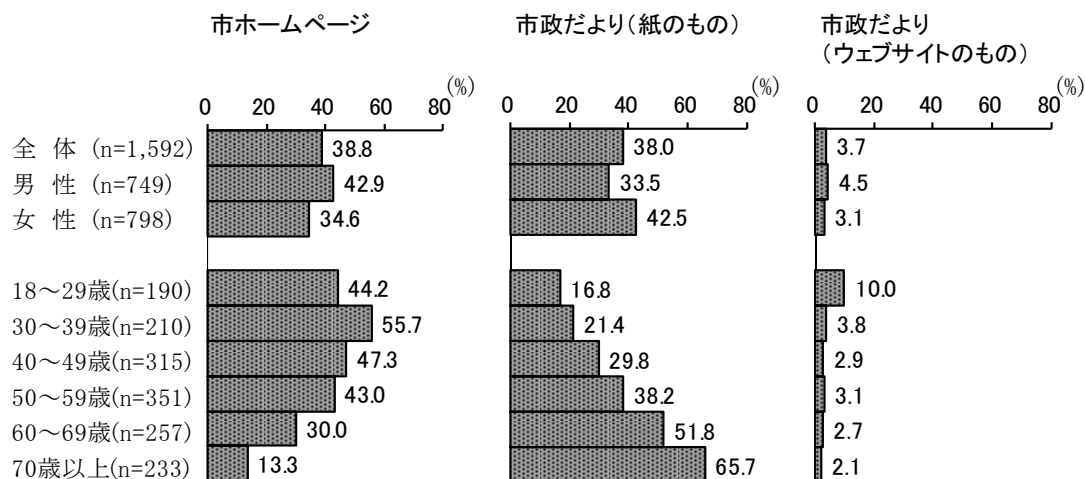


② 市の政策に関する情報(子育て施策、まちづくり施策など)

上位3項目(「その他」は除く)について、性別に見ると、「市ホームページ」は男性の方が高く、「市政だより(紙のもの)」は女性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は18~29歳を除き、年齢が上がるほど割合が低く、「市政だより(紙のもの)」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。「市政だより(ウェブサイトのもの)」は18~29歳(10.0%)が他の年齢層と比べて高くなっている。

【図表 104】「市の政策に関する情報(子育て施策、まちづくり施策など)」入手方法 <<上位3項目>> (性別、年齢別)

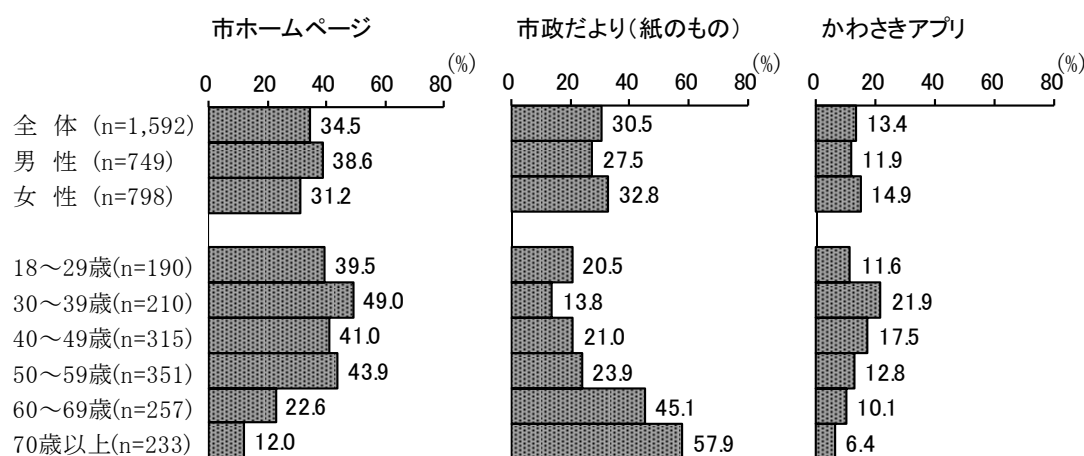


③ ごみの分別方法に関する情報(ゴミの分別、排出方法など)

上位3項目について、性別に見ると、「市ホームページ」は男性の方が高く、「市政だより(紙のもの)」は女性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は30歳代～50歳代で4割を超えて高くなっている。また、「市政だより(紙のもの)」は18～29歳を除き、年齢が上がるほど割合が高く、「かわさきアプリ」は18～29歳を除き、年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 105】「ごみの分別方法に関する情報(ゴミの分別、排出方法など)」入手方法 <上位3項目> (性別、年齢別)

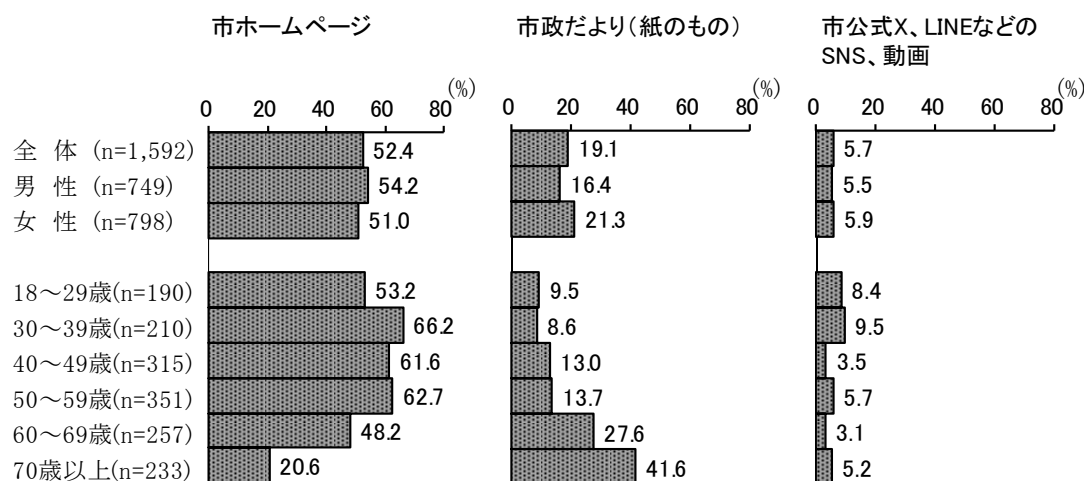


④ 災害や感染症等に関する情報(地震や大雨、感染症に罹病した時の連絡先など)

上位3項目(「その他」は除く)について、性別では大きな差は見られない。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は30歳代～50歳代で6割を超えて高くなっている。また、「市政だより(紙のもの)」はおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 106】「災害や感染症等に関する情報(地震や大雨、感染症に罹病した時の連絡先など)」入手方法 <上位3項目> (性別、年齢別)

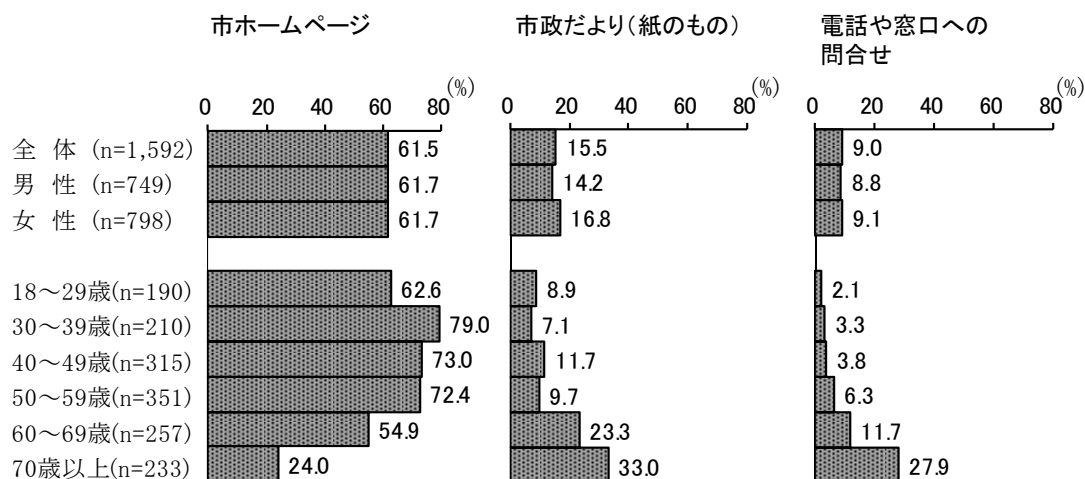


⑤ 市に申請する手続きの方法や窓口の情報(住民票の交付や福祉制度など)

上位3項目について、性別では大きな差は見られない。

年齢別で見ると、「市ホームページ」は30歳代~50歳代で7割を超えて高くなっている。また、「市政だより(紙のもの)」、「電話や窓口への問合せ」はおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

【図表 107】「市に申請する手続きの方法や窓口の情報(住民票の交付や福祉制度など)」
入手方法 <<上位3項目>> (性別、年齢別)

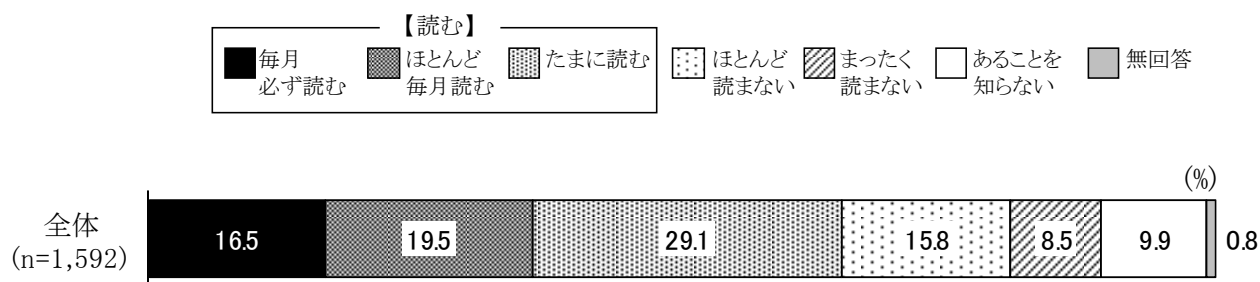


(2) 市政だよりの閲読状況

問 13. 市政だよりについて、うかがいます。あなたは毎月発行している市政だよりをどれくらいの頻度で読んでいますか。

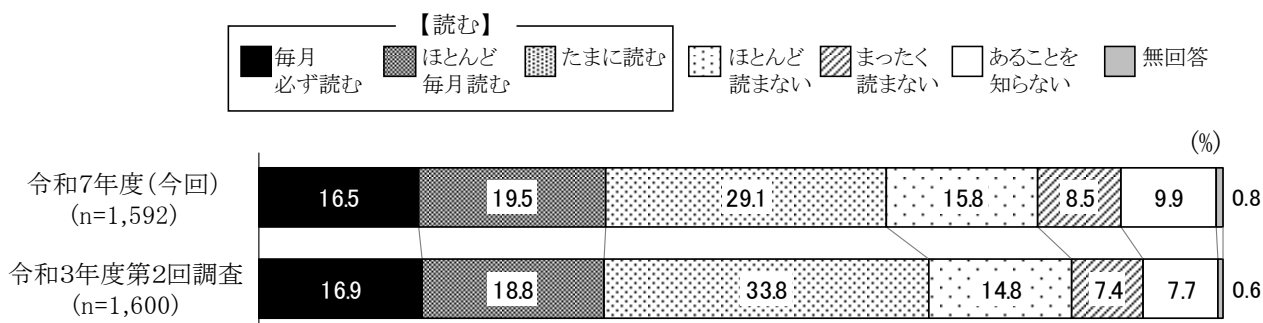
「たまに読む」(29.1%)が最も高く、「毎月必ず読む」(16.5%)、「ほとんど毎月読む」(19.5%)と合計した【読む】は65.1%であった。

【図表 108】 市政だよりの閲読状況



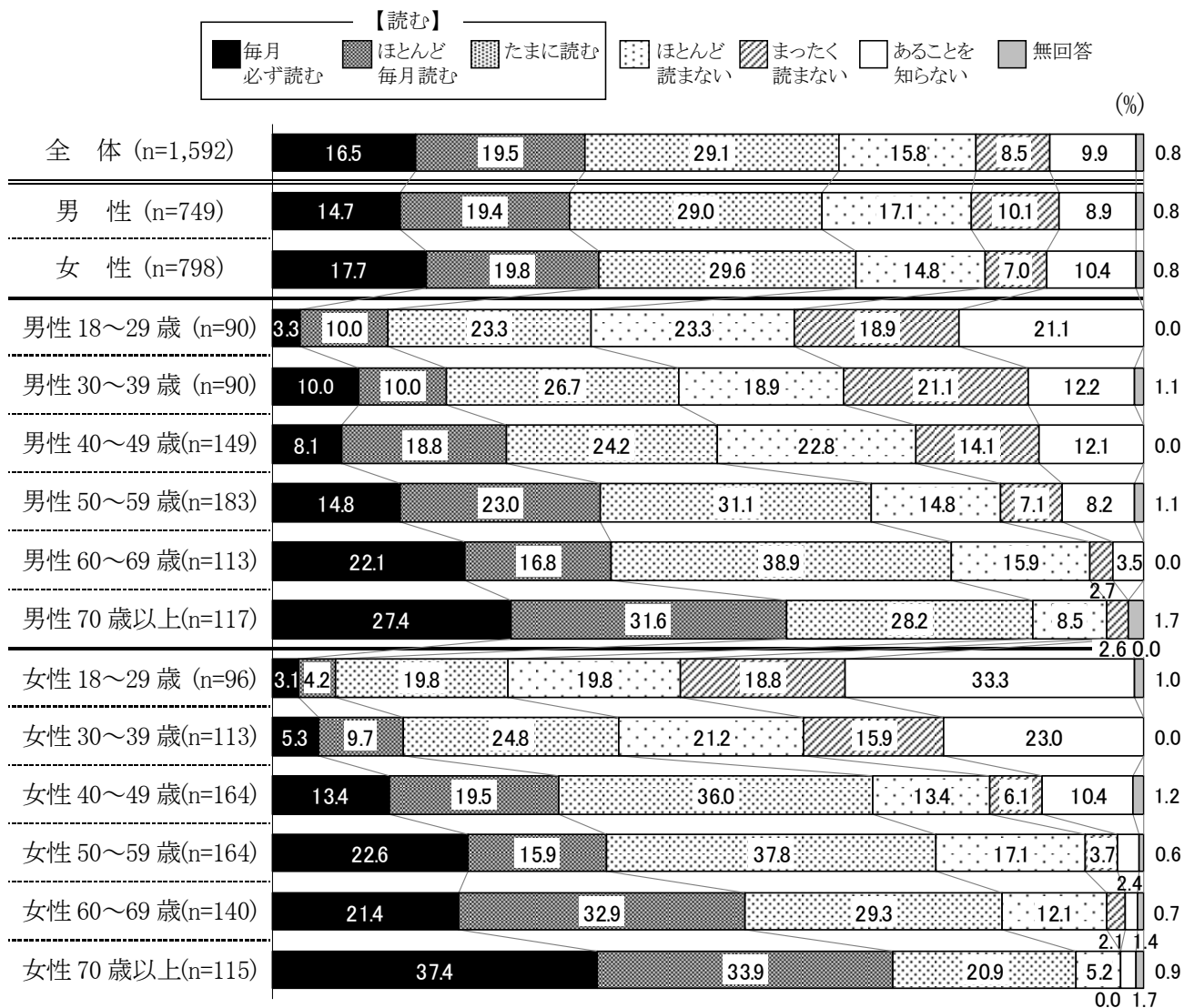
令和3(2021)年度第2回調査(郵送調査)と比較すると、【読む】の割合は、令和3年度第2回調査では69.5%であったが、今回は65.1%と4.4ポイント低くなっている。

【図表 109】 市政だよりの閲読状況(過去調査との比較)



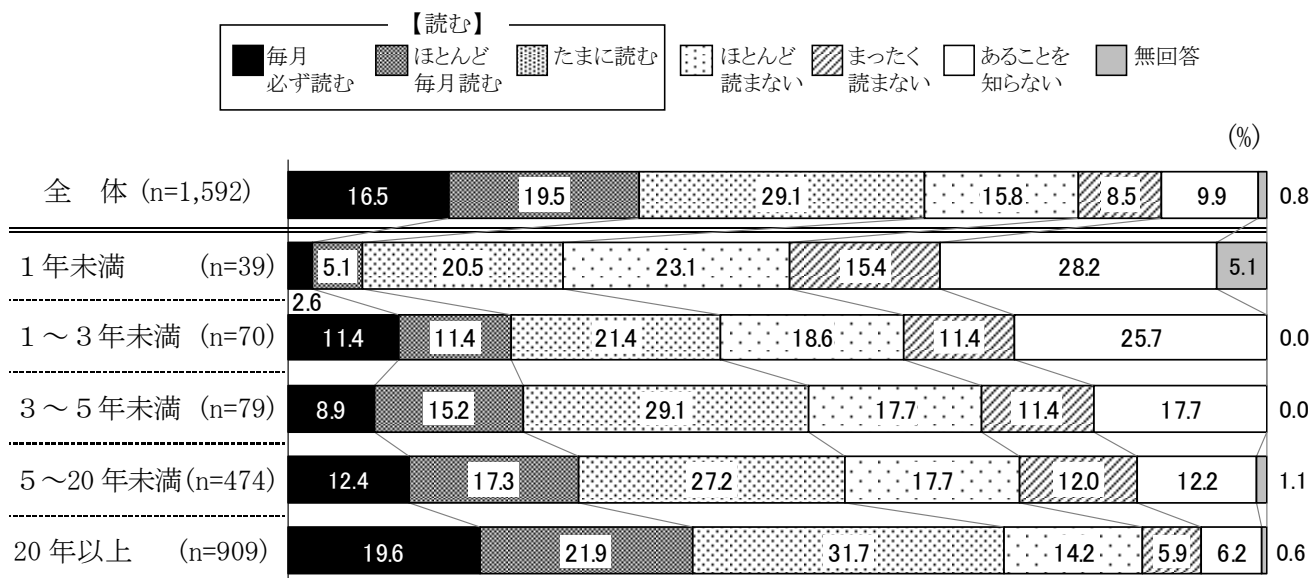
性／年齢別に見ると、【読む】（「毎月必ず読む」、「ほとんど毎月読む」、「たまに読む」の合計）の割合は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。一方で、「あることを知らない」はおおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 110】 市政だよりの閲読状況（性別、性／年齢別）



川崎市内居住年数別に見ると、【読む】(「毎月必ず読む」、「ほとんど毎月読む」、「たまに読む」の合計)は居住年数が長いほど割合が高くなっている。一方で、「あることを知らない」は居住年数が短いほど割合が高くなっている。

【図表 111】 市政だよりの閲読状況 (居住年数別)

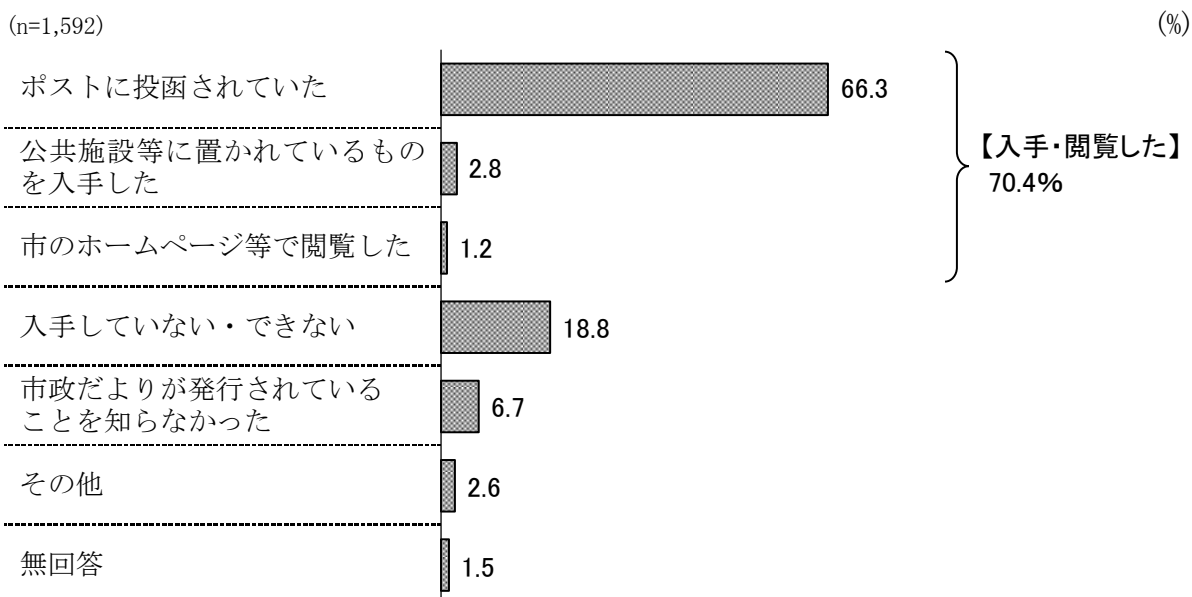


(3) 「市政だより 11月号」の入手状況

問 14. あなたは「かわさき市政だより 11月号」(特集: 市民を支える乗り物)をどのように入手しましたか。

「ポストに投函されていた」が 66.3%で最も高く、「公共施設等に置かれているものを入手した」(2.8%)、「市のホームページ等で閲覧した」(1.2%)と合計した【入手・閲覧した】は 70.4%であった。

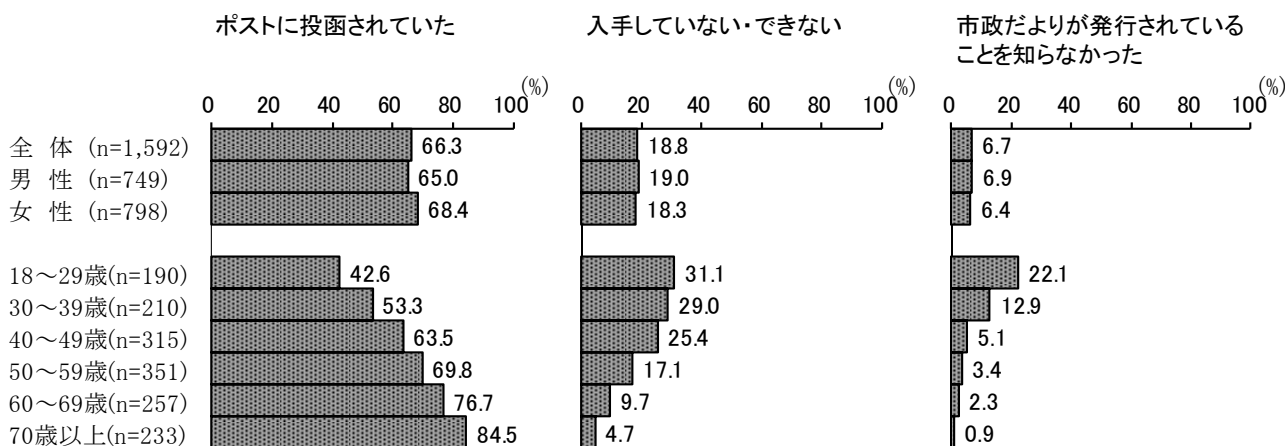
【図表 112】「市政だより 11月号」の入手状況



上位3項目について、性別ではいずれの項目においても大きな差は見られない。

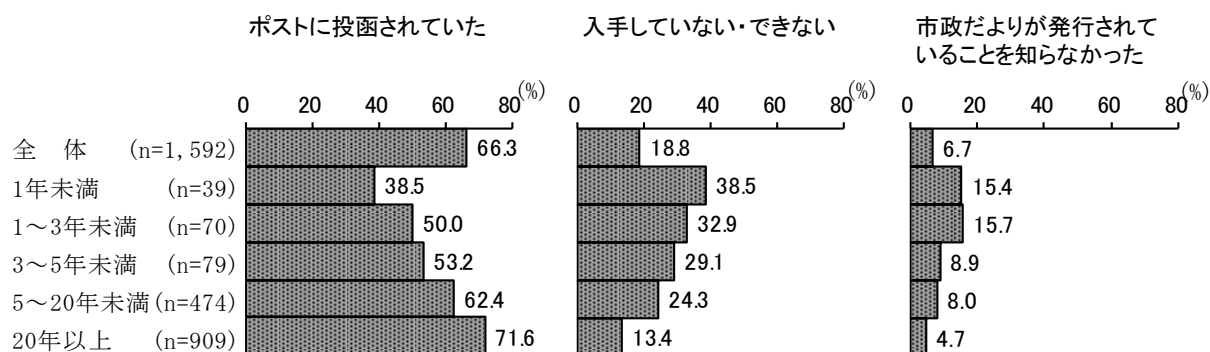
年齢別に見ると、「ポストに投函されていた」は年齢が上がるほど割合が高く、「入手していない・できない」と「市政だよりが発行されていることを知らなかった」は年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 113】「市政だより 11月号」の入手状況 <<上位3項目>> (性別、年齢別)



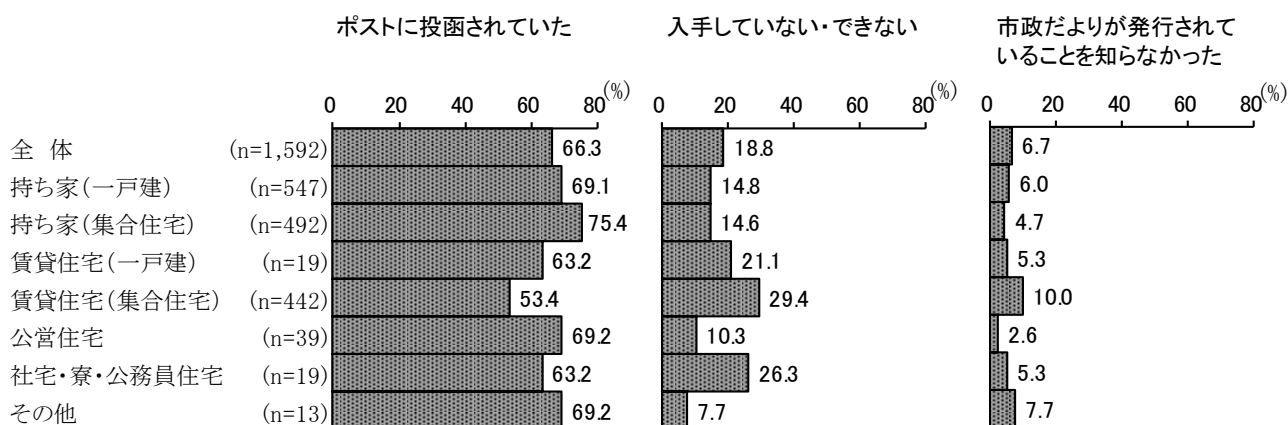
上位3項目について、居住年数別に見ると、「ポストに投函されていた」は居住年数が長くなるほど割合が高く、「入手していない・できない」と「市政だよりが発行されていることを知らなかった」はおおむね居住年数が長くなるほど割合が低くなっている。

【図表 114】「市政だより 11月号」の入手状況 《上位3項目》（居住年数別）



上位3項目について、住居形態別に見ると、「ポストに投函されていた」は「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が75.4%で最も高い。また、「賃貸住宅（マンション・アパートなどの一般的な民間の集合住宅）」は「ポストに投函されていた」では53.4%で最も低く、「入手していない・できない」では29.4%で最も高い。

【図表 115】「市政だより 11月号」の入手状況 《上位3項目》（住居形態別）

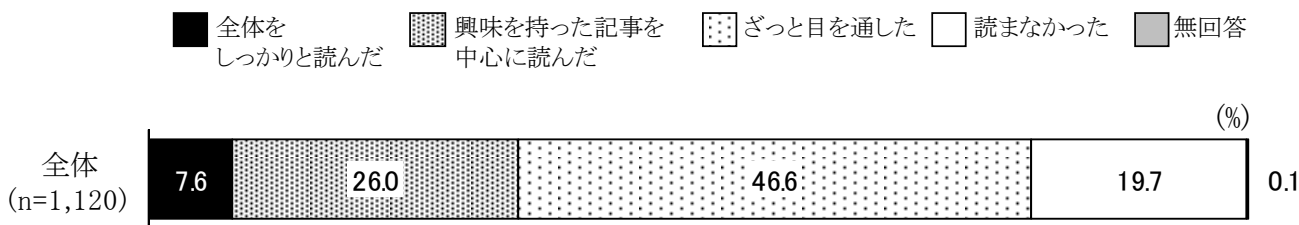


(4)「市政だより11月号」の閲読状況

問 14-1. 「市政だより11月号」をどのように読みましたか。

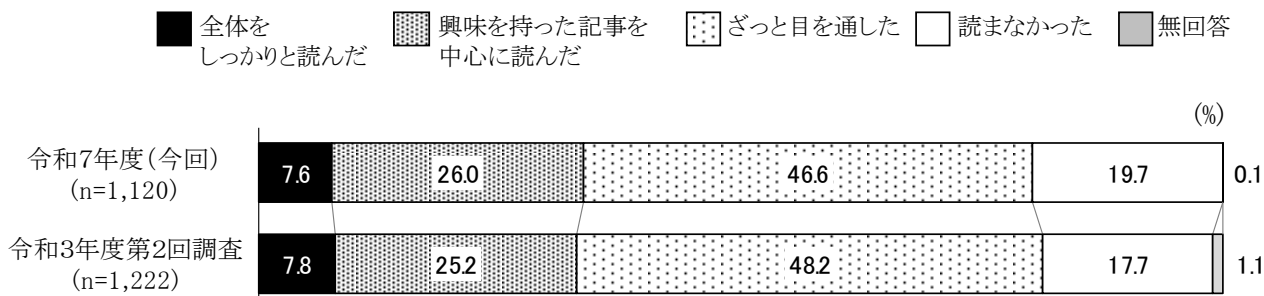
「市政だより11月号」を【入手・閲読した】(「ポストに投函されていた」、「公共施設等に置かれているものを入手した」、「市のホームページ等で閲読した」) 人に閲読状況について尋ねたところ、「ざっと目を通した」(46.6%)が最も高く、次いで「興味を持った記事を中心に読んだ」(26.0%)、「読まなかった」(19.7%)、「全体をしっかりと読んだ」(7.6%)と続いている。

【図表 116】「市政だより11月号」の閲読状況



令和3(2021)年度第2回調査(郵送調査)との比較では、いずれの選択肢においても大きな差は見られない。

【図表 117】「市政だより11月号」の閲読状況(過去調査との比較)



性／年齢別に見ると、男女ともに30歳代以上は「ざっと目を通した」が最も高く、男性18～29歳は「読まなかった」と同率、女性18～29歳は「読まなかった」が最も高い。また、「興味を持った記事を中心に読んだ」は男性18～29歳を除き、年齢が上がるほど割合が高くなっている。一方で、「読まなかった」は男女ともに18～29歳が最も高く、女性の18～29歳(57.5%)は5割を超えて最も高い。

【図表 118】「市政だより 11月号」の閲読状況（性別、性／年齢別）

全体を
 しっかりと読んだ

 興味を持った記事を中心
 に読んだ

 ざっと目を通した

 読まなかった

 無回答

(%)

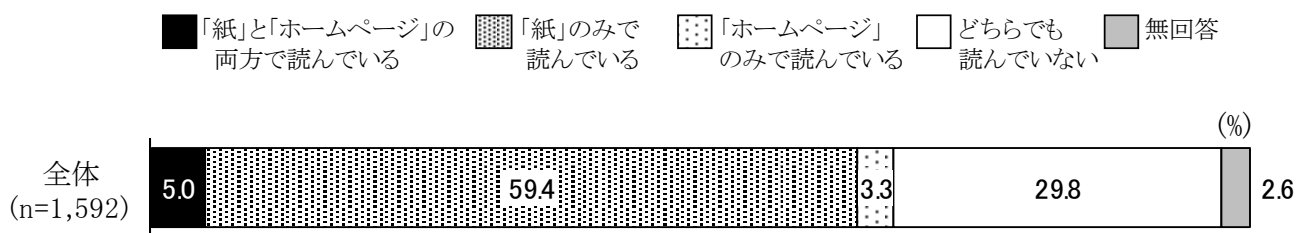
性別・年齢別	全体をしっかりと読んだ	興味を持った記事を中心に読んだ	ざっと目を通した	読まなかった	無回答
全体 (n=1,120)	7.6	26.0	46.6	19.7	0.1
男性 (n=524)	8.2	25.2	44.5	21.9	0.2
女性 (n=570)	6.7	27.2	48.2	17.9	0.0
男性 18～29 歳 (n=42)	4.8	19.0	38.1	38.1	0.0
男性 30～39 歳 (n=56)	5.4	14.3	44.6	35.7	0.0
男性 40～49 歳 (n=94)	8.5	19.1	47.9	24.5	0.0
男性 50～59 歳 (n=133)	8.3	27.1	42.9	21.1	0.8
男性 60～69 歳 (n=91)	4.4	28.6	48.4	18.7	0.0
男性 70 歳以上 (n=102)	13.7	34.3	41.2	10.8	0.0
女性 18～29 歳 (n=40)	0.0	10.0	32.5	57.5	0.0
女性 30～39 歳 (n=59)	5.1	15.3	49.2	30.5	0.0
女性 40～49 歳 (n=116)	6.0	16.4	56.9	20.7	0.0
女性 50～59 歳 (n=128)	5.5	32.0	46.9	15.6	0.0
女性 60～69 歳 (n=119)	10.1	36.1	44.5	9.2	0.0
女性 70 歳以上 (n=103)	8.7	37.9	48.5	4.9	0.0

(5) 「市政だより」の閲読媒体

問 15. 市政だよりは、市のホームページなどでも読むことができます。
あなたご自身の状況として、最も近いものをお選びください。

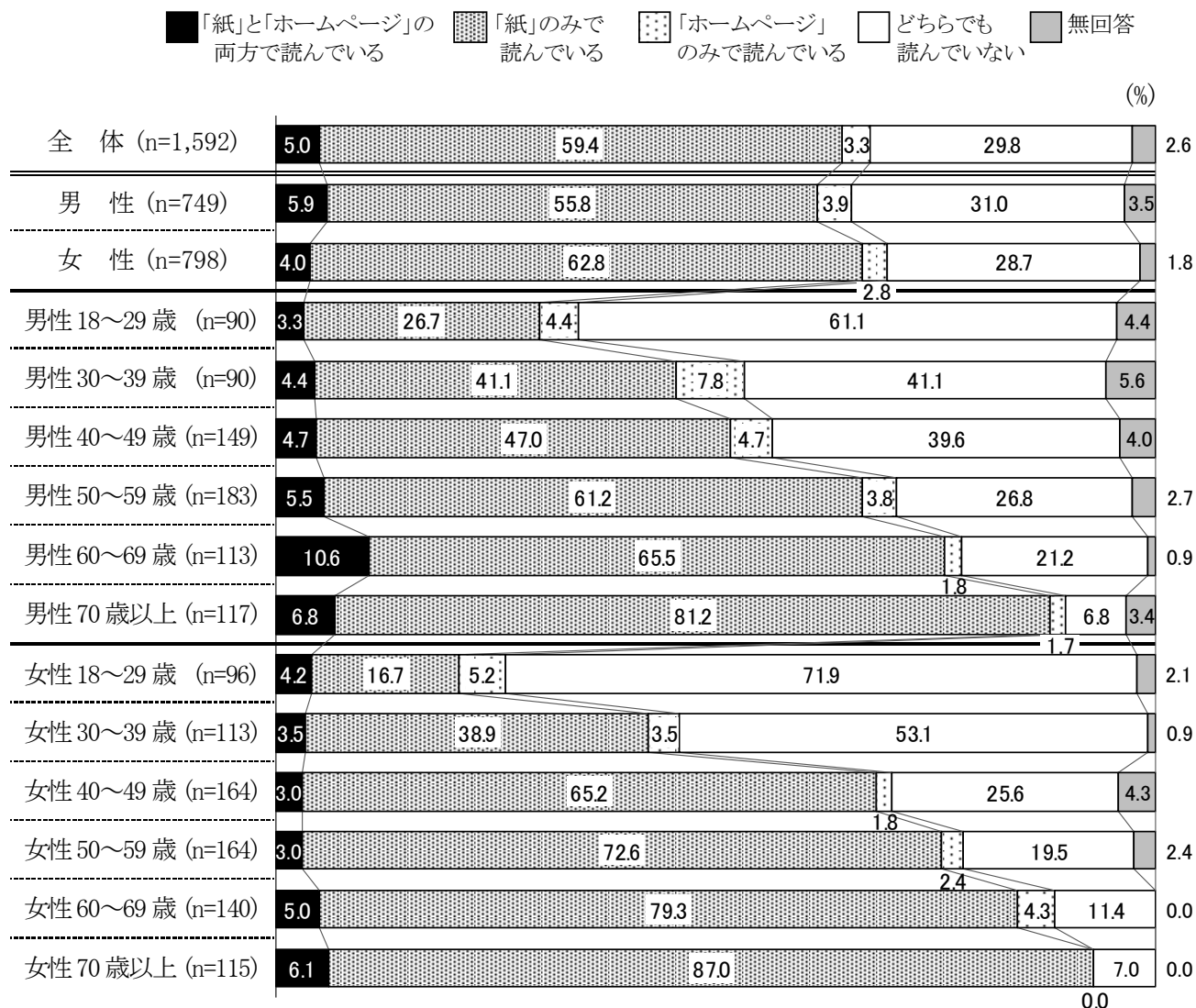
『「紙」のみで読んでいる』(59.4%) が最も高く、次いで『どちらでも読んでいない』(29.8%)。『「紙」と「ホームページ」の両方で読んでいる』(5.0%)、『「ホームページ」のみで読んでいる』(3.3%) と続いている。

【図表 119】「市政だより」の閲読媒体



性／年齢別に見ると、『「紙」のみで読んでいる』の割合は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。また、男女ともに30歳代以下は『どちらでも読んでいない』が最も高くなっている（男性30～39歳は『「紙」のみで読んでいる』と同率）。

【図表 120】「市政だより」の閲読媒体（性別、性／年齢別）

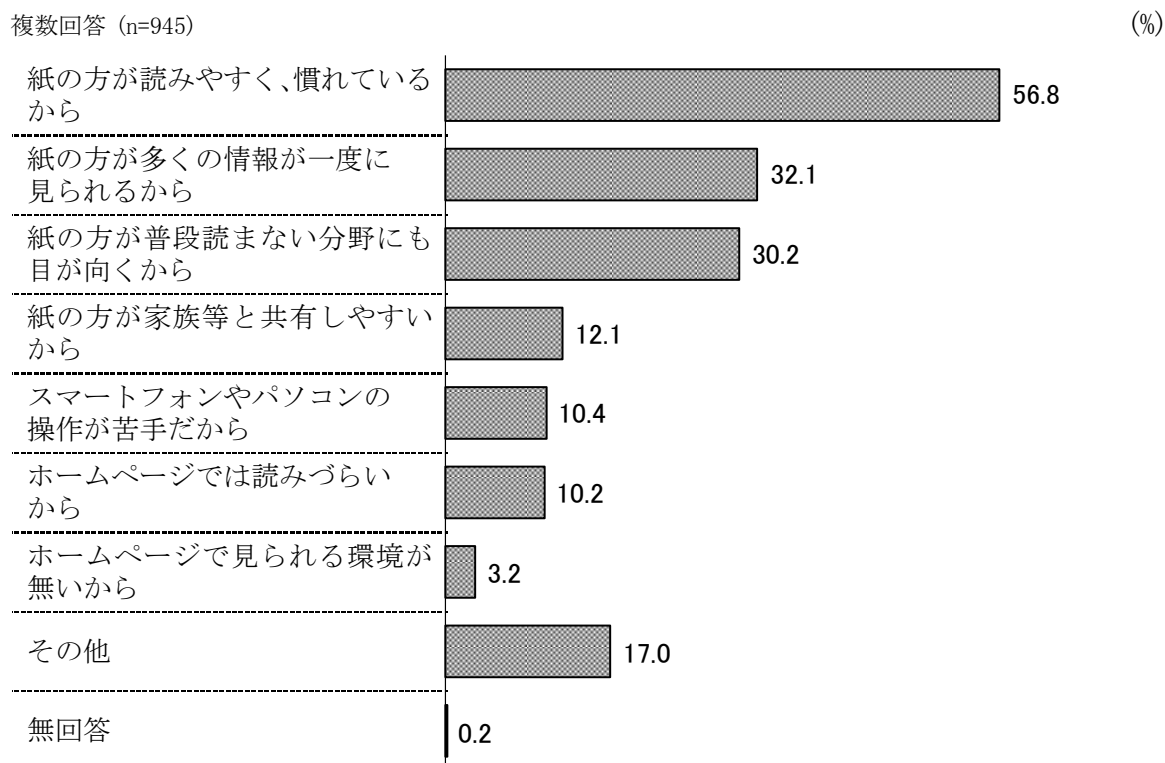


(6) 「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由

問 15-1. 紙のみで読んでいる理由について、最も近いものをお選びください。

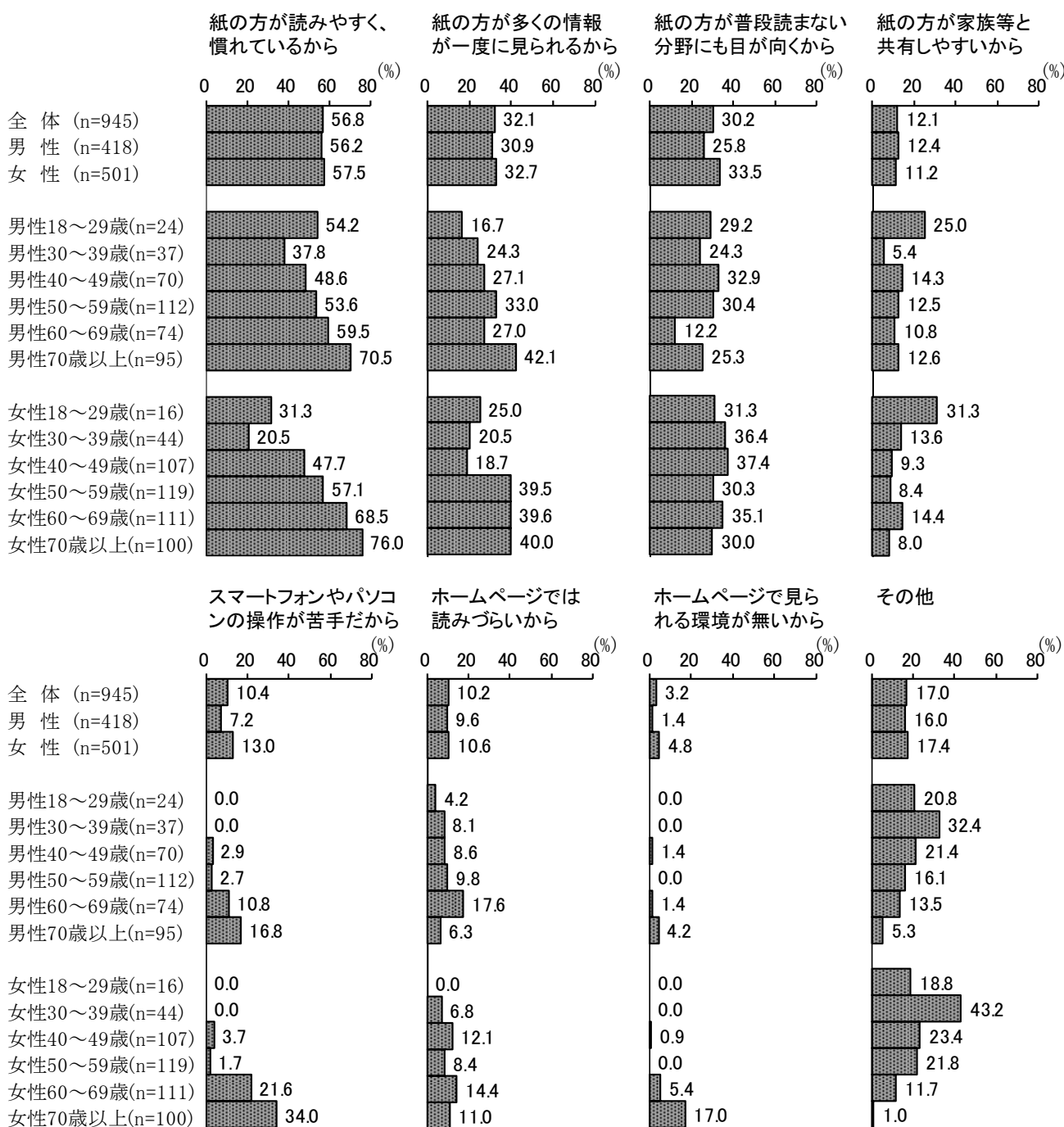
「市政だより」を『「紙」のみで読んでいる』と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「紙の方が読みやすく、慣れているから」(56.8%)が最も高く、「紙の方が多くの情報が一度に見られるから」(32.1%)、「紙の方が普段読まない分野にも目が向くから」(30.2%)と続いている。

【図表 121】「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由（複数回答）



性／年齢別に見ると、「紙の方が読みやすく、慣れているから」は男女ともに30歳代以上で年齢が上がるほど割合が高くなっている。「紙の方が多くの情報が一度に見られるから」は男性70歳以上と女性50歳代以上がおおむね4割以上で高くなっている。「スマートフォンやパソコンの操作が苦手だから」は男女ともに60歳代以上で1割を超え、女性の60～69歳(21.6%)と70歳以上(34.0%)で2割を超えて高くなっている。

【図表 122】「市政だより」を「紙」のみで読んでいる理由(複数回答)
(性別、性／年齢別)

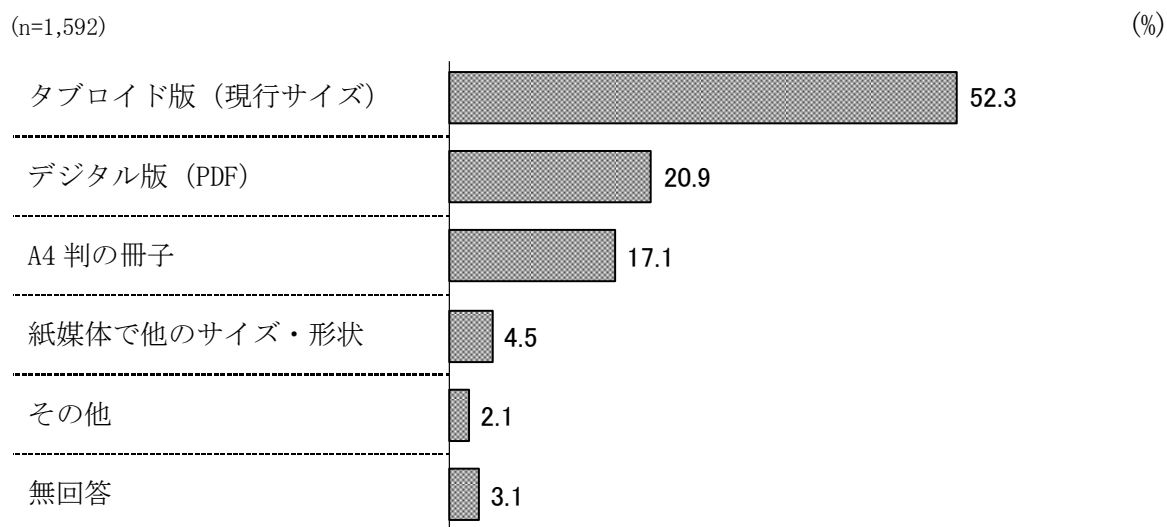


(7) 読みやすい「市政だより」の形状

問 16. 市政だよりとして、読みやすい形状は何ですか。

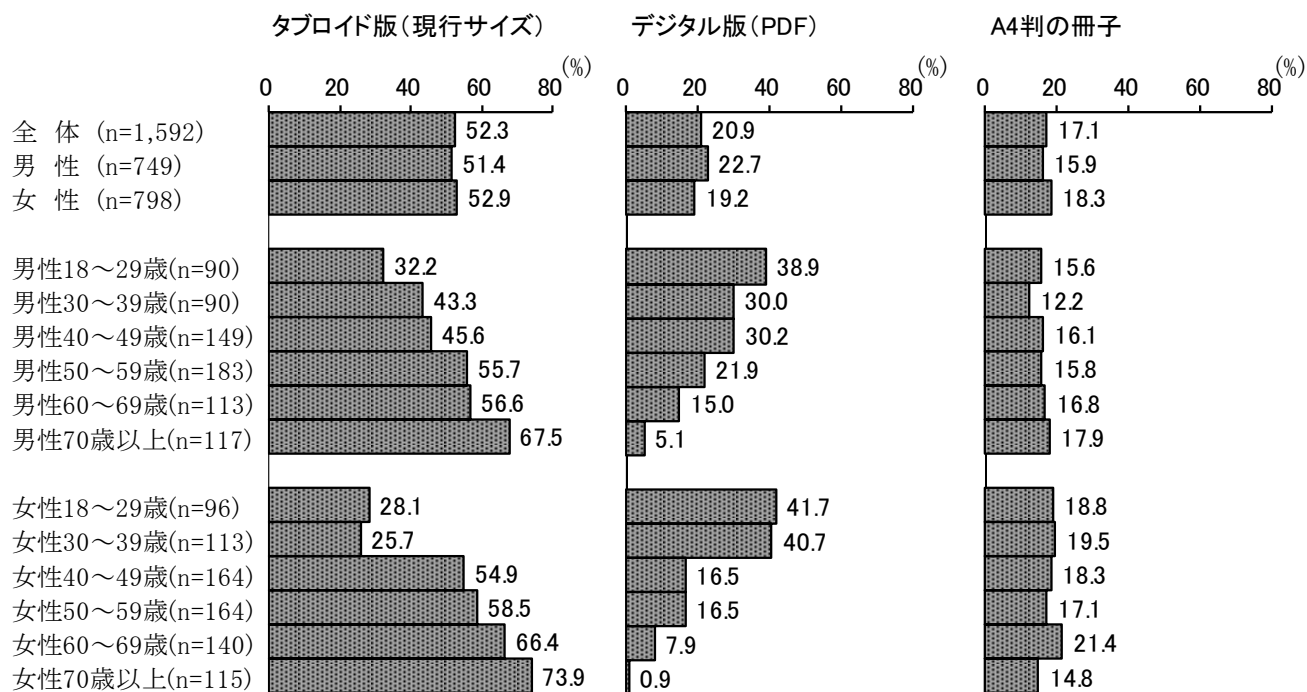
「タブロイド版（現行サイズ）」（52.3%）が最も高く、「デジタル版（PDF）」（20.9%）、「A4判の冊子」（17.1%）、「紙媒体で他のサイズ・形状」（4.5%）と続いている。

【図表 123】読みやすい「市政だより」の形状



上位3項目について、性/年齢別に見ると、「タブロイド版(現行サイズ)」はおおむね年齢が上がるほど割合が高く「デジタル版(PDF)」はおおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 124】読みやすい「市政だより」の形状 <上位3項目> (性別、性/年齢別)



(8)「市政だより」についての考え

問 17. 市政だよりについて、AとBの考え方はどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。それぞれの項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① A:市全体の取組などの情報を充実させてほしい
- B:より身近な区の情報を充実させてほしい

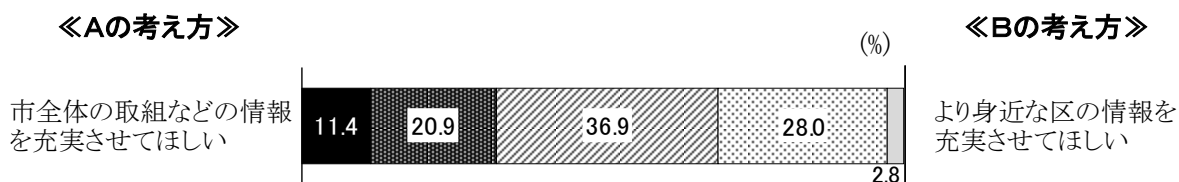
【Bに近い】が64.9%と、「より身近な区の情報を充実させてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

【図表 125】「市政だより」についての考え

A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
B : より身近な区の情報を充実させてほしい



(n=1,592)

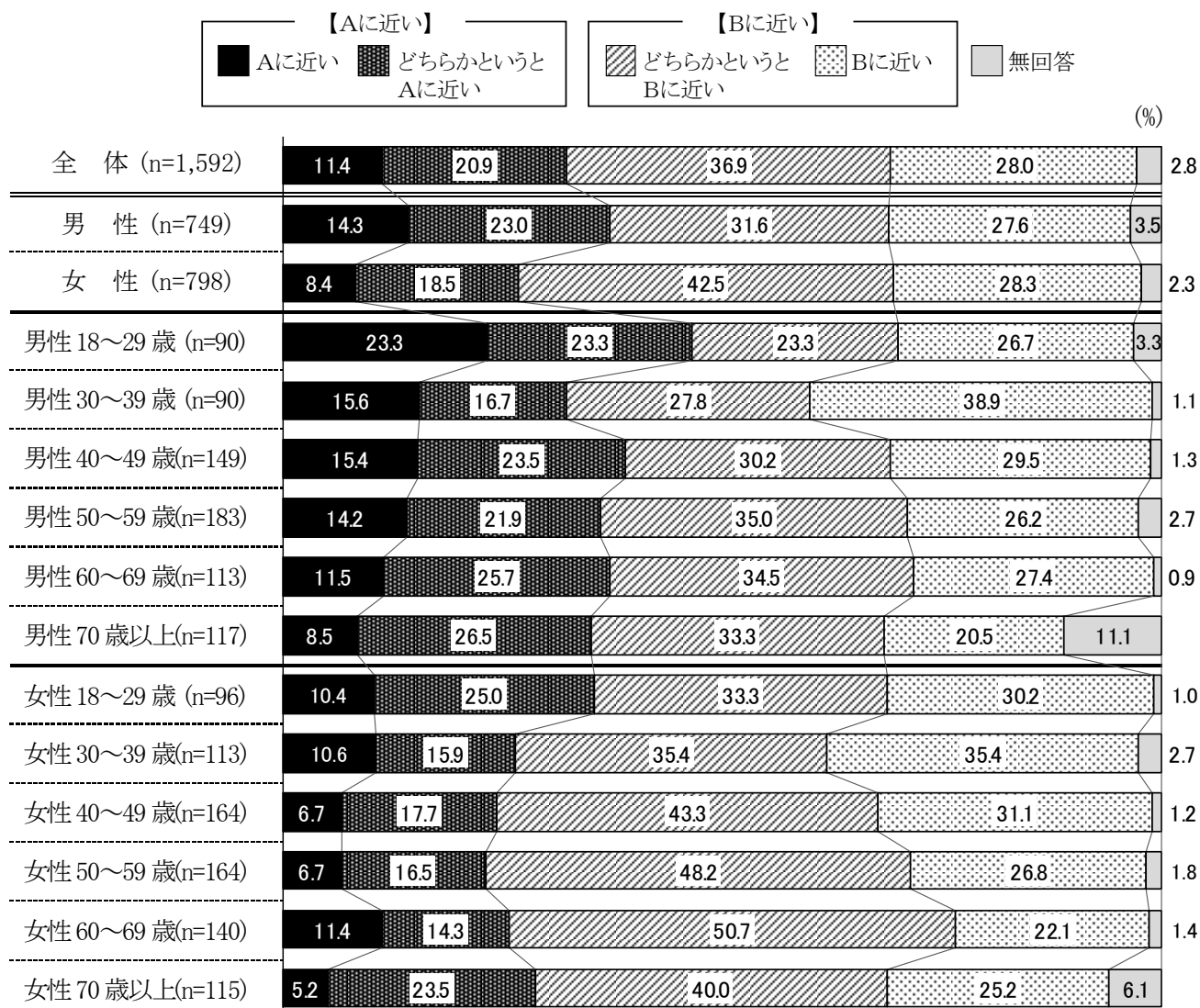


性別に見ると、【Bに近い】(より身近な区の情報を充実させてほしい)は男性(59.3%)よりも女性(70.8%)の方が11.5ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、女性の30歳代~60歳代は【Bに近い】(より身近な区の情報を充実させてほしい)が7割を超えて高く、男性18~29歳は【Aに近い】(市全体の取組などの情報を充実させてほしい)が4割を超えて最も高い。

【図表 126】「市政だより」についての考え(性別、性/年齢別)

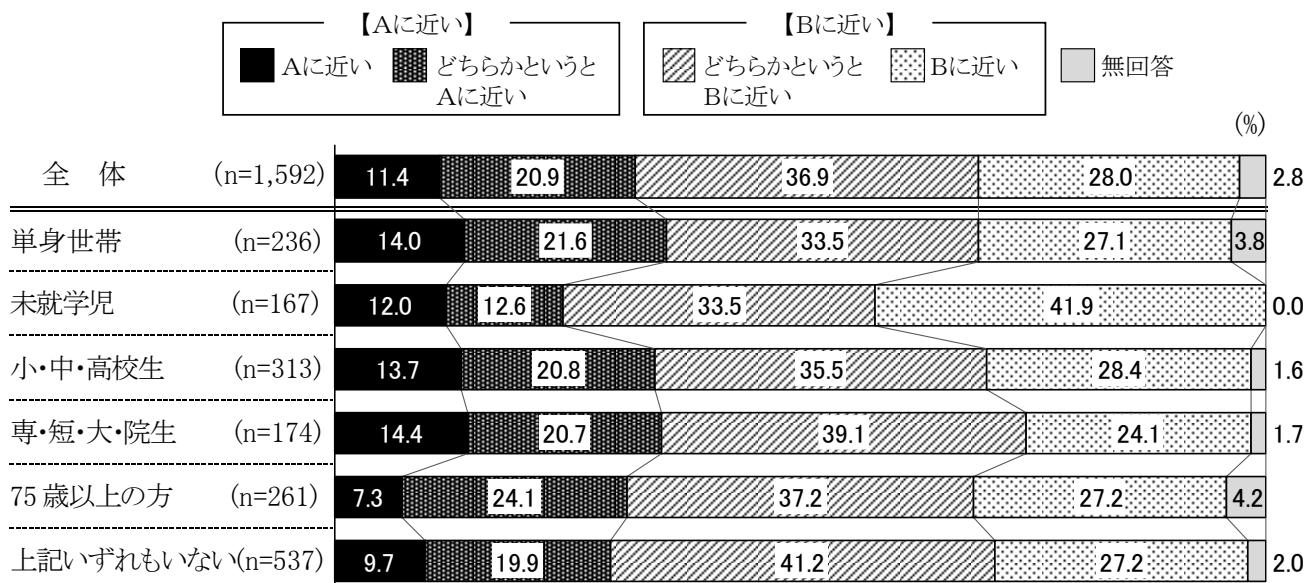
A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
 B : より身近な区の情報を充実させてほしい



同居家族別に見ると、同居家族に「未就学児」がいる人は【Bに近い】(より身近な区の情報を充実させてほしい)が75.4%で最も高くなっている。

【図表 127】「市政だより」についての考え (同居家族別)

〔 A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
 B : より身近な区の情報を充実させてほしい 〕



- ② A:QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
B:QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい

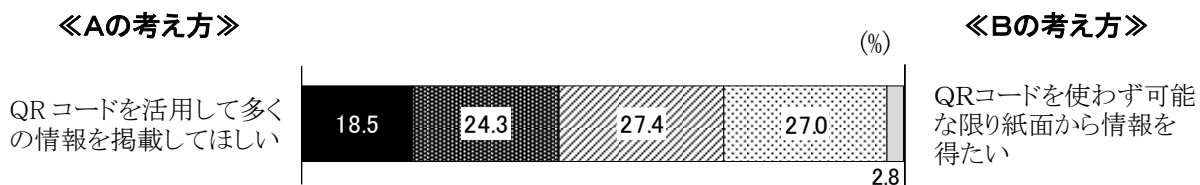
【Bに近い】が54.4%と、「QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 128】「市政だより」についての考え

A : QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
B : QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい



(n=1,592)



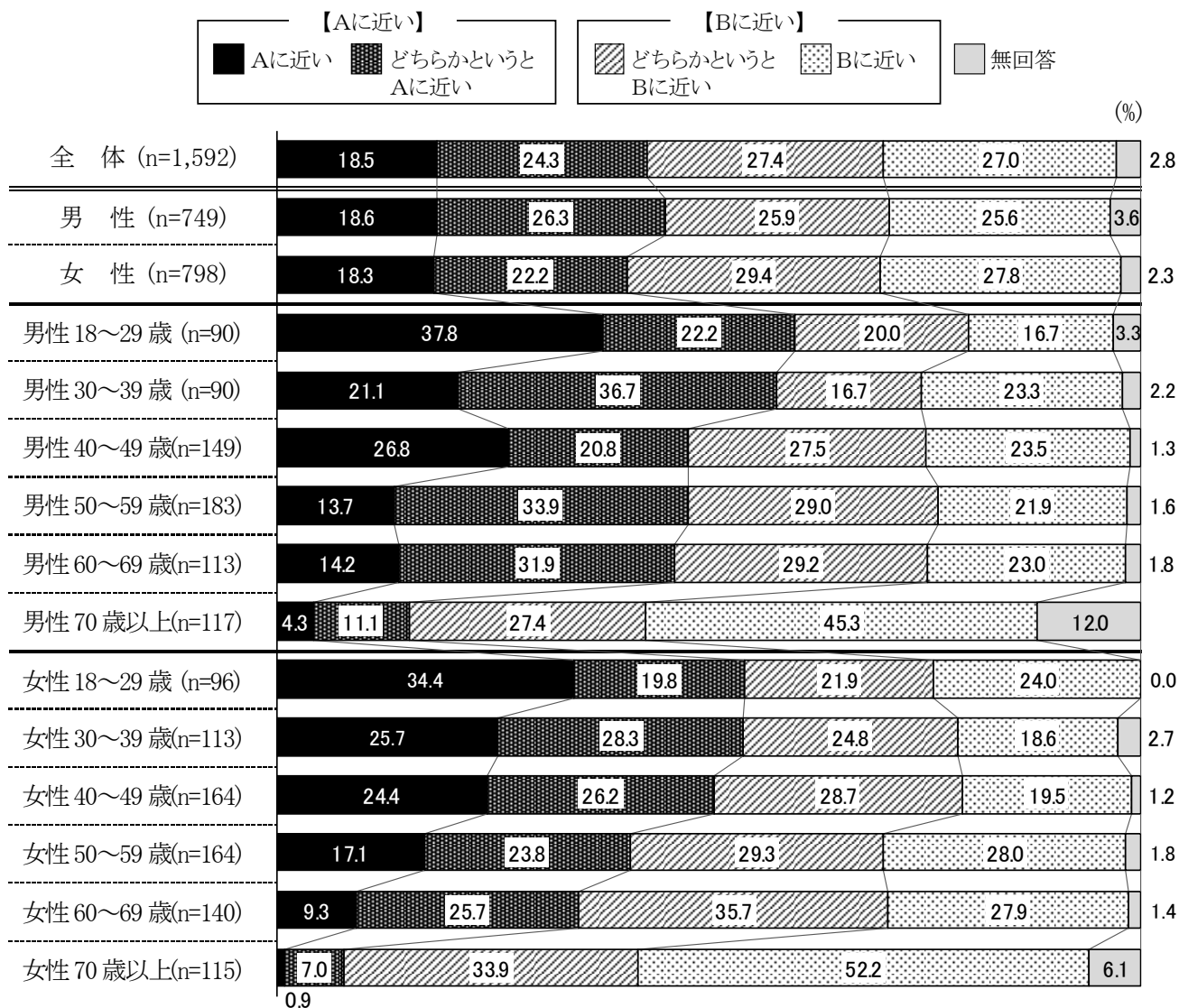
※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

性別に見ると、【Bに近い】(QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい)は男性(51.5%)よりも女性(57.3%)の方が5.8ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【Aに近い】(QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい)は男性の30歳代以下と女性の40歳代以下で5割を超えている。一方で、【Bに近い】は男性70歳以上と女性の60歳代以上で6割を超え、女性70歳以上(86.1%)で8割を超えて最も高い。

【図表 129】「市政だより」についての考え(性別、性/年齢別)

A : QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
 B : QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい



- ③ A:情報の種類は少なくとも、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
B:情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない

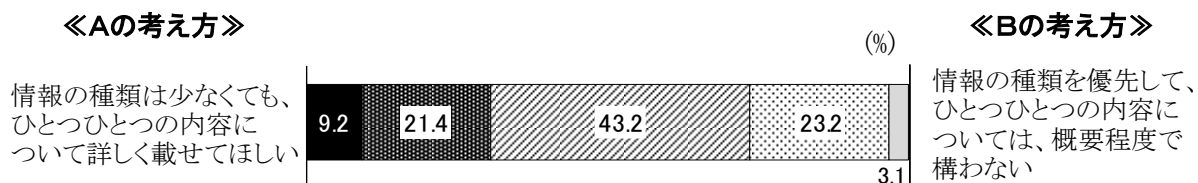
【Bに近い】が66.4%と、「情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

【図表 130】「市政だより」についての考え

A : 情報の種類は少なくとも、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
B : 情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない



(n=1,592)

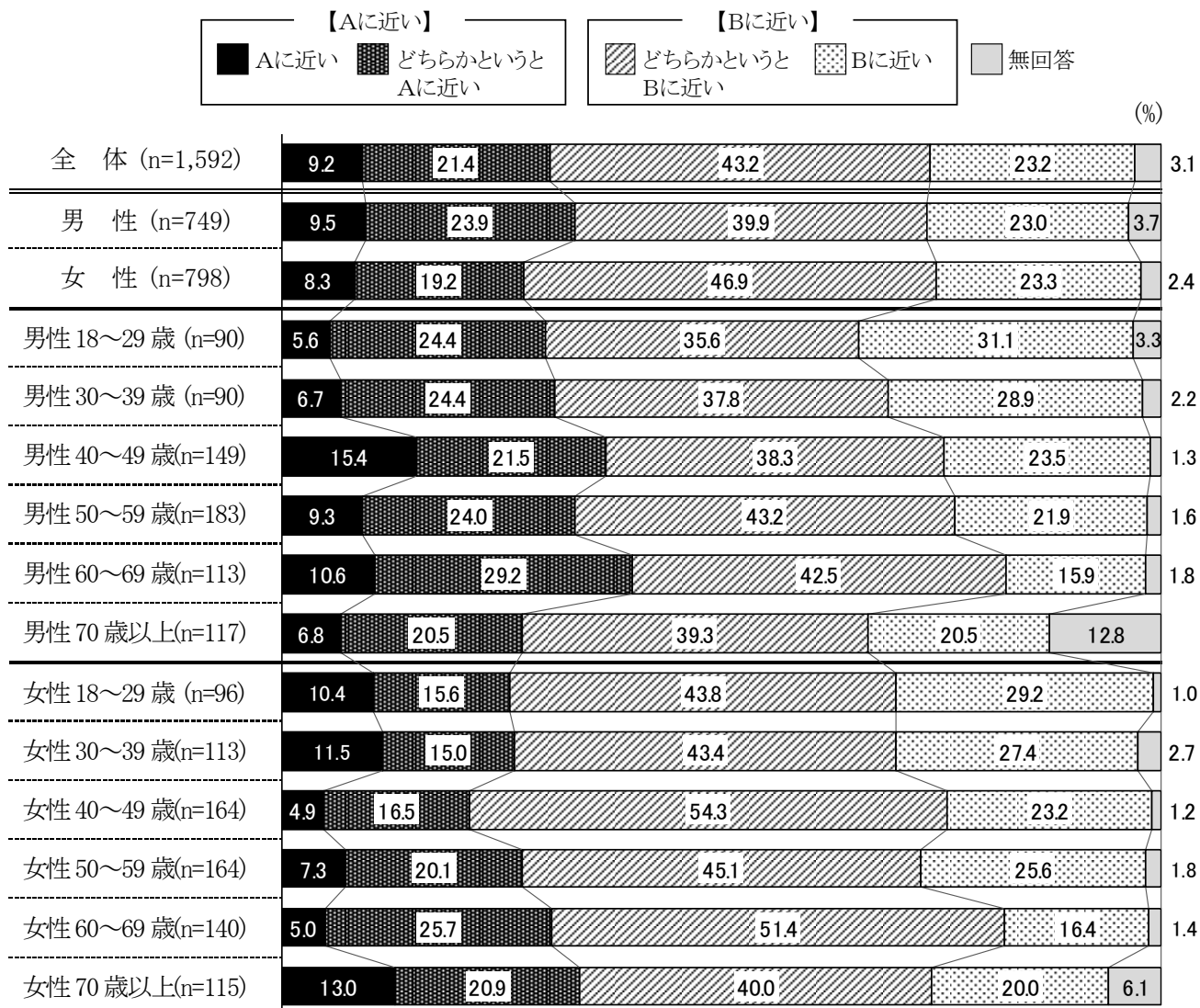


性別に見ると、【Bに近い】(情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない)は男性(62.9%)よりも女性(70.2%)の方が7.3ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、【Bに近い】は女性のすべての年齢層と男性の50歳代以下で6割を超え、女性の50歳代以下では7割を超え、高くなっている。

【図表 131】「市政だより」についての考え(性別、性/年齢別)

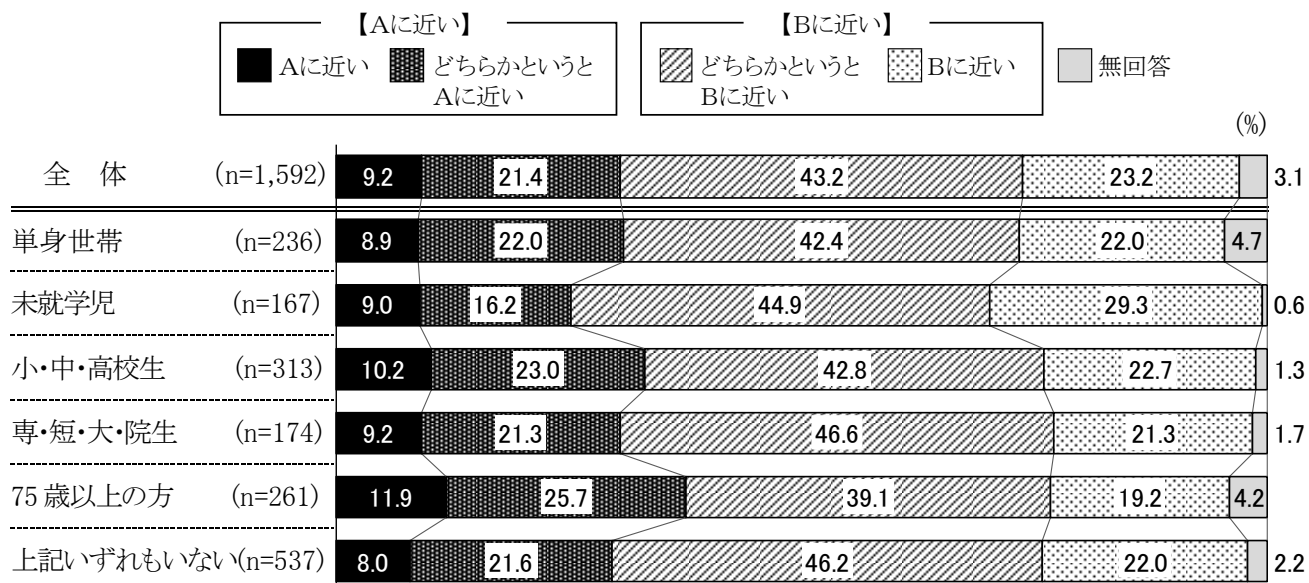
〔 A : 情報の種類は少なくても、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
 B : 情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない 〕



同居家族別に見ると、同居家族に「未就学児」がいる人は【Bに近い】(情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない)が74.3%で最も高くなっている。

【図表 132】「市政だより」についての考え (同居家族別)

〔 A : 情報の種類は少なくても、ひとつひとつの内容について詳しく載せてほしい
 B : 情報の種類を優先して、ひとつひとつの内容については、概要程度で構わない 〕



- ④ A: 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
B: 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い

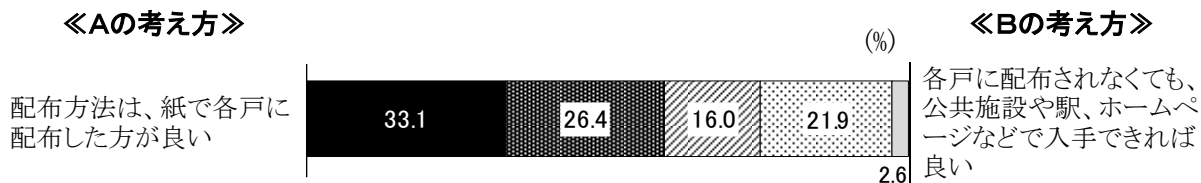
【Aに近い】が59.5%と、「配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 133】「市政だより」についての考え

A : 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
B : 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い



(n=1,592)

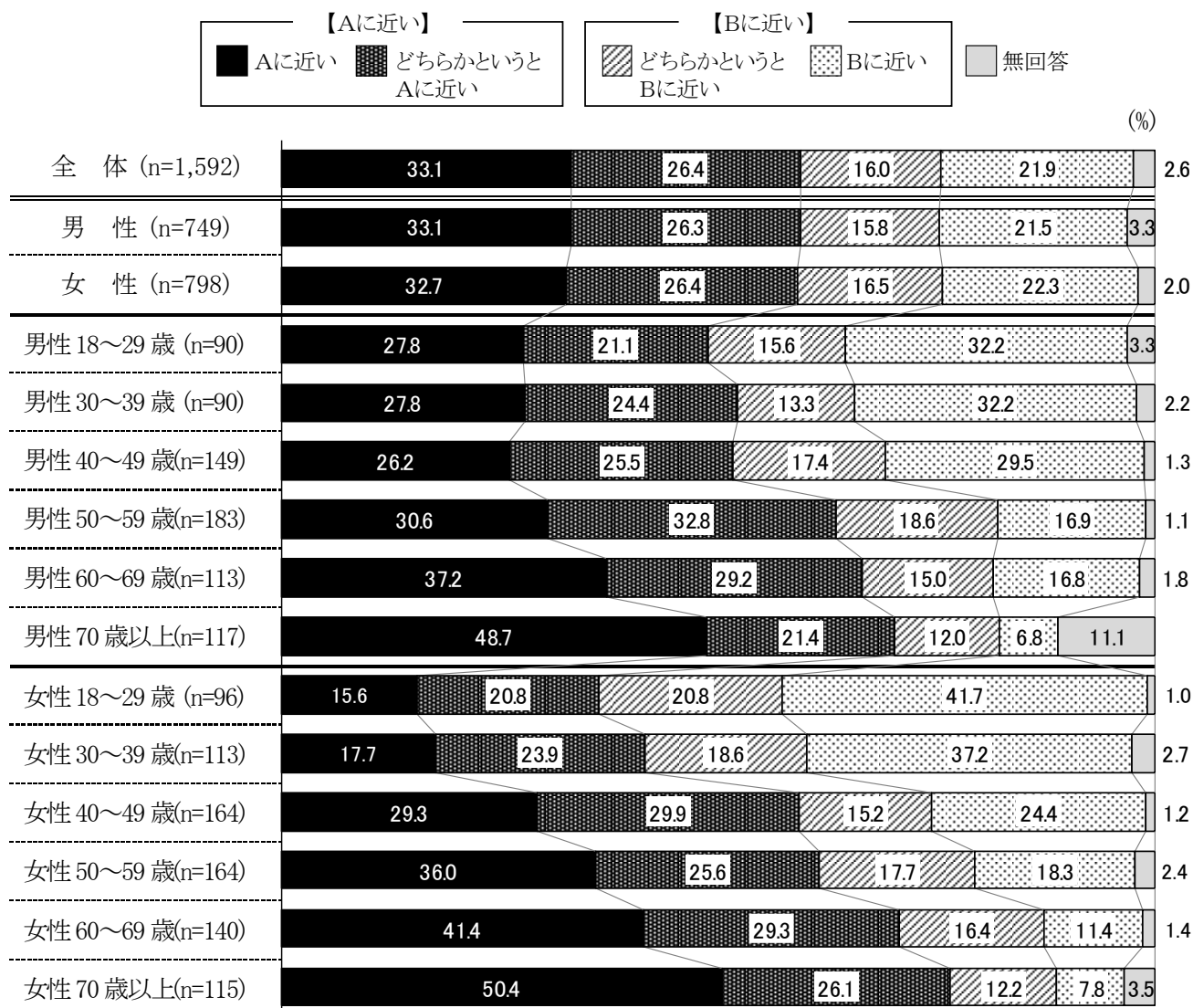


性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で【Aに近い】(配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い)が6割を超えており、男性70歳以上と女性の60歳代以上は7割を超えて高くなっている。

【図表 134】「市政だより」についての考え(性別、性／年齢別)

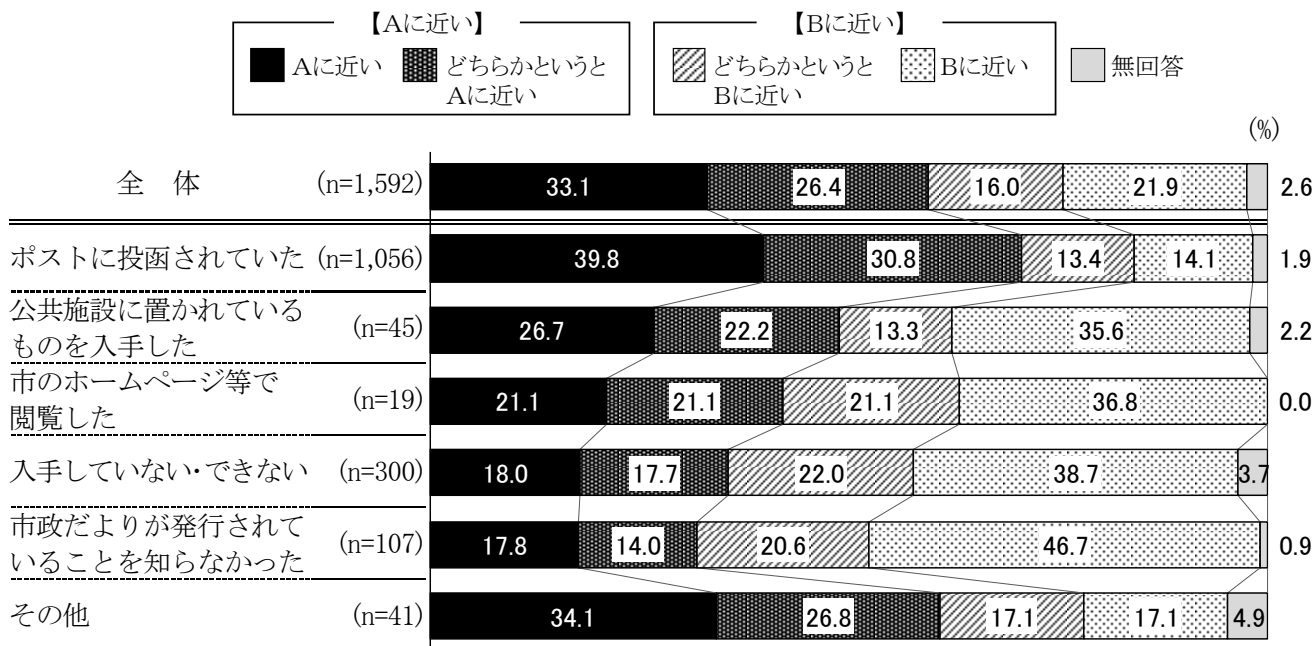
〔 A : 配布方法は、紙で各戸に配布した方が良い
 B : 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できれば良い 〕



問14の「市政だより11月号」の入手状況別に見ると、【Aに近い】(配布方法は、紙で各戸に配布した方がよい)は「ポストに投函されていた」と回答した人で70.5%と最も高くなっている。また、「入手していない・できない」、「市政だよりが発行されていることを知らなかった」と回答した人は【Bに近い】(各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できればよい)が6割を超えて高くなっている。

【図表 135】「市政だより」についての考え(「市政だより11月号」の入手状況別)

A : 配布方法は、紙で各戸に配布した方がよい
 B : 各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できればよい



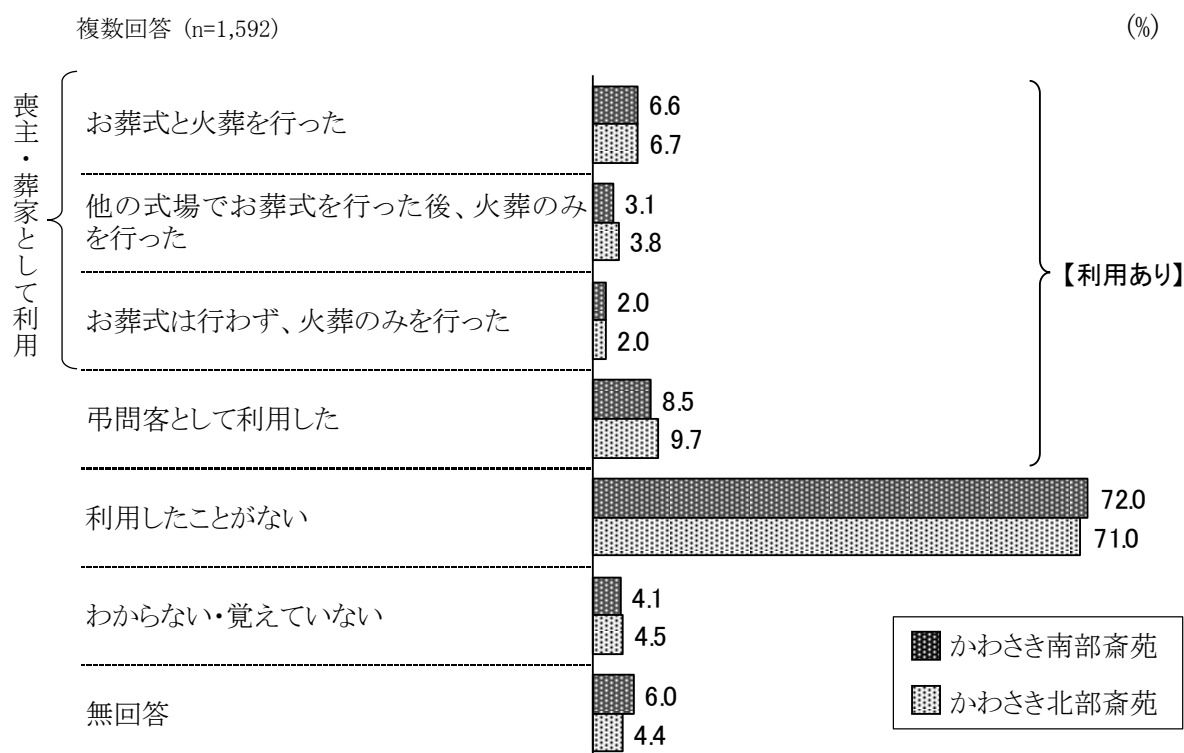
2.6 これからのお葬式のあり方や火葬後の灰等の取り扱いについて

(1) 市営葬祭場の利用状況

問 18. 川崎市では、市民の皆様のお葬式や火葬を行う施設として「かわさき南部斎苑」「かわさき北部斎苑」という葬祭場を運営しています。
過去10年以内に、あなたは川崎市の葬祭場を、喪主、葬家として、または弔問客として利用したことがありますか。「かわさき南部斎苑」「かわさき北部斎苑」それぞれについてお答えください。

過去10年間の利用状況では、「かわさき南部斎苑」、「かわさき北部斎苑」いずれも「利用したことがない」が7割を超えている。全体から「利用したことがない」、「わからない・覚えていない」、「無回答」を除いた【利用あり】の割合は、「かわさき南部斎苑」が18.0%、「かわさき北部斎苑」が20.1%であった。

【図表 136】市営葬祭場の利用状況（複数回答）



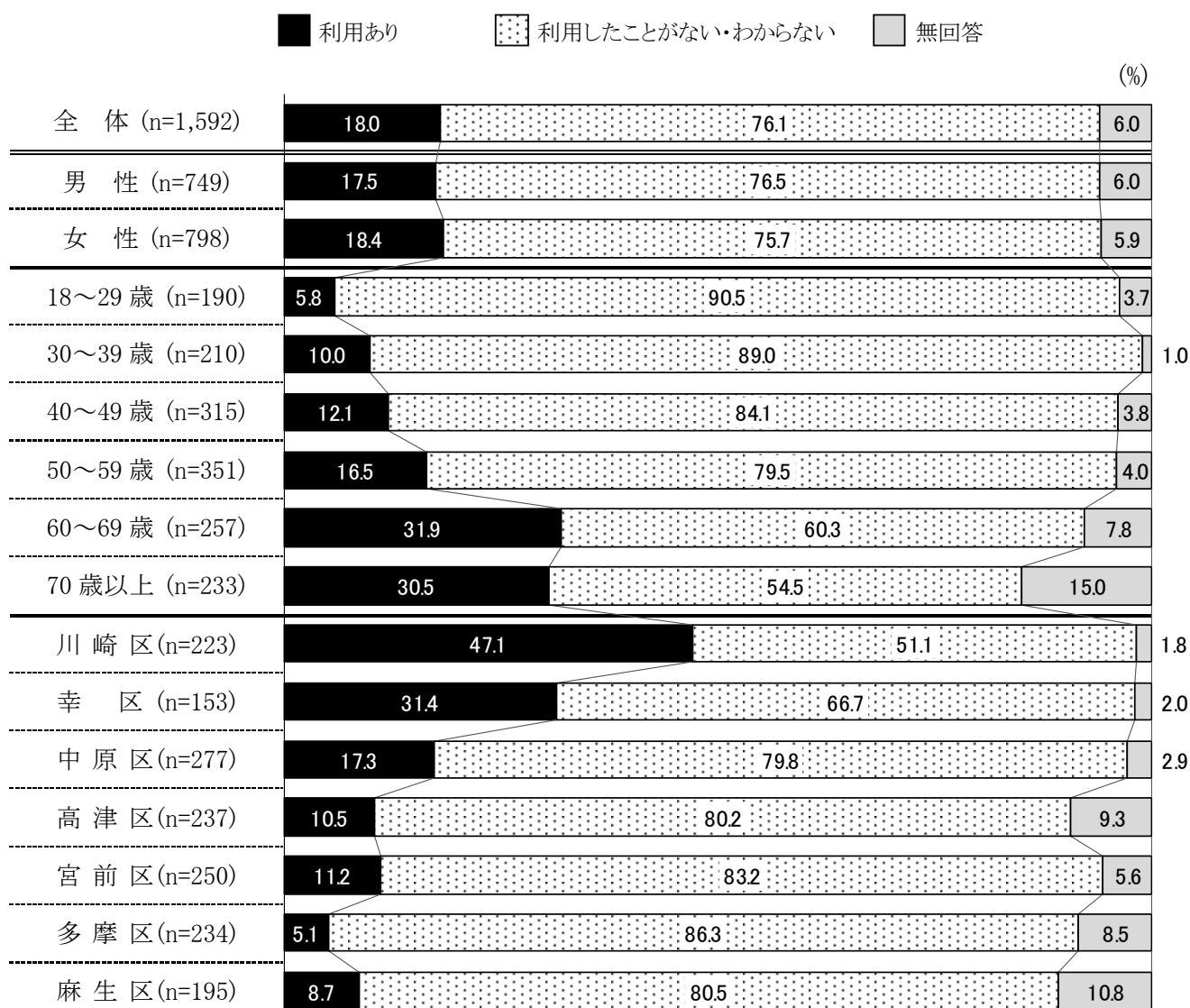
①「かわさき南部斎苑」について

性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【利用あり】の割合はおおむね年齢が上がるほど高く、60歳代以上で3割を超えている。

居住区別に見ると、【利用あり】の割合は「川崎区」(47.1%)が最も高く、「幸区」(31.4%)、「中原区」(17.3%)、「宮前区」(11.2%)と続いている。

【図表 137】「かわさき南部斎苑」の利用状況（性別、年齢別、居住区別）



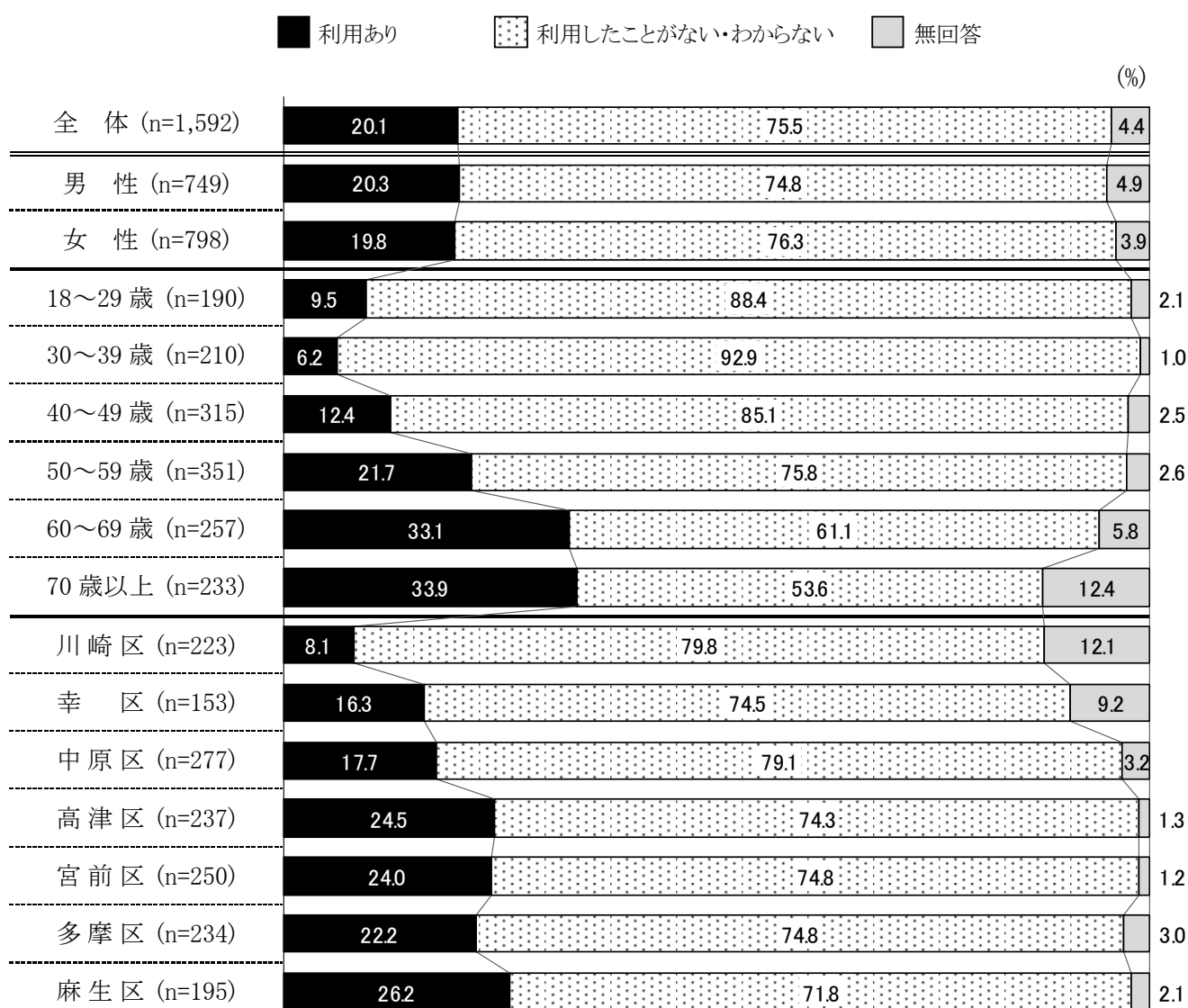
②「かわさき北部斎苑」について

性別では大きな差は見られない。

年齢別に見ると、【利用あり】の割合は18～29歳を除き年齢が上がるほど高く、60歳代以上で3割を超えている。

居住区別に見ると、【利用あり】の割合は「麻生区」(26.2%)が最も高く、「高津区」(24.5%)、「宮前区」(24.0%)、「多摩区」(22.2%)と続いている。

【図表 138】「かわさき北部斎苑」の利用状況（性別、年齢別、居住区別）



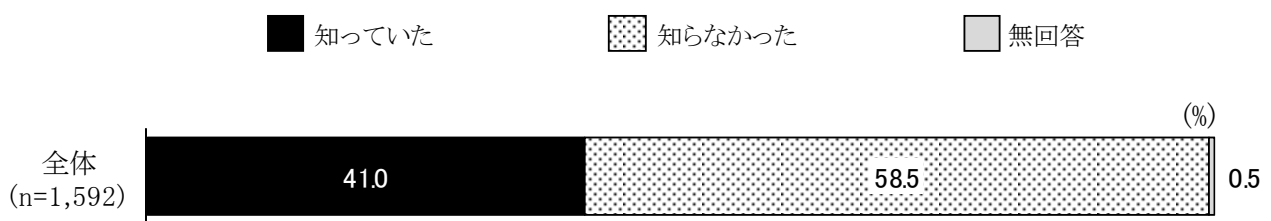
(2) 友引の日に火葬を行うことについて

問 19. 友引の日にはお葬式や火葬を行わないとする慣習があるため、川崎市においても一部の時期を除き、友引の日は葬祭場をお休みとしています。このことについて、以下の質問にお答えください。

① あなたは、葬祭場は原則として友引の日がお休みであることを知っていましたか。

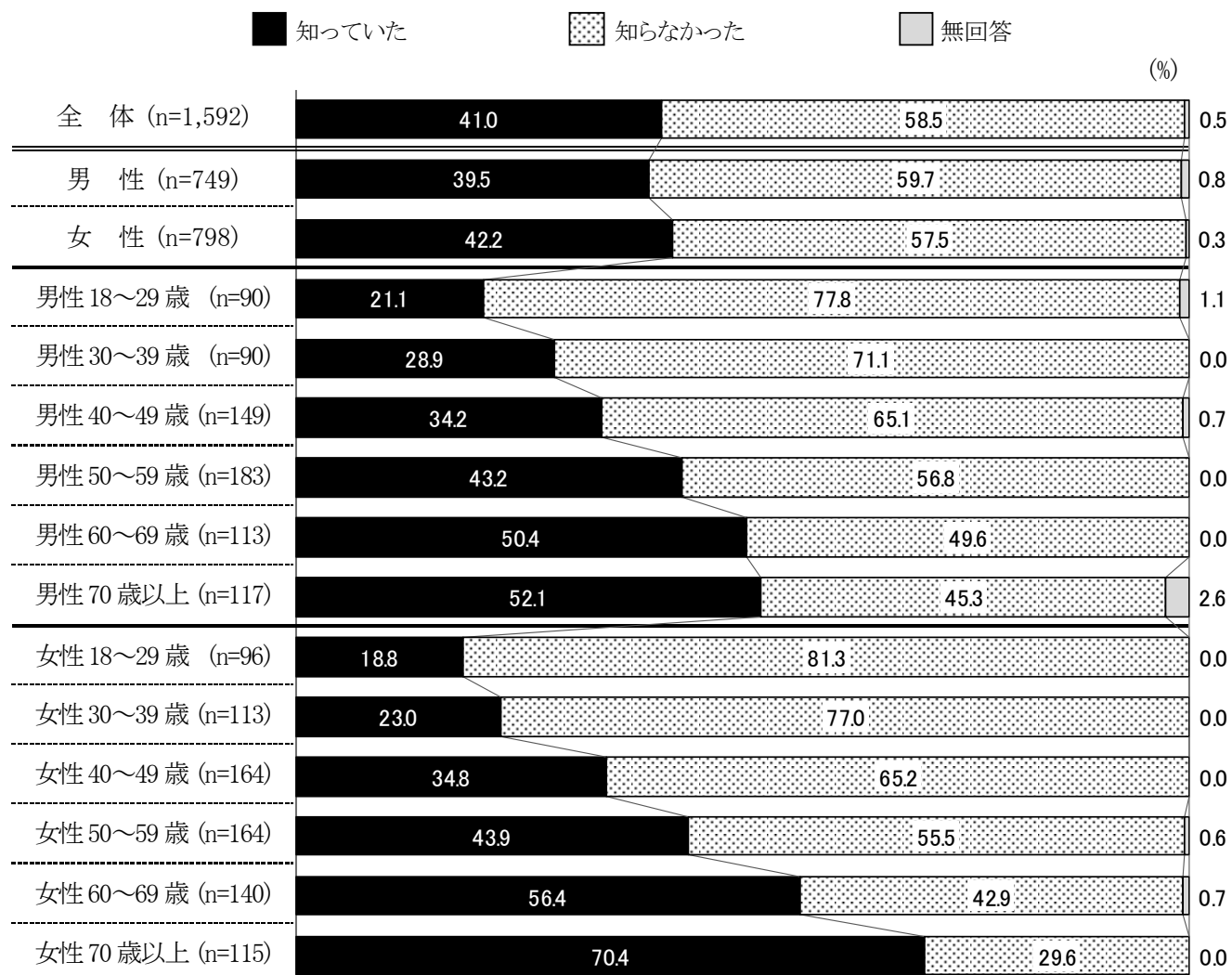
「知っていた」が41.0%、「知らなかった」が58.5%となっている。

【図表 139】 葬祭場は友引の日が休みであることの認知状況



性／年齢別に見ると、「知っていた」の割合は男女ともに年齢が上がるほど高く、女性70歳以上(70.4%)が最も高い。

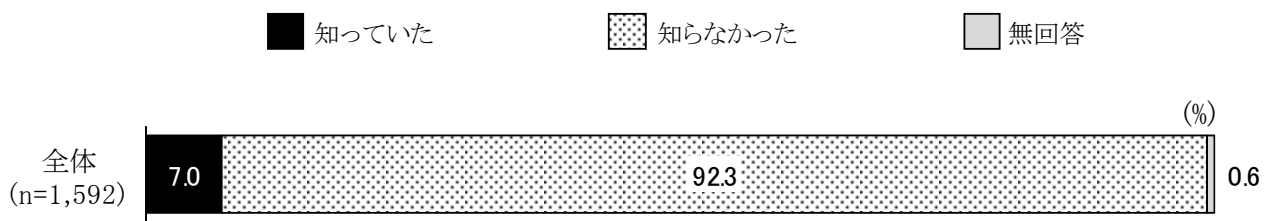
【図表 140】 葬祭場は友引の日が休みであることの認知状況（性別、性／年齢別）



- ② 高齢化に伴う多死社会の到来により、葬祭場はこれまで以上に多くの火葬の受け入れを求められることが想定されます。受け入れ数を増やすための取り組みとして、葬祭場が特に混雑する時期に、友引の日も開苑し、火葬を受け入れています。あなたはこのような取り組み(友引日開苑)を知っていましたか。

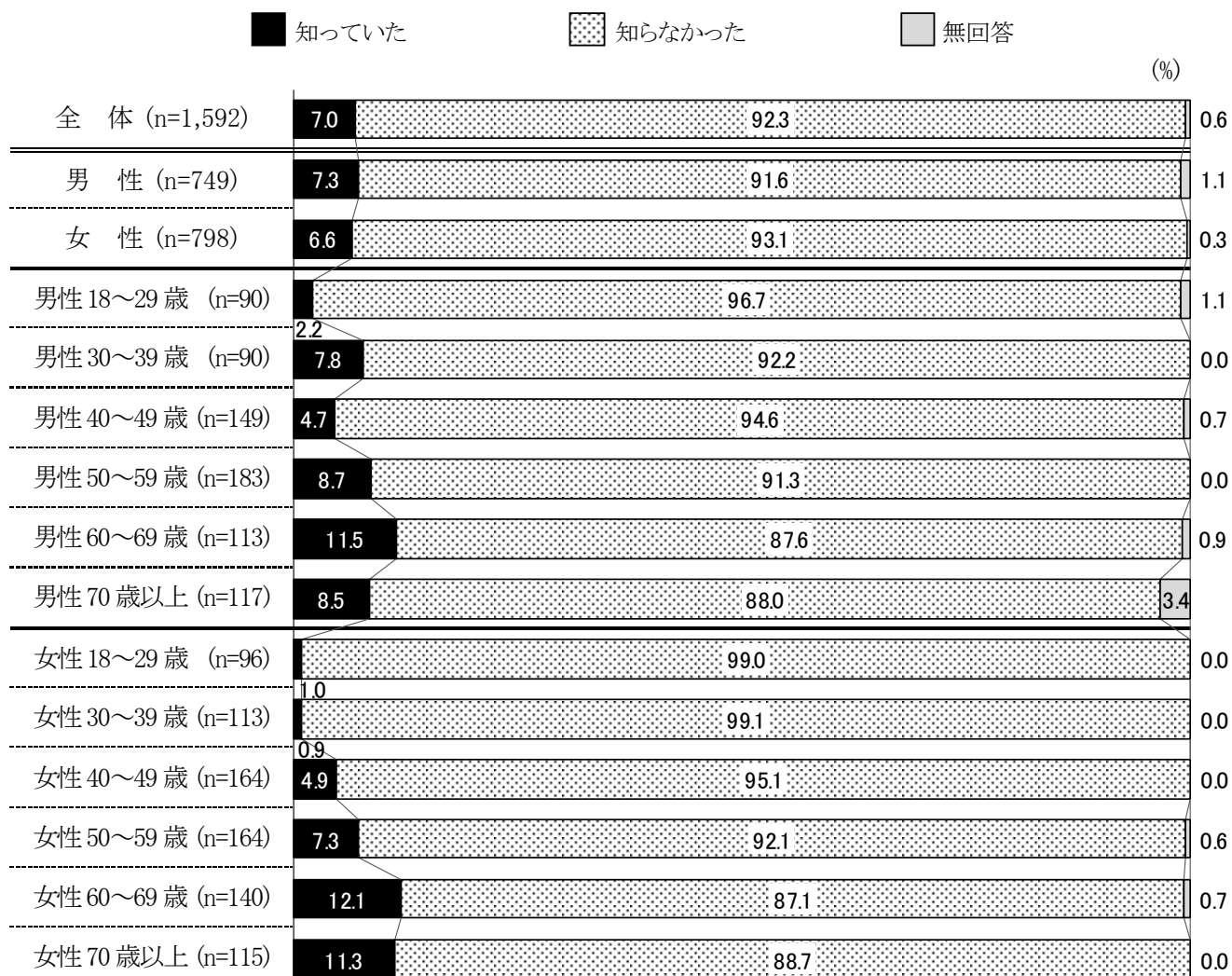
「知らなかった」が92.3%、「知っていた」が7.0%となっている。

【図表 141】「友引日開苑」の認知状況



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以下で「知らなかった」の割合が9割を超えている。

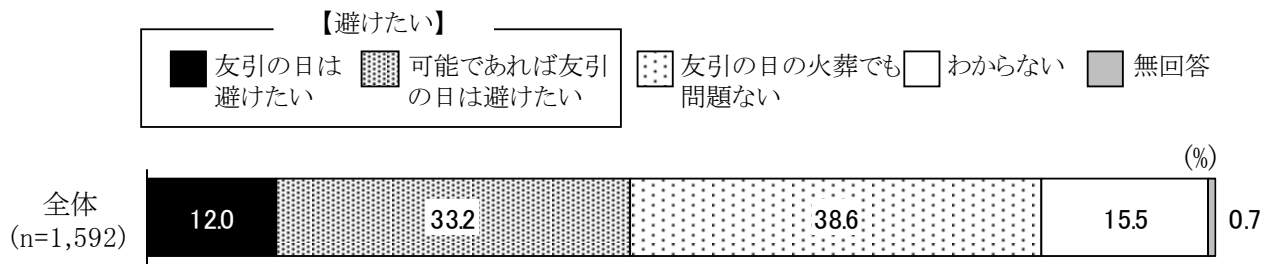
【図表 142】「友引日開苑」の認知状況（性別、性／年齢別）



③ 友引の日に火葬を行うことについて、あなたはどのように考えますか。

「可能であれば友引の日は避けたい」(33.2%)と「友引の日は避けたい」(12.0%)を合わせた【避けたい】は45.2%、「友引の日の火葬でも問題ない」が38.6%であった。

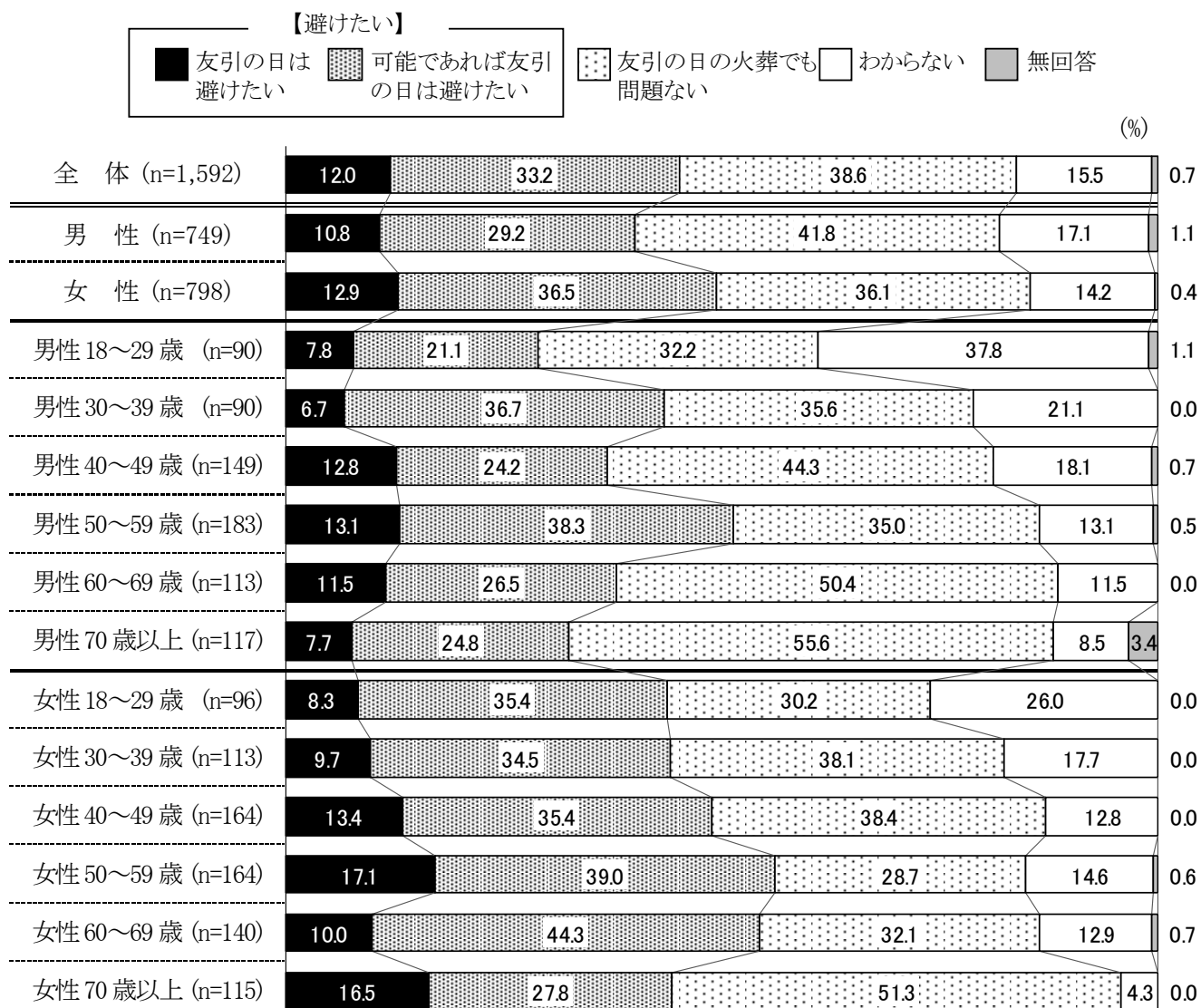
【図表 143】 友引の日に火葬を行うことについての考え方



性別に見ると、【避けたい】の割合は、男性（40.1%）よりも女性（49.4%）の方が9.3ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【避けたい】の割合は男性50歳代と女性の50歳代～60歳代で5割を超えて高く、「友引の日の火葬でも問題ない」は男性60歳代以上と女性70歳以上で5割を超えて高くなっている。

【図表 144】 友引の日に火葬を行うことについての考え方（性別、性／年齢別）

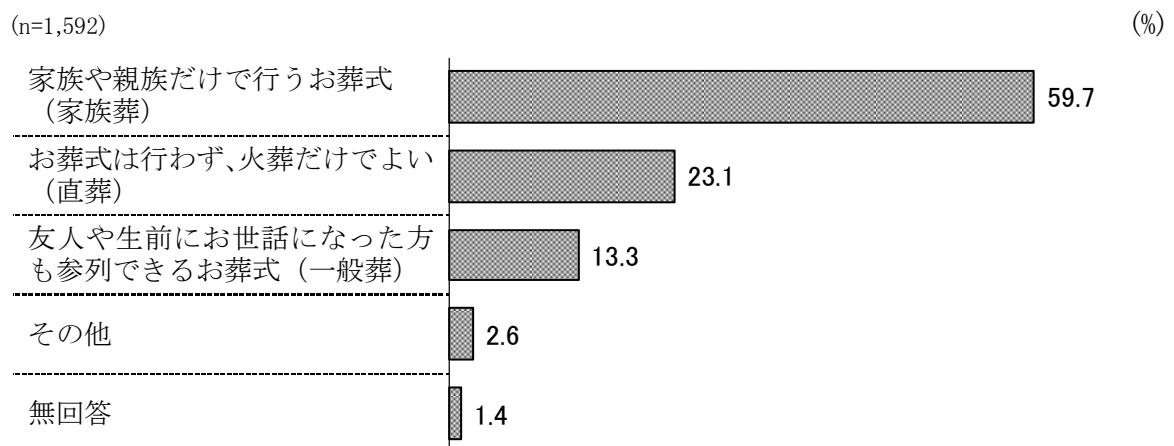


(3) 希望するお葬式の形態

問 20. お葬式には個々のお考えや宗教によってさまざまな形態があります。
あなたは、ご自身が亡くなった後のお葬式はどのような形にすることを希望しますか。

「家族や親族だけで行うお葬式（家族葬）」（59.7%）が最も高く、次いで「お葬式は行わず、火葬だけでよい（直葬）」（23.1%）、「友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式（一般葬）」（13.3%）と続いている。

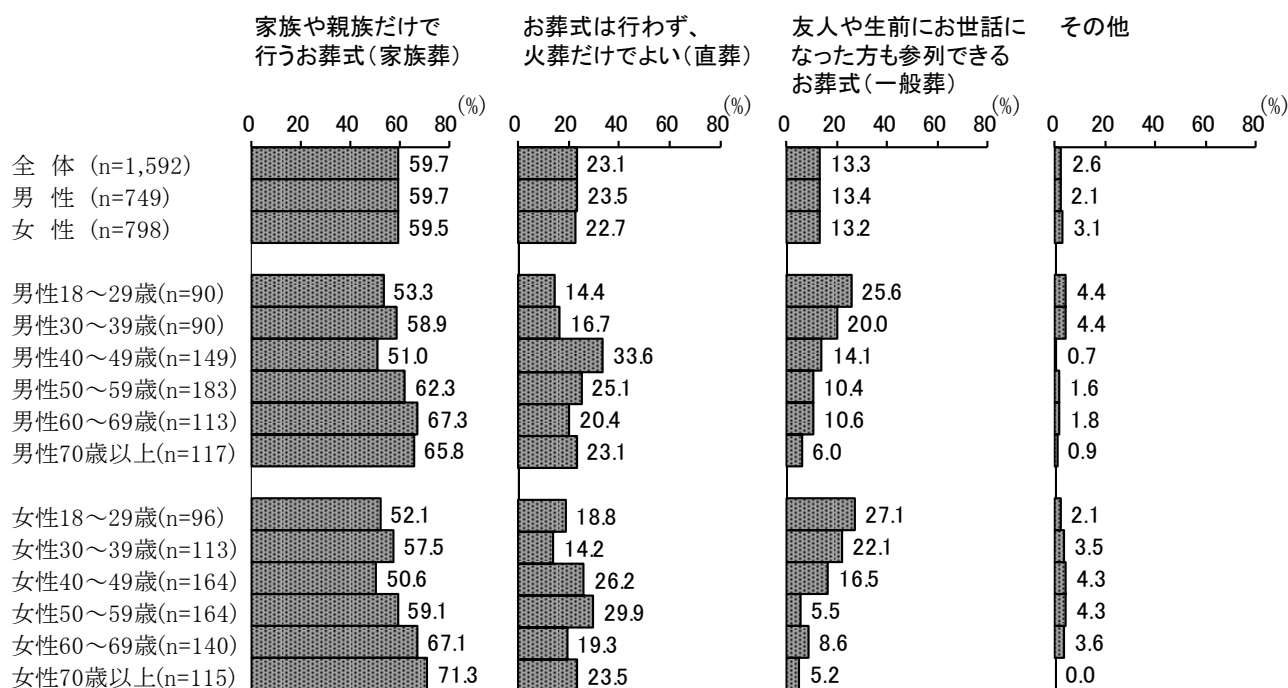
【図表 145】 希望するお葬式の形態



性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、「家族や親族だけで行うお葬式（家族葬）」は男女ともに50歳代以上でおおむね6割を超え、高くなっている。「お葬式は行わず、火葬だけでよい（直葬）」は男性では40歳代（33.6%）が最も高く、女性では50歳代（29.9%）が最も高くなっている。「友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式（一般葬）」は男女ともに18～29歳が最も高く、おおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 146】希望するお葬式の形態（性別、性／年齢別）



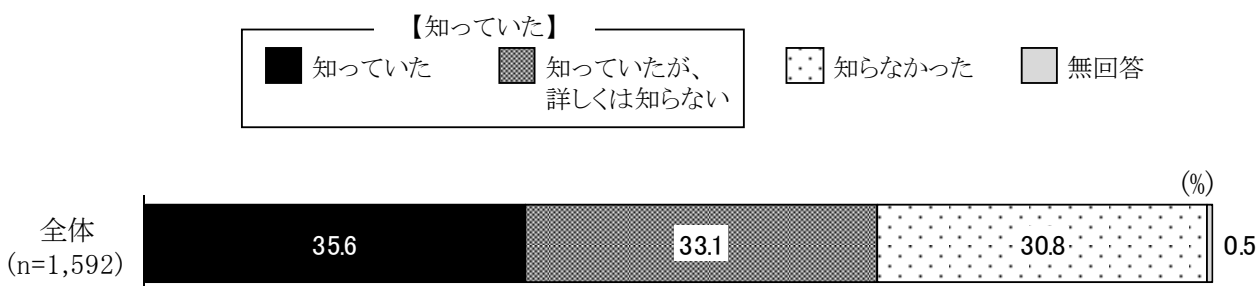
(4) 残骨灰について

問 21. 火葬を行うと、収骨していただく御遺骨の他に、棺や棺に納められた品物等を由来とする灰や収骨されなかった小さな御遺骨等が残ります。この灰等（「残骨灰」といいます）についてうかがいます。

① 火葬の後、残骨灰が残ることを知っていますか

「知っていた」(35.6%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(33.1%)を合わせた【知っていた】は68.7%となっている。

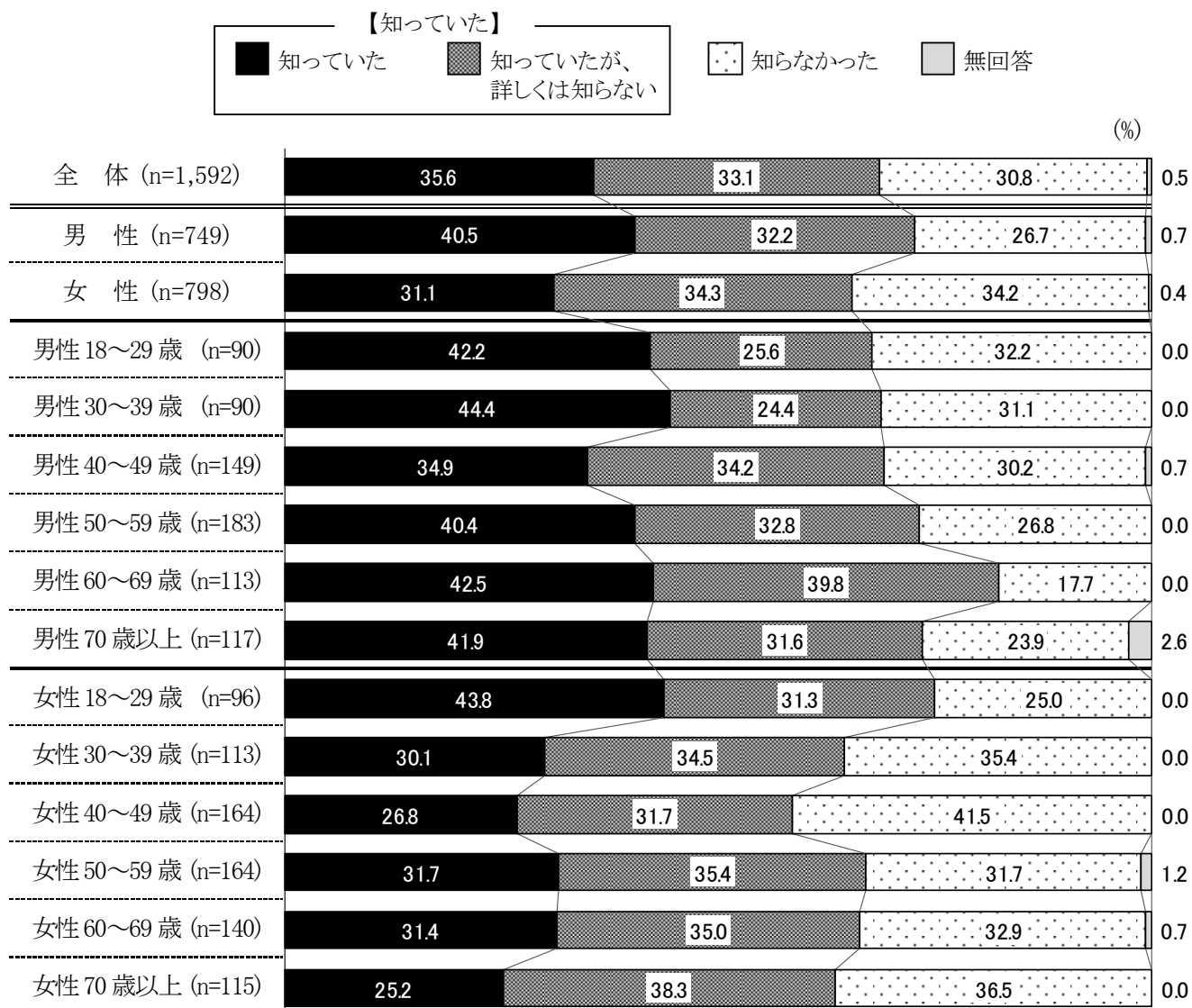
【図表 147】 火葬の後、残骨灰が残ることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（65.4%）よりも男性（72.6%）の方が7.2ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の50歳代以上と女性の18～29歳で7割を超えており、男性60歳代（82.3%）で8割を超え、最も高い。

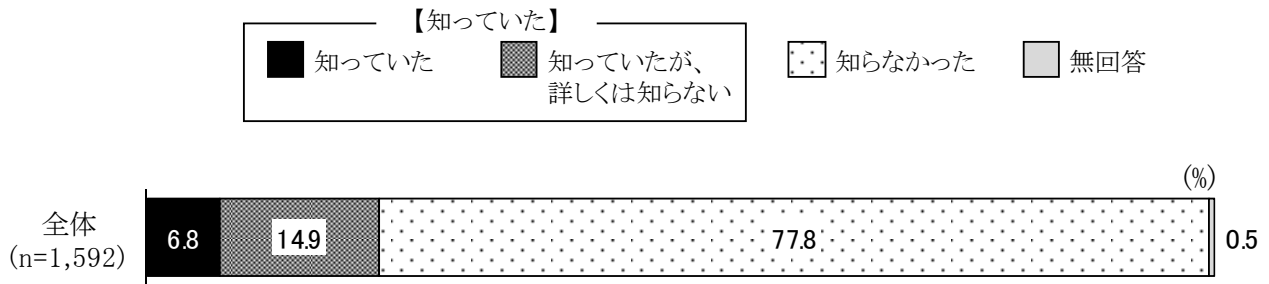
【図表 148】火葬の後、残骨灰が残ることの認知状況（性別、性／年齢別）



② 残骨灰には、有害物質が含まれていることを知っていますか

「知らなかった」が77.8%、「知っていた」(6.8%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(14.9%)を合わせた【知っていた】は21.7%となっている。

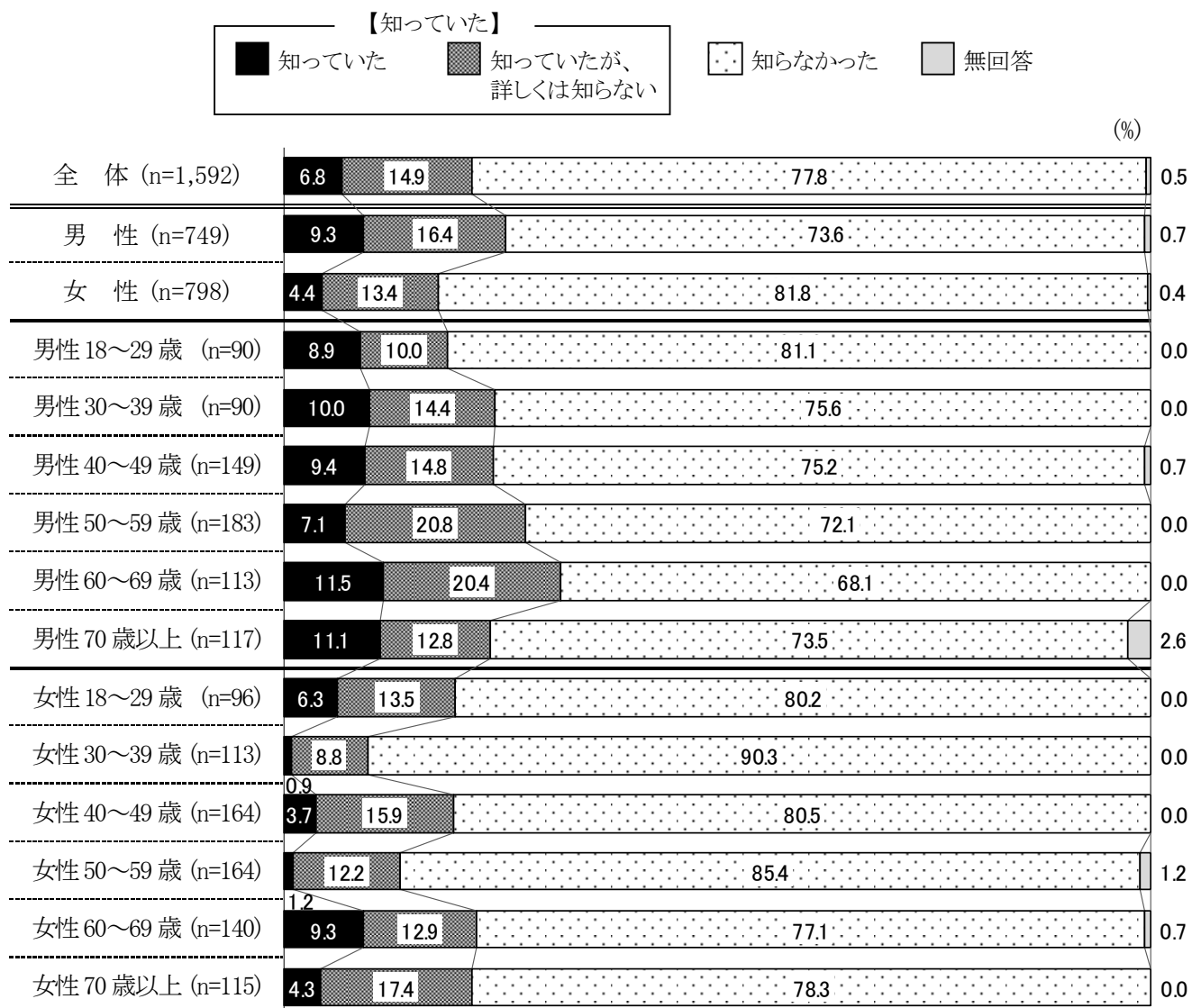
【図表 149】 残骨灰に有害物質が含まれていることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（17.8%）よりも男性（25.8%）の方が8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の30歳代以上と女性の60歳代以上で2割を超えており、男性60歳代（31.9%）で3割を超え、最も高い。

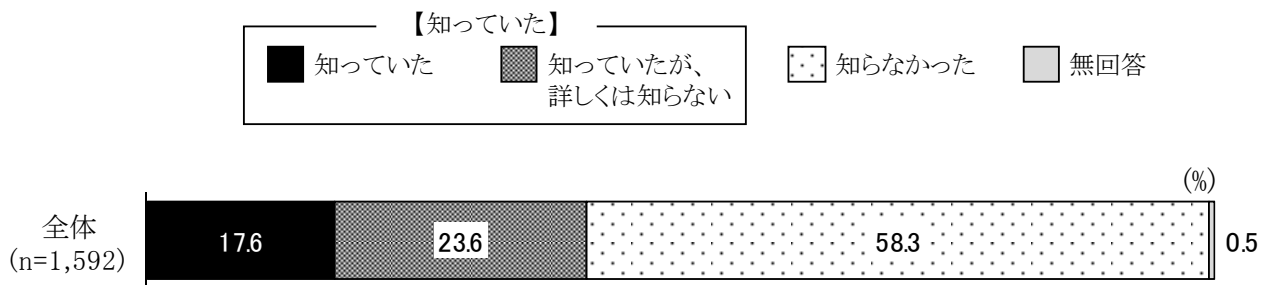
【図表 150】 残骨灰に有害物質が含まれていることの認知状況（性別、性／年齢別）



③ 残骨灰には、貴金属等の有価物が含まれていることを知っていますか

「知らなかった」が 58.3%、「知っていた」(17.6%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(23.6%)を合わせた【知っていた】は 41.2%となっている。

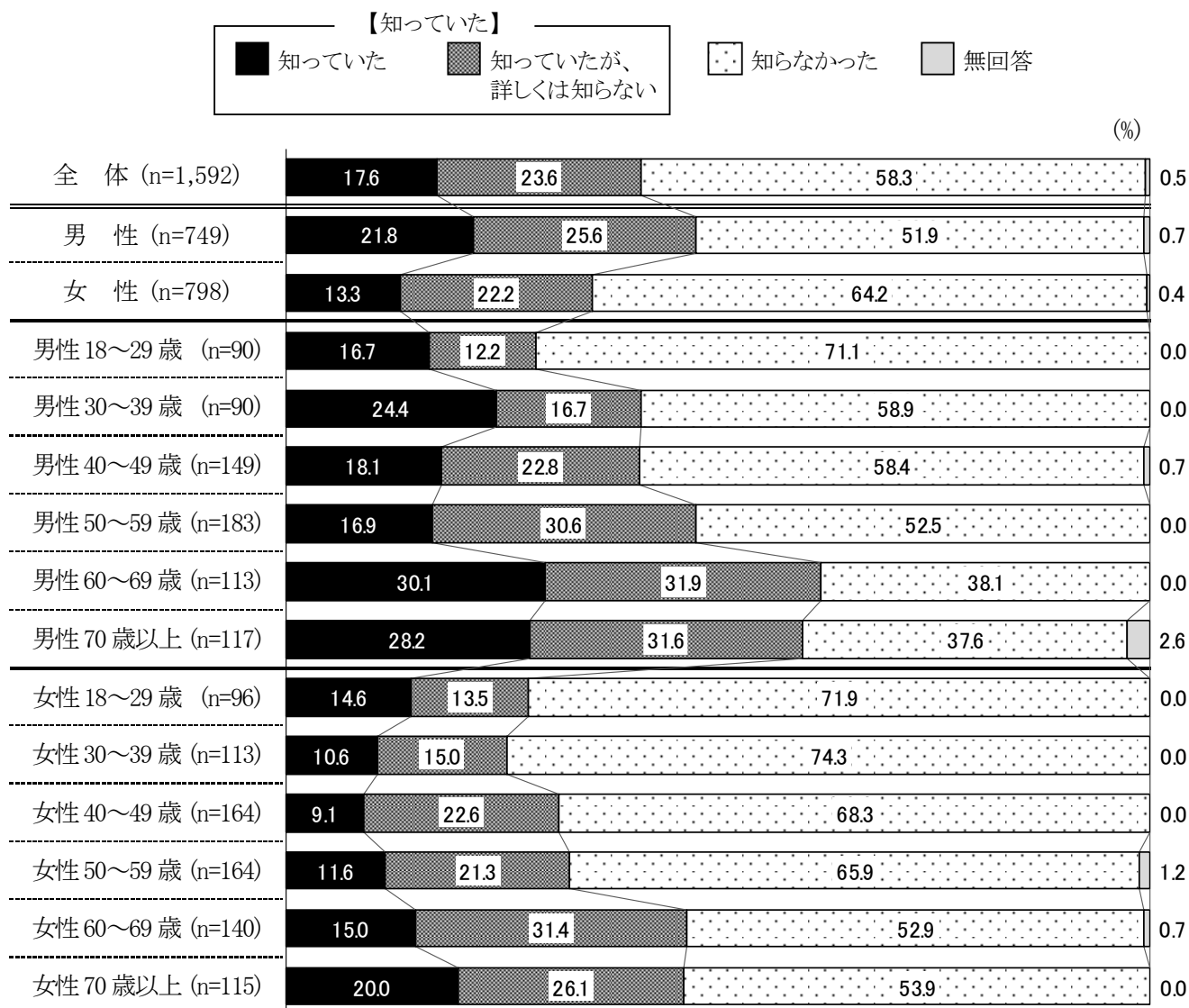
【図表 151】 残骨灰に貴金属等の有価物が含まれていることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（35.5%）よりも男性（47.4%）の方が11.9ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の30歳代以上と女性の60歳代以上で4割を超えており、男性60歳代（61.9%）で6割を超え、最も高い。

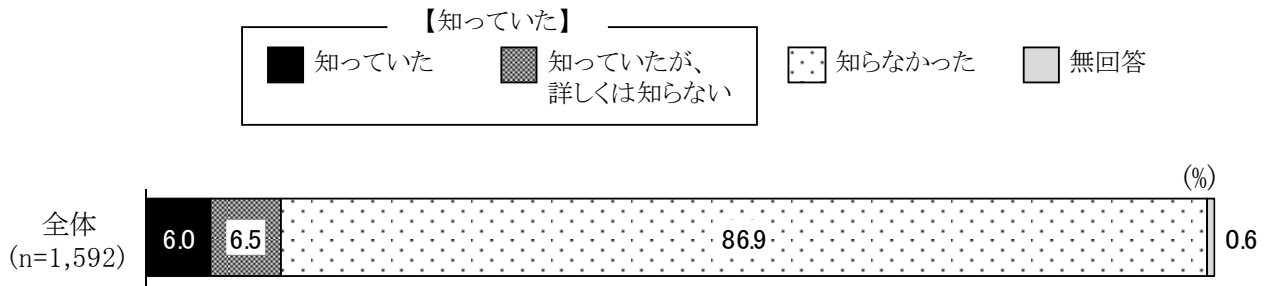
【図表 152】 残骨灰に貴金属等の有価物が含まれていることの認知状況（性別、性／年齢別）



④ 他都市では、残骨灰を売却する等の取り組みを行い、自治体の財源としている例があることを知っていますか

「知らなかった」が86.9%、「知っていた」(6.0%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(6.5%)を合わせた【知っていた】は12.5%となっている。

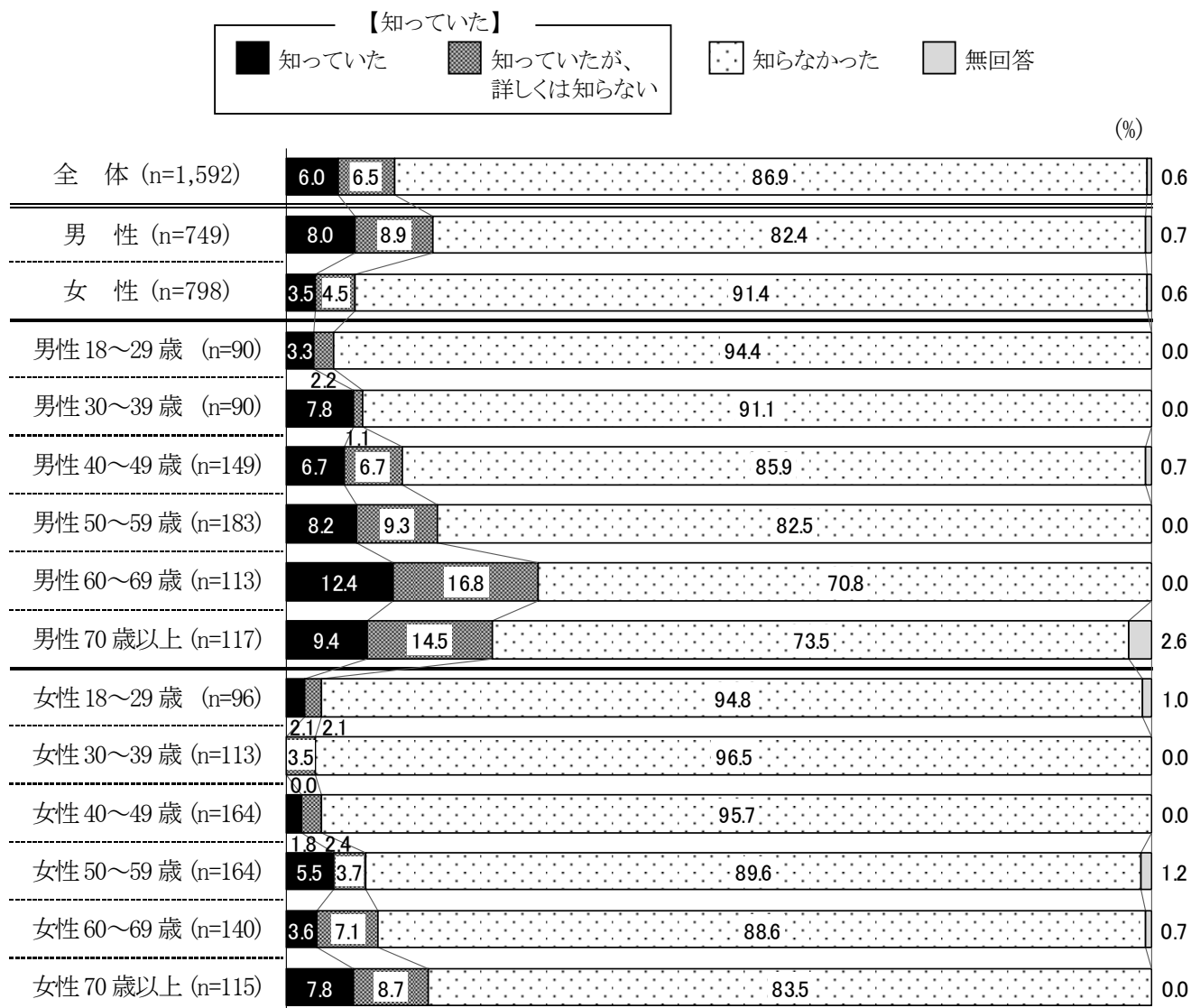
【図表 153】 残骨灰を売却し、自治体の財源としている例があることの認知状況



性別に見ると、【知っていた】の割合は、女性（8.0%）よりも男性（17.0%）の方が9.0ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【知っていた】の割合は男性の40歳代以上と女性の60歳代以上で1割を超えており、男性60歳代（29.2%）で最も高い。

【図表 154】 残骨灰を売却し、自治体の財源としている例があることの認知状況（性別、性／年齢別）

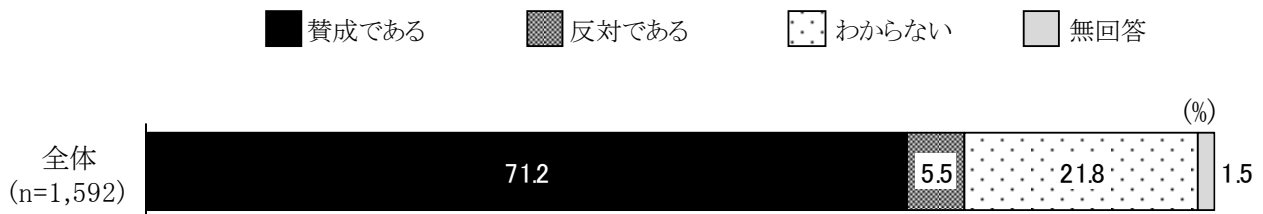


(5) 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否

問 22. 川崎市では残骨灰について、外部の業者に委託し、残骨灰に含まれる御遺骨については埋葬、供養したうえで、それ以外の灰は有害物質を除去して処分しています。
あなたは川崎市が他都市のように残骨灰を業者に売却し、残骨灰に含まれる御遺骨を埋葬、供養したうえで、収益を葬祭場等の運営に役立てることについてどう思いますか。

「賛成である」が71.2%、「わからない」が21.8%、「反対である」が5.5%となっている。

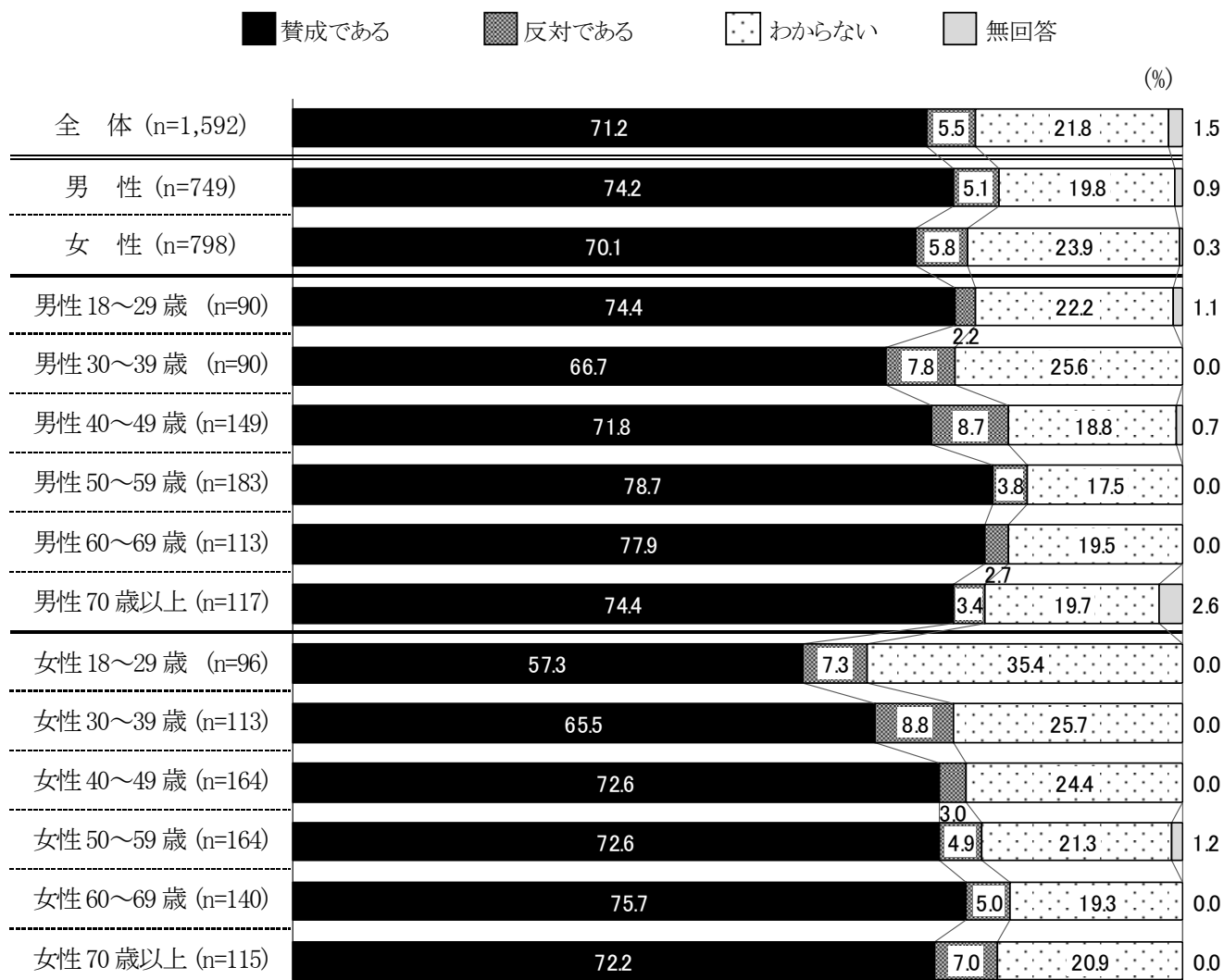
【図表 155】 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否



性別では大きな差は見られない。

性／年齢別に見ると、「賛成である」の割合は男性 50 歳代～60 歳代が 7 割台後半で高く、「わからない」の割合は女性 18～29 歳（35.4%）が最も高くなっている。

【図表 156】 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否（性別、性／年齢別）



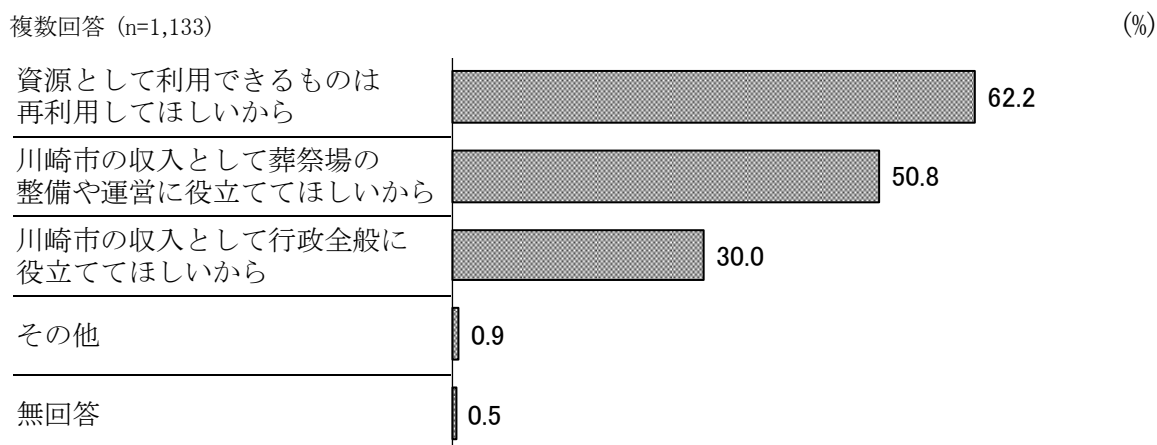
(6) 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否の理由

① 残骨灰の収益化に賛成の理由

問 22-1. 賛成の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。

残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることに「賛成である」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「資源として利用できるものは再利用してほしいから」(62.2%)が最も高く、次いで「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」(50.8%)、「川崎市の収入として行政全般に役立ててほしいから」(30.0%)と続いている。

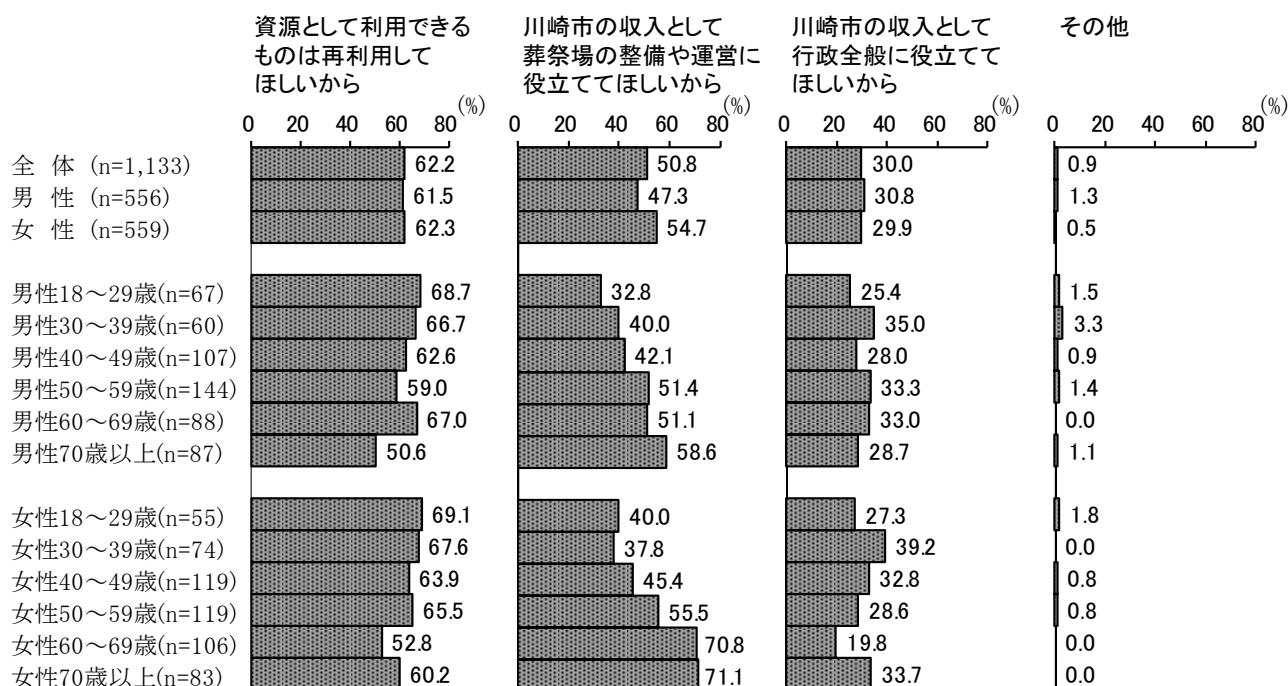
【図表 157】 残骨灰の収益化に賛成の理由 (複数回答)



性別に見ると、「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」は男性(47.3%)よりも女性(54.7%)の方が7.4ポイント高くなっている。

性/年齢別に見ると、「資源として利用できるものは再利用してほしいから」は男女ともに18～29歳が最も高く、「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」は男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が高く、女性の60歳代以上で7割を超えている。「川崎市の収入として行政全般に役立ててほしいから」は男女ともに30歳代が最も高くなっている。

【図表 158】 残骨灰の収益化に賛成の理由（複数回答）
（性別、性/年齢別）

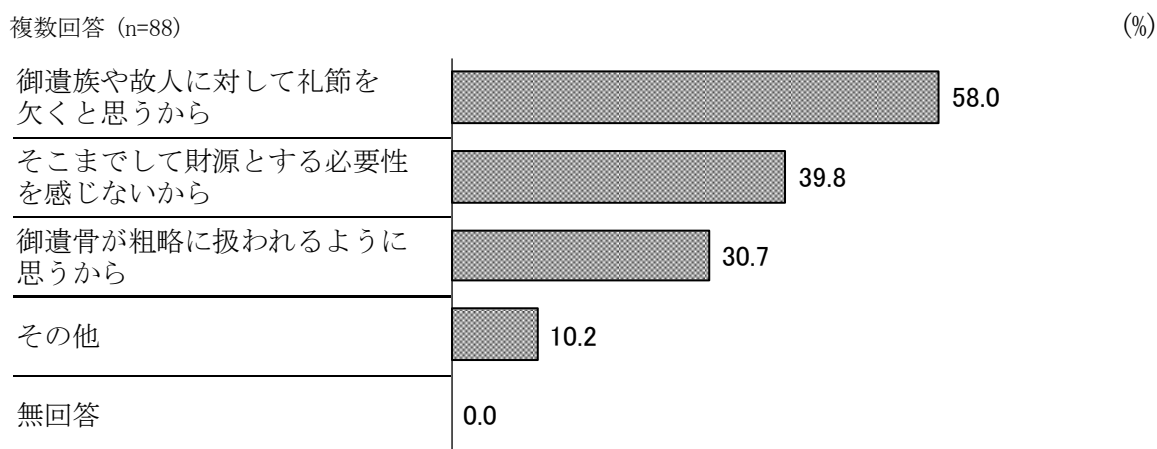


② 残骨灰の収益化に反対の理由

問 22-2. 反対の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。

残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることに「反対である」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「御遺族や故人に対して礼節を欠くと思うから」(58.0%)が最も高く、次いで「そこまでして財源とする必要性を感じないから」(39.8%)、「御遺骨が粗略に扱われるように思うから」(30.7%)と続いている。

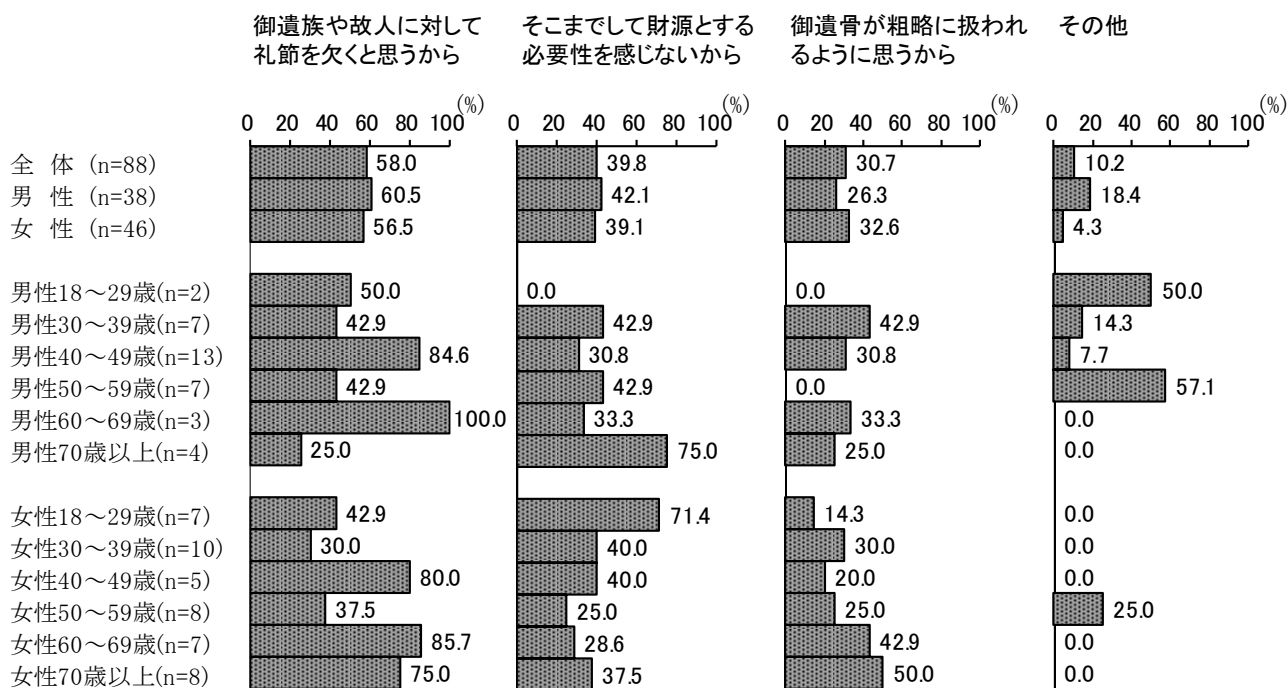
【図表 159】 残骨灰の収益化に反対の理由（複数回答）



性別に見ると、「御遺骨が粗略に扱われるように思うから」は男性(26.3%)よりも女性(32.6%)の方が6.3ポイント高くなっている。

性/年齢別の回答結果は、回答者数が少ないため参考にとどめる。

【図表 160】 残骨灰の収益化に反対の理由（複数回答）
（性別、性/年齢別）



IV 調査票

SQ1 あなたの年齢を教えてください。

次へ

SQ2 あなたの性別を教えてください。
(1つだけ)

- 男性
- 女性
- 選べない・答えたくない

戻る

次へ

SQ3 あなたのお住まいの地域を教えてください。
(1つだけ)

【東京都】

- 23区内
- 23区以外

【神奈川県】

- 川崎市
- 横浜市
- 川崎市・横浜市以外の神奈川県

- 千葉県
- 埼玉県
- 上記以外の道府県

戻る

次へ

SQ4 あなたが現在お住まいの区はどちらですか。
(1つだけ)

- 川崎区
- 幸区
- 中原区
- 高津区
- 宮前区
- 多摩区
- 麻生区

戻る

次へ

調査へのご協力をお願い

川崎市民のみなさまには、日頃から市政に対してご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

この度、川崎市では、市民のみなさまのご意見をお聞きし、今後の市政運営の参考とさせていただくことを目的として、アンケート調査を実施することといたしました。

調査結果については川崎市ホームページ等で公表させていただきますが、お答えいただいた内容を個人が特定できるような形で公表することはありませんのでご安心ください。

お忙しいところ大変恐れ入りますが、ぜひとも調査にご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年8月 川崎市

[戻る](#) [次へ](#)

ここからは、「川崎市の緑」についておうかがいします。

川崎市は、都市の快適性や環境の質を高めるため、「緑の基本計画」の改定を進めています。その一環として、市民の皆さまが川崎市の緑にどのように親しみ、どのようなまちを望んでいるかを把握するため、以下の質問にお答えください。

Q1 あなたは、川崎市の緑に満足していますか。
「市域全体の緑」「あなたがお住まいの区の緑」それぞれについてお答えください。
(それぞれ1つずつ)

		十分満足	まあまあ満足	普通	やや不満	おおいに不満
市域全体の緑	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
あなたがお住まいの区の緑	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[戻る](#) [次へ](#)

Q2

川崎市には多様な緑があります。あなたは以下のどのような緑を最も保全した方がいいと思いますか。
(1つだけ)

臨海部の緑

臨海部の市街地側には公園の緑をつなぐ緑道や街路樹があり、海側には、東扇島東公園のような大規模緑地に加え、各事業所の整備時に植えた樹木が大きく成長し、緑地となるなど多様な緑があります。



東扇島東公園



花王川崎工場

公園の緑（総合公園や街区公園）

富士見公園や等々力緑地などの大規模公園に加え、宮崎第4公園などの中小規模の公園を含む、約1,300カ所の公園があります（令和6年現在）。



富士見公園



宮崎第4公園

雑木林を保全した緑地

市の北部を中心に、小沢城址特別緑地保全地区や王禅寺四ツ田緑地など、雑木林を保全した緑地があります。遊歩道などを整備し、イベント等を実施している緑地もあります。



小沢城址



四ツ田緑地イベント

街中の緑

多くの通りにはケヤキやイチョウ等の街路樹が植えられており、街の景観や気候変動に役立っています。様々な場所に花壇が設置され、季節の草花が人々を楽しませてくれます。



街路樹(市役所前)

花壇
(登戸区画整理区域内)

農地の緑

多摩川沿いや高津区、麻生区を中心に畑作や野菜販売など、都市型農業が営まれています。市民農園や体験農園も整備され、農業に親しみながら自然とふれあえる環境が整っています。



黒川の農地



市民農園

多摩川の緑

多摩川緑地は市内5区にまたがる広大な緑地で、季節の野花が咲く自然豊かな憩いの場として親しまれています。河川敷内の広場等を活用し、様々なイベントを実施しています。



多摩川緑地



多摩川キャンドルナイト

戻る

次へ

川崎市の緑の取組について

1.生活の身近な緑の充実

川崎駅周辺など市内の8地区を「緑化推進重点地区」として指定し、緑による良好な住環境を計画しています。
また、民間企業や教育機関との協働・連携により、駅の緑化など、緑の保全・活用を進めています。



新百合ヶ丘駅前の緑



武蔵溝ノ口駅の壁面緑化

2.誰でも利用しやすい緑の空間づくり

安全・安心で良好な緑豊かな都市空間の創出に向け、植栽の計画的な維持管理を行っています。
従来の遊具に加え、健康器具や誰もが利用しやすいインクルーシブ遊具を整備しています。



公園の樹木



健康器具

3.持続的な協働の取組

市民や企業、大学などと連携し、緑を活動の拠点とした取組を実施しています。
公園での様々な利用や維持管理を体験できる「イドバタパークデイ」や、企業と地域の協力により緑地保全管理を行う「里山コラボ」などを実施しています。



イドバタパークデイ



里山コラボ

4.緑地保全制度の活用

緑地保全制度の川崎方式により約250ヘクタール(東京ドーム約53個分)の緑地を保全してきました。
生物多様性に配慮した持続可能な取組を実施し、ふるさとの景観の継承と自然環境との共生を進めています。



黒川海道特別緑地保全地区



萌芽更新の様子

5.気候変動に対する強化

市民や事業者と協力し、150万本植樹運動や、カーボンチャレンジ川崎工コ戦略や節電対策の取組として、ゴーヤー等を使用した緑のカーテンづくりを実施しています。



緑のカーテン



植樹祭

6.緑を活かしたイベント等の開催

20種類以上の遊具で親子が1日楽しめる「プレイグリーンパークかわさき」や、御幸公園での「観梅会」など、季節に合わせた様々なイベントを開催しています。



プレイグリーンパーク



観梅会

Q3

これまで川崎市では、上記のようなさまざまな緑に関する取組をおこなってきました。それらの中で、あなたが知っていた取組はどれですか。また、今後さらに期待する取組はどれですか。(それぞれいくつでも)

※この質問は縦方向にお答えください。

	知っていた取組 (いくつでも)	今後さらに期待する取組 (いくつでも)
1. 生活の身近な場所(駅前・住宅地等)での緑の充実	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 誰もが利用しやすい緑の空間づくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 市民や企業と連携した緑づくり活動の推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 緑の保全と活用(樹林地、里山など自然環境の保護)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 緑による気候変動に対する強化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 緑を活かしたイベント等の開催(イベント、魅力案内等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. いずれもなし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

戻る

次へ

Q4 あなた自身の緑に関する活動についてうかがいます。
あなたが現在おこなっている緑に関する活動はありますか。また、今後取り組みたい活動はありますか(継続して取り組む方もご回答ください)。
(それぞれいくつでも)

※この質問は縦方向にお答えください。

	現在行っている (いくつでも)	今後取り組みたい (いくつでも)
	↓	↓
庭やベランダでのガーデニングなどの自宅の緑化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家庭菜園などの農作業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
街路樹、公園や緑地、川沿い等での除草・清掃活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
街中の花壇管理などの地域の緑化活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
緑に関する講習会・イベントへの参加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
里山などの維持管理活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公園の改修等に関する計画づくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他の活動	<input type="checkbox"/> <input type="text"/>	<input type="checkbox"/> <input type="text"/>
緑の活動には興味がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

川崎市では、緑化や自然保全に参加できる多彩なボランティア活動が展開されています。

1. 自由に公園の清掃や美化活動に参加できる

「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに活動している団体です。
スマホで簡単に申込みができ、手ぶらでも自由に参加できます。



greenbird
川崎駅チーム

2. 趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる(代表事例の紹介)

幸区や中原区では、区庁舎前の緑化や公共花壇の花植えなど、様々な取り組みを行っています。参加したい方は各区役所の地域振興課まで。



花と緑のさいわい事業
(花クラブ実行委員会)

3. 詳しい人に教えてもらいながら、雑木林の整備ができる

「みどりの教室」では、4回のフィールドワークと1回の講義で、雑木林に関わるボランティア活動の基礎を学ぶことができます。



みどりの教室
(川崎市公園緑地協会)

4. 子どもと一緒に活動できる

「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」の実現に向けた市主催の活動です。
申込不要で参加でき、公園の車止めのペンキ塗り等の活動や、市職員とどんな公園にしたい等の意見交換ができます。



親子でペンキ塗り
(イドバタパークデイ)

5. イベントの運営として参加できる

市内の公園で開催の「プレイグリーンパークかわさき」の運営のお手伝いができます。
好きな時間帯に活動でき、会場設営やイベントに参加している子供たちと一緒に遊べます。申し込みは専用サイトから。



プレイグリーンパーク
かわさき
(一般社団法人プレイ
グリーン推進協会)

Q5

これまで川崎市では、上記のような緑化や自然保全に参加できる多彩なボランティア活動を展開してきました。それらの中で知っている活動はありますか。また、今後参加してみたい活動はありますか。(それぞれいくつでも)

※この質問は縦方向にお答えください。

	知っている活動 (いくつでも)	今後参加してみたい活動 (いくつでも)
	↓	↓
1. 自由に公園の清掃や美化活動に参加できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 詳しい人に教えてもらいながら、里山や樹林地の整備ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 子どもと一緒に活動できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. イベントの運営として参加できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. いずれもなし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

戻る

次へ

川崎市ではこれまで、多様なメディアを使用し、情報発信に取り組んできました。

<p>市の広報誌(かわさき市政だより)による情報発信</p>  <p>かわさき市政だよりで、公園の魅力向上の取組を発信しました。</p>	<p>市の公式サイトによる情報発信</p>  <p>市ホームページで「公園における協働の取組」など様々な緑に関する情報を公開しています。</p>	<p>川崎市のSNS(X、インスタグラム)による情報発信</p>  <p>市のSNSで「生田緑地」や「夢見ヶ崎動物公園」など、施設の情報発信をしています。</p>	<p>駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信</p>  <p>川崎駅で「緑化フェア」のPRのため、デジタルサイネージによる広告や駅の飾りつけを行いました。</p>
<p>チラシ(町内会回覧、学校配布など)による情報発信</p>  <p>公園や多摩川で実施するイベントを、チラシでお知らせしています。</p>	<p>芸能人による情報発信</p>  <p>出典:川崎市全国都市緑化かわさきフェア公式 You tube 「緑化フェア」のPRに本田 望結さんや鈴木 福さんに出演してもらいました。</p>	<p>YouTubeなど、動画広告を使った情報発信</p>  <p>YouTubeで公園の利用ルールやイベントの動画を配信しています。</p>	<p>かわさきイベントアプリによる情報発信</p>  <p>「かわさきイベントアプリ」では、市で開催されるイベント情報を配信しています。</p>

Q6 これまで、川崎市では多様なメディアを使用し、上記のような情報発信に取り組んできました。それらの中で、見たことがある情報発信はどれですか。また、今度さらに進めてほしい情報発信はどれですか。(それぞれいくつでも)
※この質問は縦方向にお答えください。

	見たことのあるもの (いくつでも)	今後さらに進めてほしいもの (いくつでも)
	↓	↓
1. 市の広報誌(かわさき市政だより)による情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 市の公式サイトによる情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 川崎市のSNS(X、インスタグラムなど)による情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 駅や公共施設にあるポスターなどによる情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. チラシ(町内会回覧、学校配布など)による情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 芸能人による情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. YouTubeなど、動画広告を使った情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. かわさきイベントアプリによる情報発信	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. いずれもなし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

戻る 次へ

Q7 日常行動圏(通勤・通学・散歩等で習慣的に行動する範囲)で、川崎市が管理している「街路樹」を思い浮かべてください。
あなたの思い浮かべるその「街路樹」はどのような状況ですか。
あてはまるものをお選びください。
(1つだけ)

高木のみ



高木と低木



低木のみ



わからない

[戻る](#) [次へ](#)

Q8 あなたは、前問で思い浮かべた「街路樹」に対してどの程度満足していますか。
あてはまるものをお選びください。
(1つだけ)

- 満足している
- どちらかという満足している
- どちらかという不満である
- 不満である
- わからない

[戻る](#) [次へ](#)

Q9 あなたは、川崎市の街路樹の量や維持管理頻度について、これからどのようなようであるべきとお考えですか。項目ごとにあてはまるものをお選びください。(それぞれ1つずつ)

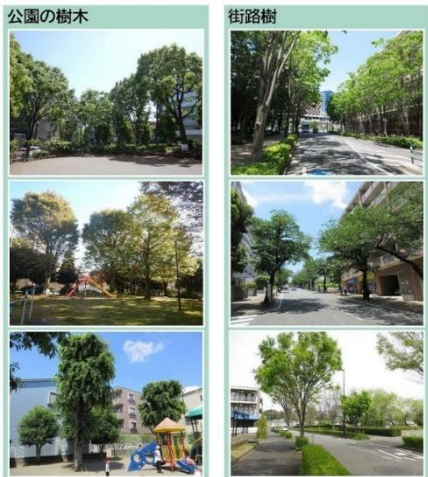
		もっと増やした方がよい	今の量を保てばよい	減少してもやむを得ない	わからない
街路樹の量	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高木の剪定頻度 (現状 2~3年に1回程度)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
低木の刈込頻度 (現状 1年に1回程度)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
植え込みの除草頻度 (現状 1年に1~2回程度)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

川崎市では公園緑地や街路樹の維持管理について、積極的に取り組んでいます。また、全国都市緑化かわさきフェアの開催を契機に、令和6年度から維持管理費の充実を図っています。

現在の公園や街路樹の維持管理状況をまとめましたので、ぜひご覧ください。

1 多様な緑を育てています

大小さまざまな公園や道路の形態に応じて樹木を植栽・育成し、街並みの潤いや日陰の確保に努めています



2 快適な利用を促進しています

維持管理を計画的に行うことで美観維持や安全確保等に努め、快適な利用・通行環境をつくっています



3 管理作業量が年々変化しています

平成27年度と比較して、物価等が上昇しており、一定予算でできる管理作業量が変化しています



※1 剪定とは樹木の枝を切り揃え、適正な樹形に保つこと
 ※2 幹回り120cm程度の樹木を剪定する場合

ここからは、「川崎市の観光振興」についておうかがいします。

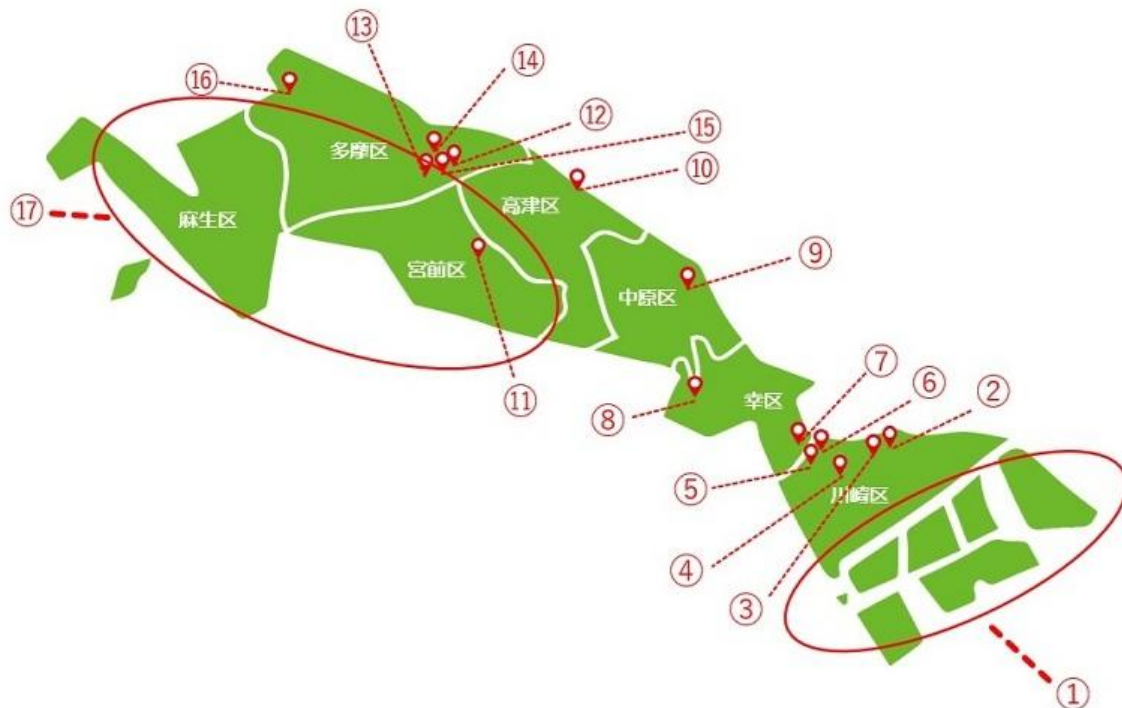
川崎市には年間約200万人が宿泊し、約1300万人が市内の観光施設に訪れています。市内の観光地やかわさき名産品等の認知度、市民の皆様が観光施策に望むこと、どんな観光客を誘客していきたいかなど、川崎市の観光に関する調査を行うことで、住む人も訪れる人も幸せになる川崎市の観光振興に役立てるため、以下の質問にお答えください。

川崎市には多様な観光資源があります。以下のマップをご覧ください、質問にお答えください。

Q10

- 知っている施設・イベントを選んでください。(いくつでも)
- 行ったことがある施設・イベントを選んでください。(いくつでも)
- ほかの人におススメしたい施設・イベントを選んでください。(いくつでも)

※この質問は縦方向にお答えください。



	1. 知っている施設・イベント(いくつでも)	2. 行ったことがある施設・イベント(いくつでも)	3. ほかの人におススメしたい施設・イベント(いくつでも)
①工場夜景			
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(一社)川崎市観光協会 提供			
②川崎大師平間寺			
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	1. 施設・イベント(いくつでも)知っている	2. 施設・イベント(いくつでも)行ったことがある	3. 施設・イベント(いくつでも)ほかの人におススメしたい
	↓	↓	↓
③味の素グループうま味体験館 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④かわさき市民祭り 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤カワスイ 川崎水族館 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥川崎浮世絵ギャラリー 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ミュージア川崎シンフォニーホール 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧夢見ヶ崎動物公園 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨京濱伏見稲荷神社 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩市制記念多摩川花火大会 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(第1回アンケート)

	1. 施設・イベント(知っている)	2. 施設・イベント(行ったことがある)	3. 施設・イベント(ほかに人におススメしたい)
	↓	↓	↓
⑪電車とバスの博物館 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム  ©Fujiko-Pro	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬岡本太郎美術館 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭日本民家園  川崎市立日本民家園 提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮かわさき宙と緑の科学館 (川崎市青少年科学館) 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯よみうりランド 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑰観光農園 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
いずれもなし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

戻る

次へ

Q11	以下の中で、あなたが友人・知人などにおススメしたい川崎の魅力はなんですか。
	1. 魅力だと思うこと(いくつでも) 2. 1で選んだものの中で、一番のおススメ(1つだけ)
	※この質問は縦方向にお答えください。

	1. 魅力だと思うこと (いくつでも)	2. 一番のおススメ (1つだけ)
	↓	↓
豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
農地や緑地などの豊かな自然	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
人との交流やふれあい、温かみ	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
おススメしたい魅力はない	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>

[戻る](#)
[次へ](#)

Q12	あなたの観光に関するお考えをお聞かせください。 項目ごとに1つずつお選びください。
-----	--

		大幅に増えてほしい	多少増えてほしい	あまり増えてほしくない	全く増えてほしくない
川崎で国内からの観光客が増えることについて	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
川崎に海外からの観光客が増えることについて	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[戻る](#)
[次へ](#)

Q13	あなたは、今後(1年くらいの間)、観光、レクリエーション、スポーツなどのために旅行(国内旅行・海外旅行)をしたいと思いませんか。 (1つだけ)
-----	--

- 国内旅行も海外旅行もしたい
 国内旅行はしたいが、海外旅行はしたいとは思わない
 海外旅行はしたいが、国内旅行はしたいとは思わない
 国内旅行も海外旅行もしたいとは思わない

[戻る](#)
[次へ](#)

(第1回アンケート)

Q14 川崎の観光が盛り上がることで、どのようなことに期待をしますか。
項目ごとに1つずつお選びください。

		とても思いません	そう思いません	どちらか	どちらか	そう思いません	思わない
市外・国外からの川崎の認知向上・イメージアップにつながる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
人との交流や出会いが増えて、楽しいまちになる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
まち並みが美しくなる、まちに活気が出るなど生活環境が向上する	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
列車やバスの本数の維持や増便など、公共交通機関の利便性が向上する	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
お店が増えるなど、買物環境が向上する	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
売上の増加や給与等への良い影響がある	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
雇用が増え、企業の人材獲得につながる	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ビジネス客の増加によって、市内企業の商機が拡大する	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[戻る](#) [次へ](#)

Q15 川崎市には催し物(会議やイベントなど)を行うための施設がいくつかあります。以下の質問にあてはまる施設をえらんでください。(それぞれいくつでも)
1. 知っている施設はありますか？(いくつでも)
2. 催し物の参加者として行ったことがある施設はありますか？(いくつでも)
3. 催し物の主催者やスタッフとして利用したことがある施設はありますか？(いくつでも)
※この質問は縦方向にお答えください。

	1. 知っている施設 (いくつでも)	2. 催し物の参加者として 行ったことがある施設 (いくつでも)	3. 催し物の主催者やスタッフとして 利用したことがある施設 (いくつでも)
川崎市コンベンションホール(中原区)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国際交流センター(中原区)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
川崎市民プラザ(高津区)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ミュージア川崎シンフォニーホール(幸区)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カルッツかわさき(川崎区)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
いずれもなし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[戻る](#) [次へ](#)

Q16	川崎市では市内の生産品をPRするため「かわさき名産品」という認定制度を実施しています。あなたは「かわさき名産品」を知っていますか？ (1つだけ)
------------	---

- 知っていて、購入したことがある
- 知っているが、購入したことはない
- 知らない

[戻る](#) [次へ](#)

Q16-1	「かわさき名産品」を知ったきっかけは何ですか？ (いくつでも)
--------------	------------------------------------

- パンフレット
- WEBサイト(観光協会HP・市HPなど)
- SNS
- 店舗で商品を見て
- イベントや催事でのPR
- その他

[戻る](#) [次へ](#)

ここからは、「特別市(特別自治市)」についておうかがいします。

川崎市は「特別市(特別自治市)」の制度化を目指しています。
現在の状況を正しく把握するため、以下の質問にお答えください。

Q17	川崎市は、県の区域外となり、権限と財源を市に一本化する「特別市(特別自治市)」制度の実現を目指しています。あなたは、「特別市(特別自治市)」制度を知っていましたか。 (1つだけ)
------------	--

- 制度の内容について知っていた
- 制度の内容はわからないが、名称は知っていた
- 制度の内容も名称も知らなかった

[戻る](#) [次へ](#)

Q18 あなたは、どこで最初に「特別市(特別自治市)」を知りましたか。
(1つだけ)

- 川崎市ホームページ
- 市政だより
- 川崎市発行のパンフレット
- 川崎市が作成した説明動画
- 川崎市が実施した出前説明会
- 区民祭等のイベント出展
- 川崎市主催のシンポジウムや講演
- テレビ、新聞、ラジオなど
- 掲示物(ポスター)、展示、デジタルサイネージ(※)など
- その他

※デジタルサイネージ…デジタル技術を活用して映像情報を流し表示する仕組み、電子看板

[戻る](#)

[次へ](#)

Q19 「特別市(特別自治市)」について、知りたいことを教えてください。
(いくつでも)

- 制度の内容
- 特別市(特別自治市)の必要性
- 実現により期待されるメリット
- 実現により懸念される事項や課題
- 実現に向けたプロセス、進捗状況
- その他
- 特になし

[戻る](#)

[次へ](#)

Q20 「政令指定都市」に関する質問にお答えください。
(それぞれ1つずつ)

1/5

現在、川崎市も含め、横浜市や大阪市など人口の多い全国20の大都市が「政令指定都市」となっています。
あなたは、川崎市が「政令指定都市」であることを知っていましたか。

- 知っていた
- 知らなかった

[戻る](#)

[次を表示](#)

↑1つ前の項目に戻る

[戻る](#)

2/5

「政令指定都市」は、市内に区を設置できることを知っていましたか。

知っていた

知らなかった

戻る

次を表示

↑1つ前の項目に戻る

戻る

3/5

「政令指定都市」は、都道府県に準じた権限を行使することが可能な事務が多く、一般の市とは異なる取扱いをされていることを知っていましたか。
(例：児童相談所の設置 など)

知っていた

知らなかった

戻る

次を表示

↑1つ前の項目に戻る

戻る

4/5

「政令指定都市」であっても、国と直接やり取りできず、道府県を通さなければならない事務があり、対応に時間がかかるという課題があることを知っていましたか。
(例：新型コロナウイルスワクチンの供給 など)

知っていた

知らなかった

戻る

次を表示

↑1つ前の項目に戻る

戻る

5/5

「政令指定都市」は、児童相談所の設置や市内の県道の管理など、道府県に代わって多くの事務を担っていますが、それに見合った財源の措置が不十分という課題があることを知っていましたか。
(川崎市の試算では、川崎市が県に代わって負担している事務の経費が年間で約288億円である一方、財源として確保される額は約45億円しかなく、約243億円が川崎市の負担となっています。※令和7年度予算に基づく概算)

知っていた

知らなかった

戻る

次を表示

↑1つ前の項目に戻る

戻る

Q21 「政令指定都市」と道府県で同じような内容の取組や事務を実施していることがあります。今後、このような事務をどちらか一方にまとめるとしたら、あなたはどちらに一本化するとよいと思いますか。(1つだけ)

- 市民に身近な基礎自治体である「政令指定都市」に一本化すると良い
- 広域的な観点から事務を行う道府県に一本化すると良い
- 現状のままでよい
- わからない

川崎市は、こうした「政令指定都市」が直面する課題を解決し、行政サービスの向上や迅速な対応を可能とする「特別市(特別自治市)」の実現を目指しています。まずは法制度化に向けて、県内の横浜市、相模原市をはじめ、全国の「政令指定都市」と連携し、国への働きかけや広報などに取り組んでいます。

市民の皆さんに特別市制度の概要や、川崎市が目指す特別市について御理解いただくため、市長が自ら分かりやすく説明する動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。(約6分半)

※クリック(タップ)すると、YouTubeに遷移します⇒ [【解説動画】川崎市は特別市をめざします](#)

[戻る](#) [次へ](#)

ここからは、あなたご自身のことについておうかがいします。

F1 あなたは、川崎市内にどのくらいの期間、住んでいらっしゃいますか。川崎市外への転出を経験された方も、川崎市内での居住期間を通算でお答えください。

※1年に満たない方は「0」を入力してください。

居住期間 年以上

[戻る](#) [次へ](#)

F2 あなたが普段最もよく使うご自宅の最寄り駅はどちらですか。

※鉄道会社、駅名はそれぞれ1つだけご記入ください。
※複数の鉄道会社が乗り入れている駅については、ご自身が最もよく使う路線の会社名をご記入ください。

鉄道会社

駅名

[戻る](#) [次へ](#)

F3 あなたは、ご結婚なされていますか。婚姻届を出していない内縁の関係・事実婚も含めてお答えください。(1つだけ)

- 結婚したことがない
- 結婚している
- 結婚したことはあるが、今は独身

[戻る](#) [次へ](#)

F4 お子様はいらっしゃいますか。離れて住んでいる方も含めてお答えください。
(1つだけ)

- 子どもがいる
- 子どもはいない

[戻る](#) [次へ](#)

F5 あなたの主なお仕事を教えてください。
(1つだけ)

- 自営業主
- 自営業の手伝い(家族従業者)
- 会社などの経営者・役員
- 正社員・正職員
- パート・アルバイト・嘱託社員・派遣社員(正社員・正職員以外)
- 主婦・主夫(家事専業)
- 学生
- 無職(収入が年金のみの方を含む)
- その他

[戻る](#) [次へ](#)

F6 あなたの主な通勤先あるいは通学先はどちらですか。
(1つだけ)

- 自宅
- 川崎市(お住まいと同じ区で自宅以外)
- 川崎市(お住まいと別の区)
- 横浜市
- 川崎市・横浜市以外の神奈川県
- 東京23区
- 東京都(23区以外)
- 神奈川県・東京都以外の道府県
- 通勤・通学していない

[戻る](#) [次へ](#)

F7 あなたの現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。
(1つだけ)

- 持ち家(一戸建)
- 持ち家(マンションなどの集合住宅)
- 賃貸住宅(一戸建)
- 賃貸住宅(アパート・マンションなどの一般的な民間の集合住宅)
- 市営住宅や県営住宅などの公営住宅
- 社宅・寮・公務員住宅
- その他

[戻る](#) [次へ](#)

F8 現在、同居している方は、あなたを含めて何人ですか。
ひとり暮らしの方は「1」人と入力してください。

人

[戻る](#) [次へ](#)

同居者がいる方におたずねします。

F9 同居している方の中で(ご自身を含む)、以下にあてはまる方はいますか。
(いくつでも)

- 未就学児
- 小学生・中学生・高校生
- 短大生・専門学校生・大学生・大学院生
- 75歳以上の方
- 上記にあてはまるものはない

[戻る](#) [次へ](#)

ご協力ありがとうございました。
これでアンケートは終了です。このページを閉じてください。
ご回答ありがとうございました。

■ 定住状況について

問1 あなたは川崎市及び現在のお住まいの区に、通算、何年間居住していますか。また、現在のお住まいには、何年間、居住していますか。 ※1年に満たない場合は「0」をご記入ください。

(1) 川崎市 ……………	<input type="text"/>	年間
(2) 現在お住まいの区 ……	<input type="text"/>	年間
(3) 現在のお住まい ……	<input type="text"/>	年間

問2 あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。(○は1つだけ)

1 これからも住んでいたい
2 できれば市内の他の区へ移りたい
3 できれば市外へ移りたい
4 わからない

問3と問4は、問2で、『2.できれば市内の他の区へ移りたい』または『3.できれば市外へ移りたい』に○をつけた方にかがいます。(その他の方は次のページの問5に進んでください。)

→問3 あなたが、今のところから移りたい、または移る主な理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

1 通勤・通学が不便だから	5 医療環境がよくないから
2 買い物が不便だから	6 保育環境がよくないから
3 住宅事情がよくないから (家賃が高い、家が狭いなど)	7 介護環境がよくないから
4 住環境がよくないから (日照、騒音、治安など)	8 子どもの教育のため
	9 その他 (具体的に：)









→問4 あなたは、どこに住みたいと思いますか。最も住みたいと思う地域を1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

1 川崎区	8 横浜市
2 幸区	9 川崎市・横浜市以外の神奈川県
3 中原区	10 東京23区
4 高津区	11 東京都(23区以外)
5 宮前区	12 神奈川県・東京都以外の道府県
6 多摩区	(具体的に：)
7 麻生区	

次のページにお進みください。

■ 生活環境の評価について

問5 お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。
あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(○は30方向に1つずつ)

	満足している	まあ満足している	少し不満である	不満である	わからない
(1) 地震・火災・風水害などの災害に対する安心感 	1	2	3	4	5
(2) 風紀上・防犯上の安心感 	1	2	3	4	5
(3) 交通事故・危険物からの安心感 	1	2	3	4	5
(4) 空気や川、海のきれいさ 	1	2	3	4	5
(5) 家の周りの静けさ 	1	2	3	4	5
(6) 公園や緑の豊かさ 	1	2	3	4	5
(7) 通勤・通学の便利さ 	1	2	3	4	5
(8) 買い物の便利さ 	1	2	3	4	5
(9) 病院や医院までの距離 	1	2	3	4	5
(10) 休日、夜間などの救急医療体制の充実度 	1	2	3	4	5
(11) 市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離 	1	2	3	4	5
(12) 市や区の窓口サービス 	1	2	3	4	5

問6 あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。
(○は1つだけ)

1 満足している
2 まあ満足している
3 少し不満である
4 不満である
5 わからない

次のページにお進みください。

■ 関心ごとと行動範囲について

問7 あなたが、現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(○はいくつでも)

1 子ども	9 趣味・娯楽
2 家族	10 スポーツ・レジャー
3 友人・知人	11 信仰・宗教
4 住宅・土地	12 政治
5 お金・財産	13 ボランティア活動
6 健康	14 地域活動(町内会・自治会、子ども会等)
7 仕事(家事や勉強も含む)	15 その他
8 老後の生活	16 特になし

問8 あなたは、行楽や文化施設の利用・買い物などをされる場合、**主に**どこに行かれますか。

(1) から (10) それぞれの項目ごとに **1つずつ** 選んでください。(○は30方向に1つずつ)

	川崎市 市内	横浜 市内	神川 崎市 川崎 市 ・ 横 浜 市 以 外 の	東 京 23 区	そ の 他 の 地 域	の そ う で わ い う こ と は し な い
(1) 自然に親しむための近距離の行楽 →	1	2	3	4	5	6
(2) 遊園地や動物園等のレジャーでの行楽 →	1	2	3	4	5	6
(3) 観劇や映画鑑賞 →	1	2	3	4	5	6
(4) 音楽会や美術展 →	1	2	3	4	5	6
(5) 趣味を生かす講習や練習 (音楽・演劇・美術等) →	1	2	3	4	5	6
(6) 図書館の利用 →	1	2	3	4	5	6
(7) 美術館・博物館の利用 →	1	2	3	4	5	6
(8) レストランなどでの飲食 →	1	2	3	4	5	6
(9) 洒落たものや高価なものを買うための ショッピング →	1	2	3	4	5	6
(10) スポーツをする(観る) →	1	2	3	4	5	6

次のページにお進みください。

■ 市政に対する評価と要望について

問9 川崎市の市政について総合的にうかがいます。

あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、**よくやっている**と思われるものはどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 海外姉妹都市との国際交流事業 | 18 高齢者のための施策 |
| 2 行財政改革 | 19 障害者のための施策 |
| 3 ICT・デジタル技術の活用 | 20 病院、診療所の整備や救急医療体制の整備 |
| 4 市や区の仕事などについての情報提供 | 21 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策 |
| 5 市政への市民参加の促進のための施策 | 22 市営住宅の建設・整備 |
| 6 地域の問題が解決できるような区役所機能の強化 | 23 主要な駅周辺の再開発 |
| 7 防犯対策 | 24 河川の整備 |
| 8 交通安全対策 | 25 下水道の整備 |
| 9 文化的な催しや文化施設の整備 | 26 道路・歩道の整備 |
| 10 女性の活躍推進のための施策 | 27 放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策 |
| 11 中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策 | 28 市民が親しむことのできる港湾の整備 |
| 12 観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション) | 29 水道水の安定供給 |
| 13 脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策 | 30 バスなどの交通網の整備 |
| 14 道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全 | 31 消防力の強化や防災体制の整備 |
| 15 大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策 | 32 市民が学習・運動する機会や施設の整備 |
| 16 日常のごみ収集やリサイクル | 33 小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策 |
| 17 子どものための施策 | 34 特になし |

問10 問9の川崎市が行っている施策や事業の中で、**今後特に力を入れてほしいもの**はどれですか。

最も力を入れてほしいものから、順に5つ選んで、「1」～「34」までの番号を記入してください。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 最も力を入れてほしいもの ⇒ | <input type="text"/> |
| 2番目に力を入れてほしいもの ⇒ | <input type="text"/> |
| 3番目に力を入れてほしいもの ⇒ | <input type="text"/> |
| 4番目に力を入れてほしいもの ⇒ | <input type="text"/> |
| 5番目に力を入れてほしいもの ⇒ | <input type="text"/> |

問11 あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。(○は1つだけ)

- | |
|------------|
| 1 満足している |
| 2 まあ満足している |
| 3 少し不満である |
| 4 不満である |
| 5 わからない |

次のページにお進みください。

■ 川崎市の広報（市政だより）について

川崎市では、毎月1日に広報紙「かわさき市政だより」を発行しています。一方で、社会全体でDX（デジタルトランスフォーメーション※）によるペーパーレス化が進んでいるという現状もあります。

今後の市政だよりの発行に向けて、現在の状況を把握するため、以下の質問にお答えください。

※デジタルトランスフォーメーションとは、デジタル技術などを活用してこれまでの考え方や仕組みを変革することです。

問12 川崎市の情報を得たいときに、どのような方法で入手していますか。

(1) から (5) それぞれの項目ごとに、最もあてはまる媒体を **1つずつ** 選んでください。

(○は30方向に **1つずつ**)

	市政だより (紙のもの)	市政だより (ウェブサイトのもの)	公共施設などで 配布している 印刷物	市ホームページ	かわさきアプリ (※)	SNS、動画 市公式X、LINEなどの	電話や窓口への 問合せ	市AIチャット ボット	その他
(1) ごみの分別方法に関する情報 (ゴミの分別、排出方法など) →	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(2) 市主催のイベント等の情報 (コンサートや講座など) →	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(3) 市に申請する手続きの方法 や窓口の情報 (住民票の 交付や福祉制度など) →	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(4) 災害や感染症等に関する情報 (地震や大雨、感染症に 罹病した時の連絡先など) →	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(5) 市の政策に関する情報 (子育て施策、まちづくり 施策など) →	1	2	3	4	5	6	7	8	9

※かわさきアプリ：かわさき子育てアプリ・かわさき防災アプリ・かわさきごみ分別アプリ・かわさきイベントアプリ など

問13 市政だよりについて、うかがいます。あなたは毎月発行している市政だよりをどれくらいの頻度で読んでいますか。

(○は **1つだけ**)

1 毎月必ず読む	4 ほとんど読まない
2 ほとんど毎月読む	5 まったく読まない
3 たまに読む	6 あることを知らない

次のページにお進みください。

問14 あなたは「かわさき市政だより11月号」(特集：市民を支える乗り物)をどのように入手しましたか。

(○は1つだけ)

- 1 ポストに投函されていた
- 2 公共施設に置かれているものを入手した
- 3 市のホームページ等で閲覧した
- 4 入手していない・できない
- 5 市政だよりが発行されていることを知らなかった
- 6 その他 (具体的に: _____)



かわさき市政だより (11月号表紙)

問14-1は、問14で「1」～「3」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。

問14-1 「市政だより11月号」をどのように読みましたか。(○は1つだけ)

- 1 全体をしっかりと読んだ
- 2 興味を持った記事を中心に読んだ
- 3 ざっと目を通した
- 4 読まなかった

問15 市政だよりは、市のホームページなどでも読むことができます。

あなたご自身の状況として、最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- 1 「紙」と「ホームページ」の両方で読んでいる
- 2 「紙」のみで読んでいる
- 3 「ホームページ」のみで読んでいる
- 4 どちらも読んでいない

問15-1は、問15で『2「紙」のみで読んでいる』に○をつけた方にうかがいます。

問15-1 紙のみで読んでいる理由について、最も近いものをお選びください。(○はいくつでも)

- 1 紙の方が読みやすく、慣れているから
- 2 紙の方が多くの情報が一度に見られるから
- 3 紙の方が普段読まない分野にも目が向くから
- 4 紙の方が家族等と共有しやすいから
- 5 ホームページでは読みづらいから
- 6 スマートフォンやパソコンの操作が苦手だから
- 7 ホームページで見られる環境が無いから
- 8 その他 (具体的に: _____)

問16 市政だよりとして、読みやすい形状は何ですか。(○は1つだけ)

- 1 タブloid版 (現行サイズ)
- 2 A4判の冊子
- 3 紙媒体で他のサイズ・形状
- 4 デジタル版 (PDF)
- 5 その他 (具体的に: _____)

次のページにお進みください。

問19 ^{ともびき(※)}友引の日にはお葬式や火葬を行わないとする慣習があるため、川崎市においても一部の時期を除き、友引の日は葬祭場をお休みとしています。このことについて、以下の質問にお答えください。(○は1つずつ)

※ ^{ともびき}「友引」とは日本の暦において使用される、その日の運勢を示したものとされる「六曜」という考え方のうちの一つ(大安、仏滅、友引など)です。友引は「冥土へ友を引き連れていく」とつながるとして、火葬やお葬式を避けるといった考え方があります。

(1) あなたは、葬祭場は原則として友引の日がお休みであることを知っていましたか。

1 知っていた	2 知らなかった
---------	----------

(2) 高齢化に伴う多死社会の到来により、葬祭場はこれまで以上に多くの火葬の受け入れを求められることが想定されます。受け入れ数を増やすための取り組みとして、葬祭場が特に混雑する時期に、友引の日も開苑し、火葬を受け入れていますが、あなたはこのような取り組み(友引日開苑)を知っていましたか。

1 知っていた	2 知らなかった
---------	----------

(3) 友引の日に火葬を行うことについて、あなたはどのように考えますか。

1 友引の日は避けたい	3 友引の日の火葬でも問題ない
2 可能であれば友引の日は避けたい	4 わからない

問20 お葬式には個々のお考えや宗教によってさまざまな形態があります。

あなたは、ご自身が亡くなった後のお葬式はどのような形にすることを希望しますか。

1 友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式(一般葬)
2 家族や親族だけで行うお葬式(家族葬)
3 お葬式は行わず、火葬だけでよい(直葬)
4 その他(具体的に: _____)

問21 火葬を行うと、収骨していただく御遺骨の他に、棺や棺に納められた品物等を由来とする灰や収骨されなかった小さな御遺骨等が残ります。この灰等(「^{さんこつばい}残骨灰」といいます)についてうかがいます。(○は1つずつ)

(1) 火葬の後、残骨灰が残ることを知っていますか

1 知っていた	2 知っていたが、詳しくは知らない	3 知らなかった
---------	-------------------	----------

(2) 残骨灰には、有害物質^(※1)が含まれていることを知っていますか

1 知っていた	2 知っていたが、詳しくは知らない	3 知らなかった
---------	-------------------	----------

(3) 残骨灰には、貴金属等の有価物^(※2)が含まれていることを知っていますか

1 知っていた	2 知っていたが、詳しくは知らない	3 知らなかった
---------	-------------------	----------

(4) 他都市では、残骨灰を売却する等の取り組みを行い、自治体の財源としている例があることを知っていますか。^(※3)

1 知っていた	2 知っていたが、詳しくは知らない	3 知らなかった
---------	-------------------	----------

※1 残骨灰には、火葬の過程で発生した六価クロムやダイオキシン等の有害物質が含まれていることがあります。

※2 残骨灰には、主に歯科治療材料由来の金や銀、パラジウムのような貴金属類等の有価物が含まれていることがあります。

※3 全国の政令指定都市のうち、8割以上の都市で収益化が行われています。

次のページにお進みください。

問22 川崎市では残骨灰について、外部の業者に委託し、残骨灰に含まれる御遺骨については埋葬、供養したうえで、それ以外の灰は有害物質を除去して処分しています。

あなたは川崎市が他都市のように残骨灰を業者に売却し、残骨灰に含まれる御遺骨を埋葬、供養したうえで、収益を葬祭場等の運営に役立てることについてどう思いますか。(○は1つだけ)

- 1 賛成である
- 2 反対である
- 3 わからない ⇒ 問23へ

問22-1は、問22で「1 賛成である」に○をつけた方にうかがいます。

→ 問22-1 賛成の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。(○はいくつでも)

- 1 資源として利用できるものは再利用してほしいから
- 2 川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから
- 3 川崎市の収入として行政全般に役立ててほしいから
- 4 その他(具体的に: _____)

問22-2は、問22で「2 反対である」に○をつけた方にうかがいます。

→ 問22-2 反対の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。(○はいくつでも)

- 1 御遺族や故人に対して礼節を欠くと思うから
- 2 御遺骨が粗略に扱われるように思うから
- 3 そこまでして財源とする必要性を感じないから
- 4 その他(具体的に: _____)

次のページにお進みください。

■ あなたご自身について

問23 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|------|------|---------------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 選べない・答えたくない |
|------|------|---------------|

問24 あなたの年齢を教えてください。

<input type="text"/>	歳
----------------------	---

問25 あなたは、ご結婚なさっていますか。

婚姻届けを出していない内縁の関係・事実婚も含めてお答えください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|----------|-------------------|
| 1 結婚したことがない | 2 結婚している | 3 結婚したことはあるが、今は独身 |
|-------------|----------|-------------------|

問26 あなたの主なお仕事を教えてください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------|
| 1 自営業主 | 6 主婦・主夫(家事専業) |
| 2 自営業の手伝い(家族従業者) | 7 学生 |
| 3 会社などの経営者・役員 | 8 無職(収入が年金のみの方を含む) |
| 4 正社員・正職員 | 9 その他 |
| 5 パート・アルバイト・嘱託職員・派遣社員
(正社員・正職員以外) | |

問27 あなたの主な通勤先あるいは通学先はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 自宅 | 6 東京23区 |
| 2 川崎市(お住まいと同じ区で自宅以外) | 7 東京都(23区以外) |
| 3 川崎市(お住まいと別の区) | 8 神奈川県・東京都以外の道府県 |
| 4 横浜市 | 9 勤め先、通学先はない |
| 5 川崎市・横浜市以外の神奈川県 | |

問28 あなたの現在のお住まいは、次の選択肢の中のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------|
| 1 持ち家(一戸建) | 5 市営住宅や県営住宅などの公営住宅 |
| 2 持ち家(マンションなどの集合住宅) | 6 社宅・寮・公務員住宅 |
| 3 賃貸住宅(一戸建) | 7 その他 |
| 4 賃貸住宅
(マンション・アパートなどの一般的な民間の集合住宅) | |

問29 あなたが現在お住まいの区はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1 川崎区 | 3 中原区 | 5 宮前区 | 7 麻生区 |
| 2 幸区 | 4 高津区 | 6 多摩区 | |

次のページにお進みください。

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

令和7(2025)年度
かわさき市民アンケート
報告書
令和8(2026)年3月発行

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2148 (直通)
FAX 044-200-0401